

# 塚原古墳群

— 2 次 調 査 —

福岡県春日市塚原台所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第80集

2019

春日市教育委員会



# 塚原古墳群

— 2 次 調 査 —

福岡県春日市塚原台所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第80集



## 序

春日市は福岡都市圏の中央部に位置し、昭和40年代以降、福岡都心部に近い地理的条件と高い交通の利便性のもとで、福岡都市圏における住宅都市として成長してきました。そして、将来都市像として「住みよさ発見 市民都市かすが」と定め、誰もが住みよいまちの実現に向けてまちづくりを推進しています。

本市が位置する福岡平野は、古くから中国大陸や朝鮮半島との交流の玄関口として栄えてきました。特別史跡「水城跡」や国指定史跡「須玖岡本遺跡」「日拝塚古墳」をはじめ、多くの遺跡があります。

本書は平成9年度に発掘調査を実施した塚原古墳群2次調査の調査報告書です。塚原古墳群は大野城市に隣接し、周辺の遺跡には同時代の古墳群や集落、須恵器窯跡など、古墳時代後期以降の遺跡が多く所在しています。この中で、塚原古墳群は古墳時代から奈良時代まで長く営まれていたことがわかりました。この地域では、牛頸須恵器窯跡群が操業された時期でもあり、当時の暮らしを考える上で貴重な歴史遺産であるといえます。

本書が文化財への理解を深めるため広く活用され、また、市民の皆様が地域の歴史を知る一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者の皆様をはじめ、発掘調査に際し御理解御協力をいただきました皆様に深く謝意を申し上げます。

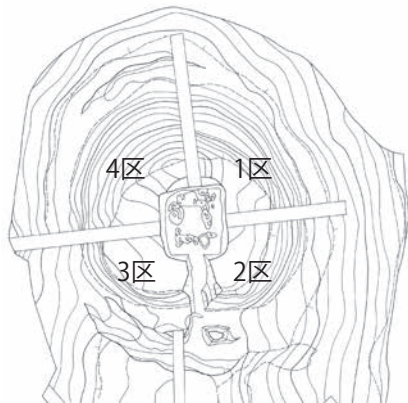
平成31年3月31日

春日市教育委員会

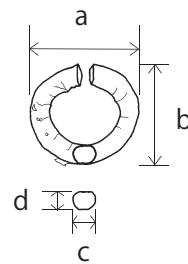
教育長 山本直俊

## 例 言

- 1 本書は1997年4月10日から同年8月18日にかけて春日市教育委員会が実施した塚原古墳群2次調査の報告書である。
- 2 遺構の実測は丸山康晴、平田定幸、森井千賀子、境靖紀が行い、製図は水上愛子、柏木千恵、堤りかが行った。
- 3 遺物の実測、製図は川村博、足立紫穂、井上剛、久家春美、竹田祐子、森井が行った。
- 4 掲載した写真のうち、遺構については平田、森井、境が撮影し、空中写真を（有）空中写真企画に委託、遺物については西村新二（（株）タクト）に委託した。
- 5 本書に使用した2万5千分の1の地形図は、国土地理院発行の『福岡南部』である。
- 6 本書の遺構実測図に用いた方位は磁北である。
- 7 出土土器の色調の記載については、小山正志・竹原秀雄編『新版標準土色帳』1996年後期版 農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所色票監修を用いた。
- 8 本書の執筆、編集は森井が行った。



凡例1 古墳（墳丘、周溝）部位名称



凡例2 耳環計測箇所

# 本文目次

I	はじめに	1
1	調査の経緯	1
2	調査の組織	1
II	位置と環境	2
III	調査の内容	5
1	調査の概要	5
2	古墳の調査	5
(1)	1号墳	5
①	位置と現況	5
②	墳丘	5
③	主体部	5
④	出土遺物	6
(2)	2号墳	25
①	位置と現況	25
②	墳丘	25
③	主体部	25
④	出土遺物	26
(3)	3号墳	30
①	位置と現況	30
②	墳丘	30
③	主体部	30
④	出土遺物	36
(4)	4号墳	52
①	位置と現況	52
(5)	5号墳	52
①	位置と現況	52
②	墳丘	52
③	主体部	52
④	出土遺物	52
3	その他の遺構と遺物	68
(1)	竪穴遺物跡	68
IV	総括	68

## 図 版 目 次

- 図版 1 (1) 調査区全景 (北東から) 図版 18 3号墳出土土器①  
(2) 調査区全景 (上が南) 図版 19 3号墳出土土器②
- 図版 2 (1) 1号墳全景 (上が北東) 図版 20 3号墳出土土器③  
(2) 1号墳石室掘方 (上が北東) 図版 21 3号墳出土土器④
- 図版 3 (1) 1号墳周溝土器出土状況 (南西から) 図版 22 3号墳出土土器⑤  
(2) 1号墳周溝土器出土状況 (南東から) 図版 23 3号墳出土土器⑥、石器、5号墳出土  
(3) 1号墳周溝出土土器 A 群 (南西から) 土器①  
(4) 1号墳周溝出土土器 B 群 (南西から) 図版 24 5号墳出土土器②
- 図版 4 (1) 2号墳全景 (上が東) 図版 25 5号墳出土土器③  
(2) 2号墳石室掘方全景 (上が東) 図版 26 5号墳出土土器④
- 図版 5 (1) 3号墳全景 (上が南東) 図版 27 5号墳出土鉄器  
(2) 3号墳石室掘方全景 (上が南東) 図版 28 5号墳出土土製品、耳環、石器、1・2
- 図版 6 (1) 3号墳周溝土器出土状況 (南西から) 号竪穴建物跡出土土器  
(2) 3号墳周溝土器出土状況 (南東から) 図版 29 出土須恵器のヘラ記号、当具痕  
(3) 3号墳周溝土器出土状況 (南西から)
- 図版 7 (1) 4号墳全景 (上が西)  
(2) 5号墳全景 (上が東)
- 図版 8 (1) 5号墳石室全景 (上が東)  
(2) 5号墳玄室遺物出土状況 (東から)
- 図版 9 (1) 5号墳墓道検出状況 (南から)  
(2) 5号墳墓道土層断面 (南から)  
(3) 1号竪穴建物跡 (北東から)  
(4) 2号竪穴建物跡 (南東から)
- 図版 10 1号墳出土土器①
- 図版 11 1号墳出土土器②
- 図版 12 1号墳出土土器③
- 図版 13 1号墳出土土器④
- 図版 14 1号墳出土土器⑤、石器、玉類
- 図版 15 2号墳出土土器①
- 図版 16 2号墳出土土器②
- 図版 17 2号墳出土土器③、鉄器、石製品、耳環、  
石器



## 挿 図 目 次

第 1 図	塚原古墳群周辺遺跡分布図 (1/25,000)……………	3
第 2 図	塚原古墳群調査地点位置図 (1/2,500)……………	4
第 3 図	塚原古墳群 2 次調査地点地形測量図 (1/200)……………	7・8
第 4 図	塚原古墳群 2 次調査遺構配置図 (1/200)……………	9・10
第 5 図	1 号墳石室実測図 (1/60)……………	11
第 6 図	須恵器出土状況実測図 (1/20)……………	12
第 7 図	墓道土層断面実測図 (1/60)……………	12
第 8 図	1 号墳墳丘及び 1・2 号墳間土層断面実測図 (1/60)……………	13・14
第 9 図	1 号墳出土土器実測図① (1/3)……………	15
第 10 図	1 号墳出土土器実測図② (1/3)……………	16
第 11 図	1 号墳出土土器実測図③ (1/3、33 は 1/6)……………	17
第 12 図	1 号墳出土土器実測図④ (1/3)……………	18
第 13 図	1 号墳出土土器実測図⑤ (1/3)……………	19
第 14 図	1 号墳出土土器実測図⑥ (1/3)……………	20
第 15 図	1 号墳出土土器実測図⑦ (1/3、98・106 は 1/6)……………	21
第 16 図	1 号墳出土土器実測図⑧ (1/3)……………	22
第 17 図	1 号墳出土土器実測図⑨ (1/3、138 は 1/6)……………	23
第 18 図	1 号墳出土土器実測図⑩ (1/3、144 は 1/6)……………	24
第 19 図	1 号墳出土玉類・石器 (1/2)……………	25
第 20 図	2 号墳石室実測図 (1/60)……………	27・28
第 21 図	2 号墳墳丘土層断面実測図 (1/60)……………	29
第 22 図	2 号墳墓道土層断面実測図 (1/60) 及び墓道土器出土地点……………	30
第 23 図	2 号墳出土土器実測図① (1/3)……………	31
第 24 図	2 号墳出土土器実測図② (1/3)……………	32
第 25 図	2 号墳出土土器実測図③ (1/3)……………	33
第 26 図	2 号墳出土土器実測図④ (1/3)……………	34
第 27 図	2 号墳出土土器実測図⑤ (1/3)……………	35
第 28 図	2 号墳出土土器実測図⑥ (1/3)……………	36
第 29 図	2 号墳出土鉄器・装身具・石製品・石器実測図 (1/2)……………	37
第 30 図	3 号墳石室・墓道土層断面実測図 (1/60)……………	38
第 31 図	2・3 号墳間及び 3・4 号墳墳丘土層断面実測図 (1/60)……………	39・40
第 32 図	3 号墳周溝土器出土地点 (1/200)……………	41

第 33 図	3号墳出土土器実測図① (1/3) .....	42
第 34 図	3号墳出土土器実測図② (1/3) .....	43
第 35 図	3号墳出土土器実測図③ (1/3、37・38・40 は 1/6) .....	44
第 36 図	3号墳出土土器実測図④ (1/3) .....	45
第 37 図	3号墳出土土器実測図⑤ (1/3) .....	46
第 38 図	3号墳出土土器実測図⑥ (1/3) .....	47
第 39 図	3号墳出土土器実測図⑦ (1/3) .....	48
第 40 図	3号墳出土土器実測図⑧ (1/3) .....	49
第 41 図	3号墳出土土器実測図⑨ (1/3) .....	50
第 42 図	3号墳出土土器実測図⑩ (1/3、158 は 1/6) .....	51
第 43 図	3号墳出土玉類・石器実測図 (1/2) .....	51
第 44 図	5号墳石室・墓道土層断面実測図 (1/60) .....	53・54
第 45 図	5号墳墳丘土層断面実測図 (1/60) .....	55
第 46 図	5号墳石室遺物出土状況実測図 (1/20) .....	56
第 47 図	5号墳周溝実測図 (1/60) .....	56
第 48 図	5号墳出土土器実測図① (1/3) .....	58
第 49 図	5号墳出土土器実測図② (1/3、23 は 1/6) .....	59
第 50 図	5号墳出土土器実測図③ (1/3、27・36 は 1/6) .....	60
第 51 図	5号墳出土土器実測図④ (1/3、45 は 1/6) .....	61
第 52 図	5号墳出土土器実測図⑤ (1/3、56 は 1/6) .....	62
第 53 図	5号墳出土土器実測図⑥ (1/3) .....	63
第 54 図	5号墳出土土器実測図⑦ (1/3) .....	64
第 55 図	5号墳出土土器実測図⑧ (1/3、96・97 は 1/6) .....	65
第 56 図	5号墳出土鉄器実測図 (1/2) .....	66
第 57 図	5号墳出土装身具・土製品・石器実測図 (1/2) .....	67
第 58 図	1・2号竪穴建物跡実測図 (1/30・1/60) .....	69
第 59 図	1・2号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/3) .....	70

# I はじめに

## 1 調査の経緯

塚原古墳群は倉庫建設に伴う緊急発掘調査である。開発計画では古墳が所在する小丘陵を北側道路面の高さまで切土するため、平成8年度は小丘陵の東裾部を塚原遺跡（塚原古墳群1次調査）、平成9年度は丘陵部を塚原古墳群（同2次調査）として本調査を実施した。

対象地は発掘調査以前に、福岡県教育委員会による踏査で、尾根上の北側先端に全長約37mの前方後円墳1基、直径約20mの円墳2基とされていたが、前方後円墳ではなく円墳4基との見解もあった。

発掘調査は平成9年4月10日から開始し、北側先端にある1号墳から現況測量を行ったところ、尾根上の古墳は前方後円墳ではなく円墳4基と、東側斜面に円墳1基があることがわかった。尾根上の古墳4基のうち、最も南側にある4号墳は宅地造成により墳丘の約3/4が削平されていた。1～3、5号墳とも盗掘を受けており、墳頂が陥没していた。現況測量後、重機で表土剥ぎを行い、盗掘坑を掘削、石室の掘方を検出し、掘方のプランを確認して主軸を設定した。調査中の5月29日には、遺構を保護していたシートが剥がされ、検出中であった1号墳周溝、2号墳墓道、5号墳玄室の出土遺物が荒らされ、出土遺物のいくつかは盗難にあった。古墳の図面、写真撮影等記録作成後、同年8月18日に調査を終了した。

## 2 調査の組織

発掘調査を行った平成9年度、報告書刊行の最終的作業を行った平成30年度の調査の組織は以下のとおりである。

発掘調査（平成9年度）		報告書作成（平成30年度）	
教育長	河鍋 好一	教育長	山本 直俊
社会教育部長	柴田 利行	教育部長	神田 芳樹
文化財課長	井上 武美	文化財課長	神崎 由美
管理係 課長補佐	桑野 浩行	整備活用担当 課長補佐	小林 達朗
	主査 田中 和彦		主査 森井千賀子
	主査 増永 睦司		主査 大原佳瑞江
	主査 北島 公則		主査 飛永 宗俊（7月～）
	嘱託 清永久仁子		主任 佐伯 廣宜（～6月）
文化財係 係長	丸山 康晴	嘱託	矢越 敏治
	技術主査 平田 定幸	嘱託	種生 優美
	技術主任 中村 昇平	調査保存担当 課長補佐	中村 昇平
	技術主任 吉田 佳広		主査 吉田 佳広
	技術主任 古川千賀子		主査 井上 義也
	技師 境 靖紀		主任 山崎悠郁子
	嘱託 清原 史代		主事 熊埜御堂早和子
			嘱託 川村 博
			嘱託 尾方 禎利

## Ⅱ 位置と環境

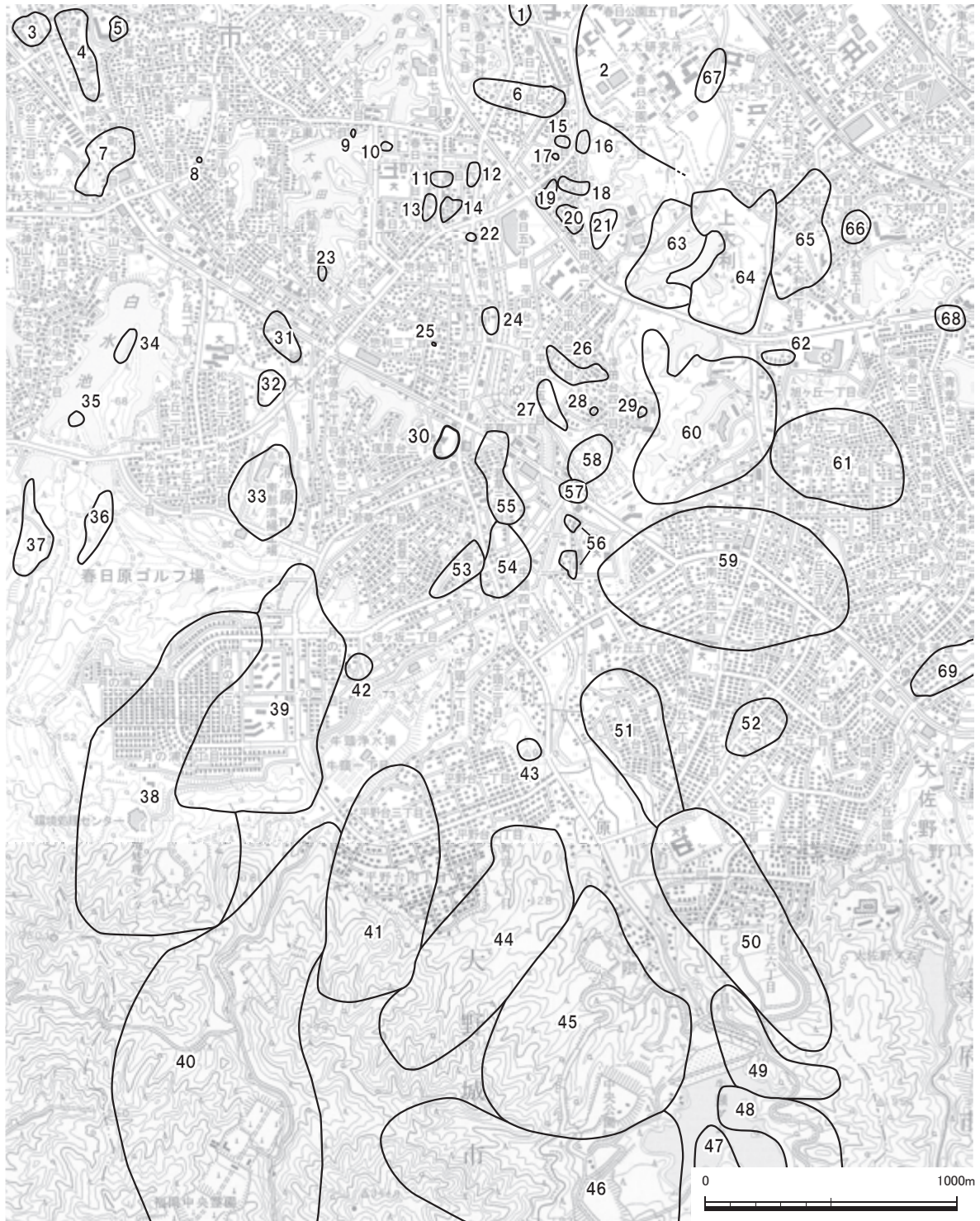
塚原古墳群は春日市塚原台3丁目110番に所在する。調査地点は牛頸山から派生する春日丘陵の南部で、北東方向に舌状に延びる小丘陵上に所在する。牛頸川の西側に位置し、小丘陵の尾根上は標高53.5m前後を測る。

牛頸川を挟んだ東西の丘陵上には弥生時代から奈良時代にかけての遺跡が所在する。弥生時代の遺跡では、牛頸川左岸の丘陵上には惣利東遺跡、惣利西遺跡があり、前期の竪穴建物跡と貯蔵穴が検出されている。一方、牛頸川右岸の丘陵上には向谷北遺跡、向谷西遺跡、向谷遺跡、向谷南遺跡等があり、向谷北遺跡では中期から後期の甕棺墓や後期の土坑墓、石蓋土坑墓が検出されており、石蓋土坑墓の多くは墓坑内に赤色顔料がみられた。向谷遺跡では前期の貯蔵穴と考えられる竪穴4基が確認されている。向谷南遺跡は中期の甕棺60基と木棺墓、土坑墓27基、後期の竪穴建物跡などが検出された。

古墳時代の集落には円入遺跡、春日平田遺跡、春日市平田西遺跡などがある。円入遺跡は牛頸川左岸の平地にあり、5世紀以降の竪穴建物跡が7軒調査されている。牛頸川右岸の丘陵上にある春日平田遺跡は6世紀以降の竪穴建物跡が46軒、春日平田西遺跡では竪穴建物跡が25軒、調査されている。牛頸川左岸で、塚原古墳群の東から南東には日ノ浦遺跡、牛頸塚原遺跡群がある。牛頸日ノ浦遺跡は縄文時代から奈良時代にかけての集落で、主に6世紀中頃以降の竪穴建物跡が21軒、8～9世紀前半の土坑20基等が確認されている。塚原遺跡群は縄文時代から平安時代にかけての遺跡で、古墳時代の遺構では竪穴建物跡33軒が検出されている。

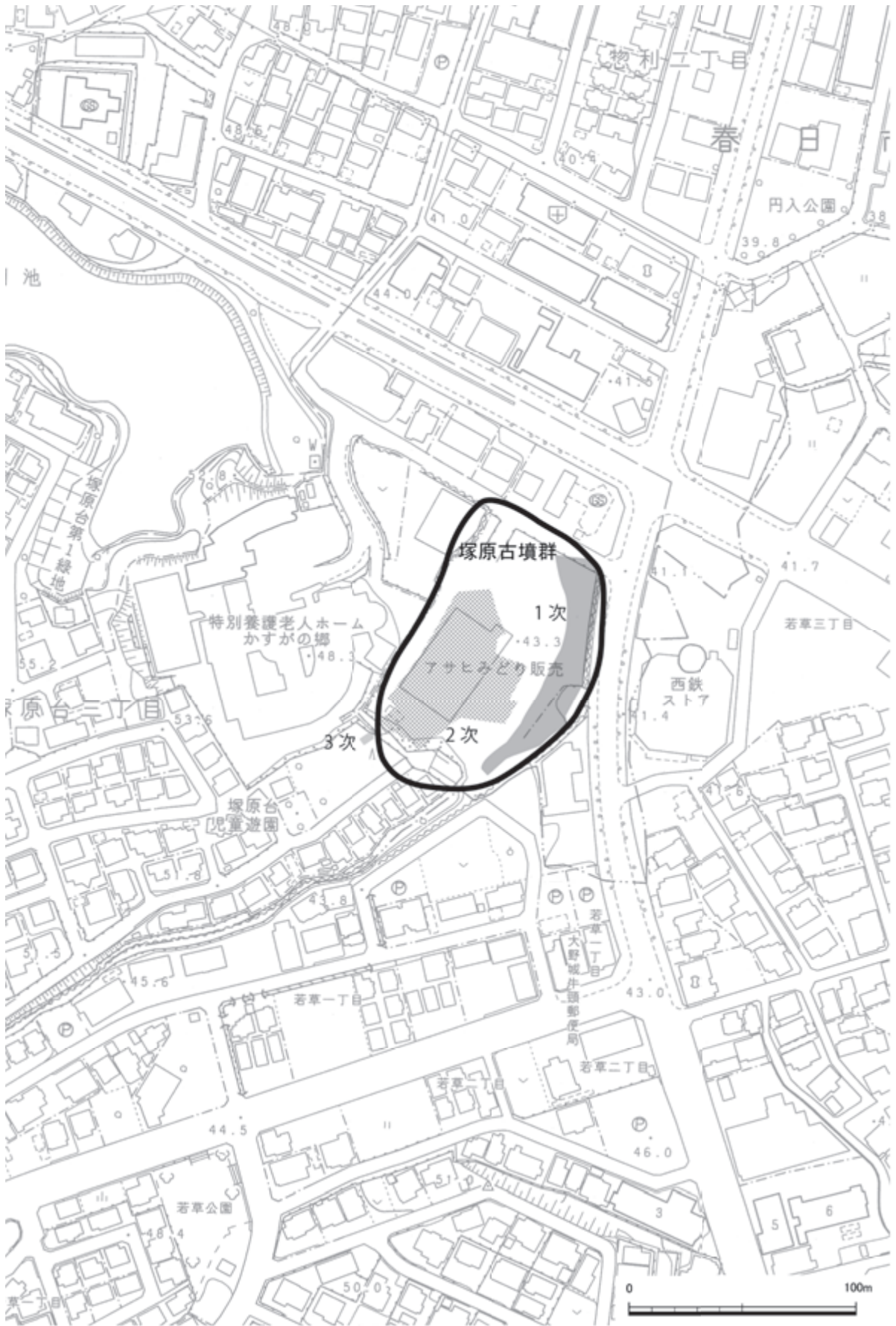
牛頸山北側山裾にはイゲ谷古墳群、後田古墳群、小田浦古墳群、塚原古墳群等の群集墳が多く所在する。塚原古墳群に近接する群集墳として、東200mに位置する牛頸日の浦Ⅱ遺跡に直径27m程度の円墳（日の浦1号墳）がある。ここから南に500mの地点にある牛頸塚原遺跡では古墳30基が検出されており、古墳の多くは遺跡群の南東から南部で牛頸川側に群集している。

この他、古墳時代の遺跡として窯跡群があげられる。牛頸窯跡群は須恵器生産の大規模な窯跡群であり、これまで300基以上の窯跡が発掘調査されている。牛頸窯跡群は6世紀中頃から9世紀前半まで操業しており、地形から、春日、上大利、佐野、牛頸川、平野川グループの5つの支群に分けられている。上大利支群の山裾に近い平野部から操業が始まり、次第に春日支群、佐野支群へと広がり、牛頸川、平野川支群に至り最盛期を迎える。塚原古墳群は春日支群の南部に位置し、地理的環境から、同古墳群の被葬者は須恵器生産との関わりも想定される。



- |              |             |                |               |             |
|--------------|-------------|----------------|---------------|-------------|
| 1 前ノ原遺跡      | 15 向谷北遺跡    | 29 春日平田東遺跡     | 43 城山窯跡       | 57 華無尾遺跡    |
| 2 九州大学・御供田遺跡 | 16 向谷遺跡     | 30 塚原古墳群       | 44 原浦窯跡群      | 58 華無尾窯跡    |
| 3 一の谷B遺跡     | 17 向谷西遺跡    | 31 楠ノ木遺跡       | 45 井手窯跡群      | 59 平田窯跡群    |
| 4 原田C遺跡      | 18 向谷古墳群    | 32 座頭谷古墳群      | 46 足洗川窯跡群     | 60 野添遺跡群    |
| 5 原田A遺跡      | 19 向谷南遺跡    | 33 浦ノ原窯跡群      | 47 笹原窯跡群      | 61 大浦窯跡群    |
| 6 春日水城跡      | 20 春日平田北遺跡  | 34 白水池古墳群      | 48 長者原窯跡群     | 62 上大利小水城   |
| 7 大土居水城跡     | 21 春日平田北B遺跡 | 35 イゲ谷遺跡       | 49 道ノ下窯跡群     | 63 梅頭遺跡     |
| 8 紅葉ヶ丘遺跡     | 22 惣利東B遺跡   | 36 イゲ谷古墳群      | 50 ハセムシ窯跡群    | 64 本堂遺跡     |
| 9 大傘田池窯跡     | 23 大傘田遺跡    | 37 西浦遺跡        | 51 中通遺跡群(窯跡群) | 65 上園遺跡     |
| 10 惣利1号窯跡    | 24 円入遺跡     | 38 後田遺跡群(窯跡群)  | 52 上平田遺跡      | 66 出口遺跡     |
| 11 惣利遺跡      | 25 惣利古墳     | 39 小田浦遺跡群(窯跡群) | 53 畑坂遺跡       | 67 池田・池の上遺跡 |
| 12 惣利北遺跡     | 26 春日平田遺跡   | 40 石坂窯跡群       | 54 塚原遺跡       | 68 神ノ前遺跡    |
| 13 惣利西遺跡     | 27 春日平田西遺跡  | 41 大谷窯跡群       | 55 日ノ浦遺跡      | 69 宮ノ本遺跡    |
| 14 惣利東遺跡     | 28 春日平田南遺跡  | 42 月ノ浦窯跡       | 56 屏風田遺跡      |             |

第1図 塚原古墳群周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 塚原古墳群調査地点位置図 (1/2,500)

## Ⅲ 調査の内容

### 1 調査の概要

塚原古墳群は牛頸山から派生する小丘陵に営まれた群集墳である。これまで3次調査まで発掘調査が実施された。

1次調査は丘陵東裾部の平坦面部分の調査で、大溝1条、溝1条、竪穴建物跡1基等が検出された。大溝は小丘陵を巡るようにほぼ南北方向に延びる。最大幅約6m、深さ約1m、検出した長さは約110mである。大溝の時期は出土須恵器から8世紀後半から9世紀で、水路として機能していたと考えられる。

2次調査は丘陵部の調査である。小丘陵尾根上に円墳4基とその斜面に円墳1基、竪穴建物跡2軒を検出した。円墳は周溝を含めた大きさが直径約14～19mで、盗掘を受け、尾根上の3基は石室の腰石まで抜かれていた。石室は腰石の抜き跡や掘方の大きさから、単室の横穴式石室で、南から南東方向に開口している。出土遺物の大半は須恵器で、その時期は主に6世紀後半～7世紀である。

3次調査は、2次調査の4号墳の南側にあたる。当初、4号墳の一部が検出されると想定したが、すでに宅地造成により土地が改変されており、墳丘や墓道は確認されていない。

### 2 古墳の調査

#### (1) 1号墳

##### ①位置と現況（第3図）

1号墳は北東方向に延びる尾根上の先端に位置する円墳である。標高50～52m付近にある。盗掘により墳丘の中央部が陥没した状態であった。

##### ②墳丘（図版2（1）、第8図）

墳丘の規模は直径約15mで、周溝は前面のみで一周しない。3方向にトレンチを入れ土層観察したところ、標高52.1m前後で地山整形し、1.6m以上盛土を行っている。1号墳の周溝は少なくとも2回掘られている。古墳築造時の周溝では墓道の西側から墓前祭祀に使用したと思われる須恵器が多数出土した。新たに掘られた周溝は古墳築造時の周溝の約1m外側にあり、出土した須恵器から追葬時に掘られたと考えられる。

##### ③主体部（図版2（2）、第5図）

主体部は横穴石室で盗掘を受けており、石室は腰石まで抜かれていた。石室は掘方や腰石の抜き跡から単室の横穴式石室である。主軸はおよそN-31°-Eで、南西方向に開口する。玄室は奥行約2m、幅約1.5mと推定される。羨道部にあたる位置に石材の抜き跡はなく、框石の抜き跡と思われる部分から西側の延長線上に床面から高さ40cmの位置に石材があり、羨道の一部と思われる。また、石室掘方は地山整形をした面から掘削されており、主軸長約4.7m、幅約4.2m、深さ0.8mである。石

室の裏込めの土が西側トレンチでは幅約 40 cm、東側トレンチでは幅約 30cm みられた。

#### ④出土遺物

1号墳は須恵器、土師器、鉄器（鉄鏃）、玉類（ガラス小玉、切子玉）、石器（砥石）が出土した。玉類と砥石、鉄器は盗掘孔からの出土で、玄室からの出土遺物はほとんどない。出土遺物の大半は須恵器で、その多くは周溝、墓道からである。特に墓道から西側に位置する周溝からは墓前祭祀に使用したと考えられる須恵器が多数出土した。これらの須恵器は一对の杯蓋と杯身が高杯の上に重なった状態のものが3点、杯身が高杯の上に重なったものが1点、杯蓋と杯身が1点、有蓋高杯1点、提瓶1点がまとまって出土した（第6図A群）。一对の杯の一つには二枚貝が入っていた。これらの一群から約1m西側には杯蓋4点、杯身3点、壺1点がまとまって出土した（第6図B群）。蓋がかぶさった状態ではなかったが杯蓋と杯身はセットになると思われる。

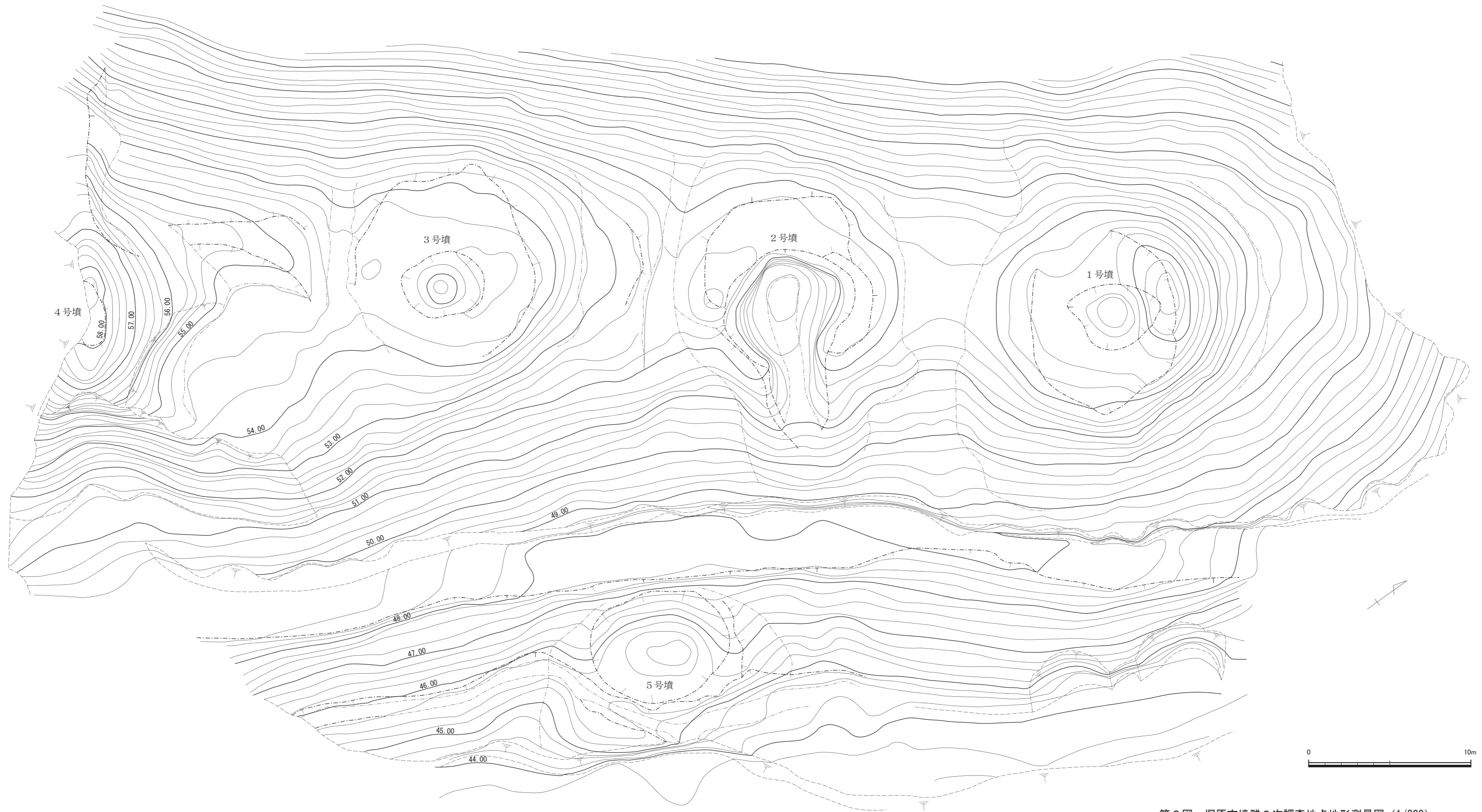
#### 須恵器・土師器（図版10～14、第9～18図）

1～16は周溝のA群出土である。杯蓋と杯身は1と2、3と4、5と6、7と8は一对で、1と2は14の高杯、3と4は15の高杯、5と6は13の高杯の上に重なった状態で出土した。9は天地逆の状態、10の高杯の上に重ねられていた。7と8は二枚貝が杯の中に入っていた。これらは墓道西側の周溝内で2列に並んで出土した。杯蓋は体部と口縁部の境に沈線があり、杯身は底部が丸みを帯びるが、9の底部は直線的である。杯蓋、杯身の内面には外面のへら削り調整を行う際に固定した時の当て具痕がみられる。11の高杯はA群の北西隅にあり、A群の中で唯一、高杯の上に杯が重ねられていない。12の高杯はA群から南に25cm離れた位置で出土した。高杯の脚部は直線的に延びるものと、甕の口頸部のように外側に屈曲して延びるものがある。16の提瓶は把手部分が退化し環状にならず、鍵状を呈する。外面の平坦な方にはカキ目、丸みを帯びた方には二重に刺突文を施している。平坦な方を下にして丸く整形し、上部を直径約3cmの円板で蓋をして胴部を作成し、胴部の横に切り込んで口頸部を付けている。

17～24は周溝のB群出土である。杯蓋（17～20）、杯身（21～23）、短頸壺（24）がある。これらの出土状況は20のつまみ付きの杯蓋以外は内面が上を向いて出土した。18、19の杯蓋は口縁部内面に段を有する。20の杯蓋と22の杯身の内面には当て具痕がある。24の短頸壺は口縁部が直線的に立ち上がり、胴部の中央付近がとがり気味に広がる。

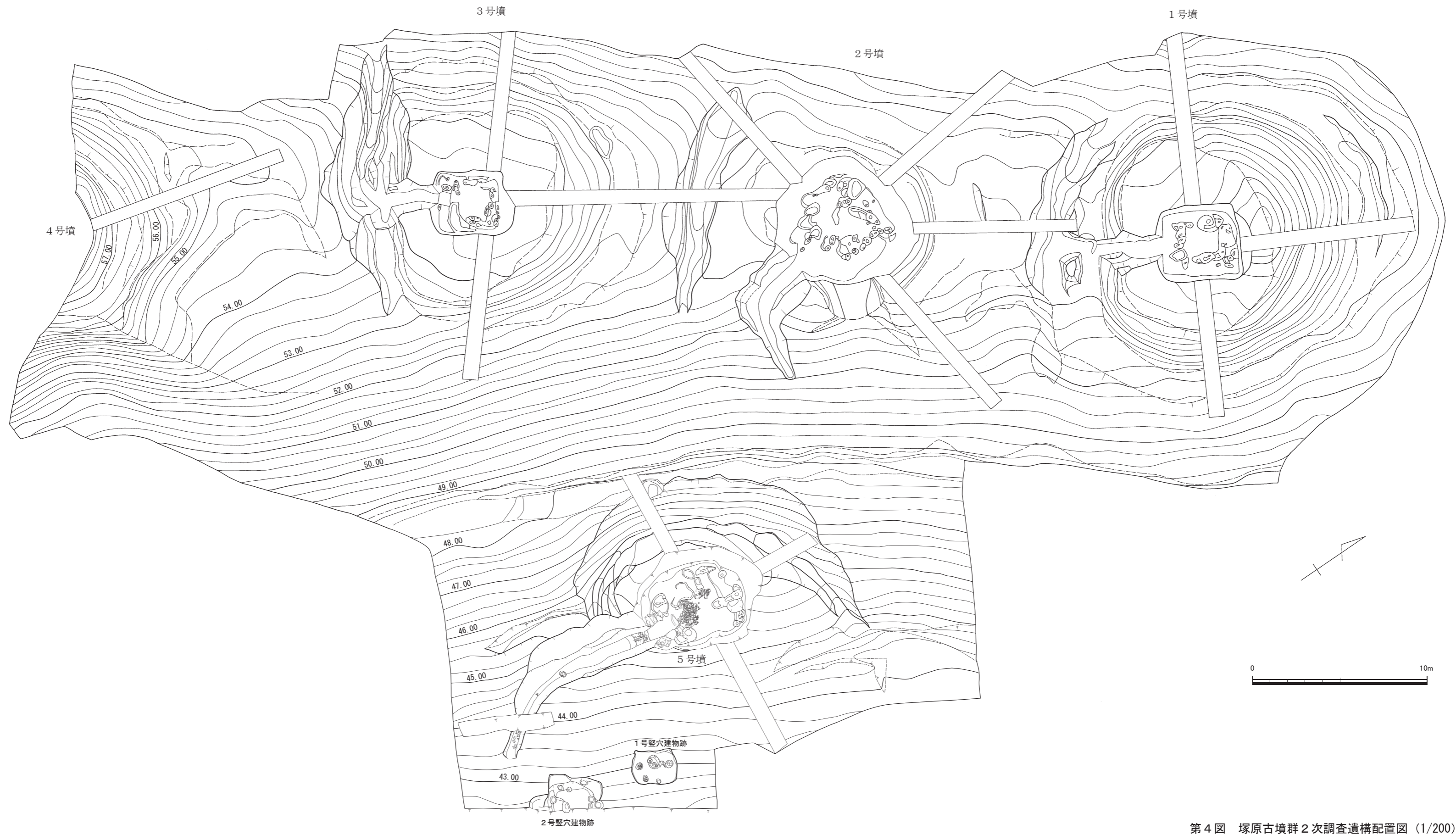
25～36は3区周溝で比較的まとまって出土した一群である。杯蓋（25、26）、杯身（27）、高杯（28）、小甕（29）、短頸壺（30）、甕（31）、平瓶（32）、大甕（33）、甕（34、35）、提瓶（36）と器種は多様である。33の大甕は破片が1号墳の墓道の他に2号墳の盗掘坑や5号墳の墳丘から出土したものと接合した。大甕の底部から胴部内面は同心円タタキ目で、胴部下半から底部にかけては同心円の弧が平行線に近く、胴部中央から上辺にかけては同心円に中心のタタキ目である。そして頸部に近くなると同心円からやや外側の弧状のタタキ目となる。胴部外面の平行タタキ目の角度も内部の同心円タタキ目の変化に連動する。34の甕の内面のタタキ目は胴部下半から底部にかけて平行線に近いが、35の甕は同心円のタタキ目である。頸部外面にへら記号あり。37の小壺は3区周溝から出土した土器





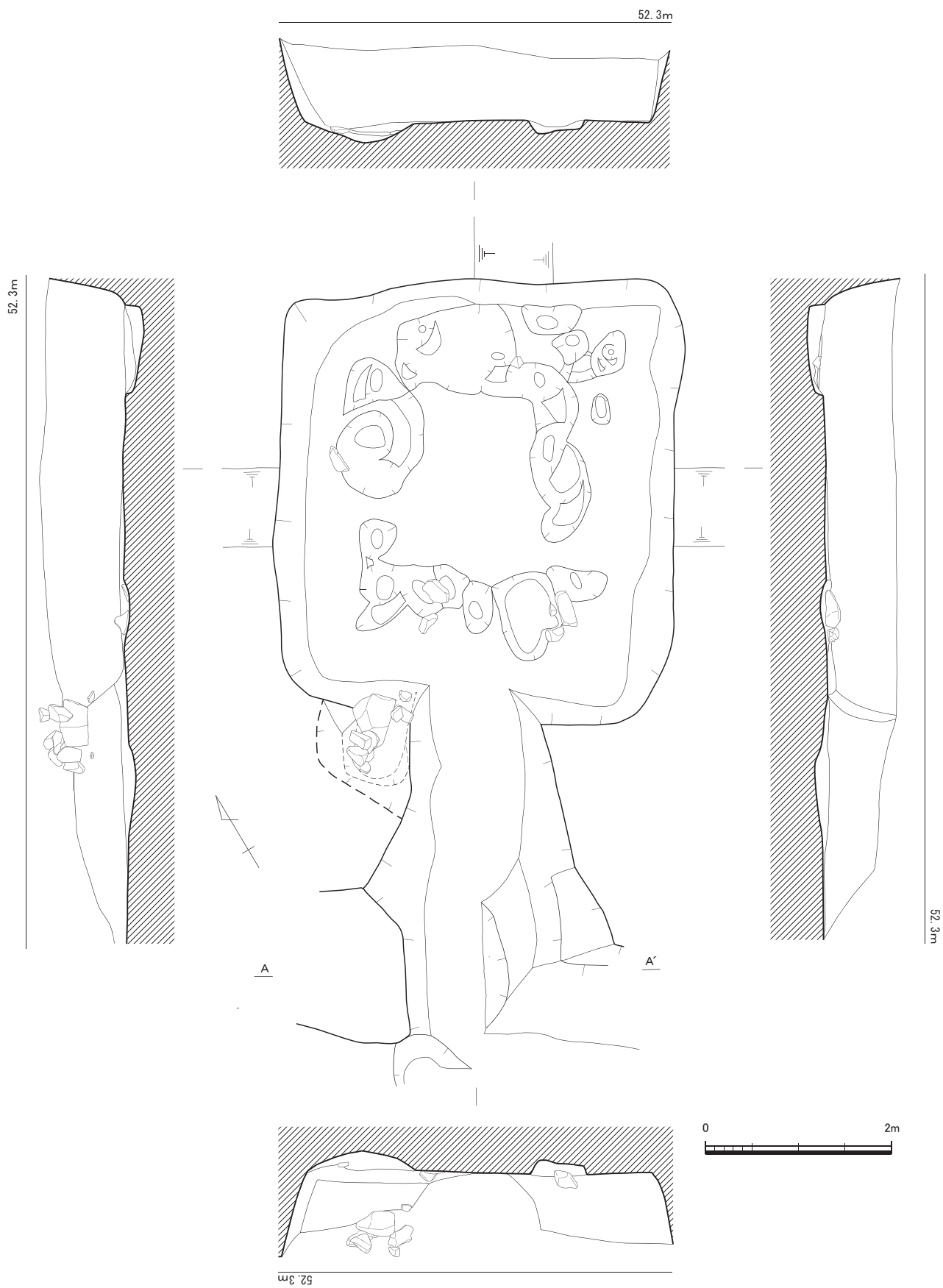
第3図 塚原古墳群2次調査地点地形測量図 (1/200)



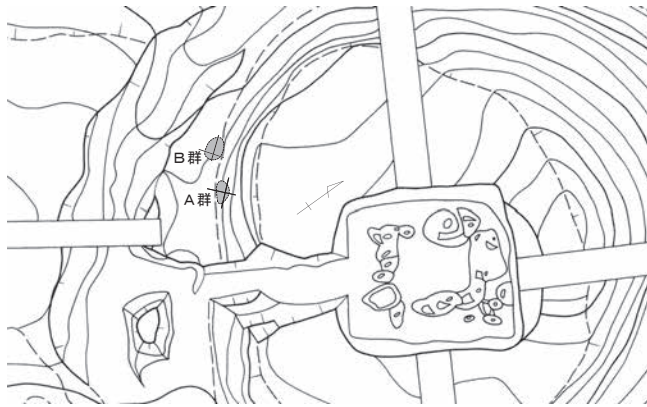


第4図 塚原古墳群2次調査遺構配置図 (1/200)

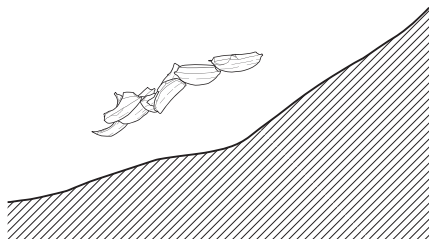




第5图 1号墳石室実測図 (1/60)



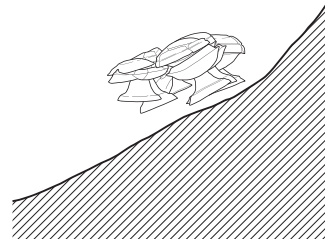
53.9m



1号墳周溝B群



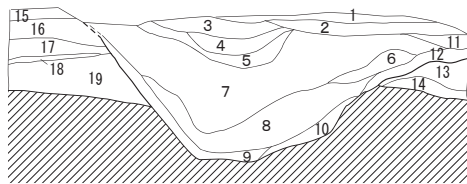
52.0m



1号墳周溝A群

第6図 須恵器出土状況実測図 (1/20)

A 52.7m A'

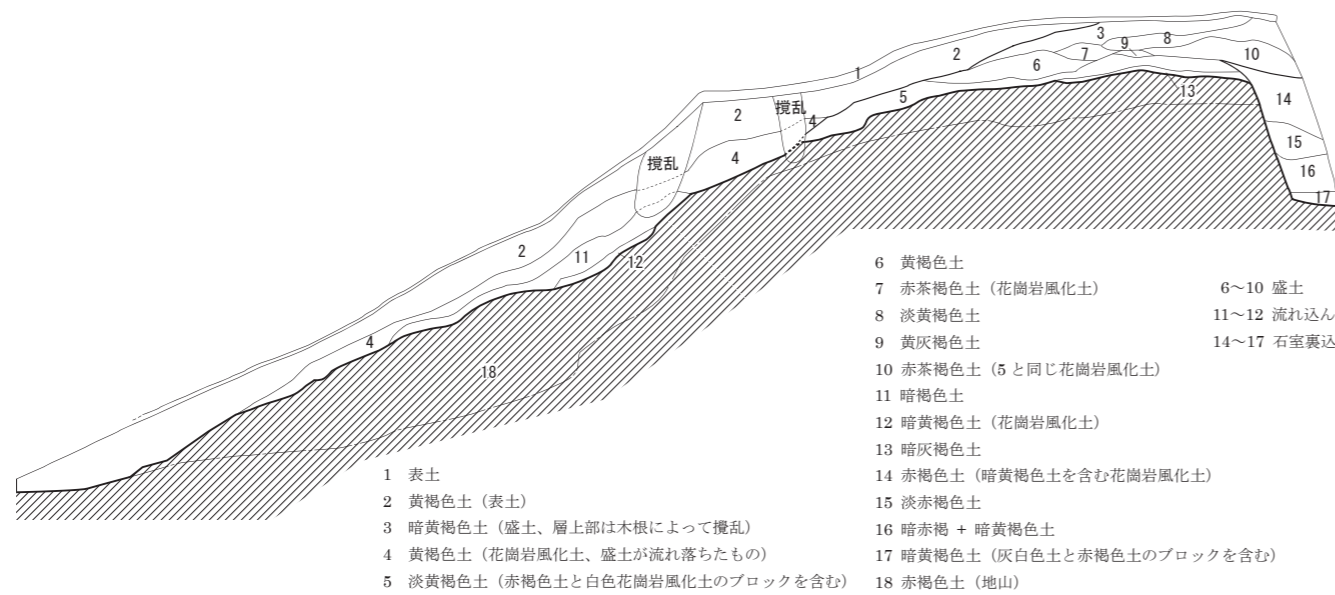


- |         |          |            |
|---------|----------|------------|
| 1 淡黄褐色土 | 7 黄褐色土   | 13 11に同じ   |
| 2 茶褐色土  | 8 暗茶黄色土  | 14 12に同じ   |
| 3 淡灰黑色土 | 9 暗黄褐色土  | 15 表土(腐植土) |
| 4 灰黑色土  | 10 暗黄灰色土 | 16 明黄褐色土   |
| 5 暗黄灰色土 | 11 暗黄色土  | 17 赤褐色土    |
| 6 茶黄色土  | 12 淡赤褐色土 | 18 暗黄褐色土   |
|         |          | 19 淡赤褐色土   |

第7図 墓道土層断面実測図 (1/60)

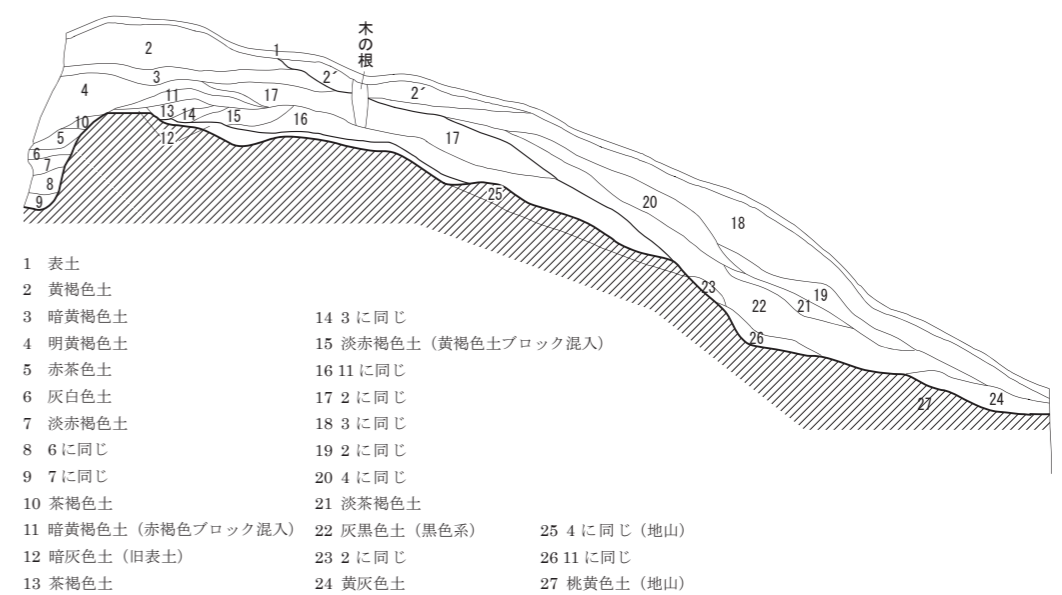
1号墳西トレンチ

52.9m



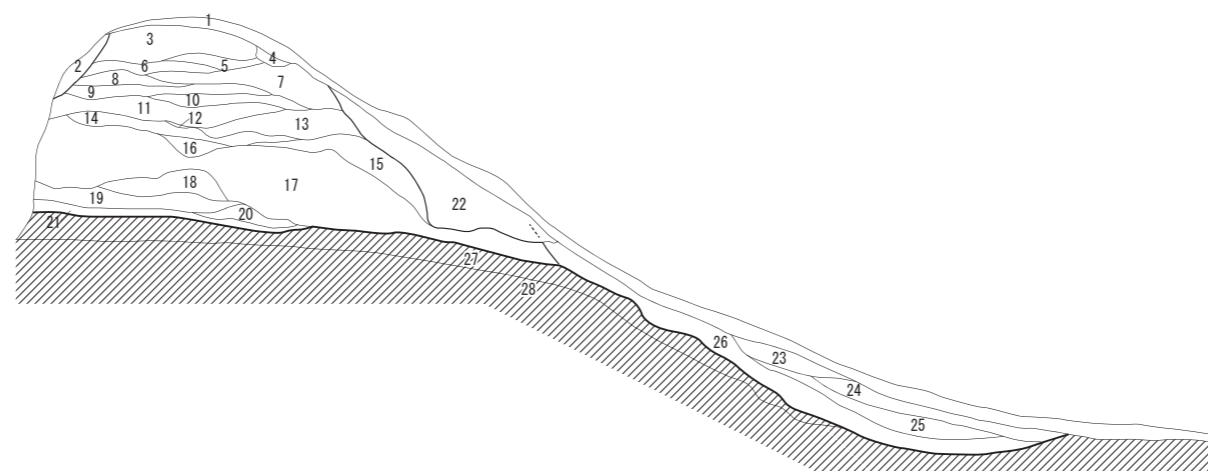
1号墳東トレンチ

52.9m



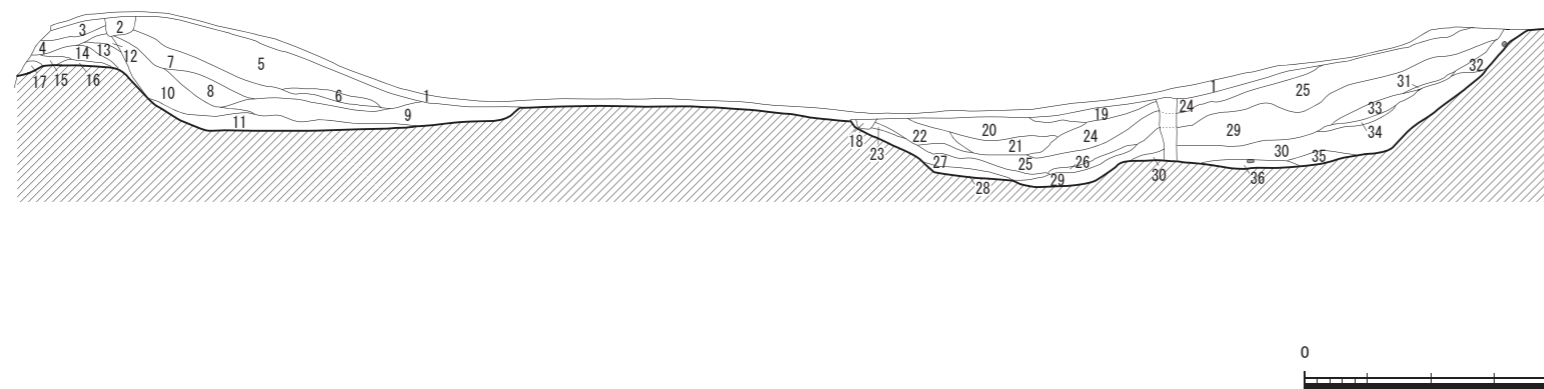
1号墳北トレンチ

53.9m



1・2号墳間トレンチ

53.3m

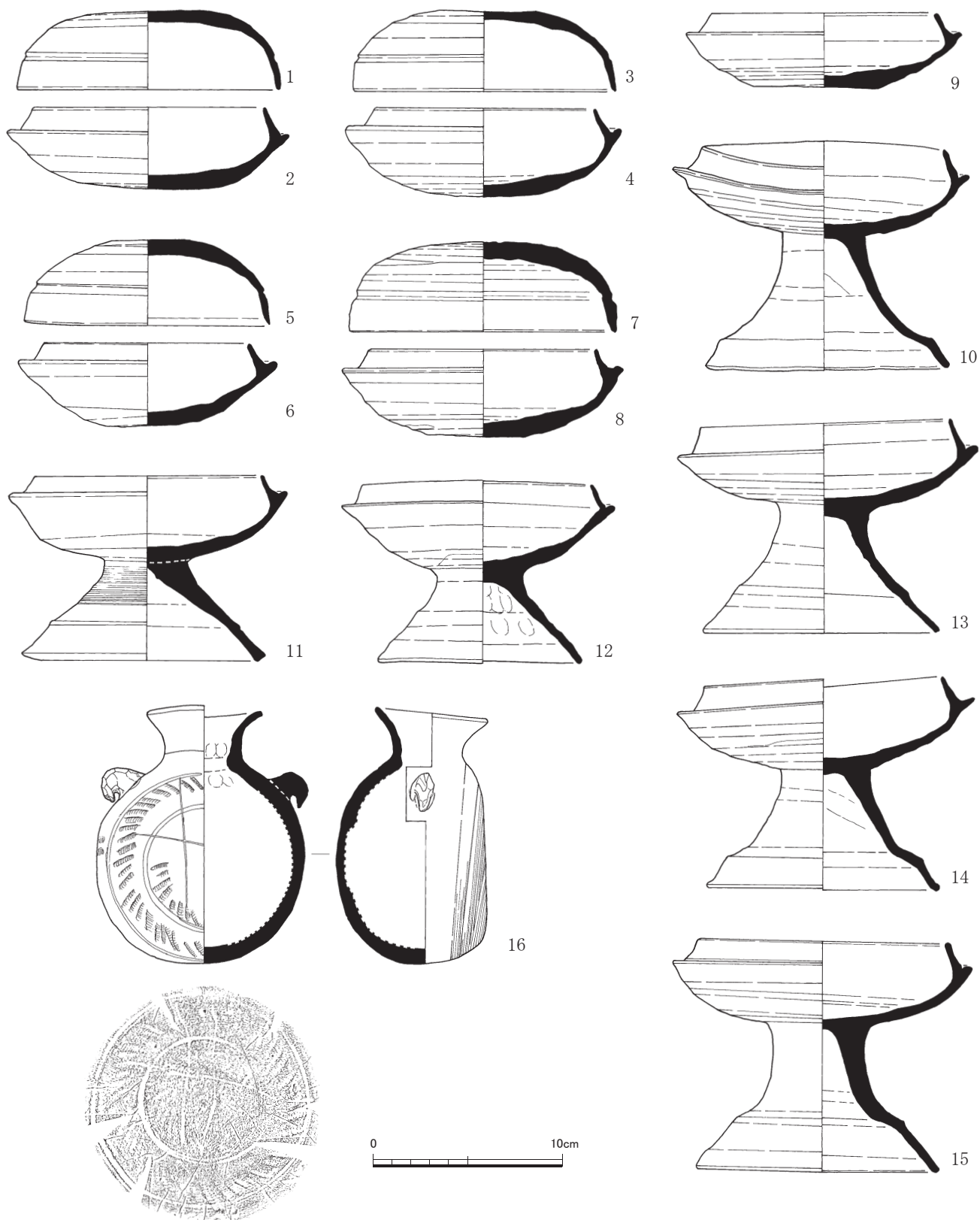


第8図 1号墳墳丘及び1・2号墳間土層断面実測図 (1/60)



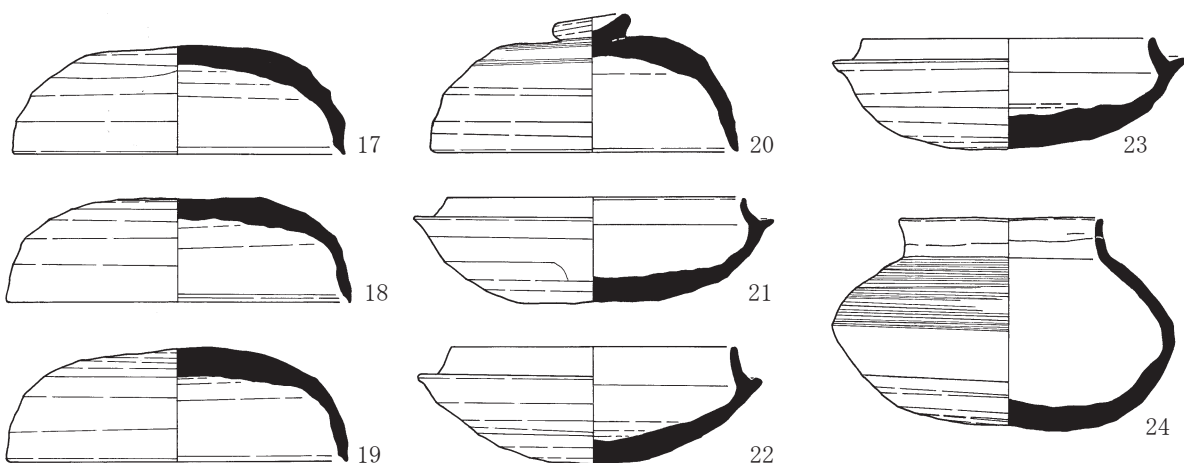


周溝A群

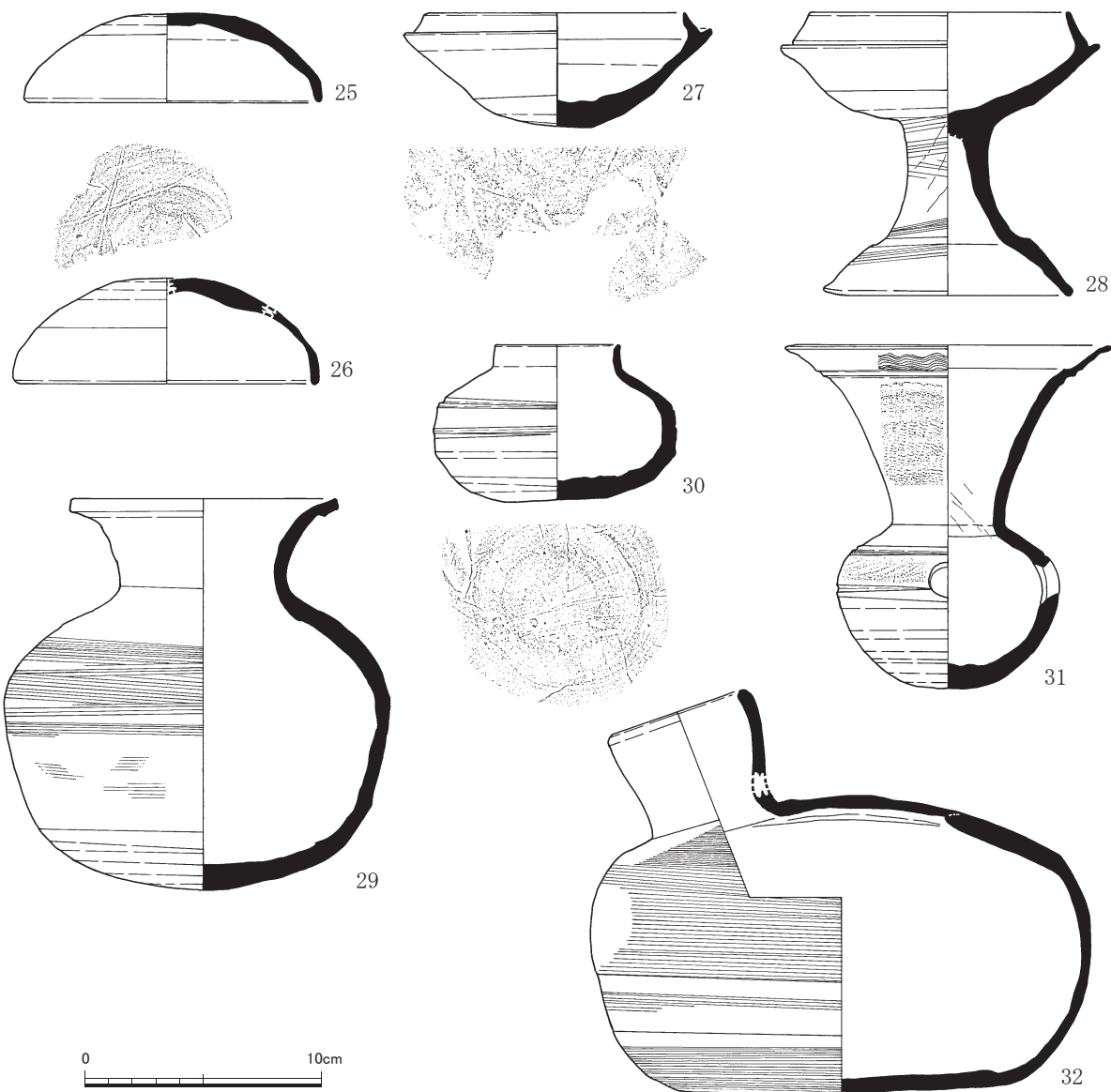


第9图 1号墳出土土器実測图① (1/3)

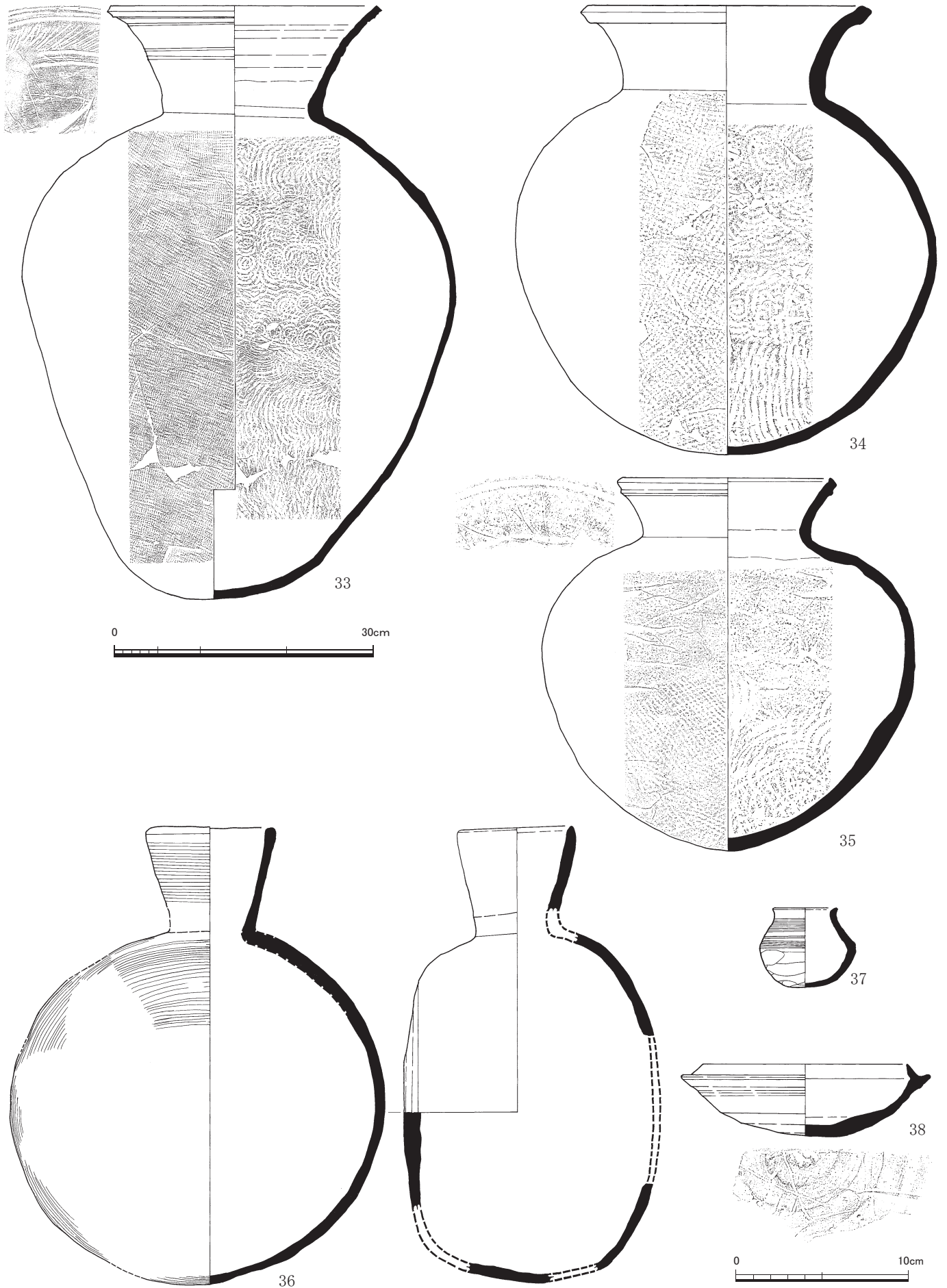
周溝B群



3区周溝

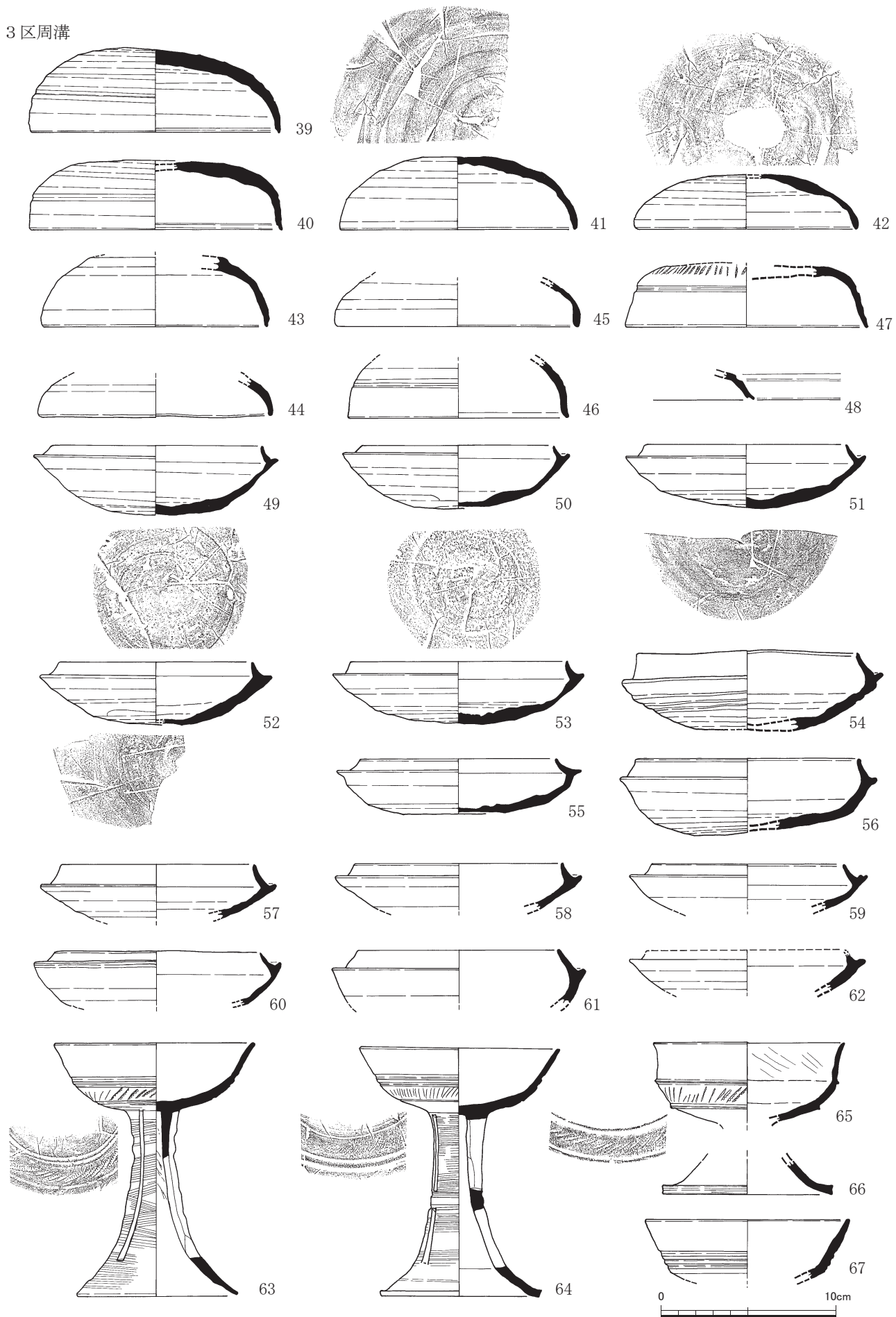


第10图 1号墳出土土器实测图② (1/3)



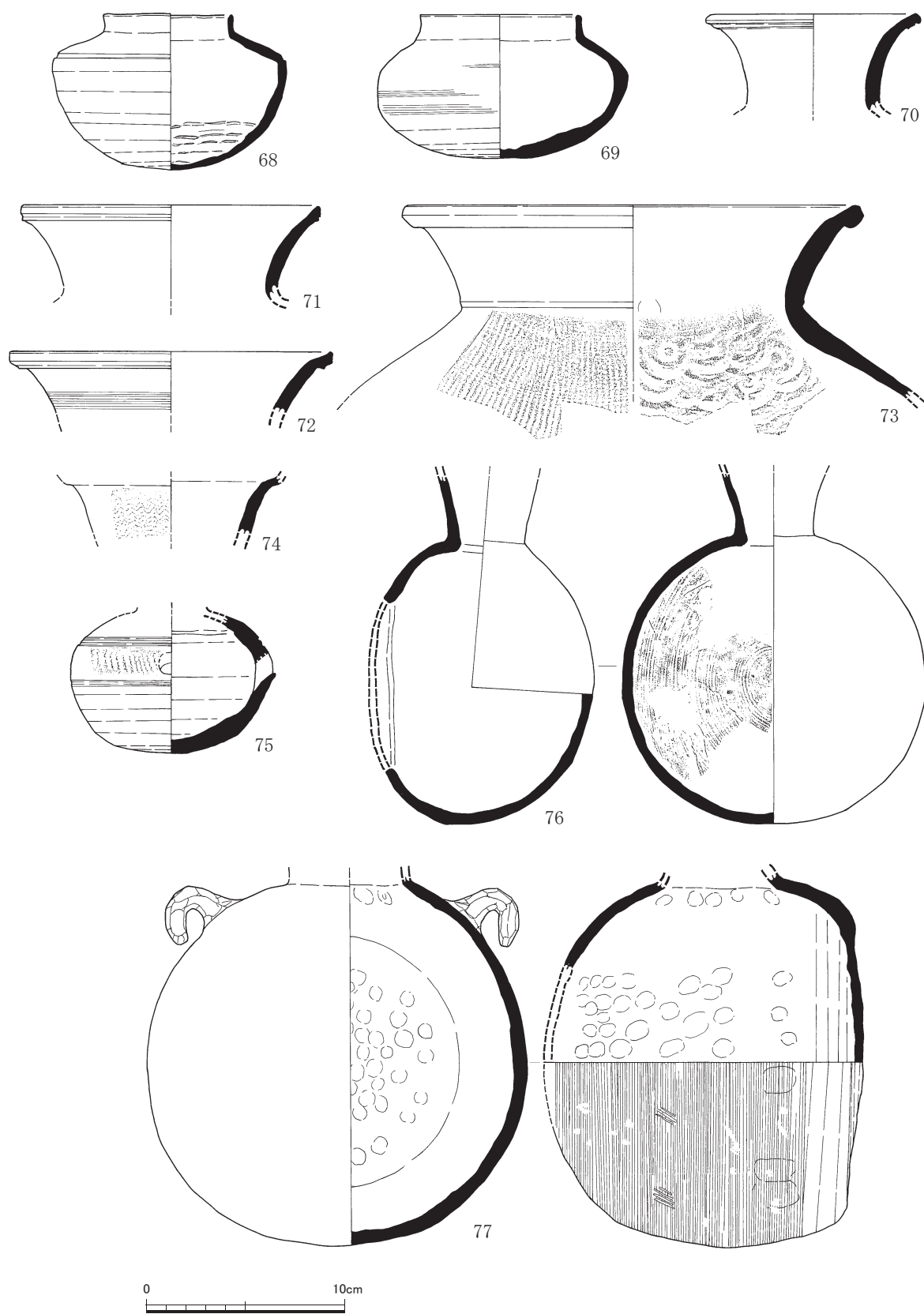
第11図 1号墳出土須恵器実測図③ (1/3、33は1/6)

3区周溝



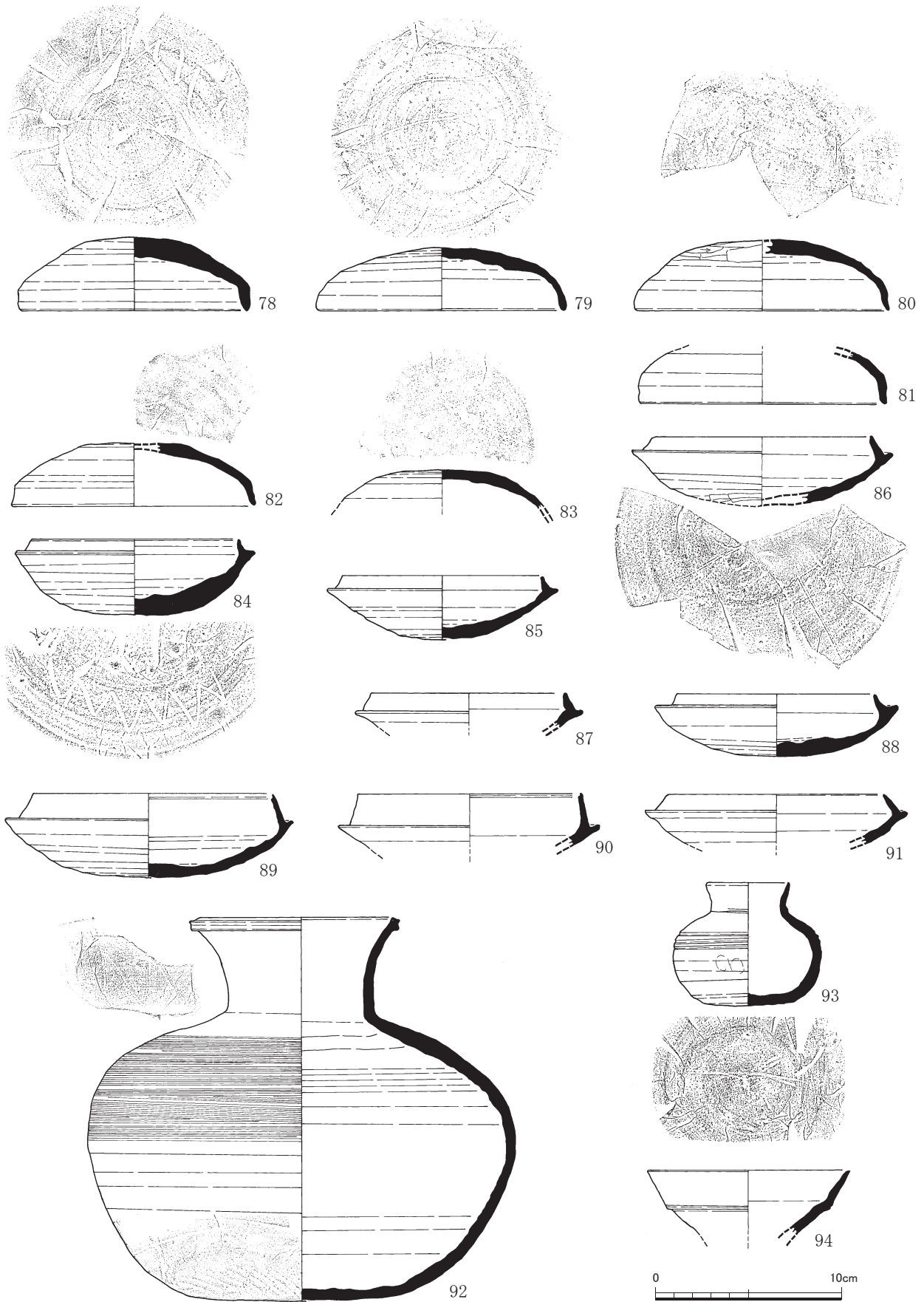
第12图 1号墳出土須恵器実測图④ (1/3)

3区周溝



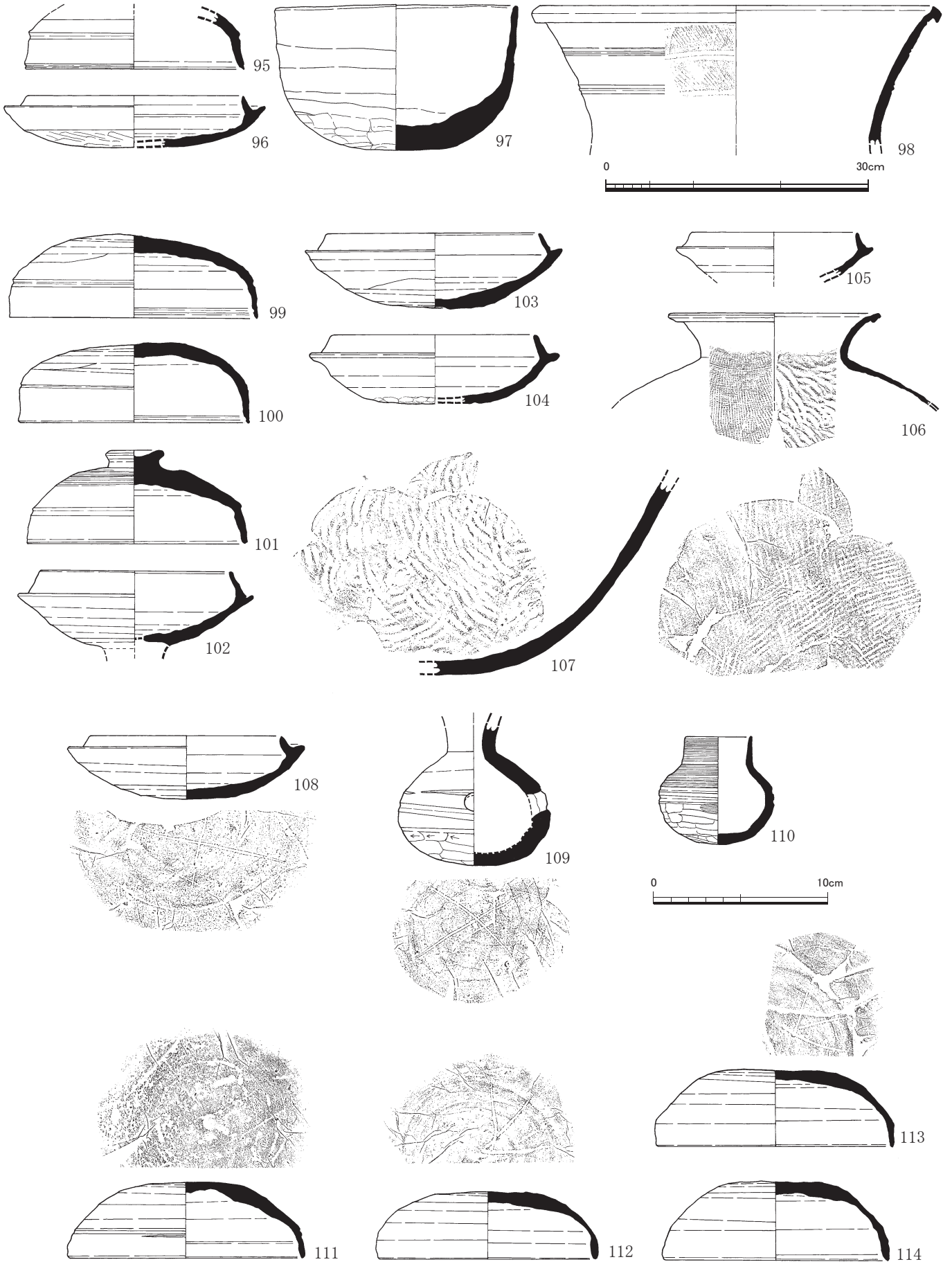
第13图 1号墳出土須恵器実測図⑤ (1/3)

墓道上層

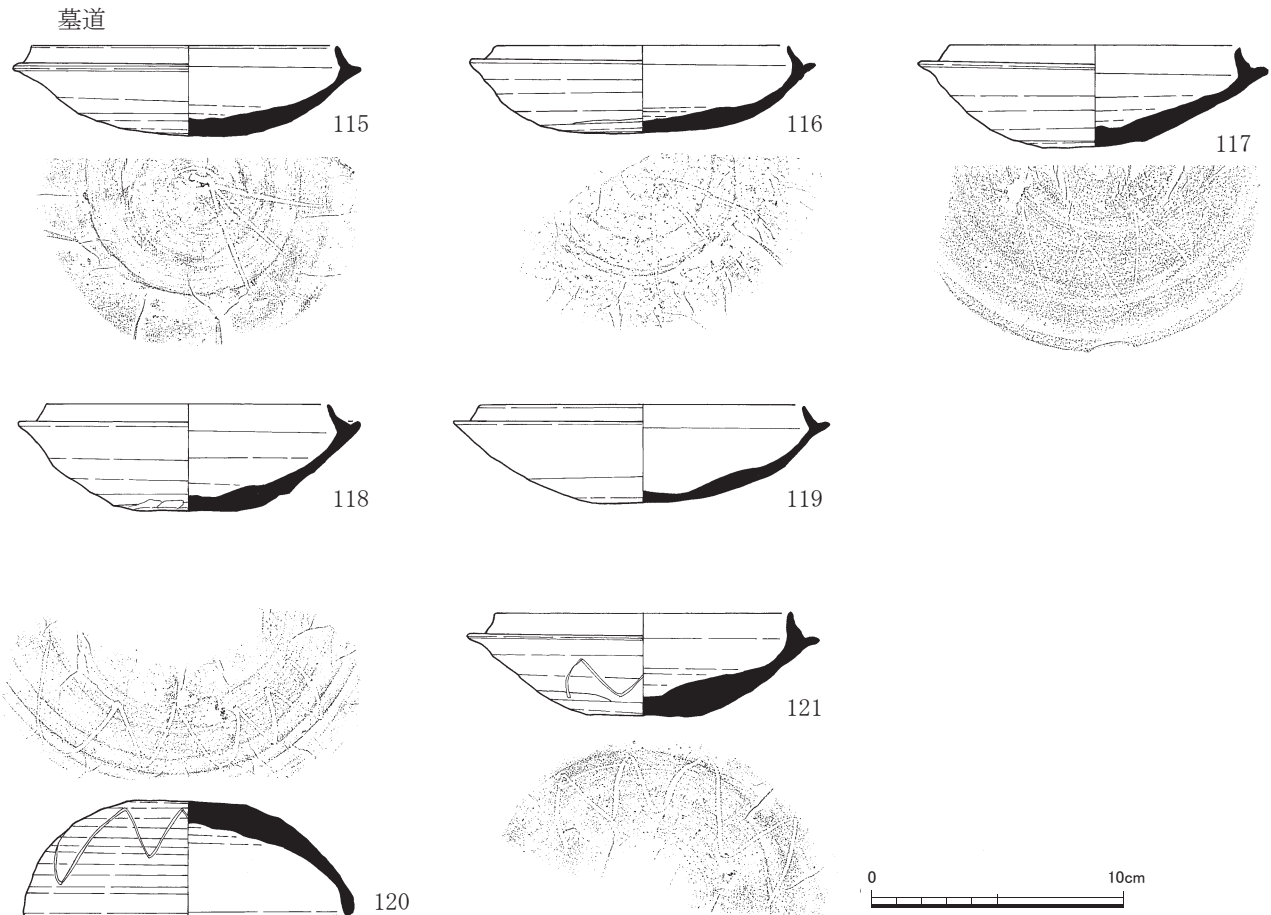


第14图 1号墳出土須恵器実測図⑥ (1/3)

墓道



第15图 2号墳出土須恵器実測图⑦ (1/3、98・106は1/6)



第16図 1号墳出土須恵器実測図⑧ (1/3)

群で最も西側から出土した。38～77も3区周溝内出土で、杯蓋(39～48)、杯身(38、49～62)、高杯(63～67)、短頸壺(68、69)、壺(70)、甕(71～73)、甕(74、75)、提瓶(76、77)がある。77の提瓶は把手の先端が体部に付かない。体部の丸みをおびる方にカキ目を施している。内面は指頭痕が多くみられる。破片が広範囲に散らばり前庭部や墓道出土の破片と接合した。

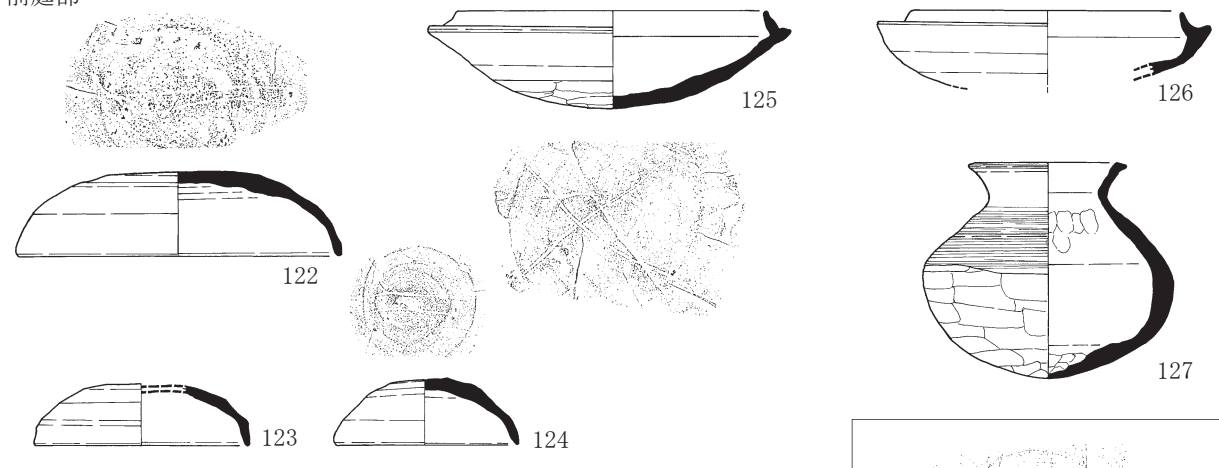
78～121は墓道から出土した。墓道の上層から出土したものは、杯蓋(78～83)、杯身(84～91)、壺(92)、小壺(93)、甕(94)である。95～98は埋土中からの出土で、杯蓋(95)、杯身(96)、碗(97)、大甕(98)である。99～107は周溝とつながる部分からの出土で、杯蓋(99～101)、高杯(102)、杯身(103～105)、甕(106、107)がある。108～110は第7図の5層からの出土で、杯身(108)、甕(109)、短頸壺(110)がある。111～121は第7図の7層からの出土である。杯蓋(111～114、120)、杯身(115～119、121)で、杯蓋、杯身ともヘラ記号がみられる。

122～127は前庭部から出土で、杯蓋(122)、蓋(123、124)、杯身(125、126)、壺(127)がある。壺は体部のほぼ中央に胴部最大径があり、外面の下半分に静止ヘラ削りをして整形している。口縁部は外側に向かって直線的に開く。

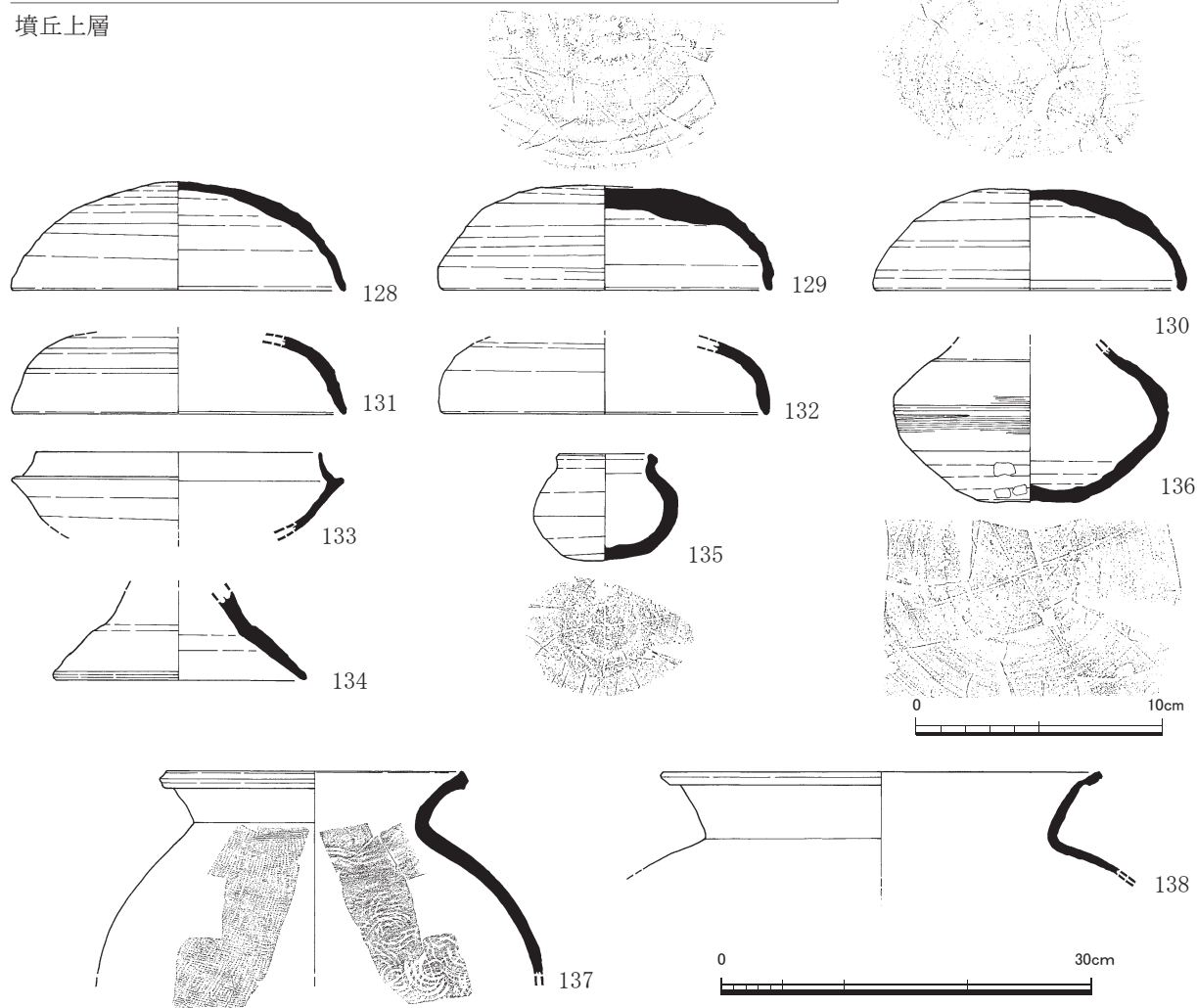
128～138は墳丘の表土下で、墓道にあたる部分から出土した。杯蓋(128～132)、杯身(133)、高杯(134)、小壺(135)、壺(136)、甕(137)、大甕(138)がある。136の壺は底部が平らであるが、体部から頸部の形が127の壺と似る。



前庭部

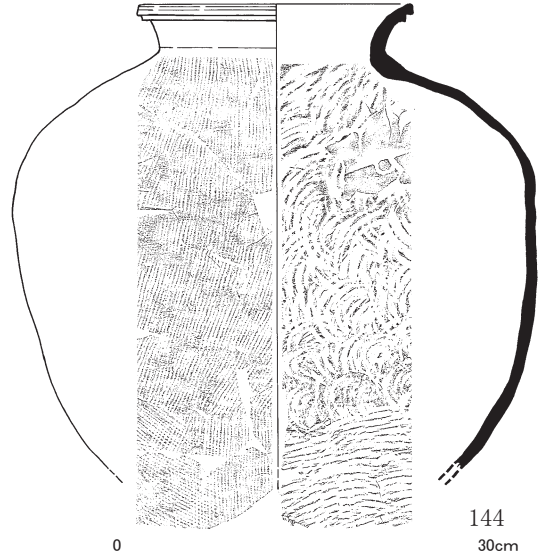
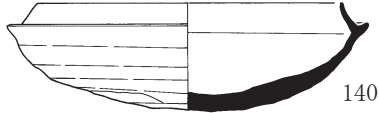
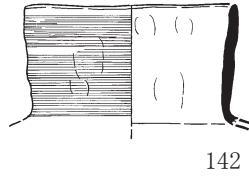
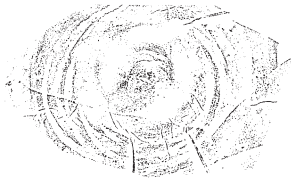
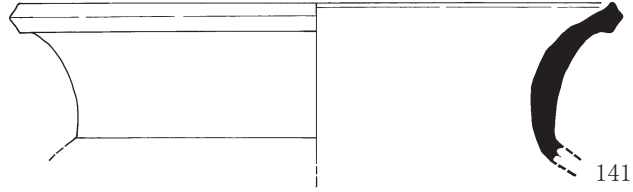
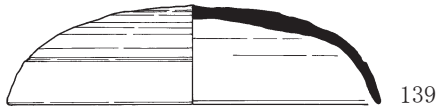


墳丘上層

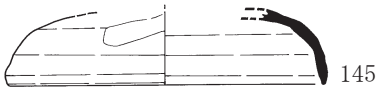


第17図 1号墳出土土器実測図⑨ (1/3、138は1/6)

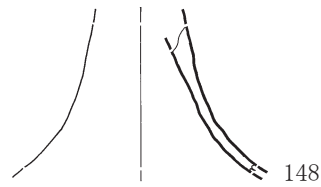
墳裾



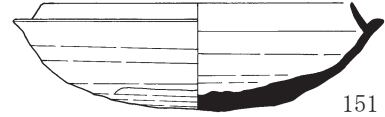
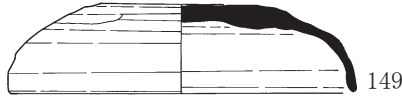
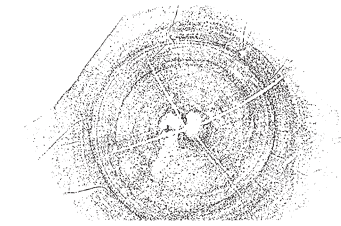
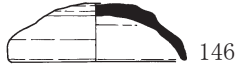
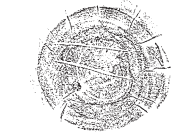
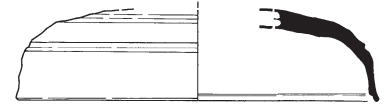
1・2号墳間の土層ベルト



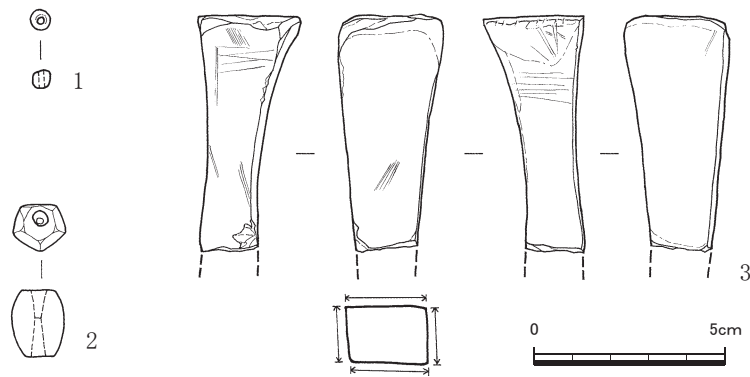
1・2号墳東側斜面



盗掘坑



第 18 図 1号墳出土土器実測図⑩ (1/3、144は1/6)



第19図 1号墳出土玉類・石器 (1/2)

139～144は墳裾から出土した。杯蓋(139)、杯身(140)、直口壺(142)、甕(141)大甕(143、144)である。墳裾出土の須恵器は周溝、前庭部、墓道出土の破片と接合した。

145～147は1・2号墳間の土層ベルトからの出土である。杯蓋(145)、蓋(146)、小壺(147)がある。146と147は大きさが合うこととヘラ記号が同じであることから一対になると思われる。148は土師器の高杯で、1・2号墳間の東側斜面から出土した。149の杯蓋は周溝～墓道付近の出土である。

150の杯蓋と151の杯身は盗掘坑からの出土である。

#### 装身具 (図版14 第19図1、2)

1はガラス製の小玉で、直径約5mm、長さ4.4～4.5mmで、色調はスカイブルーである。2は赤瑪瑙製の切子玉である。最大幅14mm、長さ17mmの大きさで、穿孔は両割りである。

#### 石器 (図版14 第19図3)

砥石で、盗掘坑から出土した。長辺は四面とも使用されている。残存長6.25cm、最大幅2.75cm、厚さ1.55～2.7cmである。

## (2) 2号墳

### ①位置と現況 (第3図)

2号墳は1号墳と同様に尾根線上に位置し、標高は約52m前後を測る。1号墳の南西に隣接する円墳で、2号墳も盗掘により、墳丘中央から東側斜面に向かって深さ2m程陥没していた。

### ②墳丘 (図版4 (1)、第21図)

墳丘の規模は直径約11mで、周溝は3号墳との間の尾根を分断するように幅2～2.5mで掘られており一周しない。2号墳も盗掘され石室の石材はすべて抜かれていた。2号墳は標高52.1m前後で地山整形し、石室の掘方は地山を2m以上掘り込んでいる。

### ③主体部 (図版4 (2)、第20図)

石室は掘方や腰石の抜き跡から単室の横穴式石室である。主軸はおよそN-5°-Wで、南方向に開口する。玄室は奥行2m前後、幅2m前後、羨道は長さ1.5m前後と推定される。墓道は石室の開口部から南に向かってL字形に屈曲している。掘方と埋土の状況から少なくとも2回掘られている。

墓道の埋土上層からは石室の閉塞に使われたと思われる石材や敷石が須恵器や鉄器、耳環とともに乱雑に出土していることから、盗掘を受けた際に墓道に捨てられたと思われる。

#### ④出土遺物

2号墳は須恵器、土師器、鉄器（鉄刀、鉄斧、鉄鏃、鉄滓か）、装身具（耳環）、石製品（紡錘車）、石器（石鏃）が出土した。出土遺物の大半は墓道、盗掘坑からの出土で、遺物の大半は須恵器である。

##### 須恵器・土師器（図版 15～17、第 23～28 図）

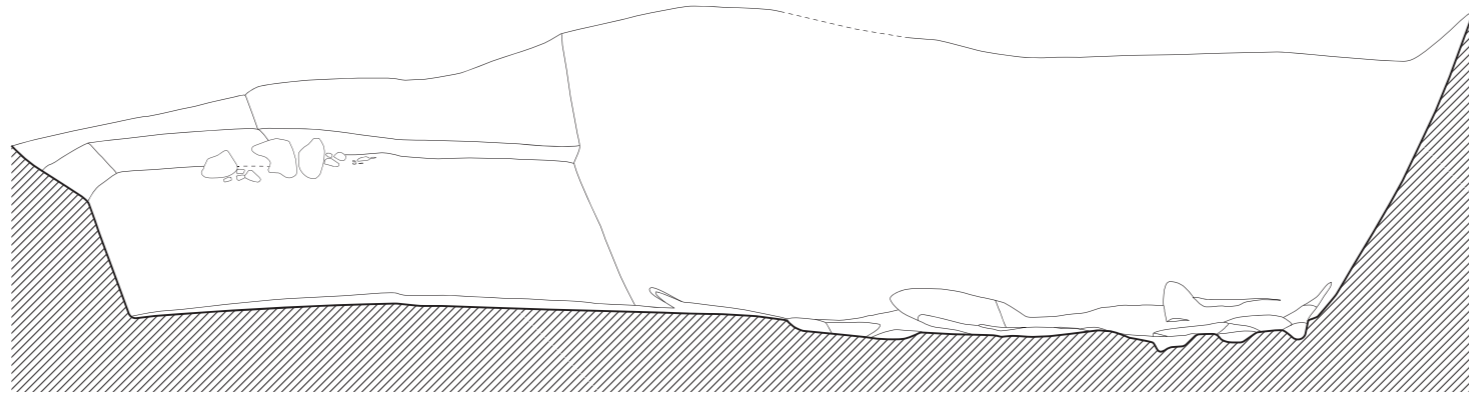
1は杯蓋で、玄室から出土した。2は脚付の椀で、周溝から出土した。口縁部は復元した口径が細片であるため胴部径と同じではないが、図上で復元した。3～64は墓道からの出土である。およそ同じ地点から出土したものをA～D群として取り上げた。3はA群、4～9はB群、10～27はC群、28～42はD群、43、44は墓道上層、45～62は墓道中層、63、64は墓道からの出土である。A・B群は杯蓋（3～6）、高杯（7）、杯身（8）、平瓶（9）がある。3と6は内面にかえりがある蓋で、6はつまみが付く。4、5は天井部にヘラ記号を施す。C群は杯蓋（10～15）、杯身（16～21）、大甕（22）、高杯（23、24）、甕（25、26）、土師器の甕（27）がある。21はかえりのない丸みある杯身である。22は大甕の口頸部で、頸部の中央に二条の沈線及び沈線から上部に連続斜線文を施す。23、24は無蓋の高杯で脚部の内面にヘラ記号を施す。D群は杯蓋（28～35）、杯身（36～39）、長頸壺（40、41）、甕（42）がある。32～35は内面にかえりがあり、33～35はつまみを有し、2本線のヘラ記号を施す。36と37は33～35と同じ形のヘラ記号が底部外面にみられる。40の長頸壺は口頸部が直線的で、体部上半に刺突文あり。41は口頸部の破片で、頸部が外湾しながら立ち上がり口縁端部を上方につまみ上げている。42は甕の口縁部と思われる。墓道上層は杯蓋（43）、杯身（44）が出土した。墓道中層からは杯蓋（45～54）、杯身（55～59）が出土した。60、61は無蓋の高杯で61は杯部外面にヘラ記号あり。62は高杯の脚部か。この他、墓道からつまみ付きの杯蓋（63）、杯身（64）が出土した。65～78は墳丘からの出土である。65～67は墓道の西側上層からの出土で、高台付杯（65）、甕（66）、長頸壺（67）がある。65の高台付杯は底部外面にヘラ記号あり。66は復元口径 18.9 cm の甕である。67の長頸壺は胴部に沈線が2条あり、その間に刺突文を施す。68～73は石室開口部の東側にあたる墳丘から出土した。杯蓋（68、69）、杯身（70～72）、高杯（73）がある。74～78は石室開口部の西側にあたる墳丘から出土した。杯蓋（74、75、77、78）、甕（76）がある。75、78の杯蓋は内面にかえりを持つ。79～85は盗掘坑から出土した。杯蓋（79）、杯身（80～82）、高杯（83）、甕（85）、土師器の椀（84）がある。83は無蓋高杯の杯部、85は甕の胴部上半の破片。86～88は2号墳と3号墳の間の周溝からの出土で、杯蓋（86、88）、杯身（87）がある。

##### 鉄器（図版 17、第 29 図 1～3）

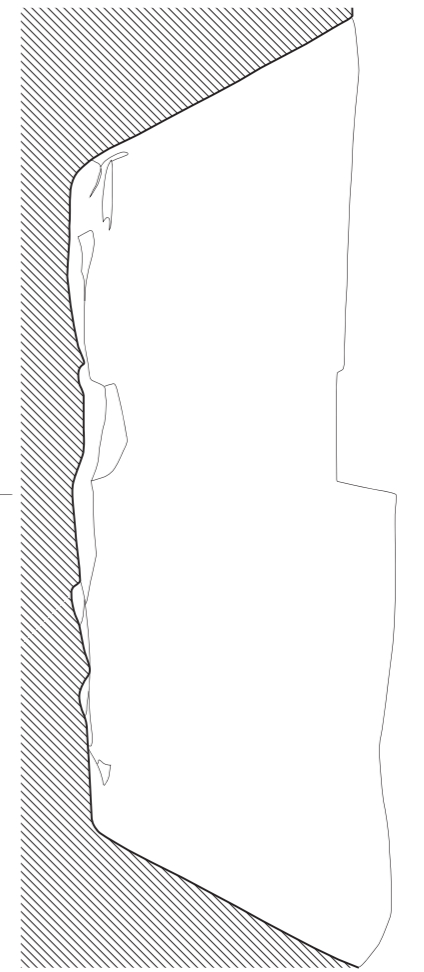
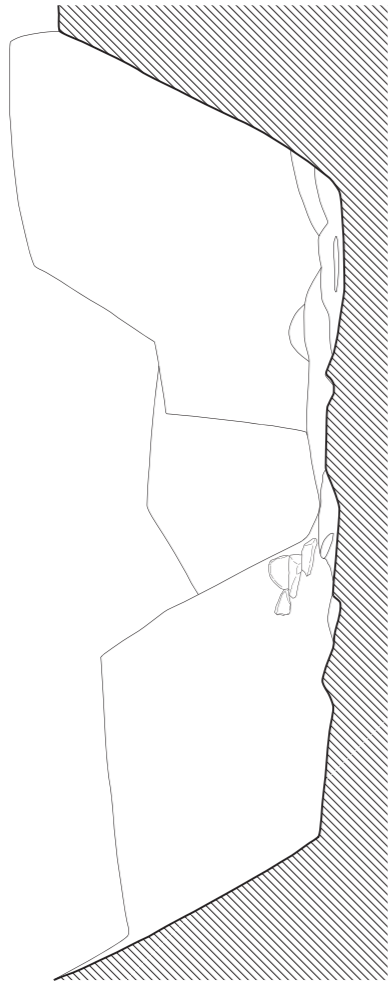
1は刀である。錆膨れが著しく、途中で湾曲しているが、人為的なものかどうかはわからない。2も細片のため断定できないが刀子もしくは刀の関部と思われる。3は袋状鉄斧である。1～3とも墳丘からの出土である。

##### 耳環（図版 17、第 29 図 4～7）

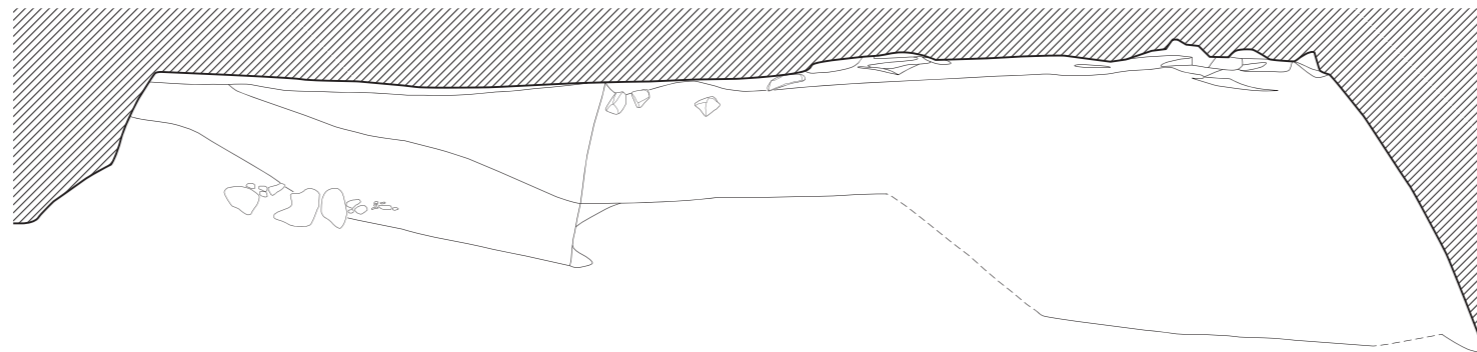
53.0m



53.0m



53.0m



53.0m

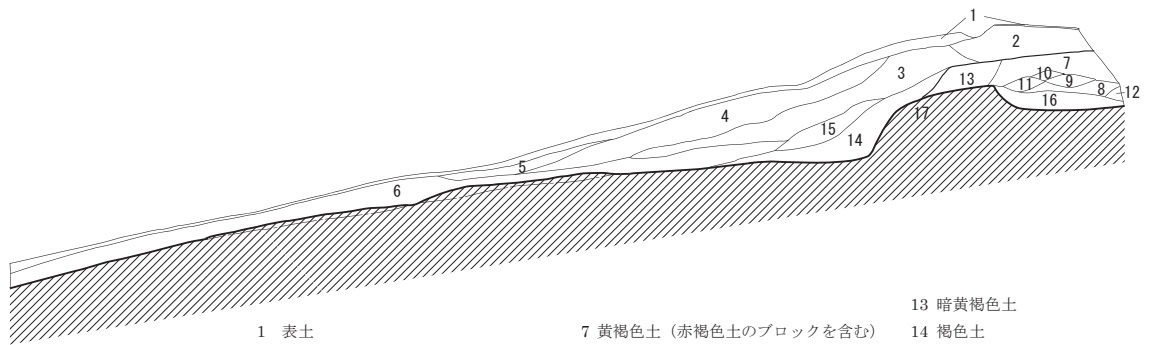


第20图 2号填石室实测图 (1/60)



2号墳北トレンチ

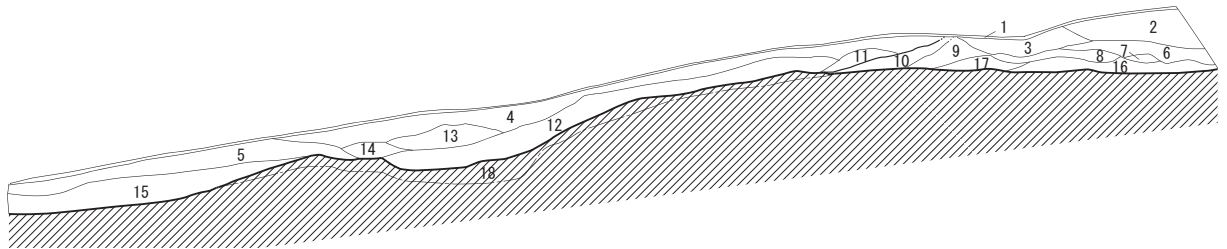
52.9m



- |                      |                       |                |
|----------------------|-----------------------|----------------|
| 1 表土                 | 7 黄褐色土 (赤褐色土のブロックを含む) | 13 暗黄褐色土       |
| 2 黄褐色+赤褐色土 (盗掘時の排土か) | 8 暗褐色土 (赤褐色土のブロックを含む) | 14 褐色土         |
| 3 暗褐色土               | 9 灰褐色土 (赤褐色土のブロックを含む) | 15 暗黄褐色土       |
| 4 黄橙褐色土              | 10 赤茶褐色土              | 16 淡赤褐色 + 黄褐色土 |
| 5 灰黄褐色土              | 11 7と同じ               | 17 地山 (花崗岩風化土) |
| 6 黒灰褐色土              | 12 淡灰黄褐色土             | 7~13・16 盛土     |

2号墳西トレンチ

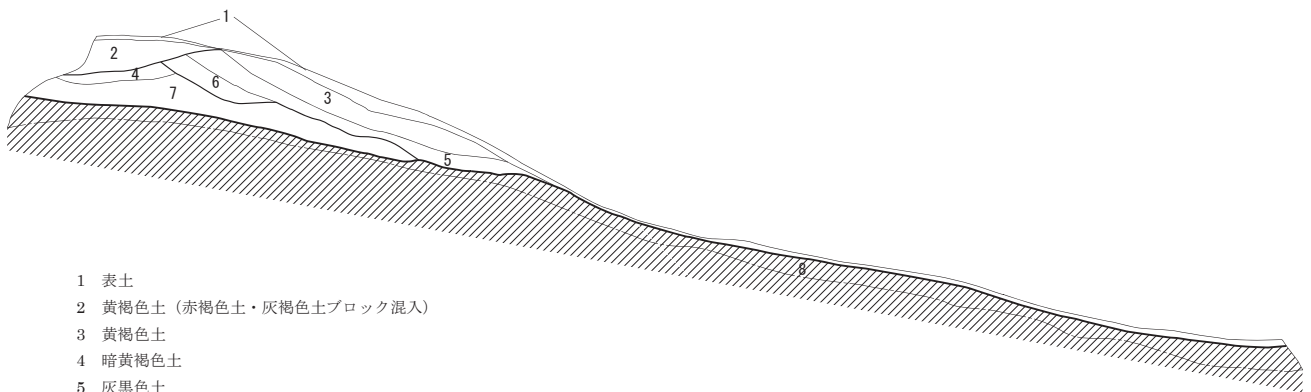
52.9m



- |                      |                       |                |
|----------------------|-----------------------|----------------|
| 1 表土                 | 7 褐色土 (赤褐色土をブロック状に含む) | 13 黒灰褐色土       |
| 2 淡赤黄褐色土             | 8 7と同じ                | 14 暗茶褐色土       |
| 3 黄灰褐色土              | 9 暗黄褐色 + 暗茶褐色土        | 15 明黄褐色土       |
| 4 3と同じ               | 10 暗黄色褐色土             | 16 茶褐色 + 赤褐色土  |
| 5 黄褐色土 (しまりがなく、柔らかい) | 11 暗褐色 + 暗茶褐色土        | 17 暗茶褐色土       |
| 6 黄褐色土 (しまっている)      | 12 暗黄褐色土 (黒灰色土を含む)    | 18 地山 (花崗岩風化土) |
|                      |                       | 2~3・6~8 盛土     |

2号墳東トレンチ

52.9m

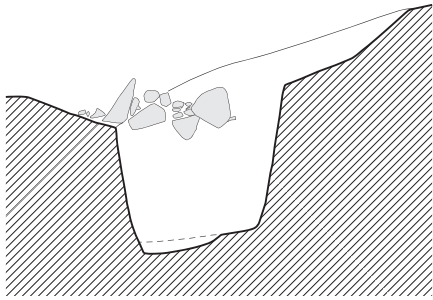


- |                          |                |
|--------------------------|----------------|
| 1 表土                     | 5 黒色土系         |
| 2 黄褐色土 (赤褐色土・灰褐色土ブロック混入) | 2 盗掘時の排出土と思われる |
| 3 黄褐色土                   | 4・7 盛土         |
| 4 暗黄褐色土                  |                |
| 5 灰黒色土                   |                |
| 6 明黄褐色土                  |                |
| 7 赤褐色土 (黄褐色土ブロック混入)      |                |
| 8 黄褐色土 (地山)              |                |



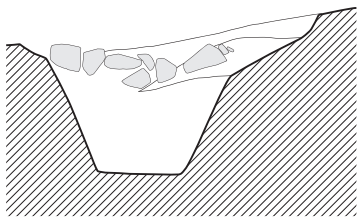
第 21 図 2号墳墳丘土層断面実測図 (1/60)

A' 52.3m A



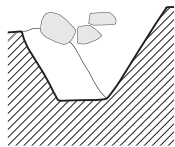
2号墳墓道断面A

B' 51.3m B

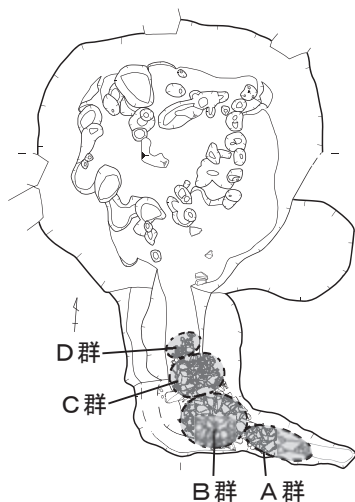


2号墳墓道断面B

C 51.3m C



2号墳墓道断面C



第22図 2号墳墓道土層断面実測図 (1/60) 及び墓道土器出土地点

4は墓道中層からの出土である。耳環の内側は緑青があり、外側は錆が剥離している。芯は酸化のためか黒色を呈する。金銅製か。5、6は墳丘からの出土である。5は表面層の残りは比較的良好、銀色を呈する。6は表面層の鍍金が内側に残る。鍍金は赤みがかった金色を呈する。金銅製。7は盗掘時の排出土内からの出土である。7も表面層の鍍金が内側に残る。金銅製か。

#### 石製品 (図版17、第29図8)

8は滑石製紡錘車である。断面は台形を呈し、表面には加工痕跡あり。丁寧に作られている。墓道A群の須恵器と共に出土した。

#### 石器 (図版17、第29図9、10)

9、10は黒曜石製の石鏃である。9は無袂で尖頭部先端を欠損する。現存長1.65cm、幅1.1cm、厚さ0.4cmである。10は基部に抉りがある石鏃で、長さ2.5cm、現存幅1.9cm、厚さ0.35cmである。古墳に伴うものではないが、9は墓道A群から、10は墳丘から出土した。

### (3) 3号墳

#### ①位置と現況 (第3図)

3号墳も1、2号墳と同様に尾根上にあり2号墳の南西に隣接する円墳である。標高52～54m付近にある。盗掘により墳頂部が陥没していた。

#### ②墳丘 (図版5(1)、第31図)

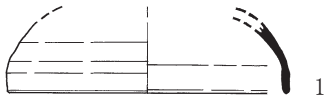
墳丘の規模は直径12～14mで、周溝は石室開口部の前面にあり、4号墳との間の尾根を分断するよう直線的に掘られており一周しない。3号墳も盗掘され石室の石材はすべて抜かれていた。標高54.1m前後で地山整形し、石室の掘方は地山を0.9m程掘り込んでいる。

#### ③主体部 (図版5(2)、第30図)

主体部は掘方や腰石の抜き跡から単室の横穴式石室である。主軸はおよそN-36°-Eで、南西方向に開口する。玄室は奥行、幅とも1.5m前後、羨道は長さ1m前後と推定される。羨道部分は、玄室床面が墓道床面より約0.7m



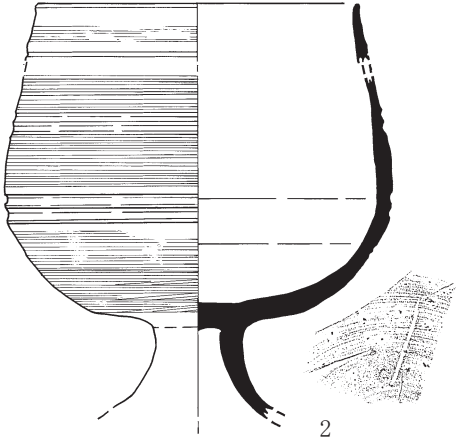
玄室



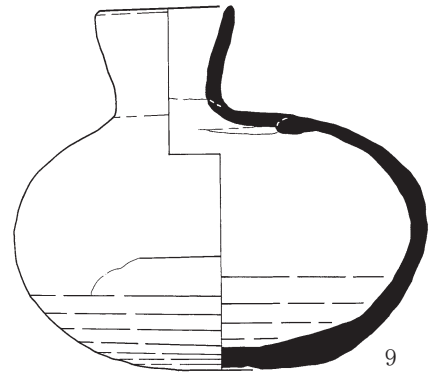
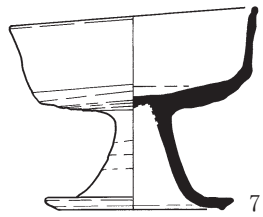
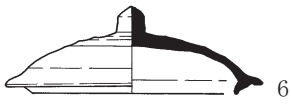
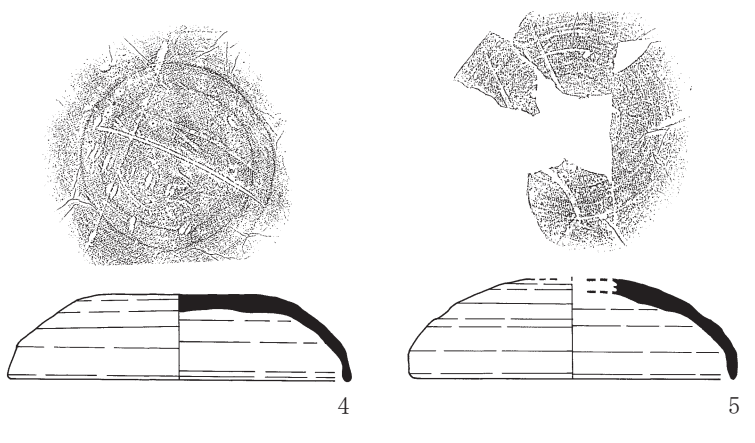
墓道A群



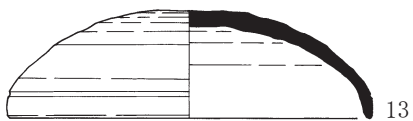
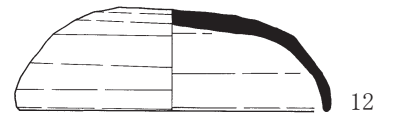
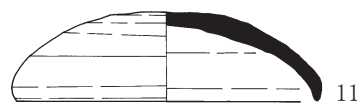
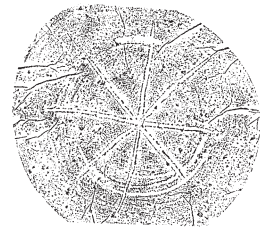
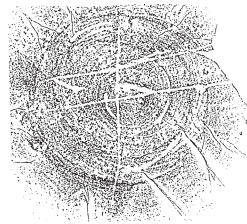
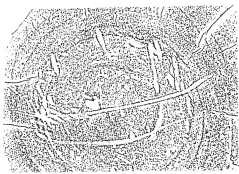
3区周溝



墓道B群

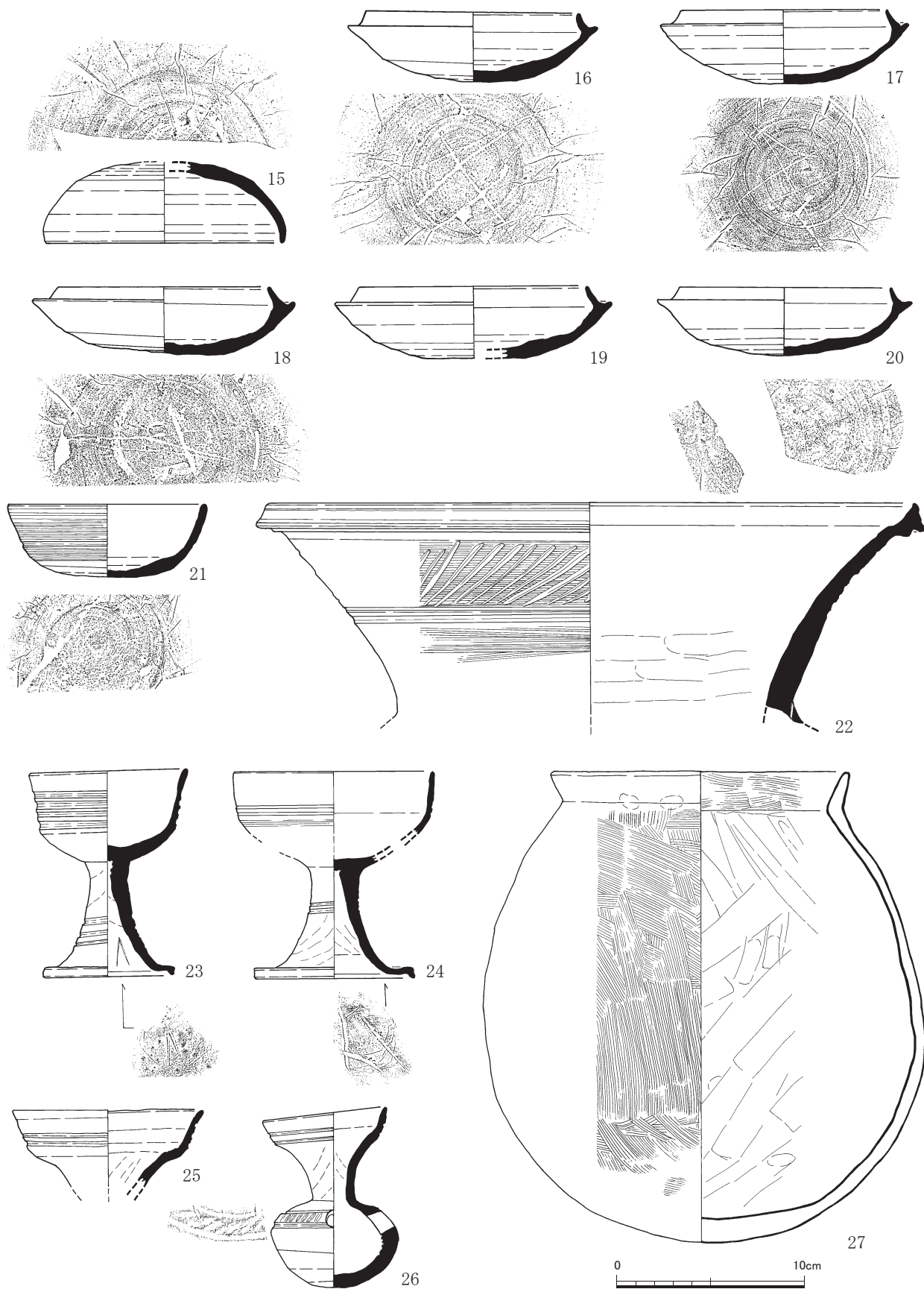


墓道C群



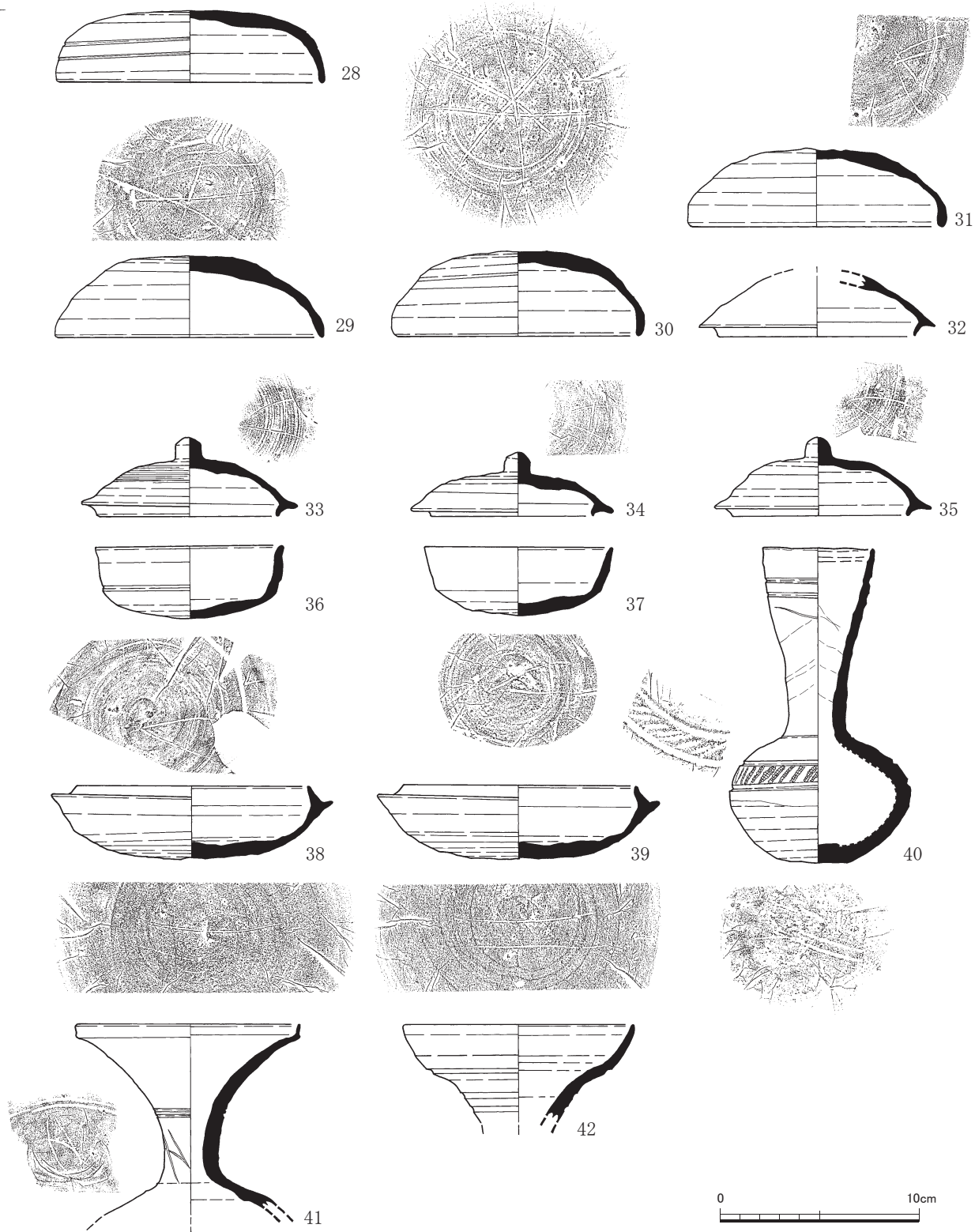
第23图 2号墳出土土器实测图① (1/3)

墓道C群



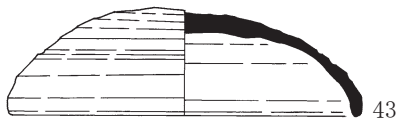
第24图 2号墳出土土器実測图② (1/3)

墓道D群

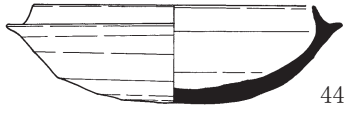


第 25 图 2 号墳出土土器实测图③ (1/3)

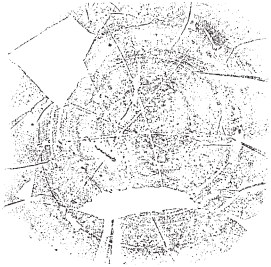
墓道上層



43



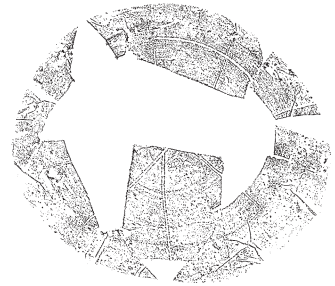
44



墓道中層



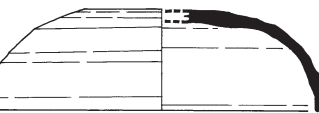
45



47



46



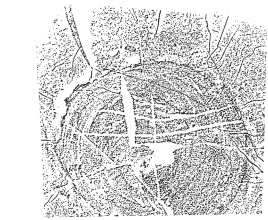
48



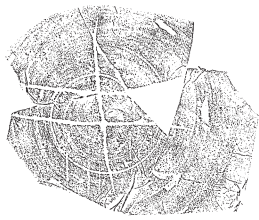
49



50



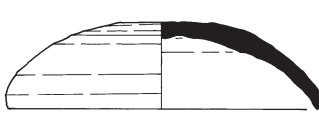
51



52



53



54



55



56



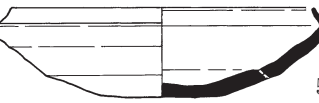
57



58

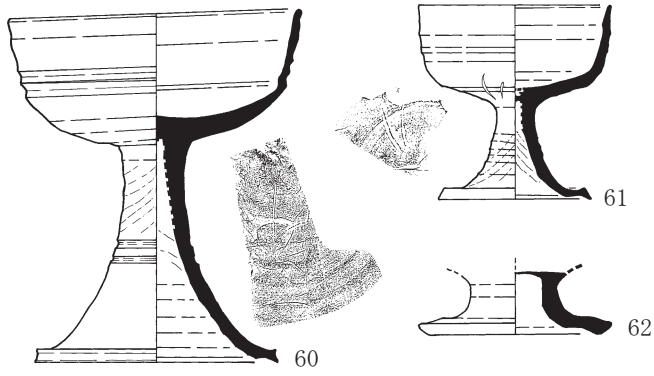


59

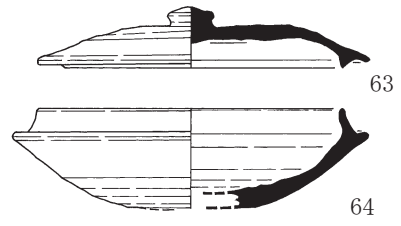


第26图 2号墳出土土器実測图④ (1/3)

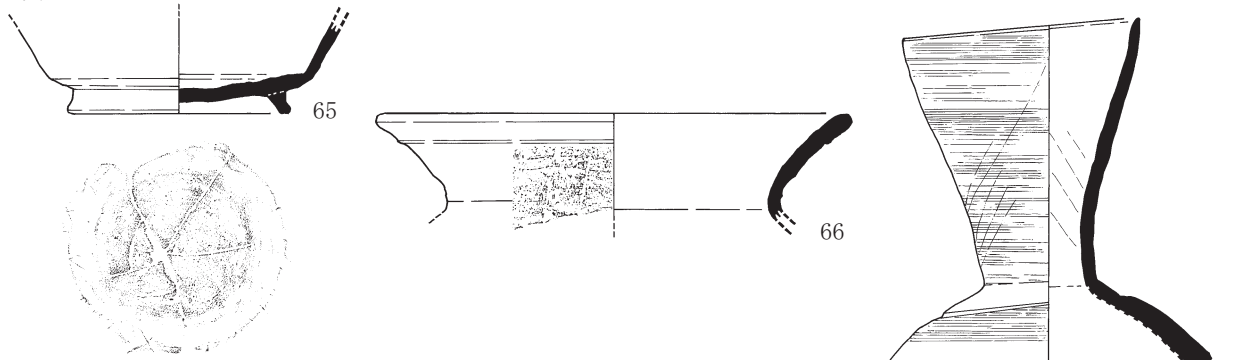
墓道中層



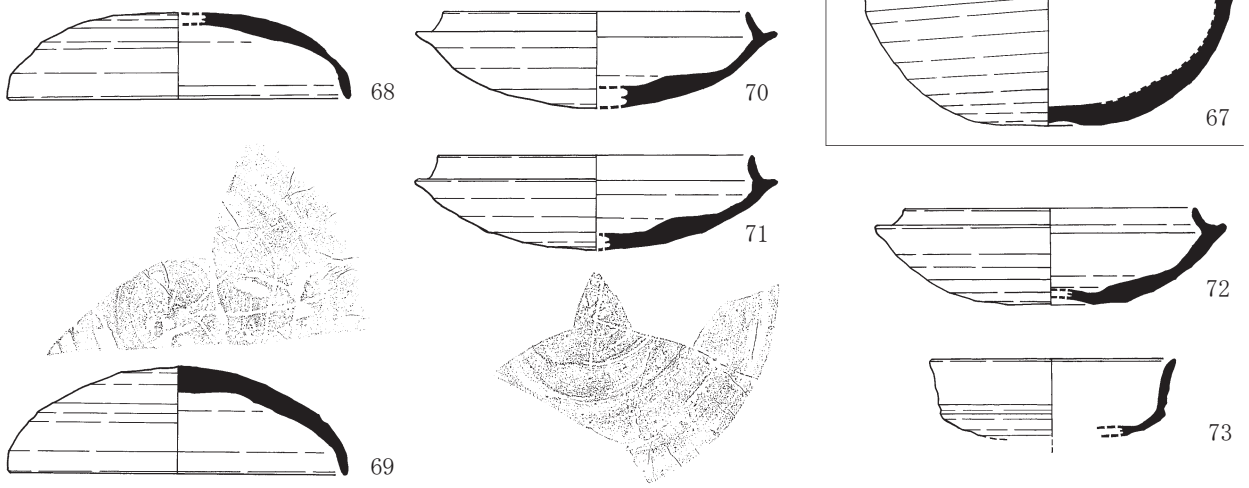
墓道



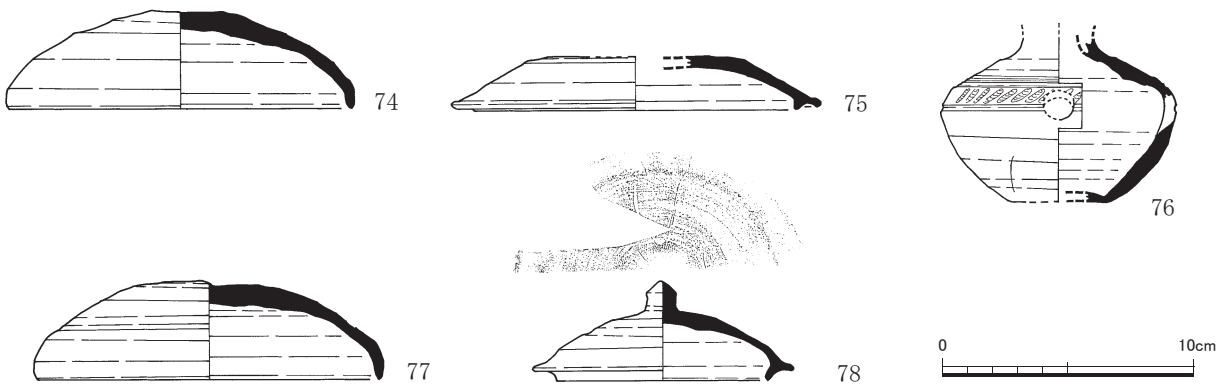
墳丘



2区墳丘

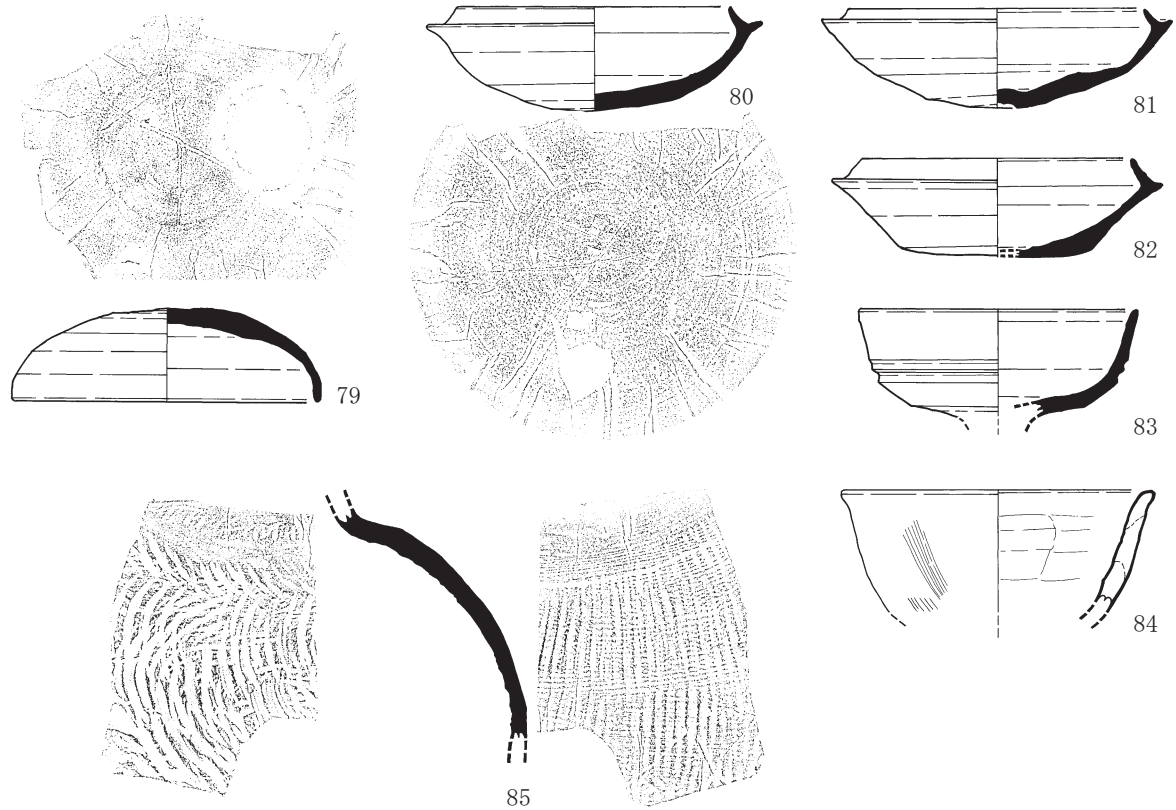


3区墳丘

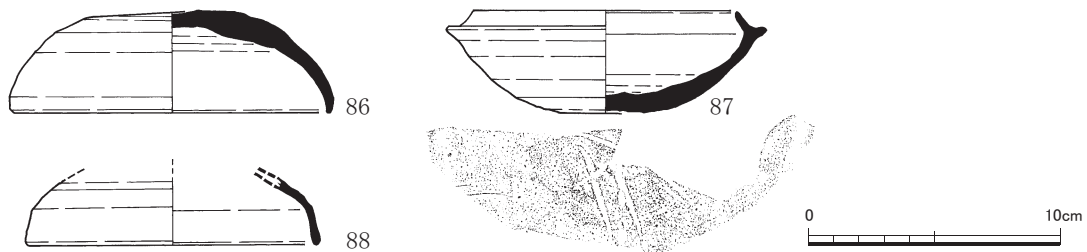


第 27 图 2 号墳出土土器実測图⑤ (1/3)

盗掘坑



周溝（2・3号墳間）



第28図 2号墳出土土器実測図⑥ (1/3)

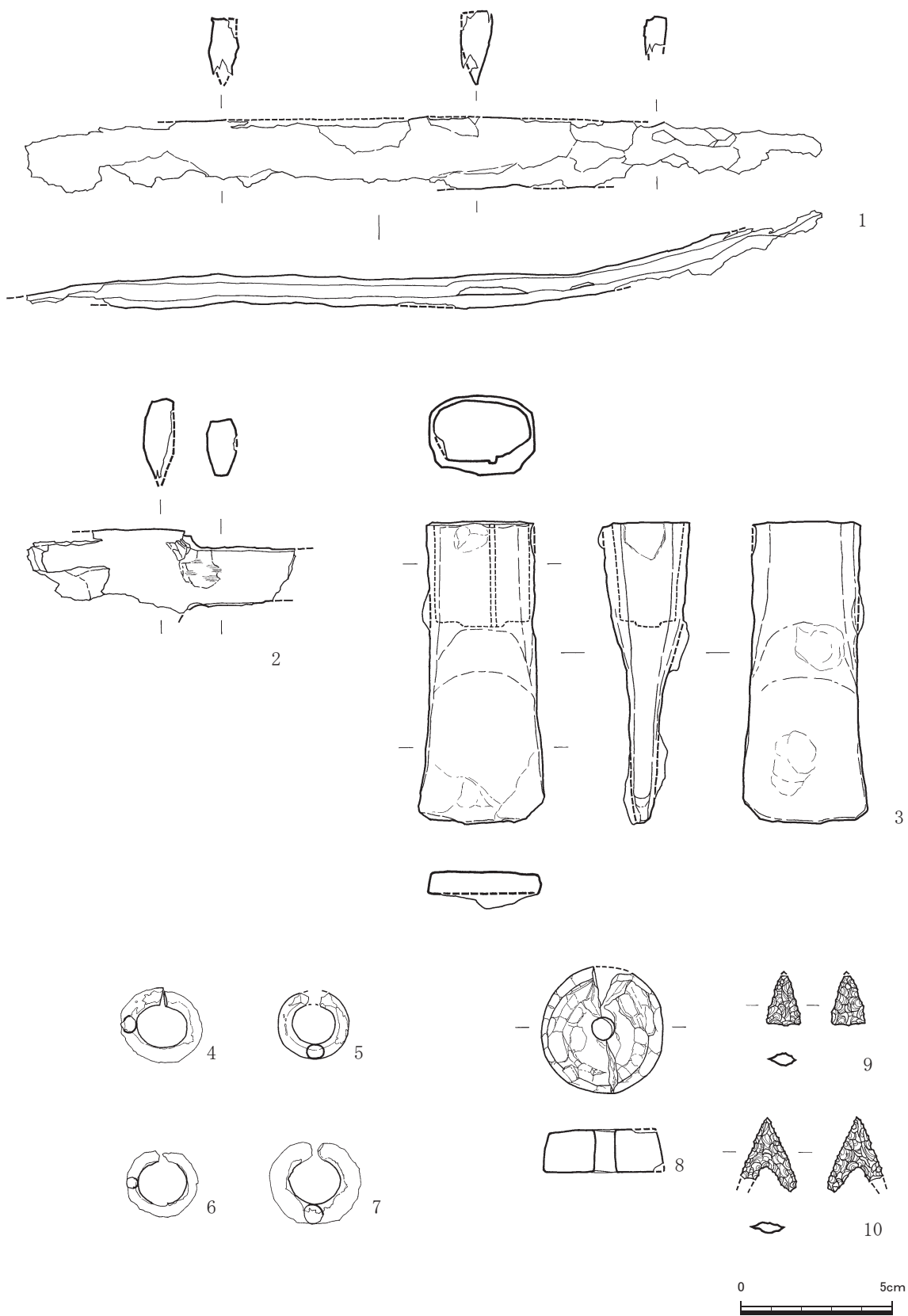
低く傾斜している。墓道は石室の開口部から南西に向かって伸び、周溝につながる。周溝には切り合いがあり、墓道から続く周溝を、南西側約1m外側に掘られ西方向に伸びる周溝が切る。

④出土遺物

3号墳は須恵器、土師器、鉄器（鉄鏃、鉄滓）、装身具（ガラス製小玉、丸玉）、石器（石鏃、石匙、石斧）が出土した。出土遺物の大半は周溝及び墓道からの出土で、その大半は須恵器である。

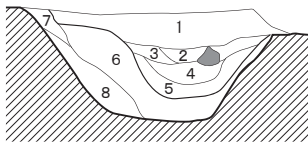
須恵器・土師器（図版18～23 第33～42図）

1～8は2区周溝から出土した。杯蓋（1、3）、杯身（2）、高杯（4）、蓋（5）、甕（6）、平瓶または壺の破片（7、8）である。9～79は周溝からの出土で、土器のまとまり毎にA～C群として取り上げた。A群は杯蓋（9）と甕（10）である。B群は11～38で、杯蓋（11～20）、杯身（21～29）、高台付杯（30）、椀（31）、甕（32）、高杯（33、34）、大甕（37、38）、土師器の甕（35、36）である。C群は甕（39）と大甕（40）である。40の大甕は頸部が長く、頸部の上半に斜め方向の連



第 29 图 2 号墳出土鉄器・装身具・石製品・石器実測図 (1/2)

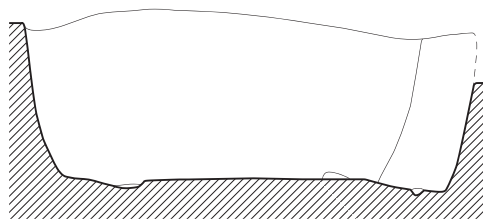
A 54.6m A'



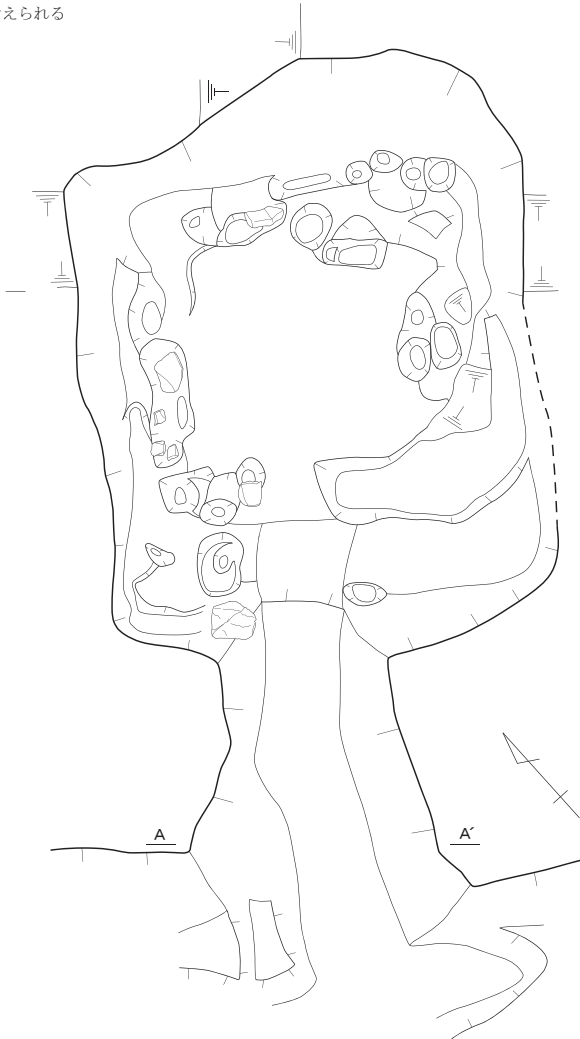
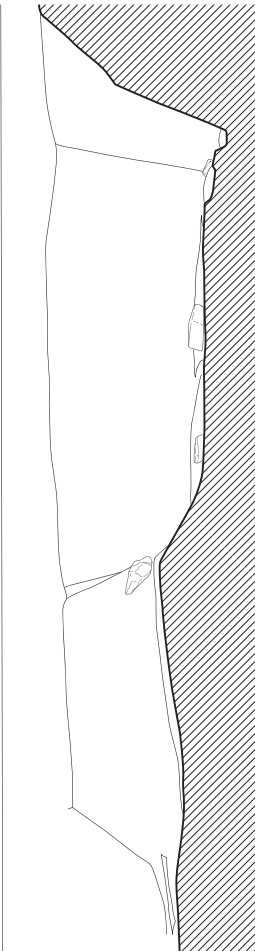
- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 1 茶褐色土              | 5 黄黒色土  |
| 2 茶黒色土 (わずかに炭化物を含む) | 6 暗赤褐色土 |
| 3 暗茶褐色土             | 7 黄褐色土  |
| 4 赤茶色土              | 8 赤褐色土  |

1〜5 7世紀後半の追葬あるいは祭祀時の掘り込みと考えられる

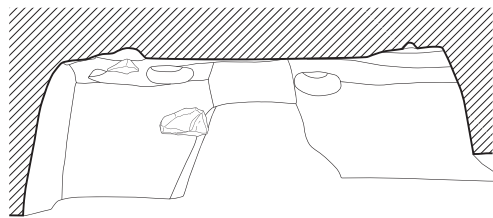
54.8m



54.8m



54.8m

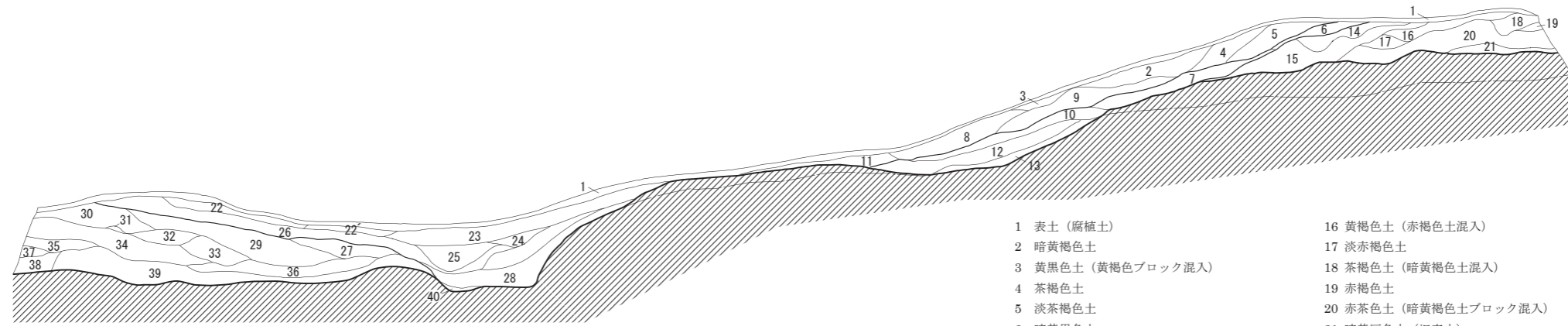


54.8m



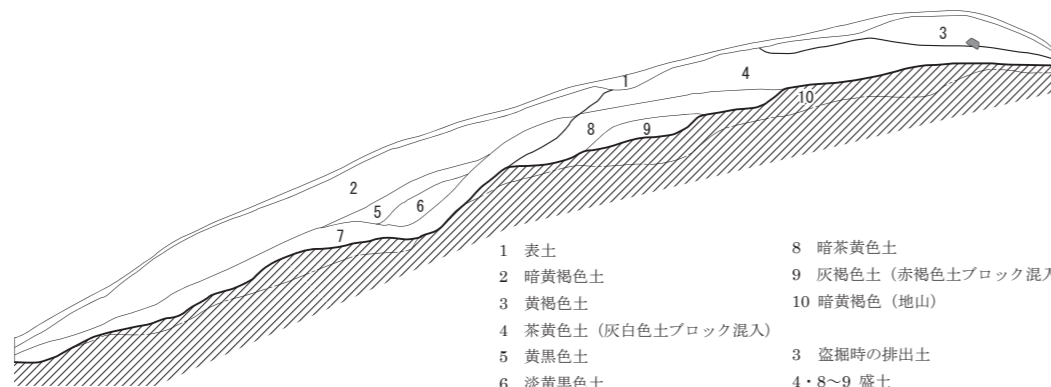
第30図 3号墳石室・墓道土層断面実測図 (1/60)





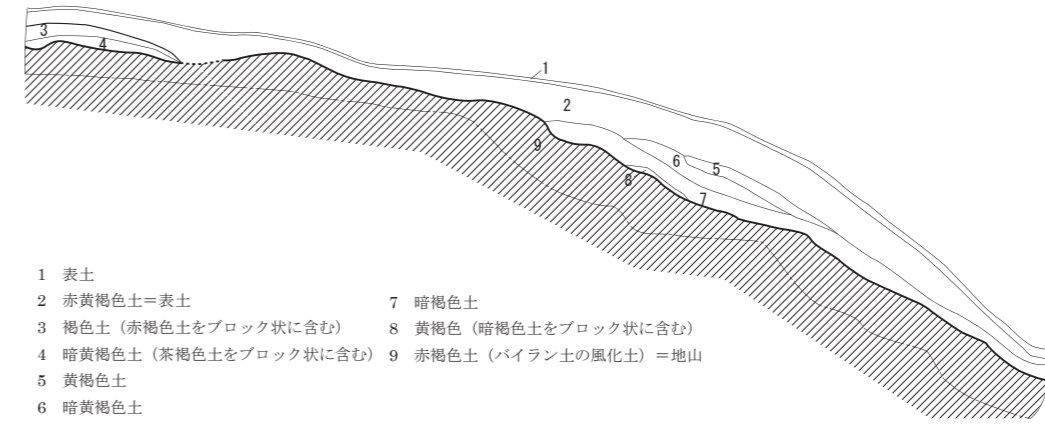
- |                      |                       |                               |
|----------------------|-----------------------|-------------------------------|
| 1 表土 (腐植土)           | 16 黄褐色土 (赤褐色土混入)      | 31 淡茶褐色土                      |
| 2 暗黄褐色土              | 17 淡赤褐色土              | 32 赤茶色土 (黄褐色土混入)              |
| 3 黄黑色土 (黄褐色ブロック混入)   | 18 茶褐色土 (暗黄褐色土混入)     | 33 茶褐色土 (赤褐色土ブロック混入)          |
| 4 茶褐色土               | 19 赤褐色土               | 34 暗茶褐色土 (赤褐色土ブロック混入)         |
| 5 淡茶褐色土              | 20 赤茶色土 (暗黄褐色土ブロック混入) | 35 茶黄色土                       |
| 6 暗黄黑色土              | 21 暗黄灰色土 (旧表土)        | 36 黄赤色土 (赤褐色土ブロック混入)          |
| 7 暗灰黑色土 (赤褐色土混入)     | 22 淡黄褐色土              | 37 黄赤色土 (赤褐色土ブロック混入)          |
| 8 淡黄黑色土              | 22' 淡黒色土              | 38 淡赤茶色土 (暗黄褐色土ブロック混入)        |
| 9 赤褐色土 (黄黒色ブロック混入)   | 23 淡灰黒色土 (黄褐色土混入)     | 39 茶褐色土・灰白色土・黄褐色土ブロックの混在土     |
| 10 黄黑色土              | 24 淡黄黒色土 (黄褐色土混入)     | 40 赤桃色土                       |
| 11 淡灰黒色土             | 25 黒色土 (黄灰色土混入)       |                               |
| 12 暗灰黒色土             | 26 暗黄黒色土              | 6~7・10・12・24~26 黒色土系          |
| 13 暗黄褐色土 (赤褐色土混入)    | 27 赤黒色土               | 2~5 盗掘時の排土                    |
| 14 明黄褐色土             | 28 27に同じ              | 14~20 盛土                      |
| 15 赤褐色土 (黄褐色土ブロック混入) | 29 褐色土 (淡赤褐色土混入)      | 22 盗掘坑の排土であろう                 |
|                      | 30 暗赤褐色土 (黄褐色土混入)     | 22'・23 黒色土系ではあるが、しまりがなく盗掘時の排土 |

3号墳東トレンチ



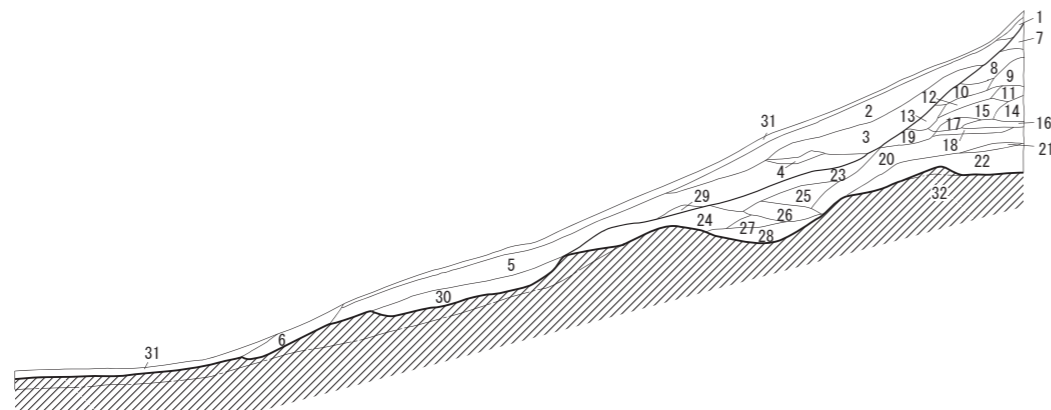
- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1 表土                | 8 暗茶黄色土             |
| 2 暗黄褐色土             | 9 灰褐色土 (赤褐色土ブロック混入) |
| 3 黄褐色土              | 10 暗黄褐色 (地山)        |
| 4 茶黄色土 (灰白色土ブロック混入) | 3 盗掘時の排出土           |
| 5 黄黑色土              | 4・8~9 盛土            |
| 6 淡黄黒色土             | 5・7 黒色土系            |
| 7 灰黒色土              |                     |

3号墳西トレンチ



- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1 表土                    | 7 暗褐色土                 |
| 2 赤黄褐色土=表土              | 8 黄褐色 (暗褐色土をブロック状に含む)  |
| 3 褐色土 (赤褐色土をブロック状に含む)   | 9 赤褐色土 (パイラン土の風化土) =地山 |
| 4 暗黄褐色土 (茶褐色土をブロック状に含む) |                        |
| 5 黄褐色土                  |                        |
| 6 暗黄褐色土                 |                        |

4号墳東トレンチ



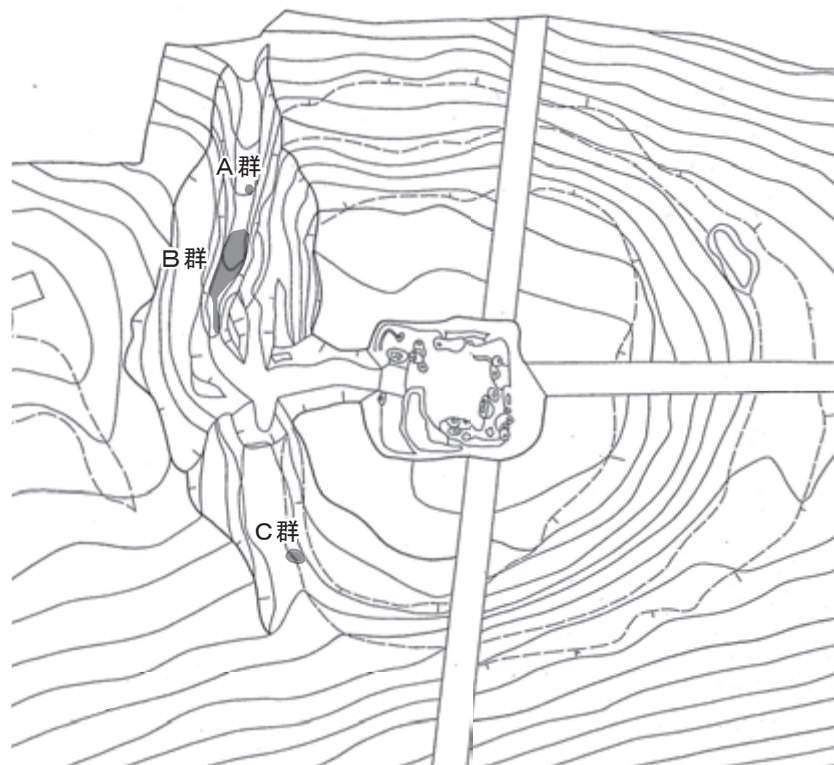
- |               |                        |                              |
|---------------|------------------------|------------------------------|
| 1 暗黄褐色土       | 13 褐色土 + 暗赤褐色土         | 25 赤褐色 + 黄褐色土                |
| 2 茶褐色土        | 14 黄褐色土 (赤褐色土ブロックを含む)  | 26 暗黄褐色 (白色の地山ブロックを含む)       |
| 3 暗褐色土        | 15 赤褐色土 (褐色土ブロックを含む)   | 27 黄褐色土                      |
| 4 暗褐色 + 赤褐色土  | 16 明黄褐色土               | 28 20と同じ                     |
| 5 暗黄褐色土 (流土)  | 17 13と同じ               | 29 暗茶褐色土                     |
| 6 暗茶褐色土 (腐植土) | 18 黄褐色土 + 赤褐色土         | 30 暗黄灰色土                     |
| 7 茶褐色土        | 19 褐色土 (赤褐色土ブロックを含む)   | 31 表土                        |
| 8 暗褐色土 + 茶褐色土 | 20 明赤褐色土               | 32 地山 (花崗岩風化土)               |
| 9 暗黄褐色土       | 21 18と同じ               |                              |
| 10 暗褐色土       | 22 明黄褐色土 (赤褐色土ブロックを含む) | 1~5 流土                       |
| 11 暗黄赤褐色土     | 23 茶褐色土                | 8~15 盛土                      |
| 12 暗赤褐色土      | 24 暗赤茶褐色土              | 16~28 盛土(盛土は黄褐色土と赤褐色土を交互に積む) |



第31図 2・3号墳間及び3・4号墳墳丘土層断面実測図 (1/60)

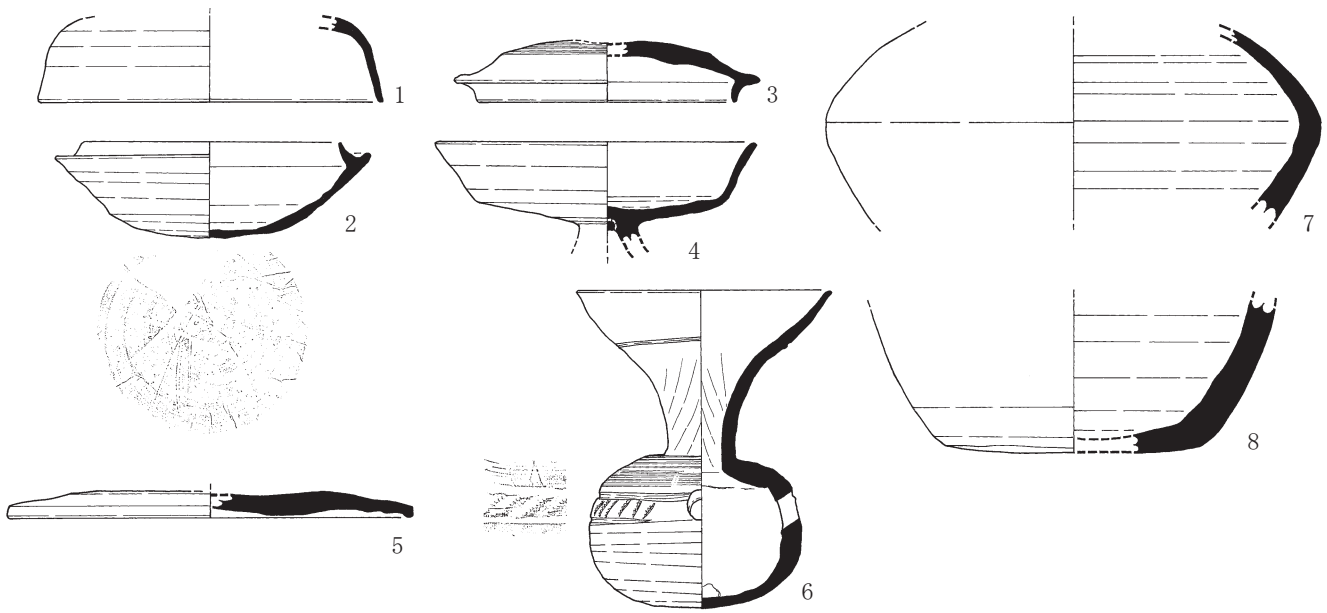


続文がある。41～57は3区南側周溝からの出土で、上層からは杯身(41～45)、高杯(46、47)、中層からは杯蓋(48～50)、杯身(51、52、56)、高台付杯(53～55)、中～下層からは角付椀(57)が出土した。角付椀は角(把手)の上下に三条の沈線があり、その上に波状文を施している。角は1ヶ所しか残存していないが、双角の可能性もある。58～79は同じく3区周溝からの出土であるが、細かい出土地点の明記がないもので、上層から杯身(58、59)、大甕(37)付近から杯蓋(60)、杯身(61)が出土した。その他、杯蓋(62～70)、杯身(71～73)、高杯(74)、高台付杯(75)、壘(76)、椀(77)、瓶(78)、長頸壺(79)がある。80～151は墓道から出土した。図化できなかった須恵器も含めると、墓道からの出土が多い。80～100は上層からの出土で、杯蓋(80～87)、つまみ付杯蓋(88)、杯身(89～97)、提瓶(98)、高杯(99)、鉢(100)がある。101～151は2次墓道からの出土で、杯蓋(101～107、111～113)、杯身(108～110、114)、つまみ付杯蓋(115～125)、高台付杯(126～134)、高杯(135～140)、壘(141)、台付椀(142)、平瓶(143)、甕(144)、小壺(145)、壺(146)、挿鉢(147)、高杯(148)、皿(149)、蓋(150)、土師器の把手付鉢(151)がある。ここから出土したものの大半は3号墳の周溝や墓道上層、墳丘出土の破片と接合するものが多いことから、破損し原位置をかなり動いていると想定される。147の挿鉢は播面が平坦で線刻や刺突等はない。152～158は墳丘からの出土である。3区墳丘から杯蓋(152)、杯身(153)、高杯(154)、2区の墳丘裾部から蓋(155)、平瓶(156)、4区の墳丘裾部から高杯(157)、大甕(158)が出土した。大甕は4区墳丘裾部の他、1・2区墳丘、2区墳丘裾部、盗掘坑などから出土した破片と接合した。盗掘坑からは杯蓋(159)、甕(160)

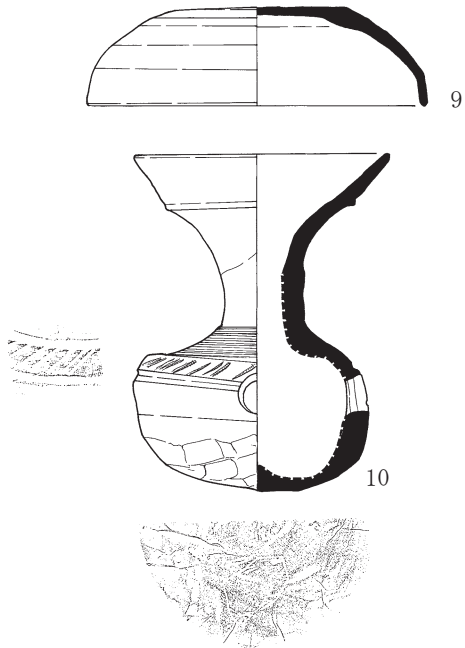


第32図 3号墳周溝土器出土地点 (1/200)

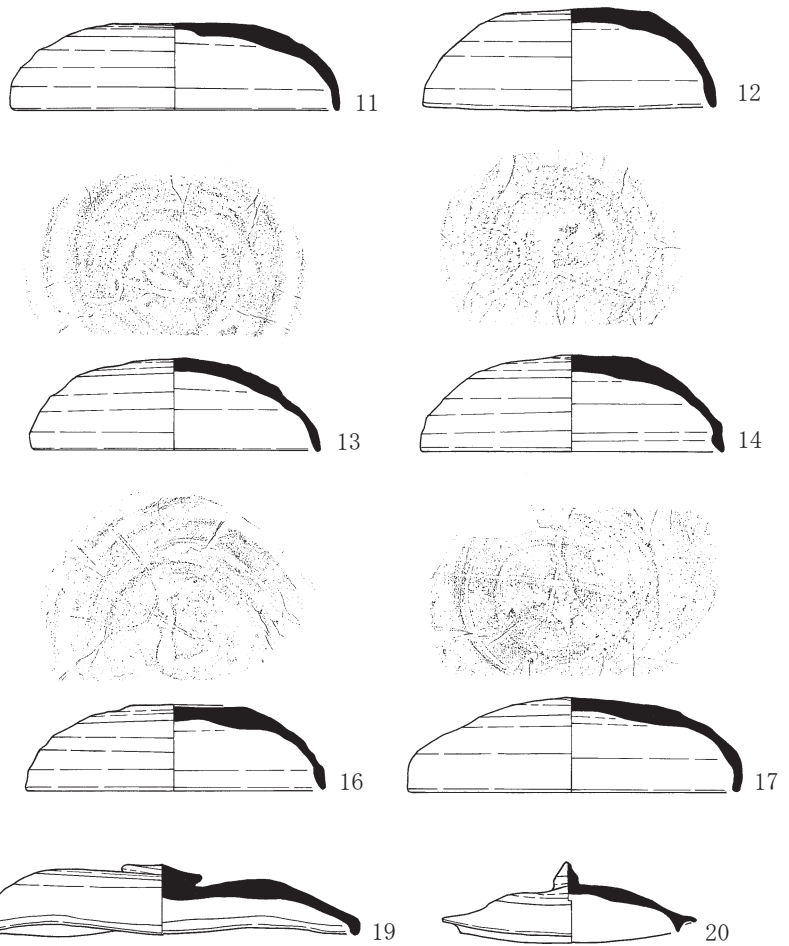
2区周溝



周溝A群

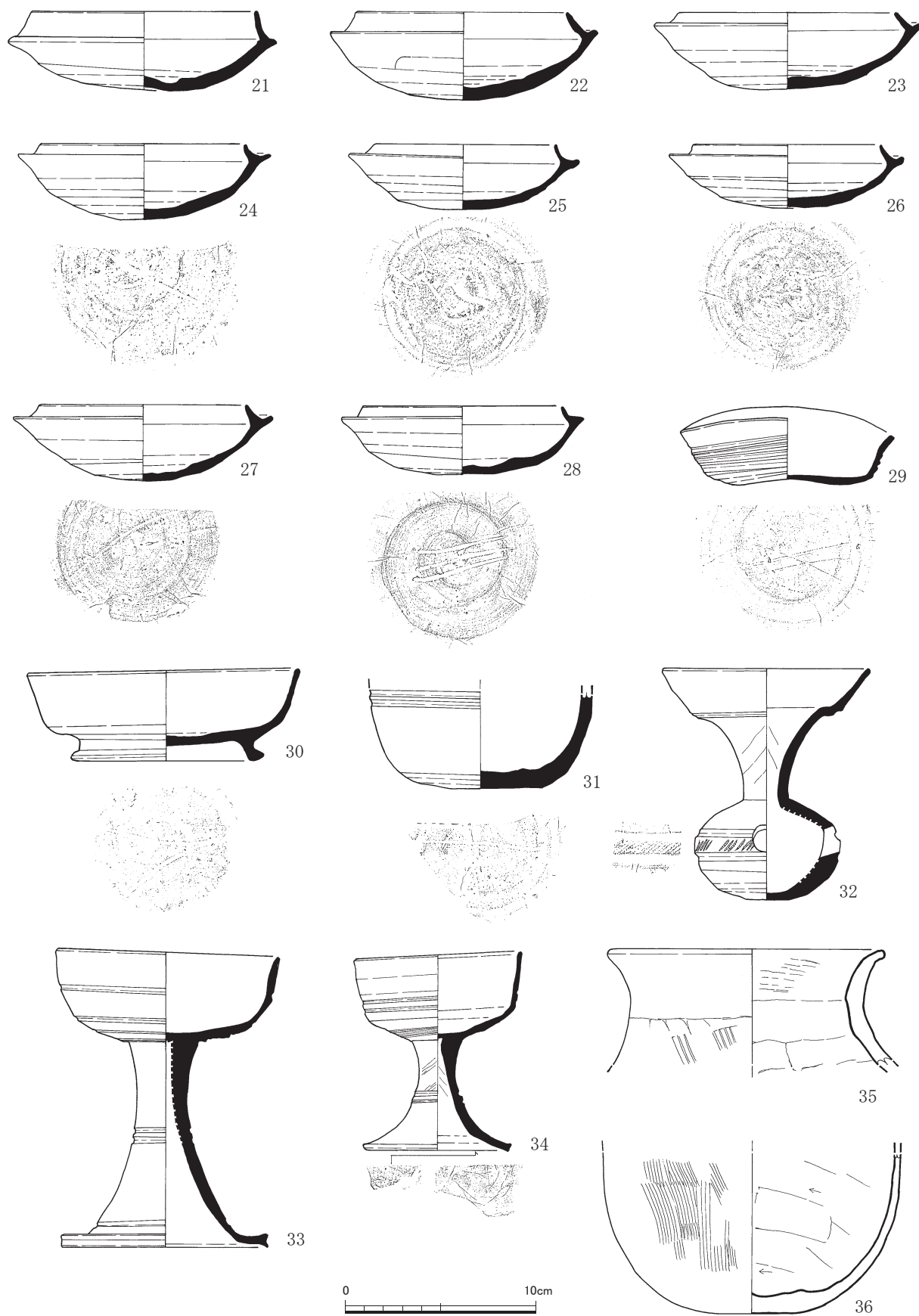


周溝B群

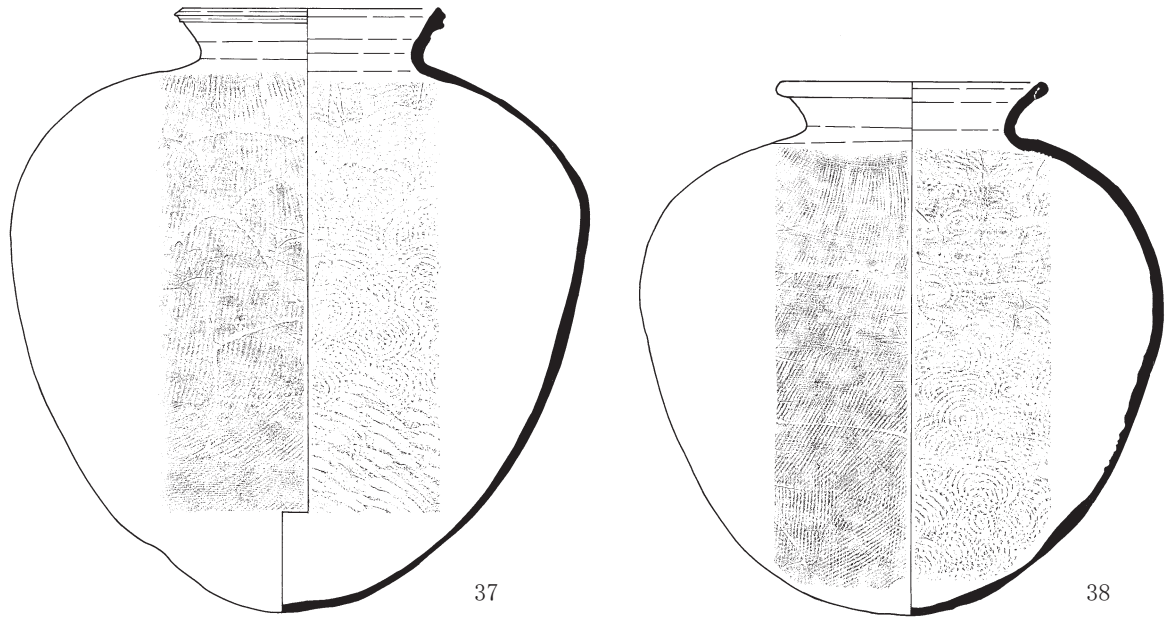


第33图 3号墳出土土器実測图① (1/3)

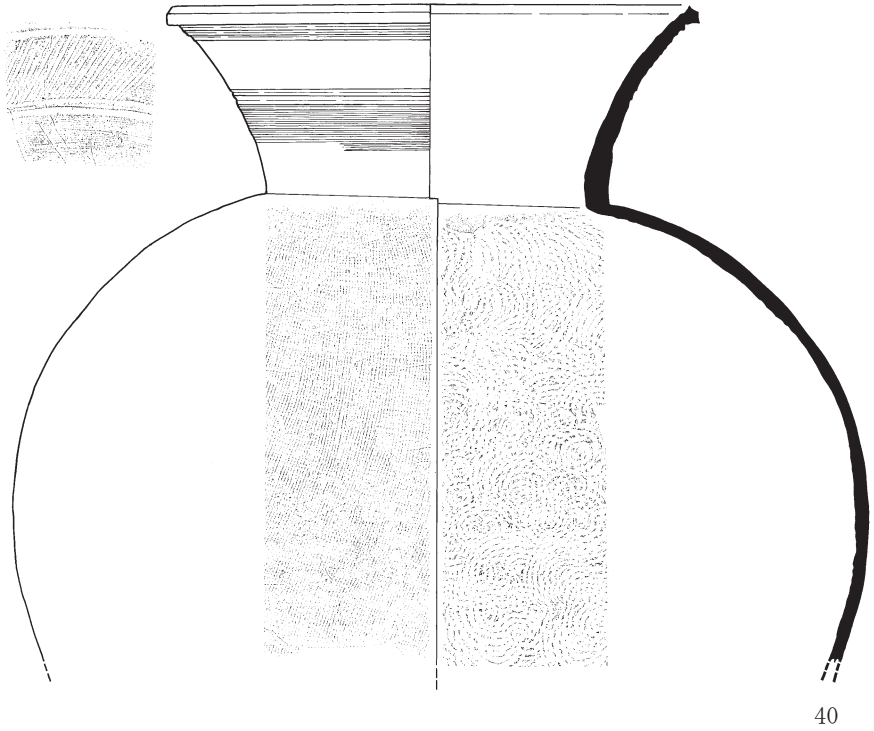
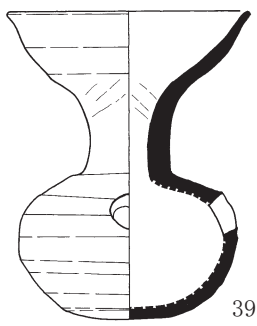
周溝B群



第34图 3号墳出土土器实测图② (1/3)

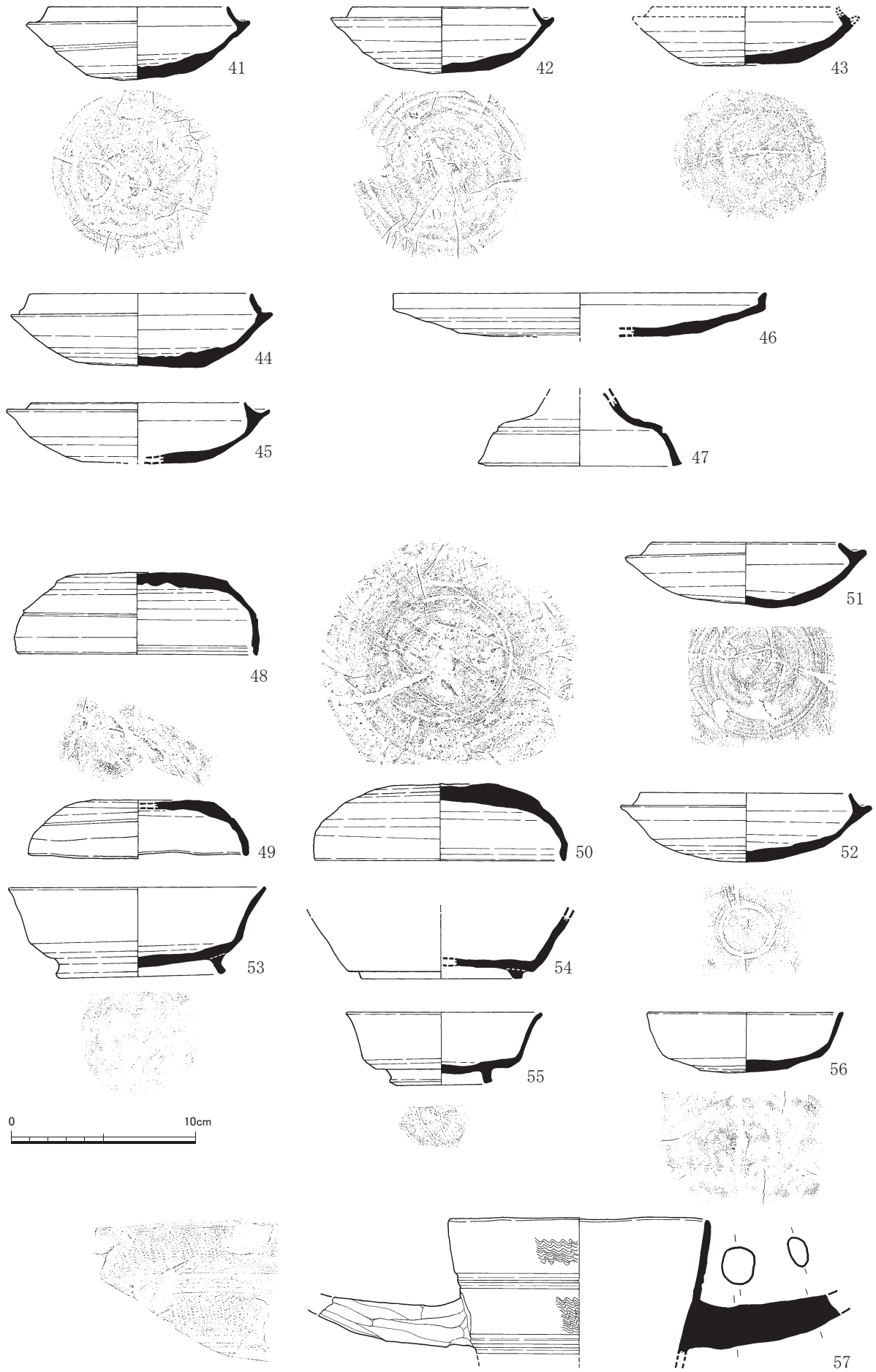


周溝C群



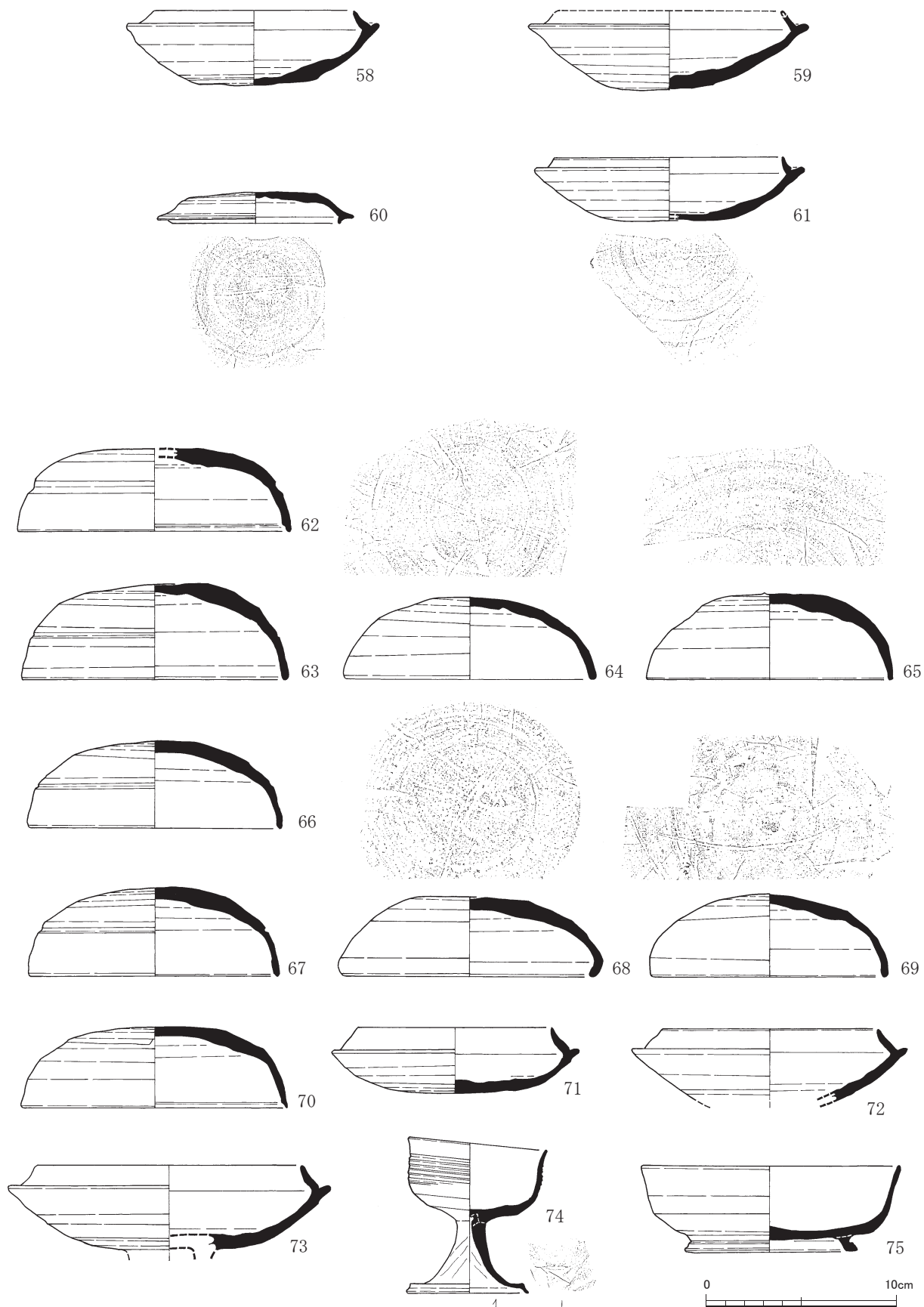
第 35 図 3号墳出土土器実測図③ (1/3、37・38・40は1/6)

3区南侧周溝



第 36 图 3号墳出土土器実測图④ (1/3)

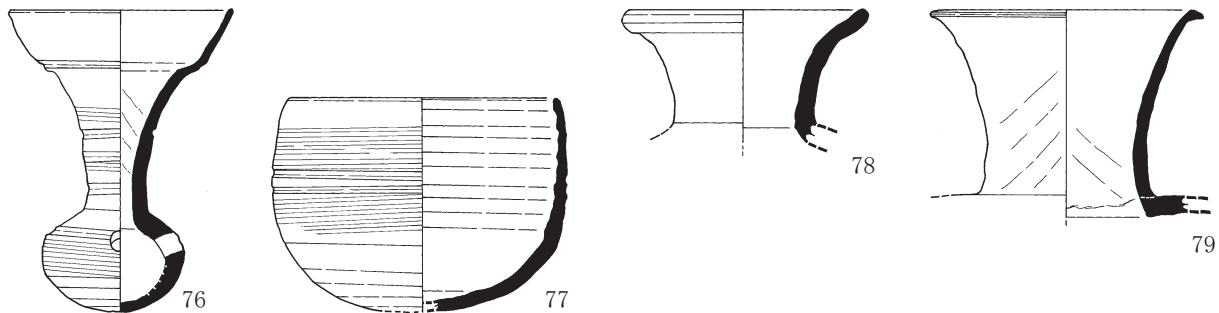
3区周溝



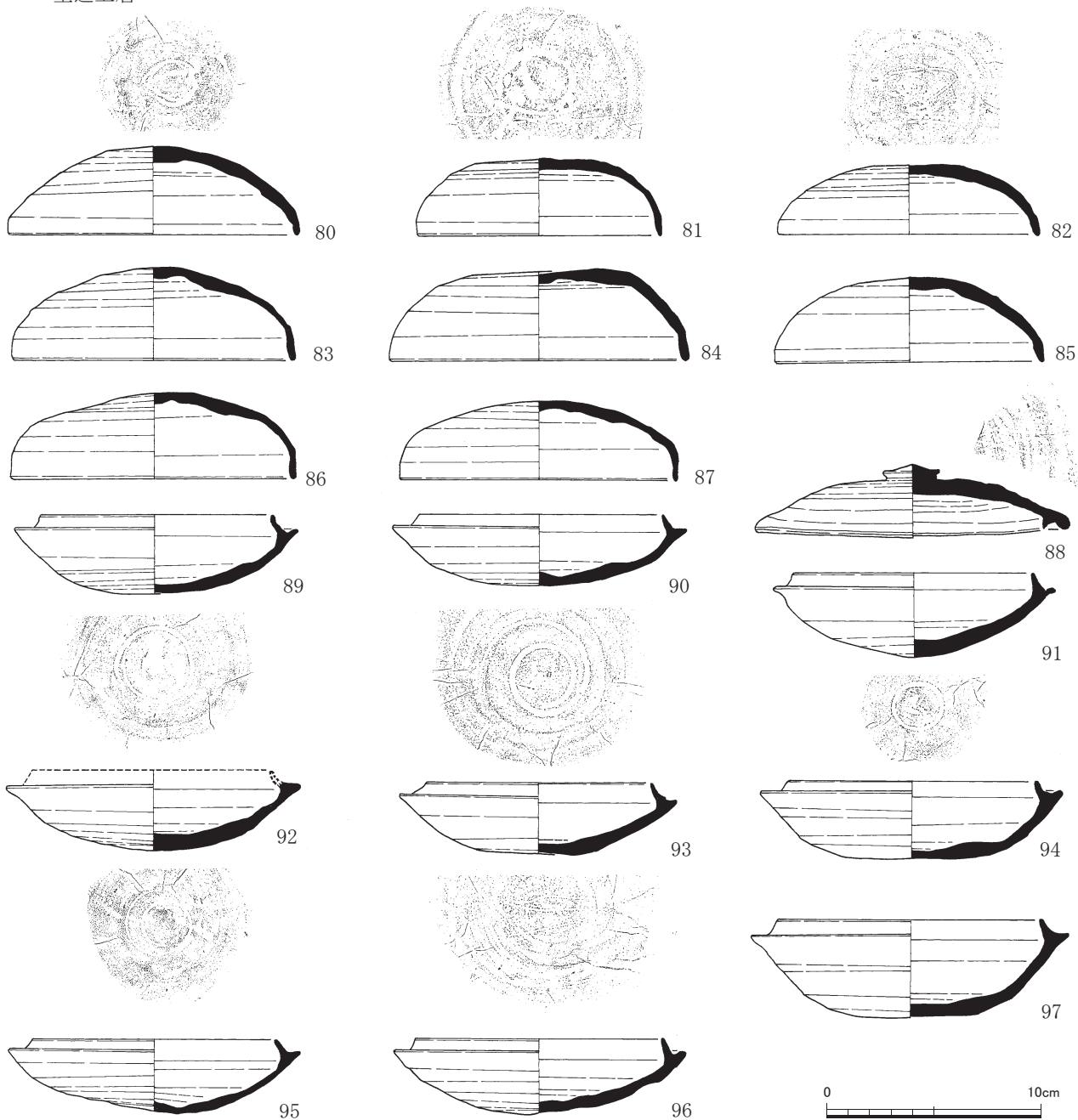
第 37 图 3号墳出土土器実測图⑤ (1/3)



3区周溝

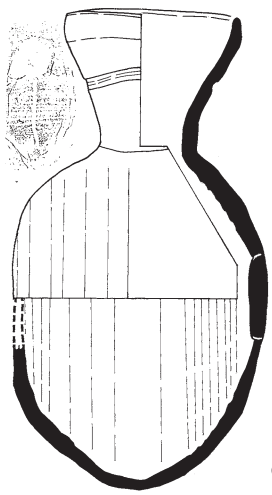


墓道上層

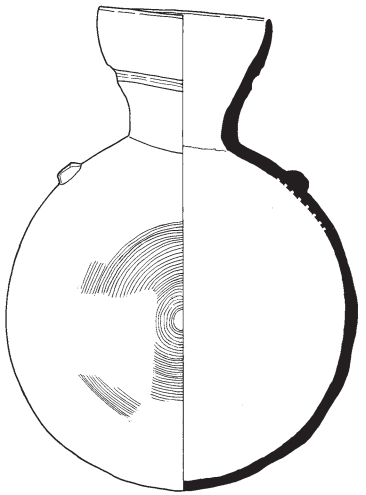


第 38 图 3号墳出土土器実測图⑥ (1/3)

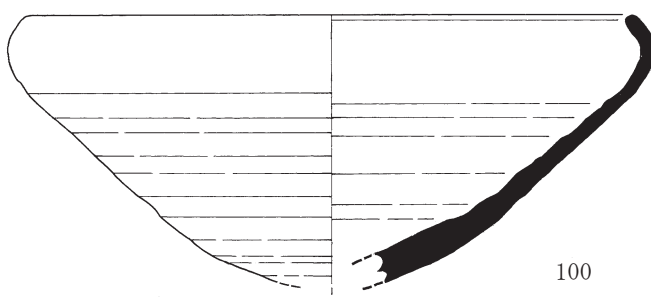
墓道上層



98



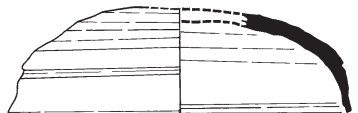
99



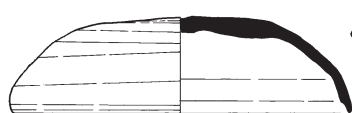
100



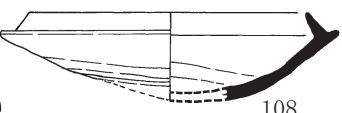
墓道



101



104



108



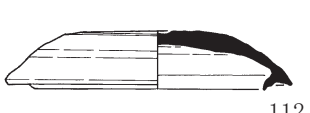
111



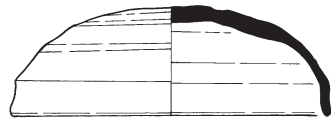
105



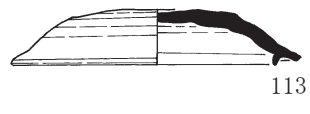
109



112



102



113



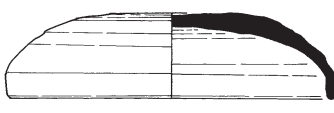
106



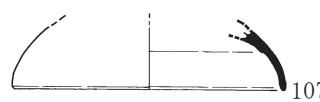
110



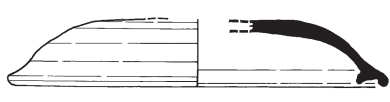
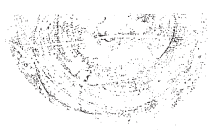
114



103



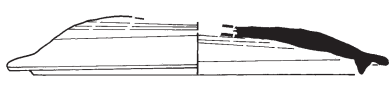
107



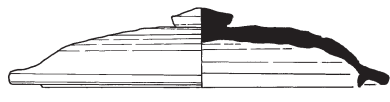
115



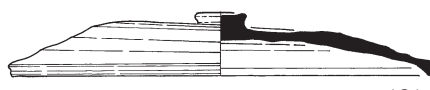
120



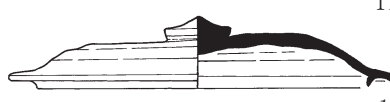
116



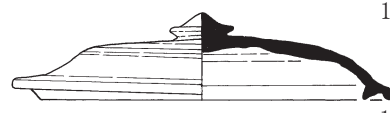
118



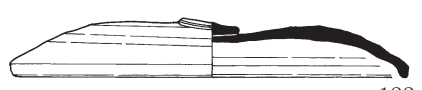
121



117



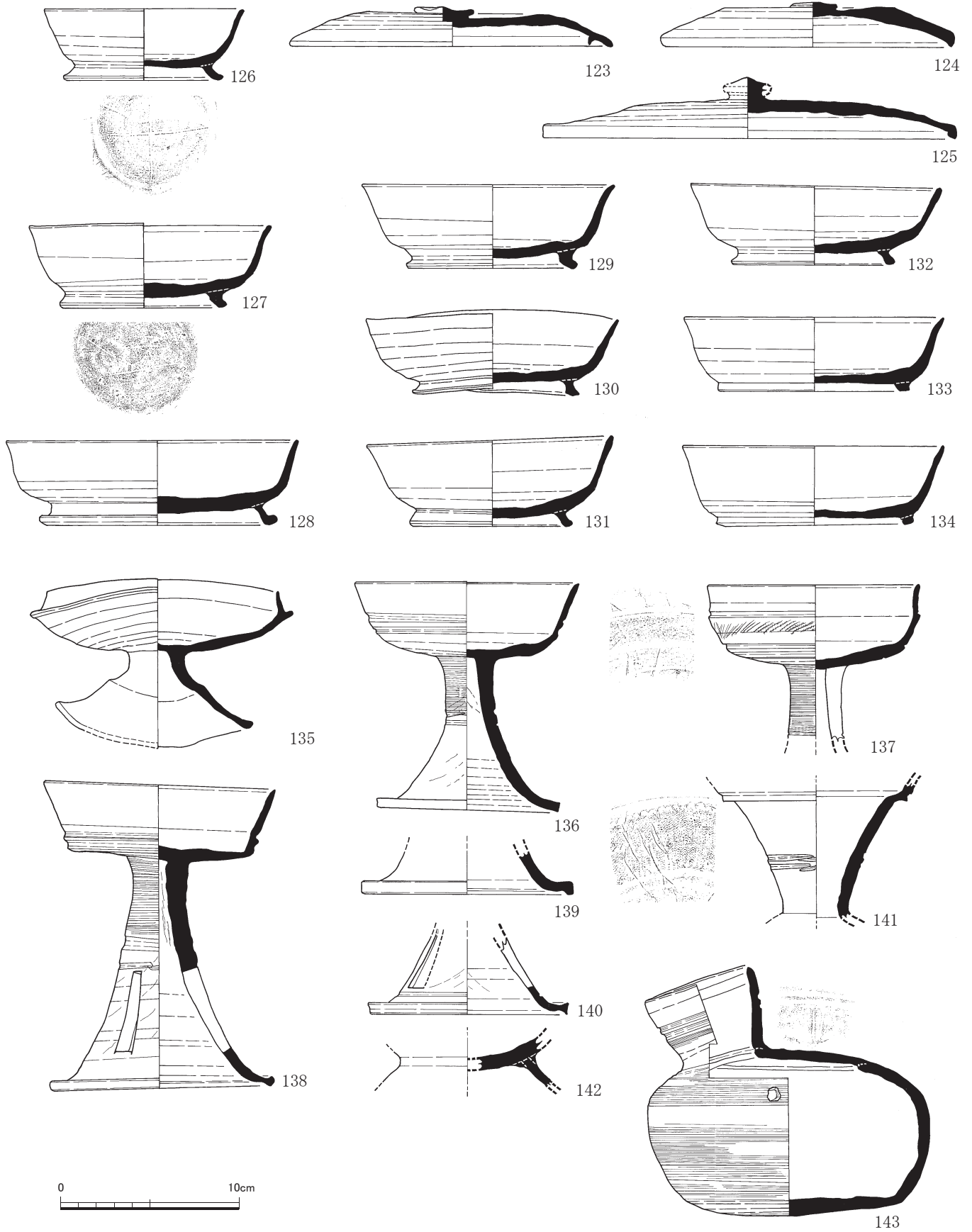
119



122

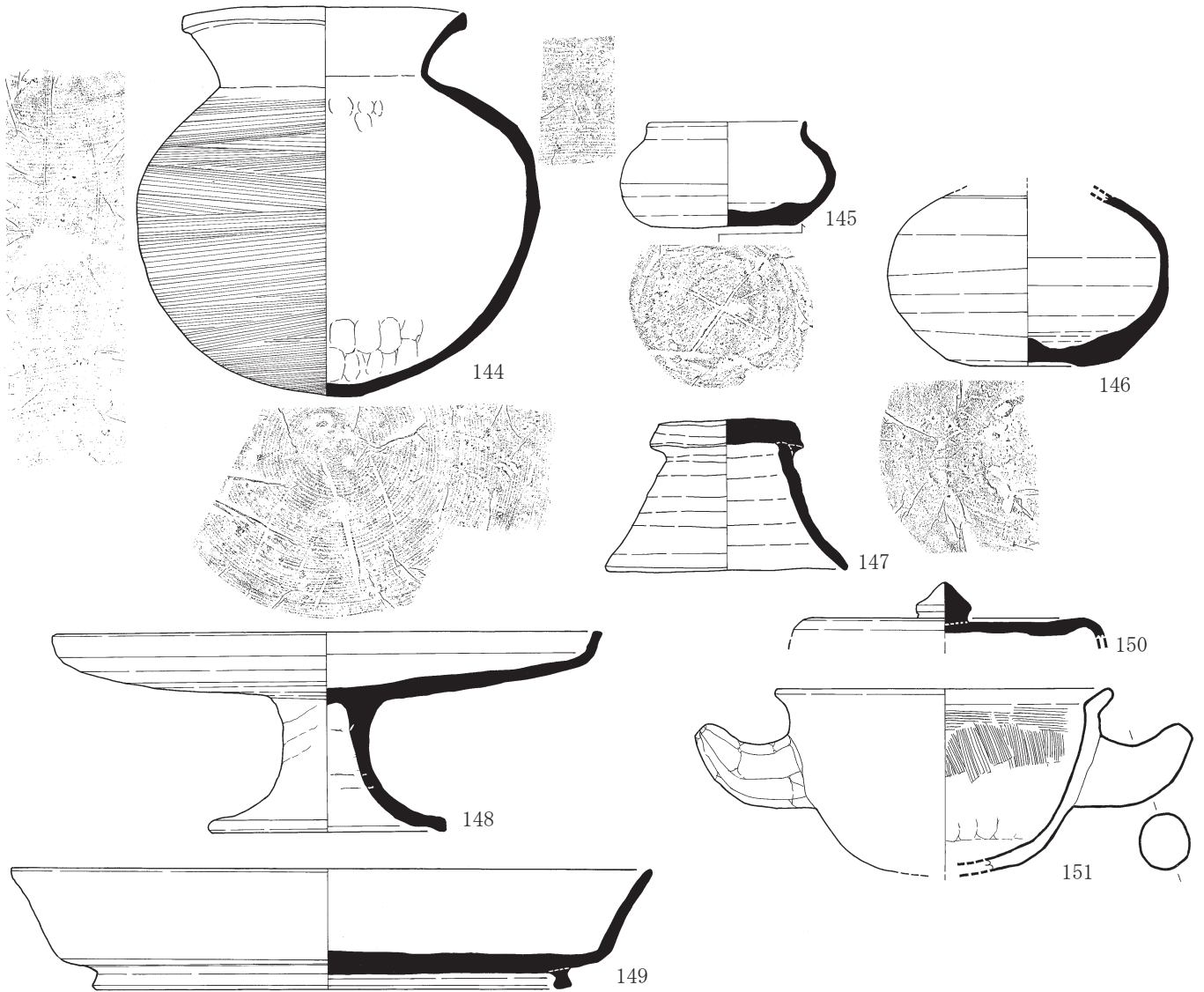
第 39 图 3号墳出土土器実測图⑦ (1/3)

墓道

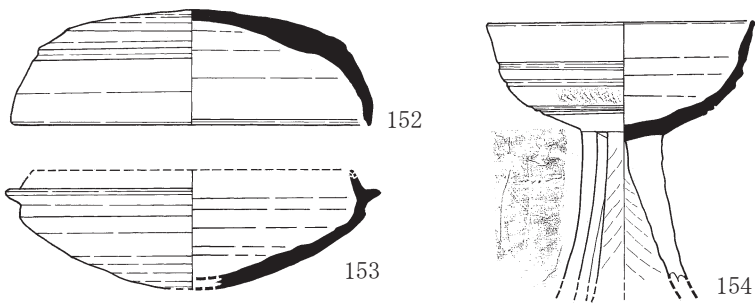


第 40 图 3 号墳出土土器実測図⑧ (1/3)

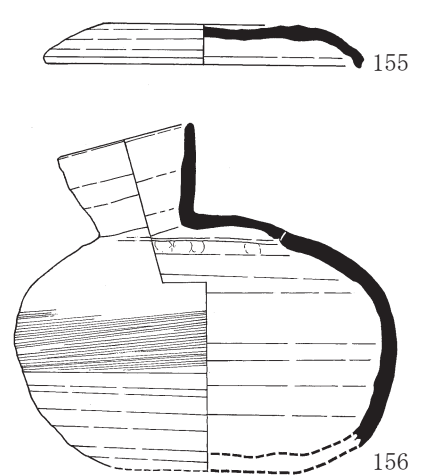
墓道



3区墳丘

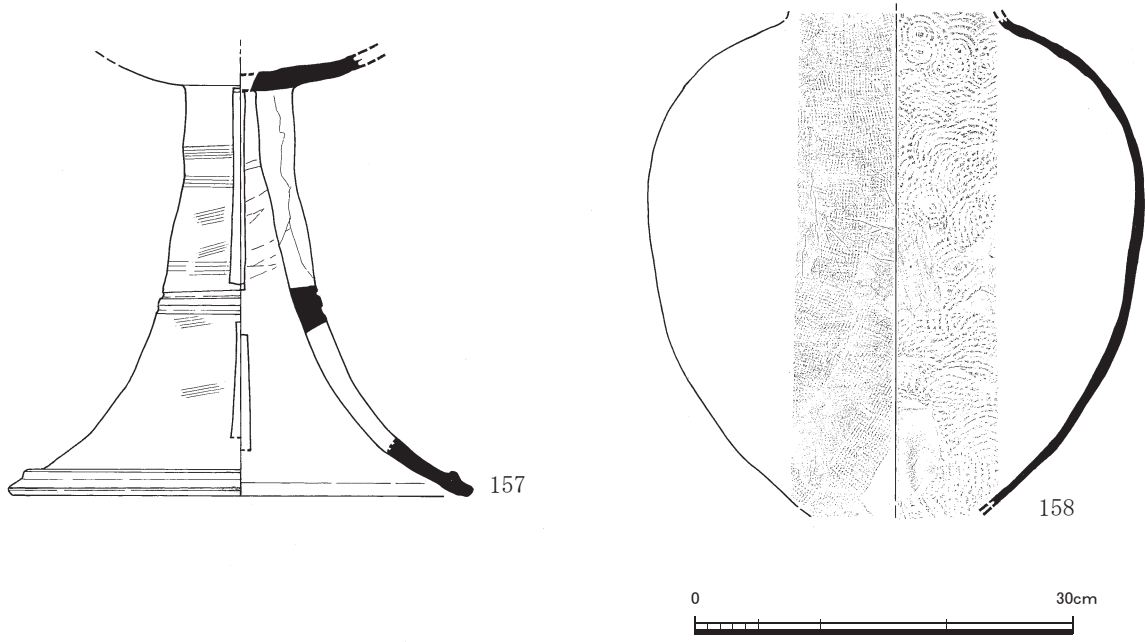


2区墳裾

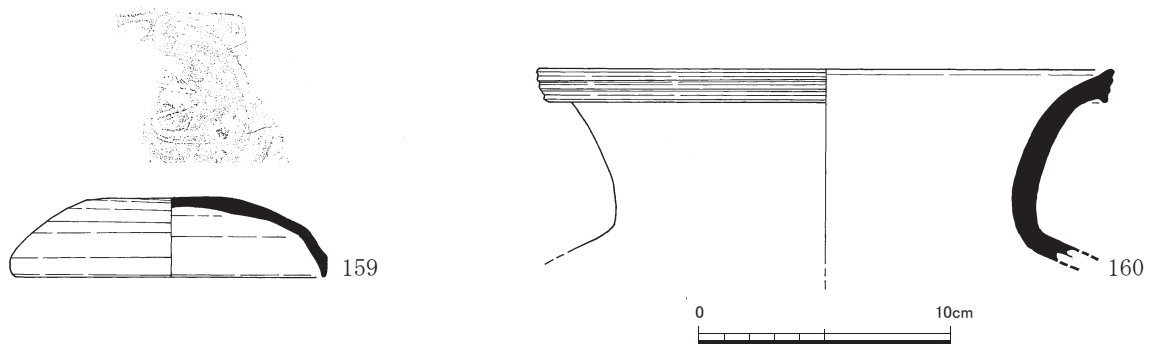


第41图 3号墳出土土器実測图⑨ (1/3)

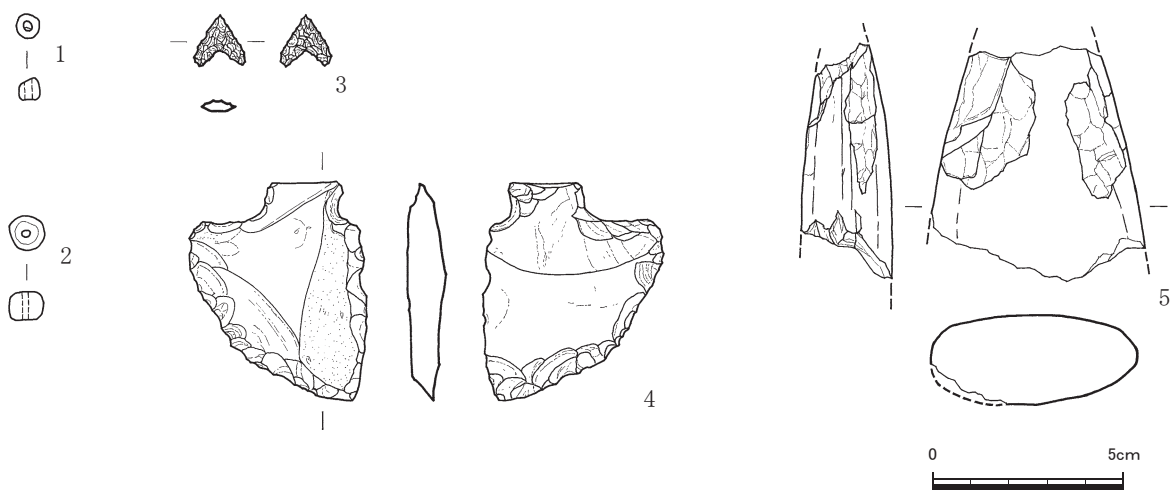
4区墳裾



盗掘坑



第42図 3号墳出土土器実測図⑩ (1/3、158は1/6)



第43図 3号墳出土玉類・石器実測図 (1/2)

が出土した。

#### 装身具（第43図1、2）

ガラス小玉が2点出土している。1は盗掘坑、2は腰石の抜き跡から出土している。いずれもかく乱後に移動したものである。1の色調はスカイブルーで、内部に気泡がみられる。2の色調は紺色で、孔のある端部は平坦である。

#### 石器（図版23 第43図3～5）

3は黒曜石製の石鏃で、長さ1.4 cm、幅1.4 cm、厚さ0.3 cmである。4は石匙で、長さ5.7 cm、幅4.7 cm、厚さ1.0 cmである。安山岩製。5は磨製石斧の基部から着柄部にかけての破片で、残存長5.6 cm、幅5.6 cm、厚さ2.35 cmである。古墳に伴うものではないが、3、5は1区墳丘から、4は3区周溝から出土した。

### （4）4号墳

#### ①位置と現況（図版7（1）、第3図）

4号墳は尾根上の最南にあり、調査対象地より南側は宅地造成が行われ、墳丘は2/3以上削平されている。現存する最高所で58.3 mを測る。直径13～14 mの円墳と推定される。

出土遺物は墳丘裾部から須恵器と土師器の細片がわずかである。

### （5）5号墳

#### ①位置と現況（第3図）

5号墳は1～4号墳がある尾根の東斜面に位置する円墳である。標高45 m付近にあり、盗掘により墳頂部が陥没していた。

#### ②墳丘（図版7（2）、第45図）

墳丘の規模は直径約10 mで、周溝は西から北側の斜面を馬蹄形状に掘削している。また、西側周溝には集石が1.4×0.8 mの範囲でみられた。須恵器や鉄器などの破片を伴うこと、石の大きさや形から、閉塞石が盗掘時に移動されたものと思われる。

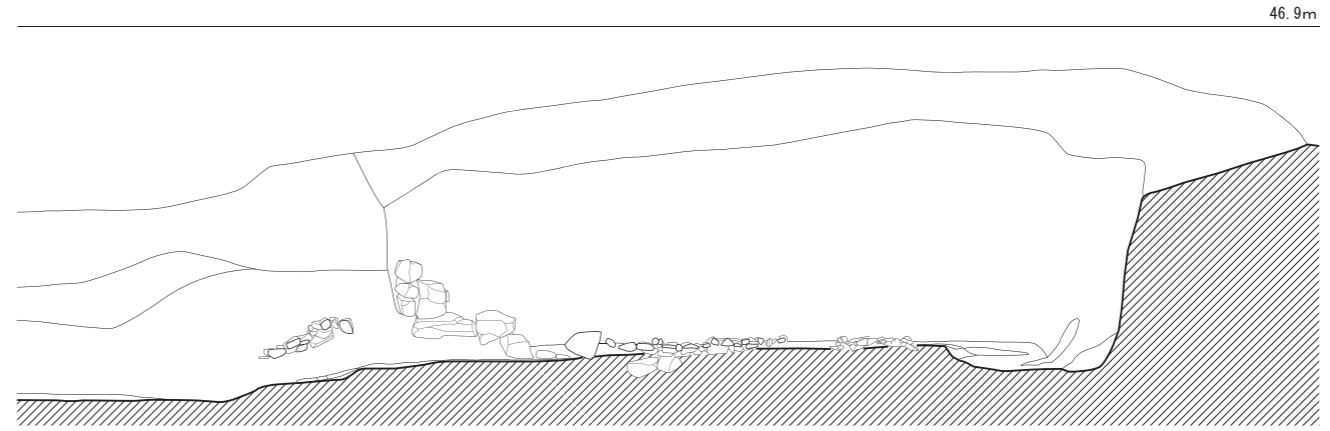
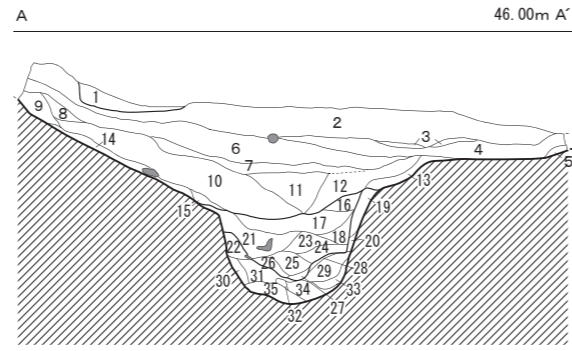
#### ③主体部（図版8（1）、第44図）

主体部は横穴石室で盗掘を受けており、石室は腰石まで抜かれていたが榿石と敷石の一部、羨道部分の石材は残存していた。石室は掘方や腰石の抜き跡から単室の横穴式石室である。主軸はおよそN-9°-Wで、南方向に開口する。玄室は奥行約2.7 m、幅約1.8 mと推定される。羨道は長さ約2 m、幅0.9 mを測る。羨道部分床面の高さは玄室床面の高さを同じであるが石材は床面から積み上げていない。墓道は約11.5 m検出した。羨道から直線的に直線的に約6 m南へ延び、緩やかに東へ曲がる。

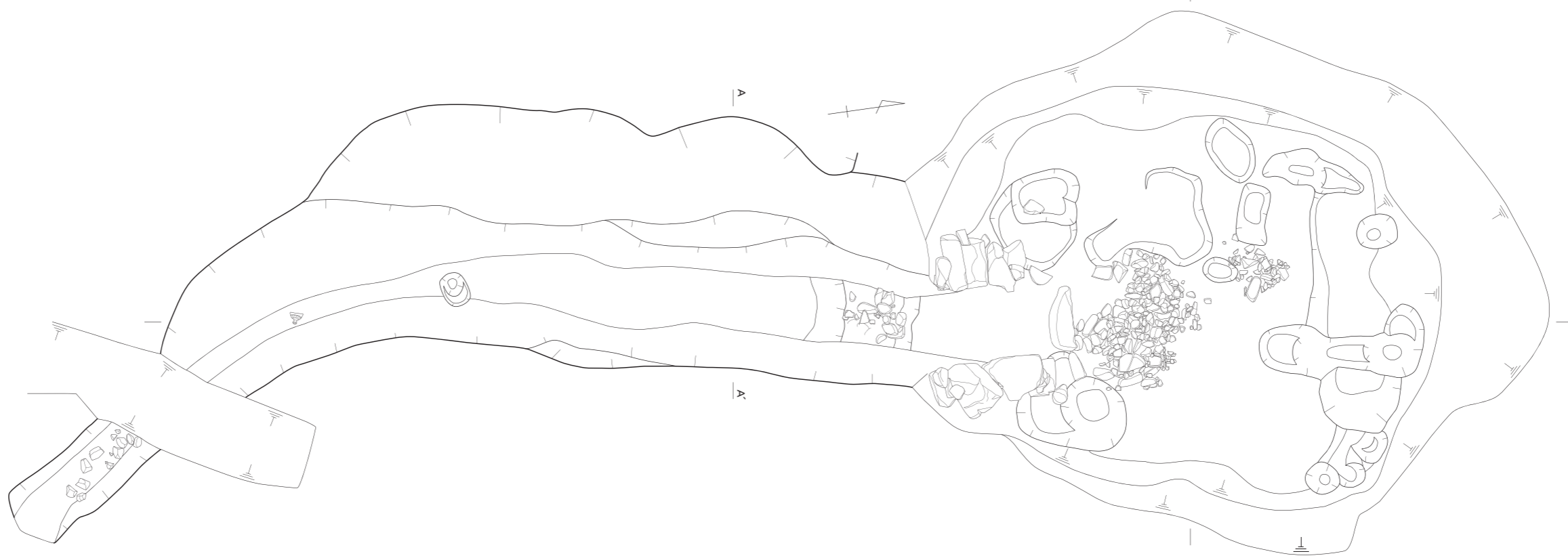
#### ④出土遺物

5号墳は須恵器、土師器、鉄器（鉄鏃、鉄滓）、装身具（耳環）、石器（石鏃、石斧）、が出土した。玄室からの出土遺物として、須恵器、鉄鏃がある。出土遺物の大半は須恵器で、その多くは周溝から

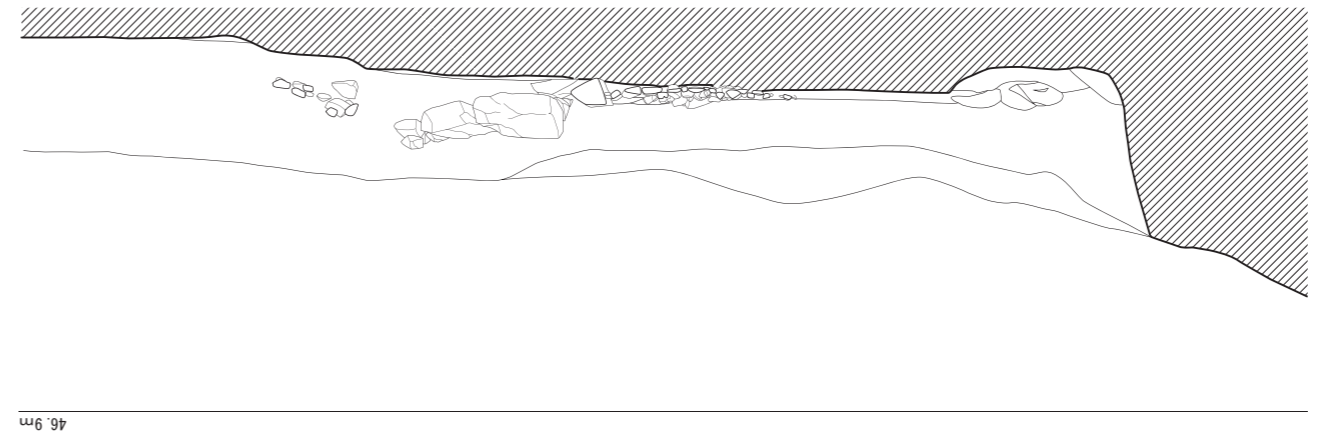
- 1 腐しよく土 (山道)
- 2 明褐色 (7.5YR5/6) 土
- 3 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 4 褐色 (10YR4/6) 土
- 5 褐色 (7.5YR4/3) 土
- 6 褐色 (7.5YR4/3) 土
- 7 暗褐色 (10YR3/4) 土
- 8 暗褐色 (7.5YR3/3) 土
- 9 暗褐色 (10YR3/4) 土
- 10 黒褐色 (10YR2/2) 土
- 11 1mm前後の砂粒を含む暗褐色 (10YR3/3) 土
- 12 7とほぼ同じ
- 13 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 14 褐色 (7.5YR4/3) 土
- 15 黒褐色 (7.5YR3/2) 土
- 16 暗褐色 (7.5YR3/4) 土
- 17 黒褐色 (7.5YR3/2) 土
- 18 1mm前後の砂粒を含む16とほぼ同じ
- 19 にぶい赤褐色 (5YR4/4) 土
- 20 明褐色 (7.5YR5/6) 土
- 21 暗褐色 (7.5YR3/3) 土
- 22 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 23 暗褐色 (10YR3/4) 土
- 24 23とほぼ同じであるがやや明るい
- 25 黒褐色 (10YR3/2) 土
- 26 黒褐色 (7.5YR3/2) 土
- 27 25とほぼ同じ
- 28 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 29 褐色 (7.5YR4/6) 土
- 30 褐色 (7.5YR4/4) 粘土黄壤土
- 31 暗褐色 (10YR3/4) 土
- 32 黒褐色 (10YR3/2) 土ブロック
- 33 30とほぼ同じ
- 34 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 35 褐色 (7.5YR4/6) 土
- 21・23・25～27・31褐色 (7.5YR4/6) 土の細粒を含む



46.9m



46.9m



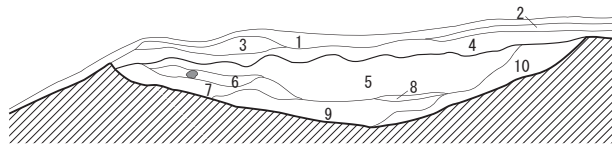
第44図 5号墳石室・墓道土層断面実測図 (1/60)





5号墳北トレンチ

47.1m

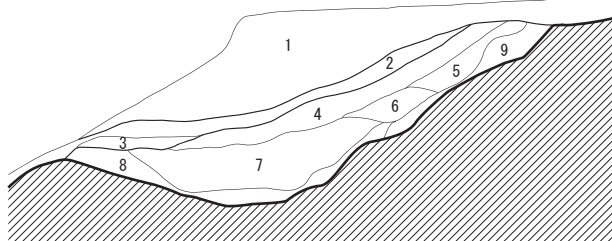


- 1 腐植土（黒色）
- 2 黄褐色土
- 3 2に同じ盗掘（石抜き）時の上げ土か
- 4 暗黄褐色土
- 5 灰黒色土（暗黄褐色土混入）
- 6 暗黄灰色土
- 7 茶黒色土（暗黄褐色土混入）
- 8 黄褐色土（灰黒色土混入）
- 9 淡灰黒色土（暗黄褐色土混入）
- 10 茶黒色土

5～9 黒色系土層

5号墳西トレンチ

48.2m

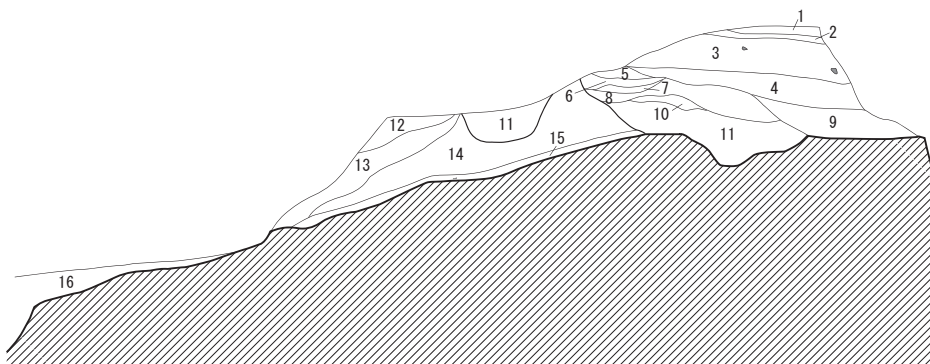


- 1 赤褐色粘質土・赤褐色パイラン土・腐植土が混在（最近の重機による盛土）
- 2 腐植土（現地表面）
- 3 茶褐色土（盗掘時の排出土か?）
- 4 黄褐色土
- 5 暗黄褐色土
- 6 暗茶褐色土
- 7 灰黒色土（黄褐色土混入）
- 8 黄褐色土（灰黒色土混入）
- 9 暗赤褐色土

6～7 黒色土系

5号墳東トレンチ

46.0m



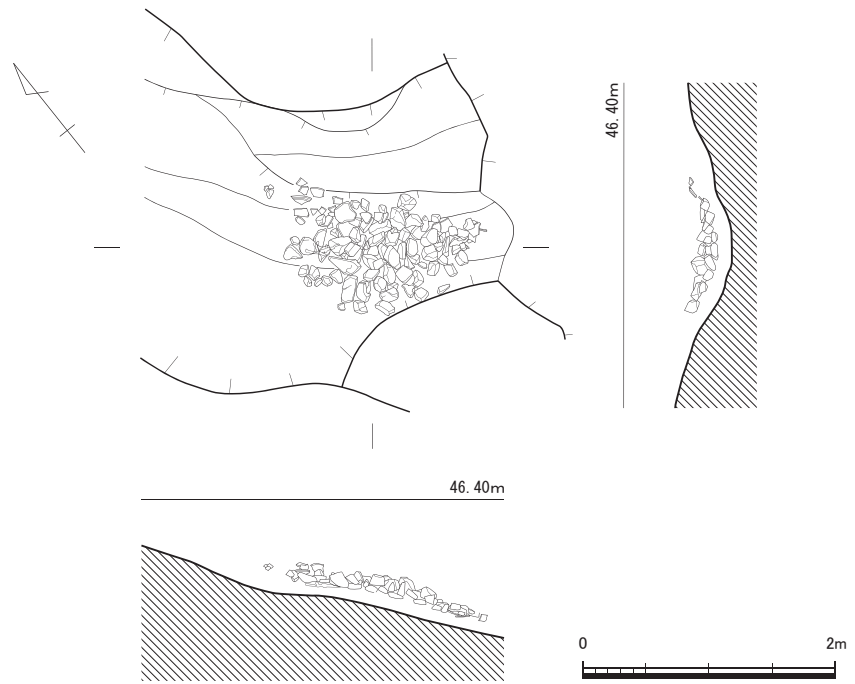
- 1 黄褐色土（最近の盛土）
- 2 腐植土（現在の表土）
- 3 暗黄褐色土（花崗岩礫含む）
- 4 黒褐色土混入茶褐色土
- 5 明黄褐色土
- 6 茶黒色土
- 7 黄褐色土
- 8 黒褐色土
- 9 茶黄色土
- 10 茶褐色土
- 11 黄褐色土混入黒褐色土
- 12 黄褐色土
- 13 灰黒色土
- 14 赤褐色土
- 15 黒褐色土
- 16 黒色土混入黄褐色土（最近の攪乱埋土）

3～11 盗掘・攪乱による掘り込みの表土と判断される

第 45 図 5号墳墳丘土層断面実測図（1/60）



第 46 图 5号墳石室遺物出土状況実測図 (1/20)



第 47 图 5号墳周溝実測図 (1/60)

である。

#### 須恵器・土師器（図版 23～26、第 48～55 図）

1～4 は玄室から出土した。杯蓋（1、2）、杯身（3、4）がある。1～3 はヘラ記号があり、丸を線刻したようなほぼ同じ形のヘラ記号がある。5～45 は周溝から出土した。1 区周溝からは杯身（5）、平瓶（6）、甕（7）、短頸壺（8）、壺（9、10）がある。7 の甕は底部外面にヘラ記号あり。8 の短頸壺は胴部上半に 2 条の沈線がある。10 の壺は底部外面の調整が静止ヘラケズリである。2 区周溝からは杯蓋（11）、杯身（12）、椀（13）、甕（14）が出土した。13 の椀の底部外面の調整は静止ヘラケズリである。3 区周溝からは 15～36 があるが、杯蓋（15）、杯身（16～19）、甕（20）、壺（21、22、24）、横瓶（23）、甕（25、26）、大甕（27）は一括して出土した。20 の甕は頸部に 2 ヶ所と底部にヘラ記号がある。27 の大甕は頸部中央に沈線が 2 条あり、沈線から上位に斜線文あり。口頸部内外面にヘラ記号あり。ヘラ記号は内外面とも同じ 3 本線で、口縁部円周の対角線上に記されている。この他、杯蓋（28）、杯身（29～35）、大甕（36）がある。36 の大甕も頸部に 2 条の沈線があり、沈線より上位に斜線文がある。口頸部の内側 1 ヶ所と外 2 ヶ所の計 3 ヶ所にヘラ記号があり、27 と同じく 3 本線のヘラ記号は内外一対のように記されている。もう一ヶ所の外側にあるヘラ記号は形が異なる。4 区周溝からは杯蓋（37、38）、杯身（39～42）、壺（43）が出土した。44、45 は周溝からの出土である。

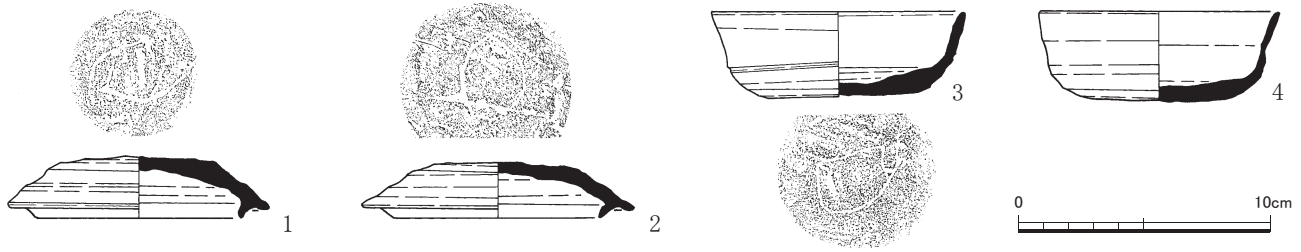
46～64 は墓道から出土で、杯蓋（46～48）、杯身（49～51）、土師器椀（52）は埋土上層から出土した。埋土中層からは杯蓋（53、54、57～60）、短頸壺（55）、大甕（56）、下層から杯蓋（61）が出土した。その他、墓道から高杯（62、63）、皮袋形土器（64）が出土した。62 の高杯の脚部は二段透かしで 3 方に透かしがある。1 区墳丘、3 区周溝から出土した破片と接合した。63 は土師器の高杯で、脚部のみである。64 の皮袋形土器は石室閉塞部から 7.5 m の位置で出土した。底部は筒状に成形した片側を扁平につぶして閉じ合わせている。閉じ合わせた底部は 3 か所穿孔があり、皮袋の縫い目を表現していると考えられる。胴部上位に 1 条、中位からやや下に 2 条の沈線があり、沈線間の上下 2 段に縦線が連続して描かれている。下段には刺突による円形の文様を施している。

65～87 は墳丘からの出土である。1 区の表土下から杯身（65～67）、盗掘坑から杯蓋（68～75）、杯身（76、77）、2 区の盗掘坑から土師器椀（78）、手捏ね土器（79）が出土した。2 区墳丘裾部から甕（80）、土師器甕（81）、墳丘裾部の東側から杯蓋（82）、小型の壺（83）が出土している。その他、墳丘の表土下から杯蓋（84、87）、裾部から杯蓋（85）、提瓶（86）が出土した。86 の提瓶は把手がボタン状になり把手部の退化がみられる。5 号墳とその周辺から出土した遺物には盗掘坑から土師器杯（88）、須恵器の短頸壺（89）、提瓶（90）があり、主に東側斜面からは黒色土器の椀（91、94）、高台付椀（93）、甕（92）、高杯（95）、大甕（96、97）がある。

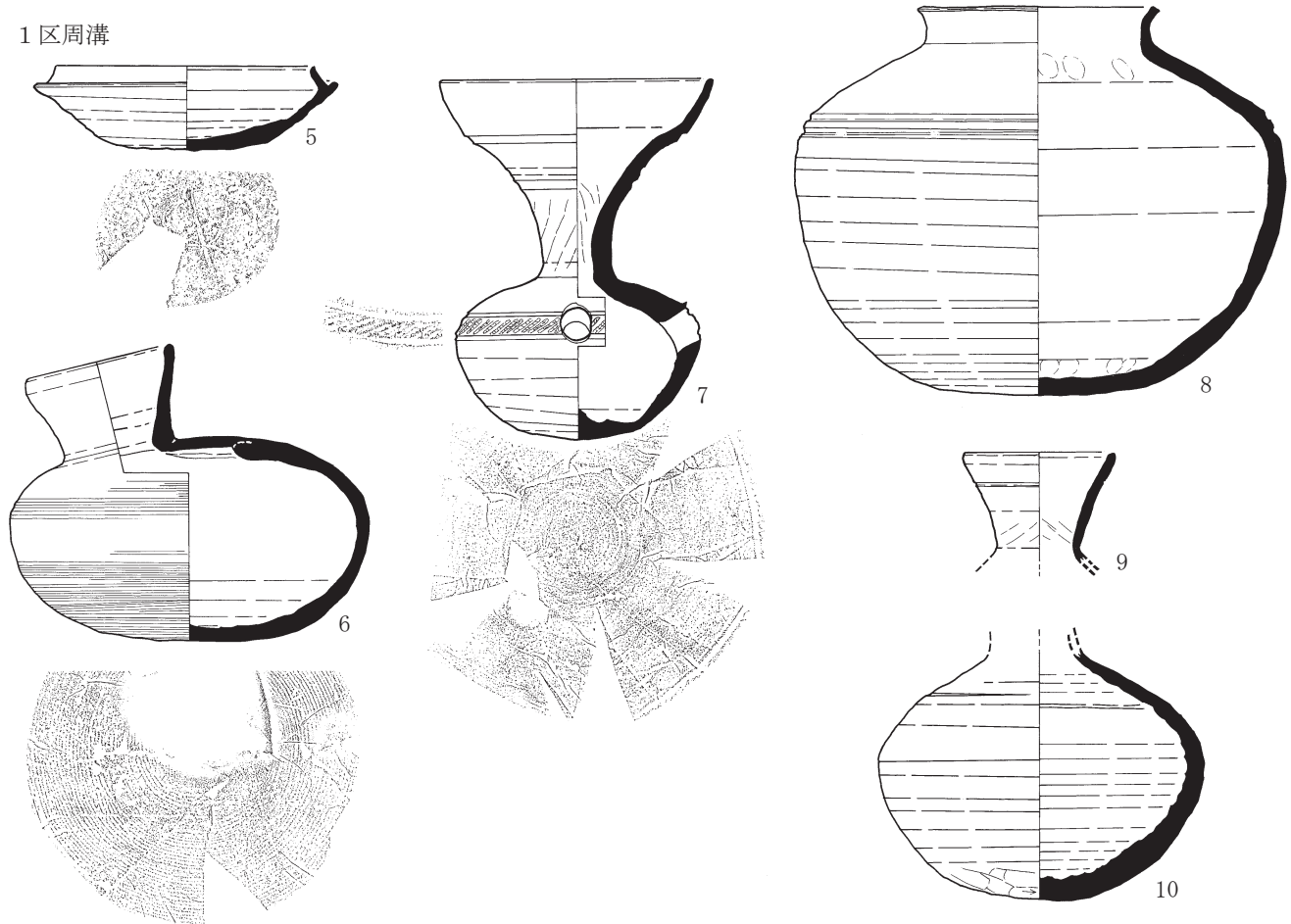
#### 鉄器（図版 27 第 56 図 1～29）

1～29 は鉄鏃である。1～4 は鏃身～茎部の破片で、1、2 とも刃部が欠損しており圭頭鏃か方頭鏃であると思われる。3 は三角形鏃で刃部を欠損し、鏃身関部から 2 cm 下に関部がある。4 は刃部

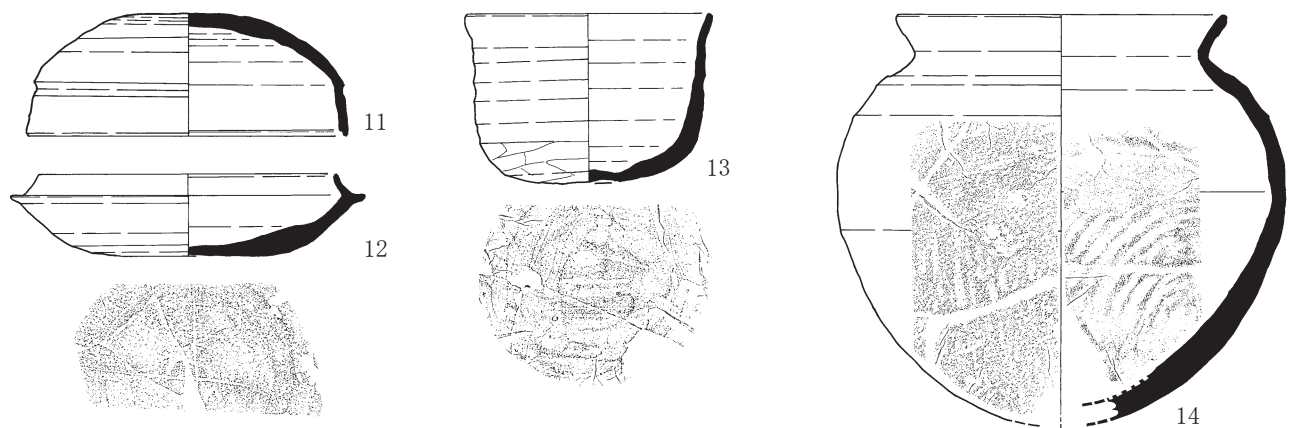
玄室



1区周溝

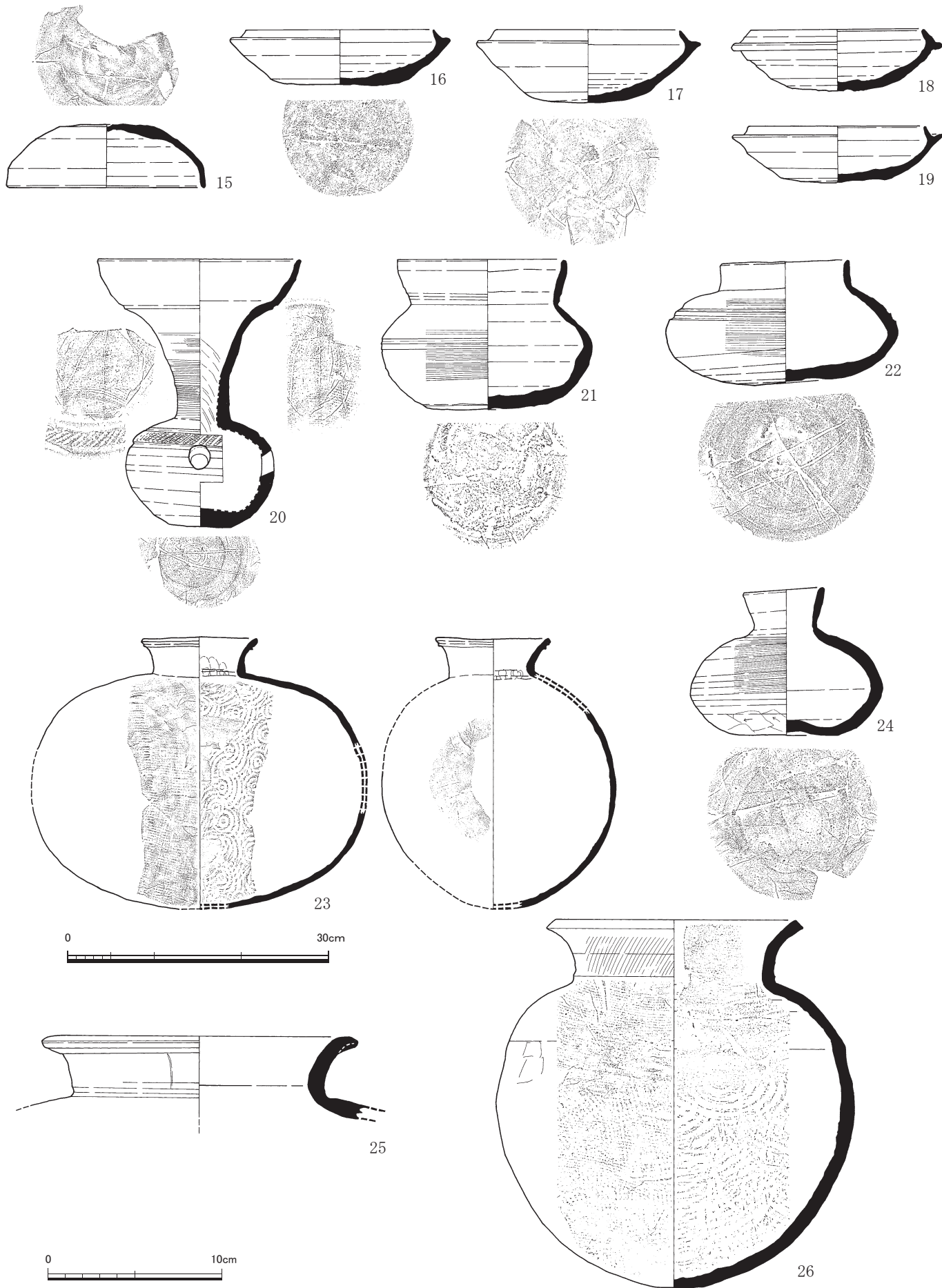


2区周溝



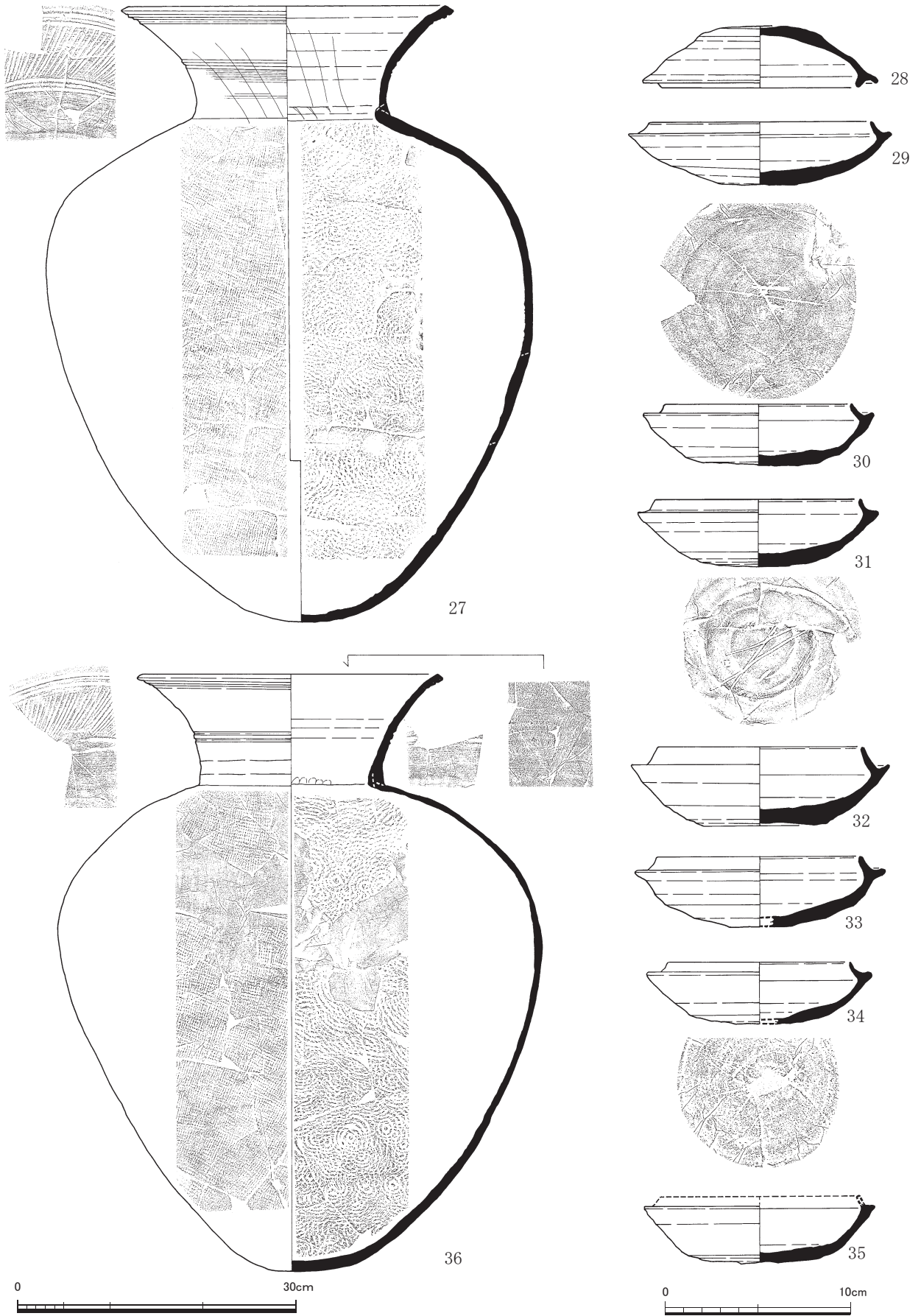
第48图 5号墳出土土器実測图① (1/3)

3区周溝



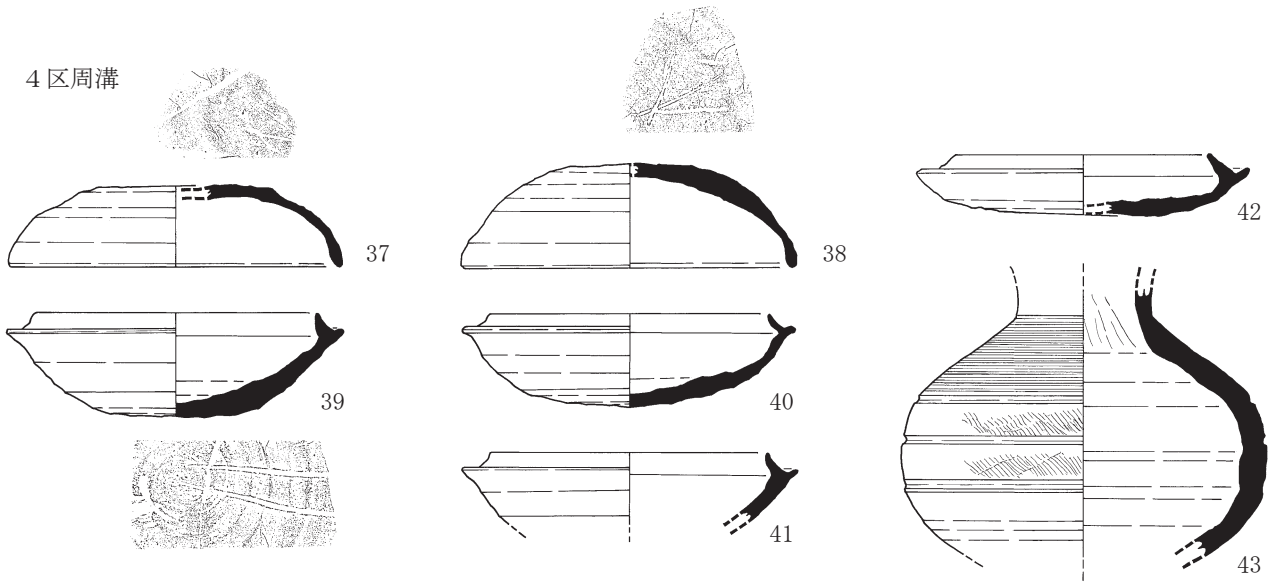
第49图 5号墳出土遺土器実測図② (1/3、23は1/6)

3区周溝

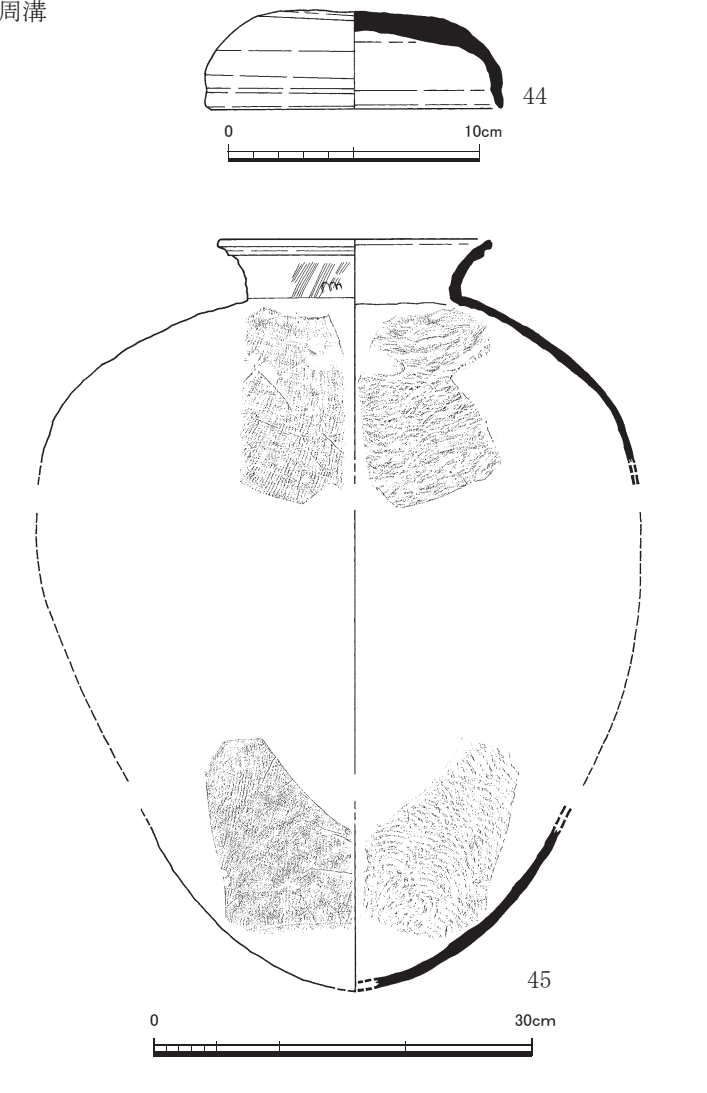


第50図 5号墳出土土器実測図③ (1/3、27・36は1/6)

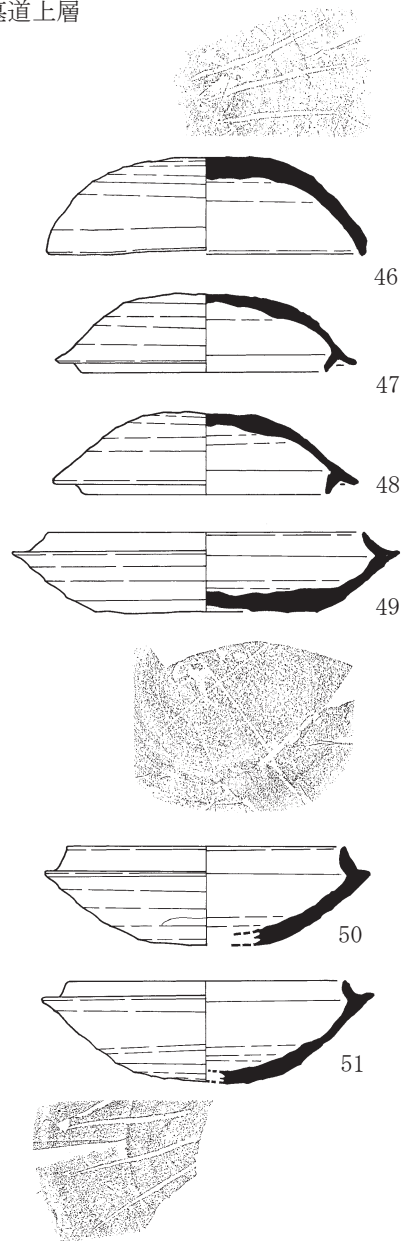
4区周溝



周溝



墓道上層

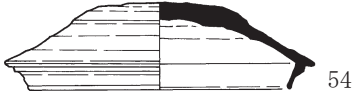


第51図 5号墳出土土器実測図④ (1/3、45は1/6)

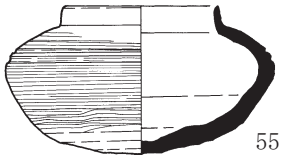
墓道中層



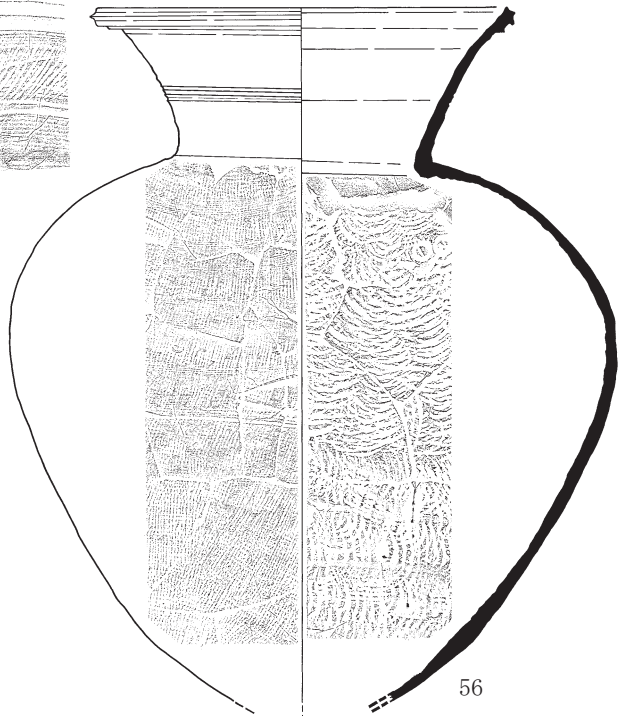
53



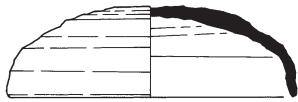
54



55



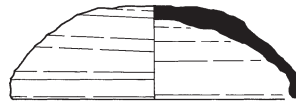
56



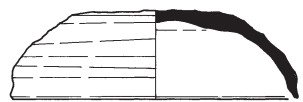
57



58



59



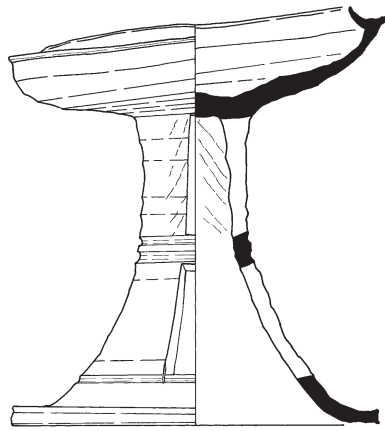
60

墓道下層

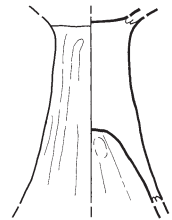


61

墓道



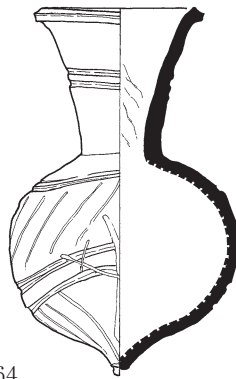
62



63



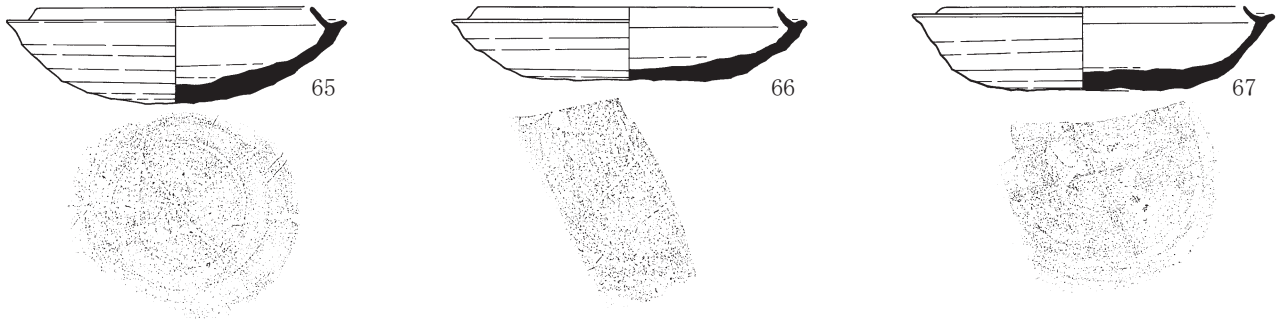
64



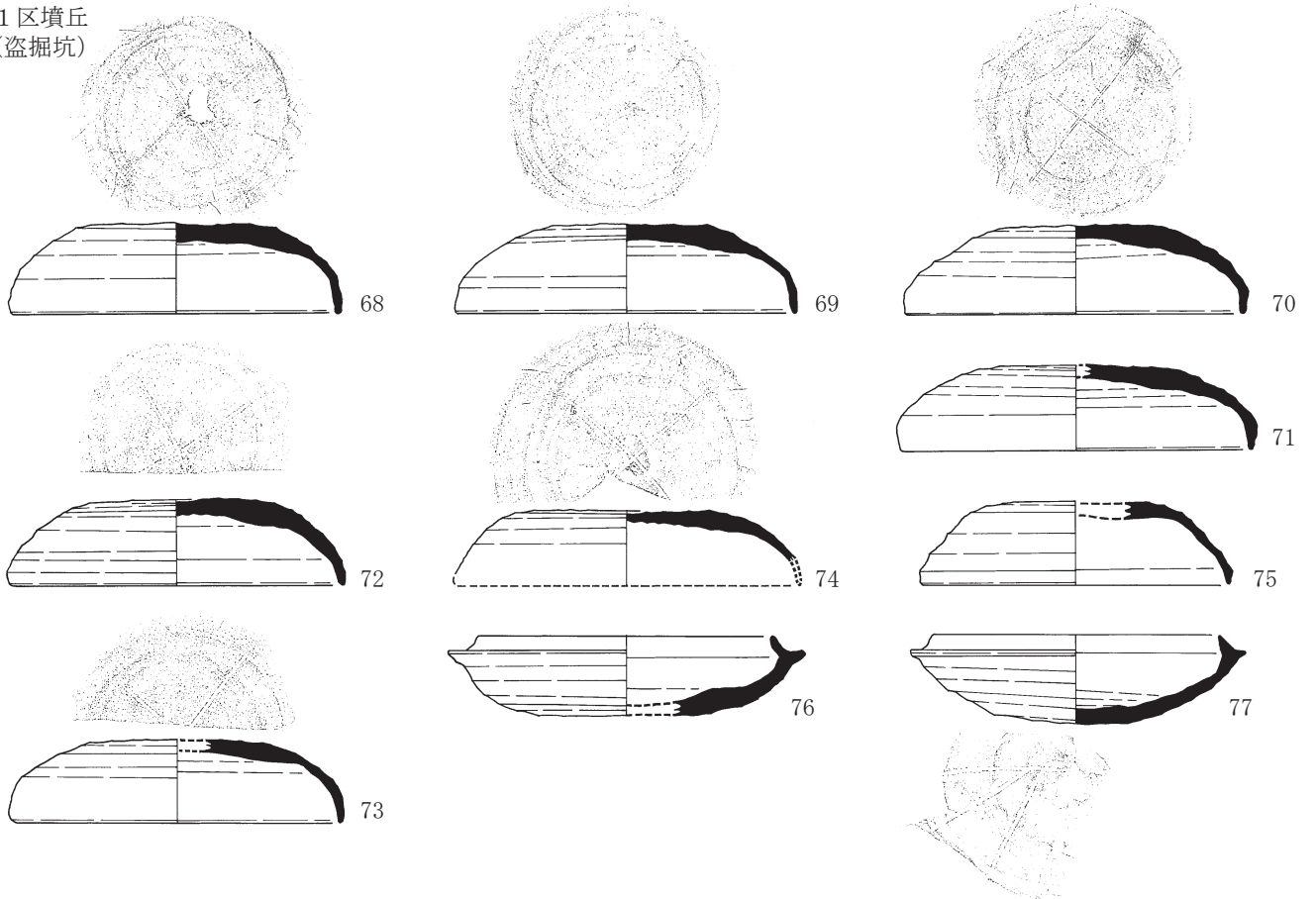
第52图 5号墳出土土器実測图⑤ (1/3、56は1/6)



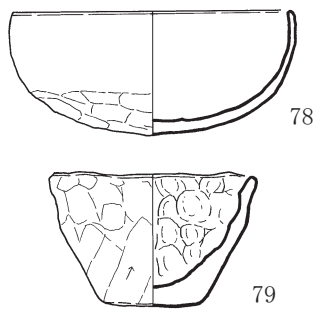
1区墳丘（表土下）



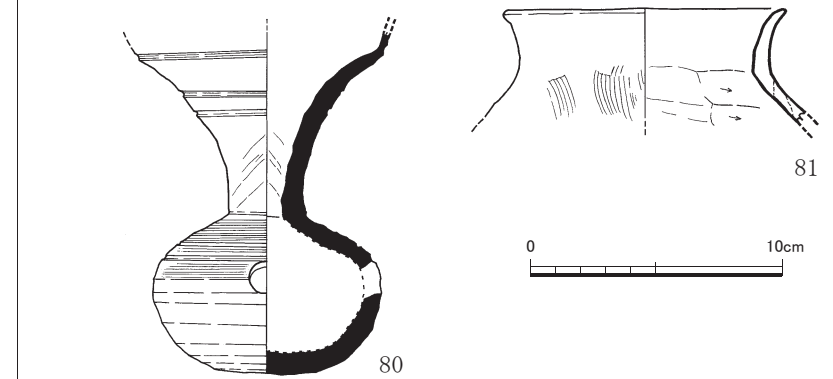
1区墳丘  
（盗掘坑）



2区墳丘（盗掘坑）

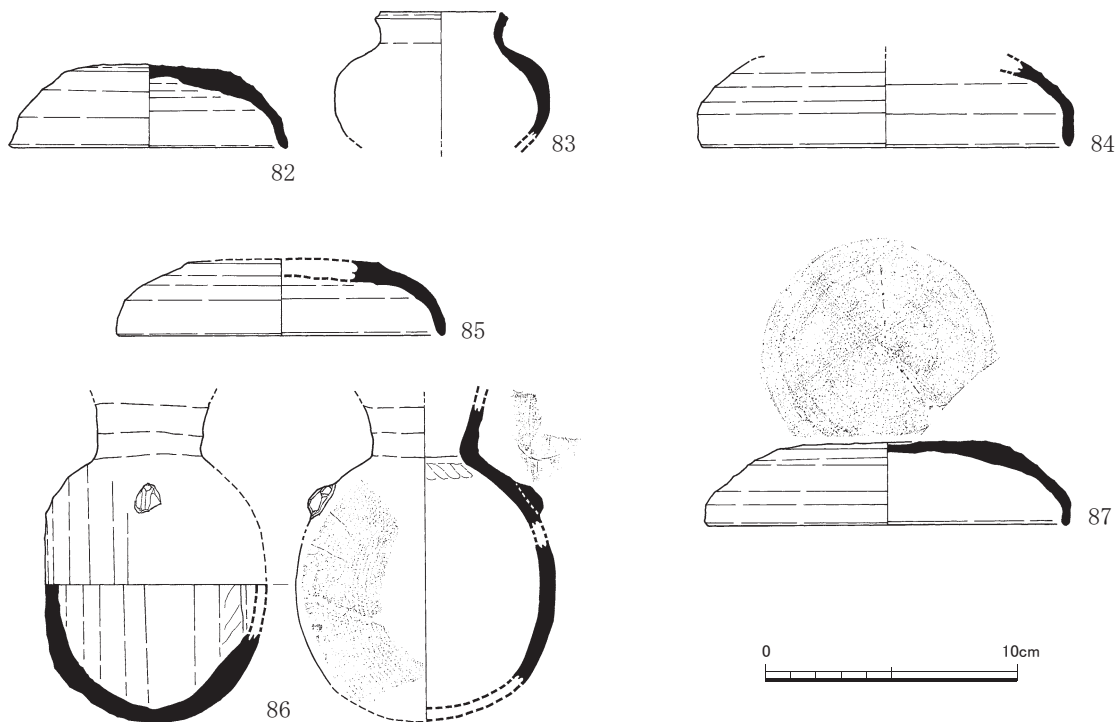


2区墳裾



第53图 5号墳出土土器实测图⑥ (1/3)

墳丘



第54図 5号墳出土須恵器実測図⑦(1/3)

を欠損するが圭頭鏃もしくは三角形鏃と思われる。鏃身の中央に透し孔がわずかに残る。鏃身関部が方形に突出し、茎部の一部に樹皮が残る。5～21は長頸鏃で、5～7、10は鏃身が長三角形、8、9は片刃か。5、13、14、16には方形に突出する頸部の関部があり、14は樹皮が残る。22～29は茎部の破片である。

**装身具** (図版28 第57図1、2)

1、2とも金銅製の耳環である。1は残存状況が良く、金貼りによる皺が内側と端部にみられる。外径2.85cm、内径1.85cmを計る。2は内面と一部外面に表面層が残る。

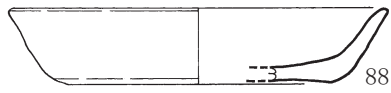
**土製品** (図版28 第57図3～18)

3～9は土製模造鏡で、10～18は手捏土器である。3は2区墳丘、4は2区の盗掘坑、5、6は2区墳裾、7～9は東側土層ベルトからの出土である。土製模造鏡のうち、7を除き鈕を縦長につまみ出し中央に穿孔している。7は鈕部分を丁寧に成形している。10、11は2区墳丘、12、13は2区盗掘坑、14、15は3区墳裾、16は2区墳裾、17、18は東側土層ベルトからの出土である。大きさは3cm未満のものがほとんどで、口縁部が直線的に開きその最大径が口縁部にあるものと、口縁部がやや内傾し最大径が胴部にあるもの等、大きくみると2つのタイプがある。

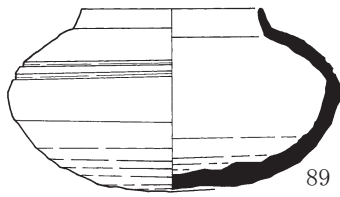
**石器** (図版28、第57図19～22)

19は2区墳裾から出土した。剥片石器か。20、21は安山岩製の打製石鏃で、20は2区盗掘坑から、21は3区周溝から出土した。21は完形で、長さ2.95cm、幅2.0cm、厚さ0.4cmを計る。22は大型蛤刃石斧の刃部破片である。残存長6.9cm、幅5.55cm、厚さ3.5cmを計る。4区から出土した。

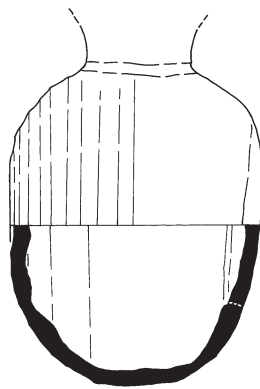
盗掘坑



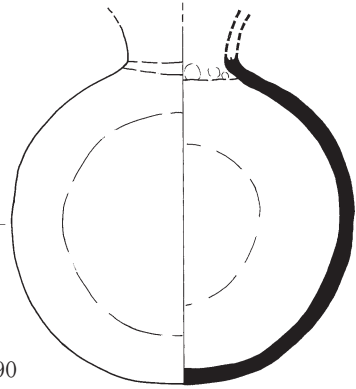
88



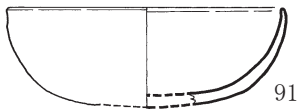
89



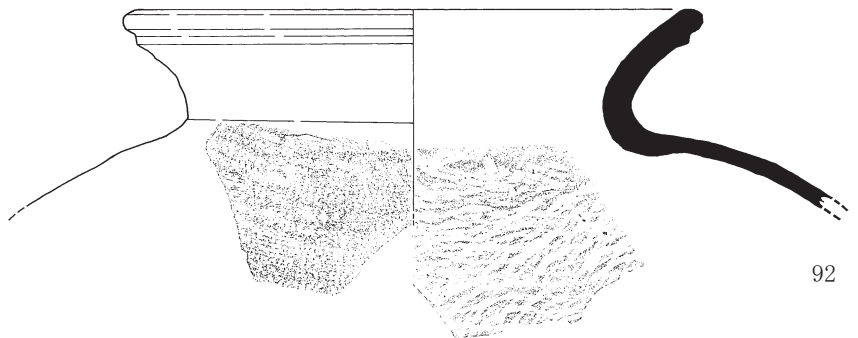
90



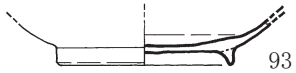
東側斜面



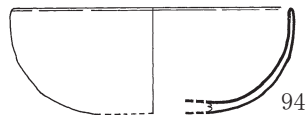
91



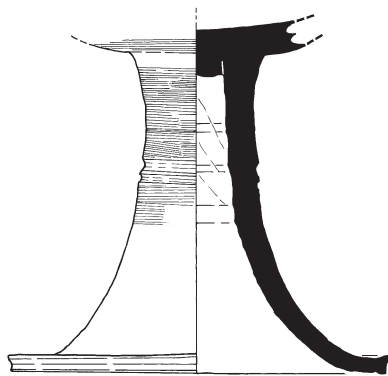
92



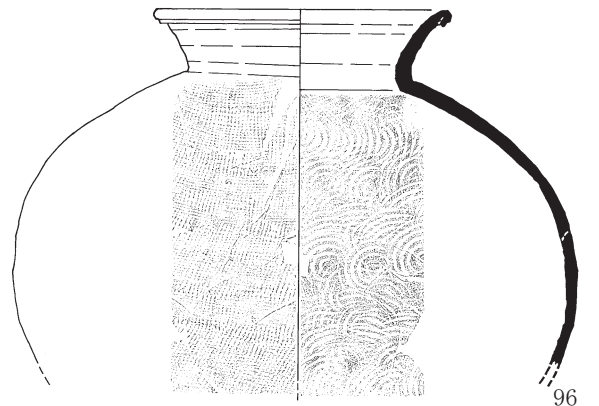
93



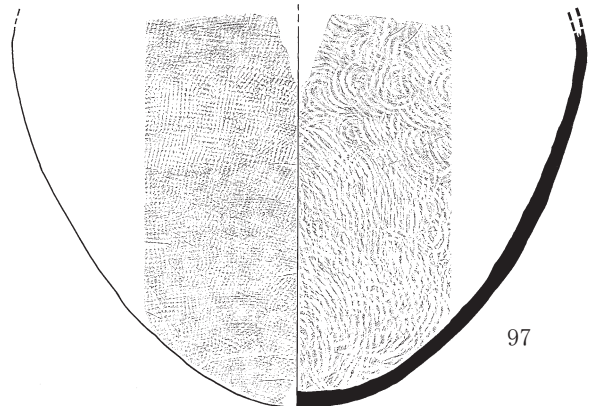
94



95



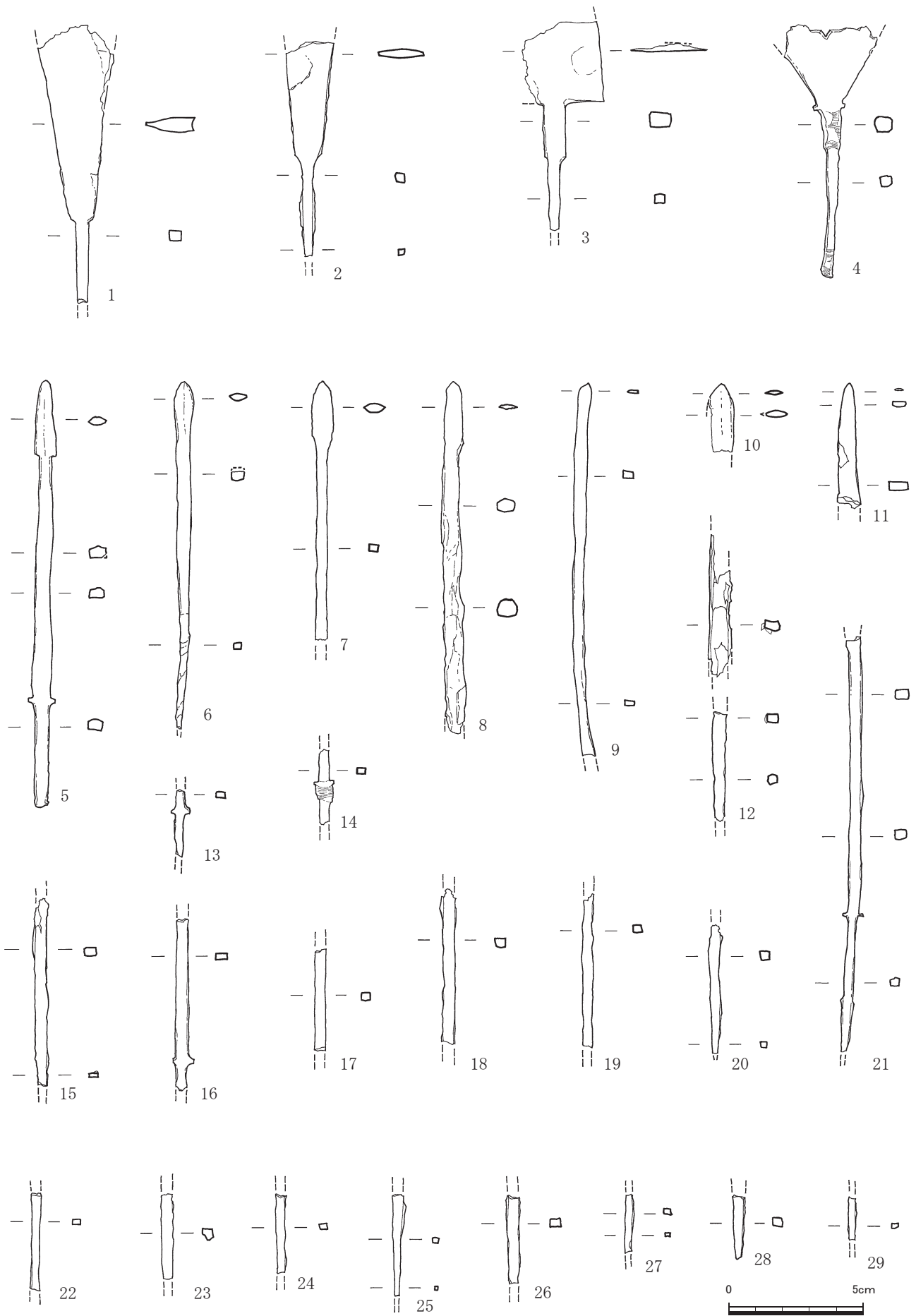
96



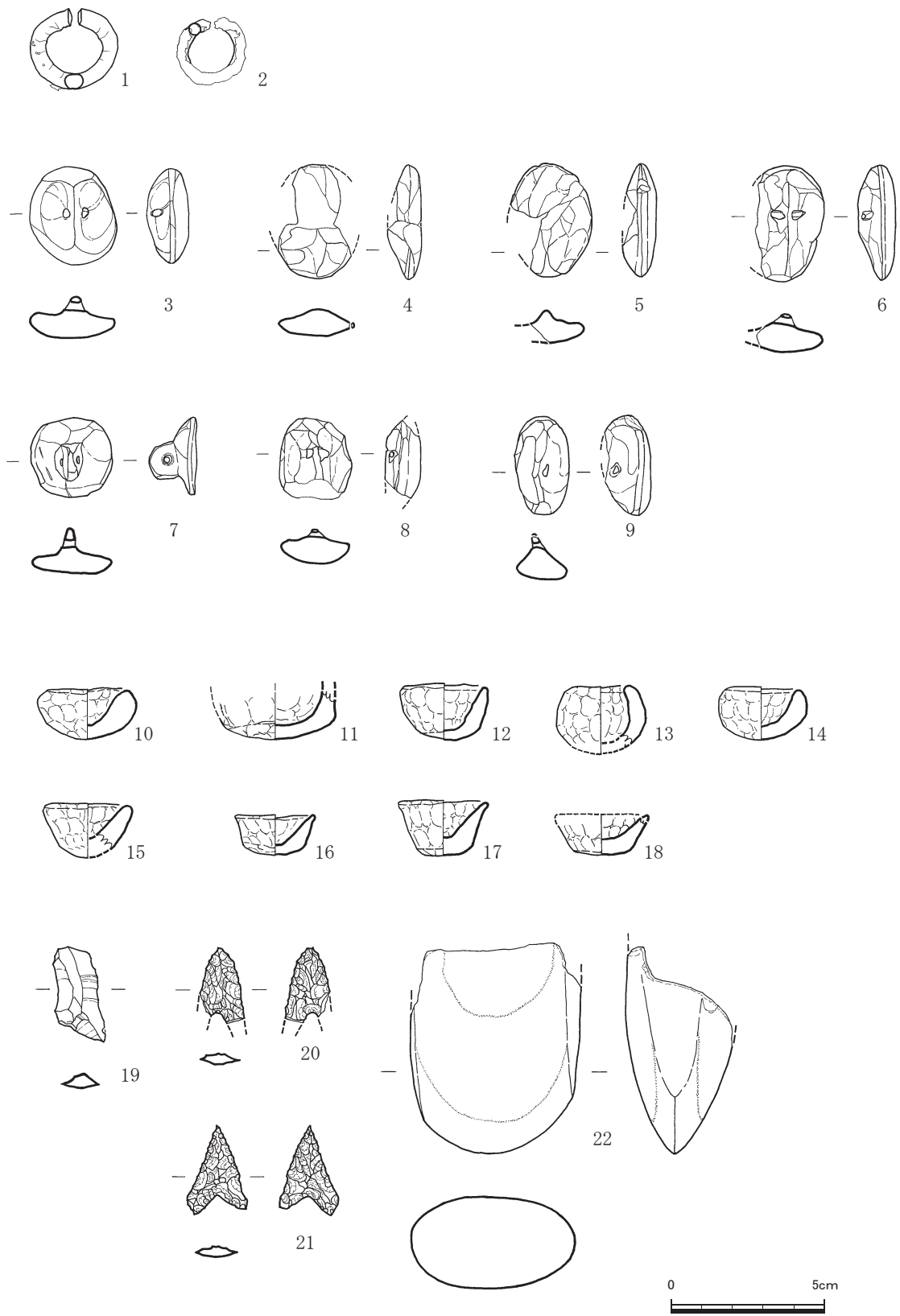
97



第55図 5号墳出土土器実測図⑧ (1/3、96・97は1/6)



第 56 图 5号墳出土鉄器実測図 (1/2)



第 57 图 5号墳出土装身具・土製品・石器実測図 (1/2)

### 3 その他の遺構と遺物

#### (1) 竪穴建物跡

竪穴建物跡は5号墳より下位の東側斜面の標高43 m付近で2軒検出した。

##### 1号竪穴建物跡 (図版9 (3)、第58図)

1号竪穴建物跡は方形を呈し、長辺約2.6 m、短辺約1.9 mを測る。2本柱穴があり、柱穴間の中央に70×80 cmの楕円形のピットがある。この楕円形のピット及び竪穴建物跡の中央付近から北側の埋土には焼土が多く含まれていた。

##### 出土遺物 (図版28、第59図1～9)

出土遺物は須恵器、土師器である。出土遺物の多くは床面のやや近くから出土し、ほぼ完形のものもあるが、柱穴の上部からの出土もあり、これらの多くは建物跡が廃絶後に流れ込んだものと考えられる。須恵器は杯身(2、5)、杯蓋(4、8)、高杯(3)、甕(6)、甕(9)、土師器は椀(1)、甕(7)がある。6の甕は胴部が上下半分に分かれた状態で出土した。胴部の穿孔の上下に沈線を施し、沈線間に刺突文あり。7の甕は南側の柱穴の上位からの出土である。ほぼ完形で、甕の内面からも焼土が出土した。甕の底部やや平底で、胴部が寸胴である。口縁部内面はヨコ刷毛、外面はヨコナデ、胴部から底部内面は縦方向のケズリ、外面はタテ刷毛である。8、9の須恵器は埋土上層からの出土である。

##### 2号竪穴建物跡 (図版9 (4)、第58図)

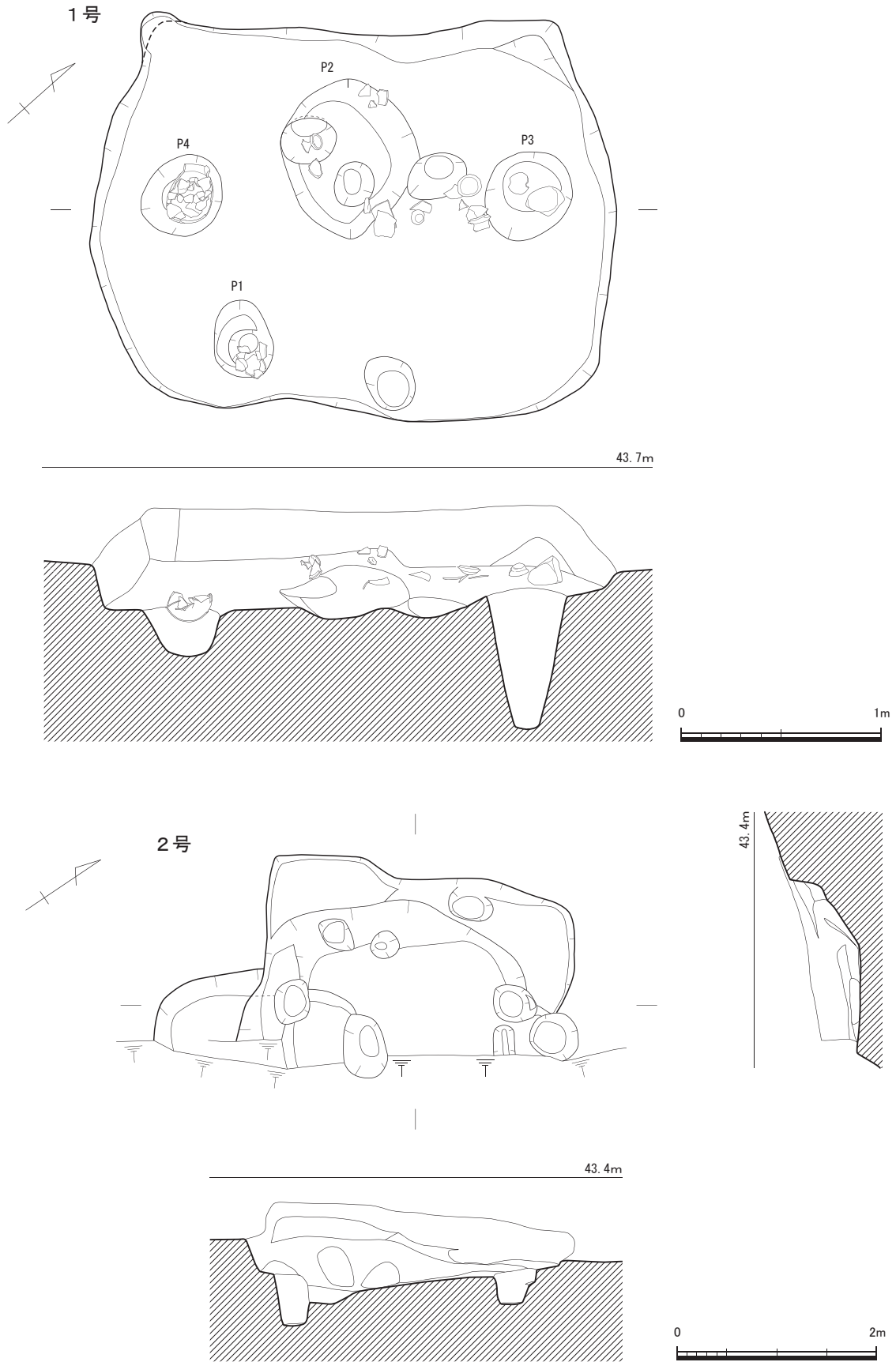
2号竪穴建物跡は方形を呈し、東側は削られている。長辺約3.2 mを測り、短辺は約2 mを残存する。西側の床面中央に2ヶ所柱穴と考えられる柱穴がある。本来4本柱穴があったと想定すると、全体の1/2以上削平されている。西側は段差があり、高低差が大きな所で40 cmある。

##### 出土遺物 (図版28、第59図10～24)

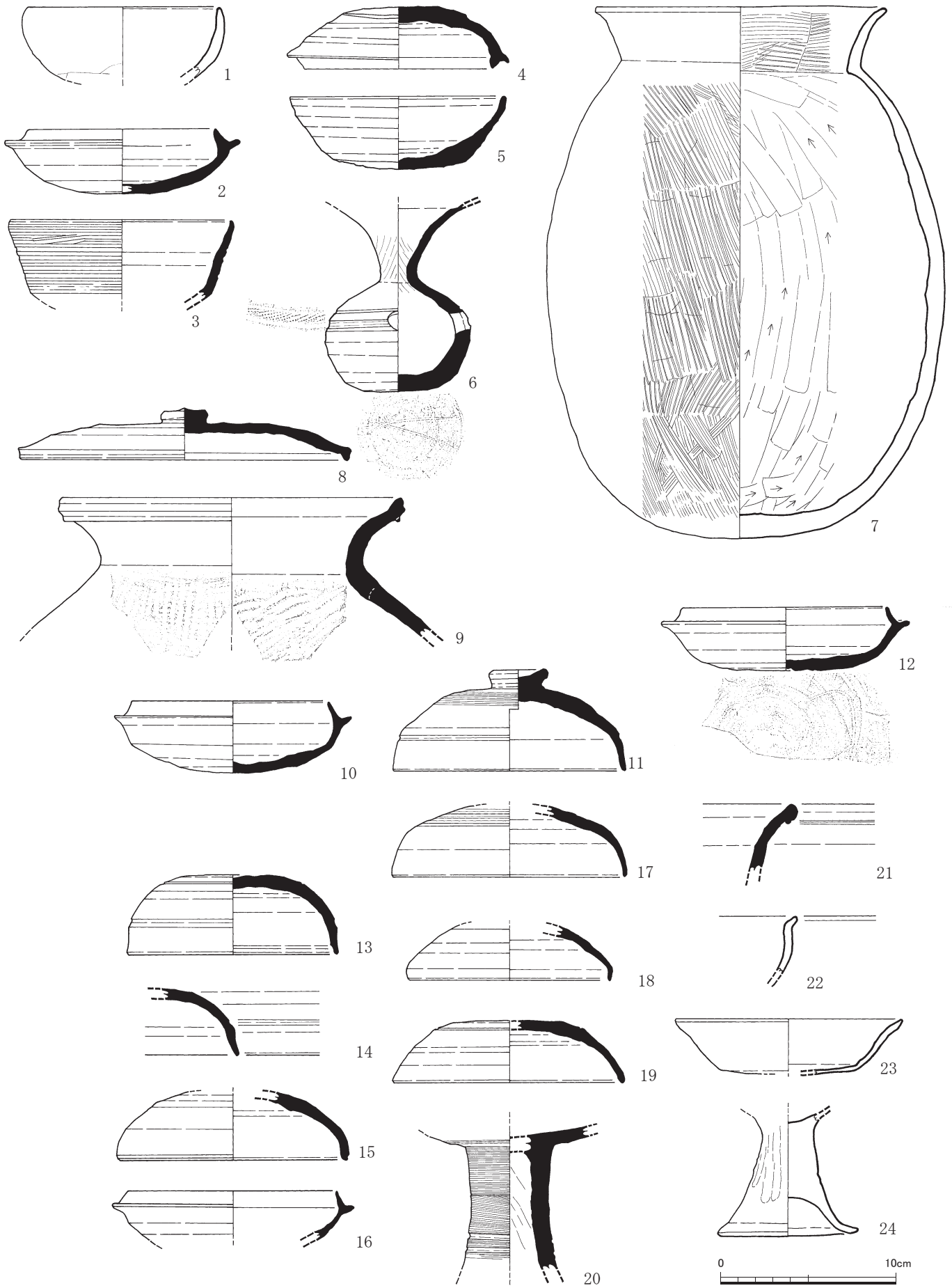
出土遺物は須恵器、土師器である。須恵器は杯身(10、12、16)、杯蓋(11、13～15、17～19)、高杯(20)、甕(21)、土師器は椀(22)、高杯(23、24)である。11のつまみ付の杯蓋は1号墳墓道、2号墳墳丘出土の破片と接合した。11、13、14は口縁部と体部の境に沈線があり、13は口縁端部内面に段を有する。20は高杯の脚部上半で外面はカキ目を施す。21は甕の口縁部の破片で、口縁端部外面がやや三角形を呈し口縁下に突帯が付く。22の椀は口縁が小さく外反する。23は高杯の杯部で、24は脚部である。脚部の2/3は中実で裾部は外反する。外面は工具による縦方向のナデで、裾部から内面はヨコナデである。

## IV 総括

塚原古墳群2次調査では、主に5基の円墳が検出された。これらは群集墳であり、小丘陵の尾根上とその斜面に築かれているが、すべて盗掘を受けていたことから、出土遺物は少なくないもののその



第58图 1·2号竖穴建物跡実測图 (1/30·1/60)



第 59 图 1·2 号竖穴建物迹出土土器实测图 (1/3)



原位置を保っていたものはごくわずかである。出土遺物は時期差があり、これらは追葬や古墳が攪乱された時期と想定される。各古墳の時期や特徴は以下のとおりである。

1号墳は丘陵の先端に位置する円墳で、周溝は前面のみで古墳の周りを一周しない。周溝は切り合いがあり、切り合い関係から初めに掘られた周溝からは、セットになった須恵器が2ヶ所にまとまって出土した。A群の須恵器の時期は6世紀中頃、B群は6世紀後半であり、ほぼ同じ周溝でも時期差がみられる。この周溝の約1m外側に後で掘られた周溝があり、外側の周溝から出土した須恵器の時期は7世紀前後頃である。この外側の周溝は追葬時に掘られたものと考えられる。

1号墳での調査成果は墓前祭祀の伴献形態が確認できたことである。二枚貝があったことから、いわゆる「食物供給献儀礼」が推測される。その他、砥石の出土があげられる。砥石は盗掘坑からの出土であるため、副葬品であると断定はできないが、古墳出土砥石の検討により（森2017）被葬者像を検討する上で参考になる遺物である。

2号墳は出土遺物のほとんどが墓道からである。墓道は南に向かって屈曲している。墓道の土層断面観察によると、少なくとも2回は掘られている。墓道の埋土上層からは礫や7世紀前後頃の須恵器や鉄器、耳環が乱雑に出土しており、これらの出土遺物は石室に使われたと思われる石材や敷石とともに、盗掘された際に墓道に捨てられたと想定される。

2号墳出土の土器は6世紀後半から7世紀後半の時期のものがあるが、7世紀前半頃の須恵器が大半であり、古墳が利用された年代は6世紀後半から7世紀後半である。

3号墳も2号墳と同様に南側に墓道があり、南西側に周溝がある。周溝の切り合い関係から、初めに掘られた周溝は3、4号墳間を区切るように掘られているが、後から掘られた周溝は1m程外側で、西側へ延びる。

3号墳出土の土器は、6世紀中頃から8世紀前半の時期である。周溝3区出土土器は、土器A群の杯蓋は6世紀後半、土器B群は7世紀前半の須恵器が多く、7世紀前半から8世紀前半のものが出土している。墓道出土の土器は6世紀中頃から8世紀前半の時期である。7世紀前半から8世紀前半の時期の資料のうち比較的7世紀後半の資料が多くみられる。

4号墳は宅地造成により半分以上削平されており、出土遺物はほとんどない。

5号墳は小丘陵の斜面にあり、これまでの踏査では認識されておらず、今回の調査で初めて確認された。塚原古墳群の中で唯一、玄室の敷石の一部と羨道の腰石が残っていた。周溝は全周していたと考えられる。周溝からは礫とともに須恵器も出土している。これらの礫は大きさや出土状況から盗掘時に外された閉塞石が周溝に投げ捨てられたような状況である。玄室の敷石が残存する部分からは7世紀前半～中頃の須恵器と共に、土師器、鉄器、耳環が出土したが、盗掘されていることから原位置を移動している可能性もある。周溝からは6世紀中頃の須恵器が出土しているが、上位からの流れ込みと考えられ、それ以外では7世紀前半から中頃の須恵器が出土している。墓道は南に向かって延びている。墓道から出土した須恵器の時期は7世紀前半である。また、5号墳からは土製品が出土した。土製品は土製模造鏡と手捏土器があり、手捏土器は主に鉢形である。出土位置は墳丘～墳裾であり、

石室内からの出土はない。手捏土器は集落で検出されることが多く、特に堅穴住居跡から出土し、竈周辺での祭祀行為に関係すると想定されている。一方、古墳での出土例は少ない（林 2012）ことから、被葬者像を検討する上で古墳での出土例の増加が望まれる。

出土須恵器の時期は古い順から 1 号墳、3 号墳、2 号墳であるが、古墳の立地や周溝の状況から古墳群が築造された順序は、1 号墳→2 号墳→3 号墳、5 号墳と考えられる。古墳はほぼ南側に開口しており、墓道は東～南側に延びることから、尾根の東側に集落への道があったと想定される。

出土須恵器にあるヘラ記号は、破片資料も多いため明確な数とは言えないが、21 種類以上の記号が確認できた。このうち、4 号墳を除く古墳に共通したものは 1 本線、2 本線、3 本線、×印の 4 つである。各古墳で特徴的なものとして、1 号墳は波状文、2 号墳は×印、3 号墳は U と 1 本線を合わせた「刺又」のような形、5 号墳は○印と A のような記号が杯身杯蓋にもみられ、目立つ記号である。また、杯蓋、杯身の内面には当て具痕もみられる。古墳の近くに所在する窯跡出土の須恵器のヘラ記号をみると、6 世紀後半から 7 世紀前後頃にかけての須恵器は惣利 1 号窯や浦ノ原窯跡群 4 号窯の出土品が比較的類似する。

塚原古墳群の時期と周辺における集落遺跡の時期については、塚原古墳群から最も近い位置にある同時期の集落には、牛頸日の浦遺跡群がある。同遺跡は直線距離で東南方向 350 m の地点にあり、6 世紀中頃から 9 世紀初頭まで存続している（1994 徳本編）。牛頸日の浦遺跡群のすぐ南側には古墳と集落からなる牛頸塚原遺跡群がある。古墳が築かれた時期は出土遺物から 5 世紀後半から 6 世紀中頃とあり、集落は 6 世紀中頃から 9 世紀初頭である（1995 徳本他）。集落に関しては牛頸日の浦遺跡群も牛頸塚原遺跡群もほぼ同時期である。牛頸地域における主要な集落は主に 6 世紀中頃以降営まれており、須恵器生産と深く関わっていると考えられる。塚原古墳群も 6 世紀中頃から営まれた古墳で、時期的には牛頸塚原遺跡群の古墳群に続くものである。特に牛頸塚原遺跡群では須恵器生産と関係がある「大神部」と書かれたヘラ書きの須恵器が出土しており（2008 石木編）、注目される集落でもある。位置関係や時期的にみても関係があると考えたいが、断定するほどの根拠はない。牛頸地域における集落と古墳の関係についてはすでに考察されており（2008 舟山、石川編）、指摘されているように須恵器のヘラ記号が窯、集落、古墳との関係を検討する手掛かりになると考えられるので、集落出土の須恵器のヘラ記号の検討が今後の課題である。

#### 参考文献

- 森貴教 2017 「4 善一田遺跡出土砥石の検討—付 福岡県内古墳出土砥石集成—」上田龍児編『乙金地区遺跡群 23』大野城市文化財調査報告書第 159 集
- 林潤也 2012 「4. 土製模造鏡について」上田龍児編『乙金地区遺跡群 4』大野城市文化財調査報告書第 100 集
- 徳本洋一、舟山良一、本田光子、岸野和子、石木秀啓 1995 『牛頸塚原遺跡群』大野城市文化財調査報告書第 44 集
- 徳本洋一編 1994 『牛頸日ノ浦遺跡群』大野城市文化財調査報告書第 42 集
- 舟山良一、石川健編 2008 「6. 集落と古墳」『牛頸窯跡群』大野城市文化財調査報告書第 77 集
- 石木秀啓編 2008 「3. 牛頸塚原遺跡群出土のヘラ書き須恵器」『牛頸本堂遺跡群 VII』大野城市文化財調査報告書第 81 集

## 土器觀察表

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘ ラ 記 号	残存
<b>1号墳</b>									
第9図	1	周溝A群	須恵器	杯蓋	①13.8 ②4.2	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、内面天井部には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段あり。	A 精緻。砂粒を含む。 B 良好 C 外明オリブ灰5GY7/1～緑灰7.5GY5/1、内オリブ灰2.5GY6/1		完形
第9図	2	周溝A群	須恵器	杯身	①12.3 受部径14.8 ②4.3	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、内面底部には当て具痕あり。	A 精緻。砂粒を少し含む。 B 良好 C 外灰N4/～オリブ灰2.5GY6/1、内オリブ灰～灰2.5GY6/1～N6/		完形
第9図	3	周溝A群	須恵器	杯蓋	①13.7 ②4.2	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、天井部内面には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段あり。口縁端部に段あり。	A 精緻。砂粒わずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB6/1		ほぼ完形
第9図	4	周溝A群	須恵器	杯身	①11.7 受部径14.4 ②4.6	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。	A 精緻。砂粒を少し含む。 B 良好 C 外暗青灰5B4/1、内青灰5B6/1		ほぼ完形
第9図	5	周溝A群	須恵器	杯蓋	①12.9 ②4.5	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、天井部内面には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段あり。口縁端部に段あり。	A 精緻。砂粒わずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5B6/1		ほぼ完形
第9図	6	周溝A群	須恵器	杯身	①10.8 受部径13.6 ②4.4	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。	A 精緻委。砂粒を少し含む。 B 良好 C 内外青灰5B6/1		ほぼ完形
第9図	7	周溝A群	須恵器	杯蓋	①14.0 ②4.7	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、天井部内面には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段あり。口縁端部に段あり。	A 白色・灰色砂粒を多く含む。 B 良 C 外暗青灰5B4/1～明青灰5PB7/1、内青灰5B6/1		完形
第9図	8	周溝A群	須恵器	杯身	①12.1 受部径14.6 ②4.6	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外青黒5PB6/1～青灰5PB6/1、内青灰5B6/1		完形
第9図	9	周溝A群	須恵器	杯身	①12.1 受部径14.4 ③3.9	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、内面底部には当て具痕あり。	A 白色砂粒等を少し含むが精緻。 B 良好 C 外オリブ灰2.5GY5/1、内オリブ灰5GY5/1		完形
第9図	10	周溝A群	須恵器	高杯	①12.8 受部径15.6 ②12.0 ③12.8	杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面は当て具痕ナデ。脚部は回転ナデで、外反しながりひろがり、裾部近くでやや内側に屈曲する。	A 精緻。白色砂粒含み、雲母片もわずかに含む。 B やや不良 C 内外灰白5Y7/1		完形
第9図	11	周溝A群	須恵器	高杯	①12.1 受部径14.65 ②9.75 ③脚裾部径12.8	杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面は当て具痕あり。脚部はやや直線的に広がり、上方にはカキ目を施し、裾部から1/3上で段を有す。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/、淡黄5Y8/3、内青灰5PB6/1		ほぼ完形
第9図	12	周溝A群	須恵器	高杯	①12.1 受部径14.4 ②9.5 ③脚裾部径10.8	杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面は当て具痕あり。脚部は回転ナデで、直線的に広がる。	A 精緻。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰N6/		完形
第9図	13	周溝A群	須恵器	高杯	①13.2 受部径15.7 ②10.9 ③脚裾部径12.4	杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。脚部はやや外反しながり直線的に広がり、裾部から1/3上で段を有す。	A 砂粒を少し含む。 B ややあまいが、精緻。 C 内外灰白N7/		ほぼ完形
第9図	14	周溝A群	須恵器	高杯	①12.6 受部径15.6 ②11.1 ③12.2	杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面は当て具痕ナデ。脚部は回転ナデで、直線的に広がり、裾部近くで屈曲する。	A 精緻。白色砂粒含み、雲母片もわずかに含む。 B やや不良 C 外灰白5Y7/2、内灰白5Y7/1		完形
第9図	15	周溝A群	須恵器	高杯	①13.3 受部径15.7 ②12.2 ③12.3～12.6 ⑤脚裾部径12.7	杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。脚部は回転ナデで、やや外反しながり直線的に広がり、裾部から1/3上で段を有す。	A 精緻。砂粒わずかに含む。 B 良好 C 内外灰オリブ5Y6/2		ほぼ完形
第9図	16	周溝A群	須恵器	提瓶	①6.0 ②7.9 器長13.5	球形の胴部を作り、側面に穴をあけて口縁部を取り付け、胴部側面に円形の粘土板で蓋をする。胴部の平坦な面にはカキ目を施す。これと反対の面には円形に3本の沈線をし、沈線間に刺突文を施す。肩部に2ヶ所、角状の把手が付く。	A 精緻。砂粒含む。 B 良好 C 内外灰N6/～一部青灰5B5/	有	ほぼ完形
第10図	17	周溝B群	須恵器	杯蓋	①13.2 ②4.25	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、口縁端部に段あり。	A 白色・黄茶色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰白7.5Y7/、内明青灰5PB7/1		ほぼ完形
第10図	18	周溝B群	須恵器	杯蓋	①13.6 ②4.1	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、口縁端部に段あり。	A 白色・黄茶色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB6/1～青灰5B3/1、内青灰5PB6/1		ほぼ完形
第10図	19	周溝B群	須恵器	杯蓋	①13.4 ②4.4	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、口縁端部に段あり。	A 精緻。白色・黄茶色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 内外青灰5PB6/1		完形
第10図	20	周溝B群	須恵器	杯蓋	①12.1 ②5.35	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、カキ目を施す。天井部内面には当て具痕あり。天井部外面にはつまみを有す。口縁端部に段あり。	A 精緻。白色砂粒等を含む。 B 良好 C 内外青灰5PB6/1		ほぼ完形
第10図	21	周溝B群	須恵器	杯身	①11.8 受部径14.0 ②4.15	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。	A 白色・黄茶砂粒、石英質微砂粒を多く含む。 B 良 C 外灰N6/、内青灰5PB6/1		ほぼ完形
第10図	22	周溝B群	須恵器	杯身	①11.3 受部径13.6 ②4.6	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。	A 白色砂粒を含む。 B 不良 C 外緑灰7.5GY5/1、内暗緑灰7.5GY4/1		完形

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm)		形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘ ラ 記 号	残存
					①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※( )は復元					
第10図	23	周溝B群	須恵器	杯身	①11.5 受部径13.85 ②4.35		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N6/～暗青灰5B4/、内青灰5PB6/		完形
第10図	24	周溝B群	須恵器	短頸壺	①8.0 ②8.2 ③胴部最大径13.5		回転ナデ後回転ヘラケズリ。胴部上半にはカキ目を施す。口縁部は短く、直線的に立ち上がる。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰白5PB6/1		ほぼ完形
第10図	25	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(12.5) ②3.7		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒を少し含む。 B やや不良 C 外灰白N7/～黒褐10YR3/1わずかに自然釉あり、内灰N6/	有	口縁部1/4～天井部1/2、全体の2/5
第10図	26	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(12.8) ②(4.4)		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒を少し含む。 B 良好 C 内外灰白7.5Y7/1	有	口縁部1/6～天井部1/2弱
第10図	27	3区周溝	須恵器	杯身	①11.0 受部径12.9 ②4.7		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒を少し含む。 B 良好 C 外灰赤2.5YR5/2、内灰白N7/		約2/3
第10図	28	3区周溝	須恵器	高杯	①11.1 受部径13.4 ②11.9 ③脚幅部径10.5		杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。底部内面には当て具痕あり。脚部は回転ナデでカキ目を施し、やや外反しながら直線的に広がり、裾部から1/3上で段を有す。	A 砂粒を少し含む。 B 良好 C 外青灰5PB5/1～青黒5PB2/1、内青灰5PB5/1		口縁部および脚幅部7/8
第10図	29	3区周溝	須恵器	小甕	①11.2 ②16.4 ③胴部最大径16.2		口頸部は回転ナデ、胴部外面はカキ目を施し、底部外面は回転ヘラケズリ。胴部内面は回転ナデ、底部内面は同心円当て具痕後ナデ。口縁端部の断面は方形で外面に段あり。	A 砂粒を少し含む。 B 良好 C 外暗灰N3/、内灰N5/		ほぼ完形
第10図	30	3区周溝	須恵器	短頸壺	①5.3 ②6.55 ③4.5 ④胴部最大径10.2		回転ナデ後回転ヘラケズリ。胴部上半と最大径部に沈線あり。口縁部は短く、直線的に立ち上がる。	A 白色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外オリブ黒7.5Y3/1～青灰5B6/1、内青灰5B6/1	有	口縁部5/6
第10図	31	3区周溝	須恵器	甕	①13.8 ②14.4 ③2.5 ④胴部最大径9.3		口縁部は回転ナデで、口縁～頸部外面に波状文を施す。口縁部から約1/6下に段を有する。胴部～底部は回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。胴部上半と最大径部に沈線あり。この沈線間に刺突文を施す。口縁部が最大径である。	A 精緻。灰白色砂粒を少し含む。 B 良好 C 外青灰5PB5/1、内灰黄2.5Y7/2～青灰5PB5/1		下半部完存
第10図	32	3区周溝	須恵器	平瓶	①6.0 ②16.9 ③胴部最大径21.0		口縁部は回転ナデ、胴部外面はカキ目、底部はナデである。胴部上面に凹形の蓋をして整形後、口縁部を取り付けている。	A 砂粒を多く含む。 B 良好 C 外灰N4/		ほぼ完形
第11図	33	3区周溝	須恵器	大甕	①31.8 ②69.4 ③胴部最大径50.3		口縁部は回転ナデで、口頸部外面の上位に1条の沈線、中位に2条の沈線を有し、この間に斜線文を施す。胴部～底部外面は平行タタキ目、内面は同心円当て具痕あり。胴部上半に最大径がある。	A 砂粒等をわずかに含む。 B 堅く良好。 C 内外灰N6/	有	ほぼ完形
第11図	34	3区周溝	須恵器	甕	①16.6 ②25.8 ③胴部最大径24.2		口縁部は回転ナデ、口縁端部に段あり。胴部から底部外面は平行タタキ目、胴部上半は平行タタキ目後カキ目を施す。胴部内面は上半が同心円、下半から底部は平行タタキ目の当て具痕あり。	A 砂粒をわずかに含む。 B 堅く良好。 C 内外暗灰N3/		口縁部4/5、体部3/4
第11図	35	3区周溝	須恵器	甕	①12.6 ②21.4 ③胴部最大径21.5		口縁部は回転ナデで、口縁端部外面下に突帯あり。胴部上半は内外面とも回転ナデ、外面の頸部近くにはわずかに刷毛目あり。胴部下半～底部外面は平行タタキ目、内面は同心円当て具痕あり。	A 砂粒を含む。 B 堅く良好。 C 外灰N6/～灰N4/、内暗灰N3/～灰N4/	有	ほぼ完形
第11図	36	3区周溝	須恵器	提瓶	①7.5 ②(14.8) 器長26.2 ③胴部最大径21.5		口縁部は回転ナデ後、カキ目を施す。胴部外面は回転ナデ後全体にカキ目を施す。胴部側面には凹形の粘土板を貼り付けた痕跡がある。	A 砂粒を含む。 B 堅く普通。 C 外灰N5/～黒N2/、内灰N6/		胴部4/5～天井部1/2
第11図	37	3区周溝	須恵器	小壺	①3.8 ②4.55 ③胴部最大径5.5		短頸壺の小型品。回転ナデ後底部外面をヘラケズリ。	A 砂粒を含む。 B 堅く普通。 C 内外5B6/1		完形
第11図	38	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.8) 受部径(14.35) ②4.15		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒・微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N5/、内灰白N7/	有	2/3
第12図	39	3区周溝	須恵器	杯蓋	①14.2 ②4.7		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、内面天井部には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境にゆるい沈線状の段あり。口縁端部に段あり。	A 白灰色微砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外青灰5PB6/1		2/3
第12図	40	3区周溝	須恵器	杯蓋	①14.3 ②3.95		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、内面天井部には当て具痕あり。口縁端部に段あり。	A 精緻。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1～赤灰10R6/1		2/3
第12図	41	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.4) ②4.15		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒ほとんど含まず精緻。 B 良好 C 内外灰N6/	有	1/3強
第12図	42	3区周溝	須恵器	杯蓋	①12.8 ②3.0		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B やや不良 C 外黒N2/～灰白5Y7/1、内灰白5Y7/1		3/4
第12図	43	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(12.9)		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒を多く含む。 B やや不良 C 内外灰10Y6/1		口縁部片
第12図	44	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.2)		回転ナデ。	A 砂粒わずかに含む。 B 良好 C 外灰白7.5Y7/、内灰白7.5Y7/～暗灰N3/		口縁部1/3

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘ ラ 記 号	残存
第12図	45	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.8)	回転ナデ。	A 灰白色砂粒わずかに含み精緻。 B やや不良 C 内外灰白10Y7/～灰10Y6/		約1/2弱
第12図	46	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(12.6)	回転ナデ。外面の口縁部と体部の境にゆるい沈線状の段あり。口縁端部に段あり。	A 精緻。灰色・灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰N5/		口縁部片
第12図	47	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.9)	回転ナデ。外面の口縁部と体部の境にゆるい沈線状の段あり。体部外面に刺突文を施す。	A 砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 内外灰N5/		口縁部1/4
第12図	48	3区周溝	須恵器	杯蓋		回転ナデ。外面の口縁部と体部の境にゆるい沈線状の段あり。口縁端部に段あり。	A 砂粒を含まず精緻。 B 良好 C 内外灰N5/		口縁部片
第12図	49	3区周溝	須恵器	杯身	①12.0 受部径13.9 ②3.9	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 灰白・乳灰色砂粒を含むが精緻。 B 不良 C 外にふい赤褐5YR5/4、内橙5YR6/6	有	ほぼ完形
第12図	50	3区周溝	須恵器	杯身	①10.9 受部径12.9 ②3.55 ③3.5	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外 褐 灰 10YR6/1 ～ 黒 N2/、内 灰 N4/1	有	ほぼ完形
第12図	51	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.4) 受部径(13.6) ②3.6	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒ほとんど含まず精緻。 B 良好 C 外灰10Y5/1～灰N5/、内灰10Y5/1	有	底部1/2
第12図	52	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.0) 受部径13.1 ②3.55	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含むが、精選。 B 良好 C 外青黒5B2/1、内灰7.5Y6/1	有	1/4
第12図	53	3区周溝	須恵器	杯身	①12.3 受部径14.3 ②3.55	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰白N7/～7.5Y7/1、内灰N5/	有	2/3
第12図	54	3区周溝	須恵器	杯身	①(12.55) 受部径(14.7)	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良 C 内外青灰5PB5/1		2/3
第12図	55	3区周溝	須恵器	杯身	①11.3 受部径13.9 ②3.1 ③5.7	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒含まない。 B 良好 C 外灰白5Y7/1、内暗灰N3/～灰N5/		ほぼ完形
第12図	56	3区周溝	須恵器	杯身	①(12.7) 受部径14.6 ②4.2	回転ナデ。	A 砂粒を含むが精緻。 B 良好 C 外灰オリーブ5Y6/2、内灰5Y6/1		1/2
第12図	57	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.1) 受部径(13.4)	回転ナデ。	A わずかに砂粒を含むが精選。 B やや不良 C 内外青灰5PB5/1		口縁部1/6
第12図	58	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.9) 受部径(14.0)	回転ナデ。	A 砂粒含まない。 B 良好 C 内外灰白5Y7/1～灰N5/		口縁部片
第12図	59	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.0) 受部径(13.4)	回転ナデ。	A 砂粒含まない。 B 良好 C 内外青灰5B6/1		口縁部1/6
第12図	60	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.9) 受部径(14.0)	回転ナデ。	A わずかに砂粒はあまり含まず精緻。 B やや不良 C 内外青灰5B6/1		口縁部1/2
第12図	61	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.5) 受部径(14.4)	回転ナデ。	A わずかに砂粒はあまり含まず精緻。 B やや不良 C 外青灰5PB5/1～暗青灰5PB4/1、内暗青灰5PB4/1		口縁部1/8
第12図	62	3区周溝	須恵器	杯身	①受部径(13.4)	回転ナデ。	A 精緻。砂粒わずかに含む。 B 良 C 内外灰5Y6/		受部片
第12図	63	3区周溝	須恵器	高杯	①(11.3) ③脚裾部径(9.2)	口縁部は回転ナデ、口縁部と体部の境に2条、体部と底部の境に1条沈線あり。体部外面には刺突文、底部外面にはカキ目を施す。脚部は回転ナデ後外面はカキ目。3方向に1段透孔があるが、孔の上1/3は切り込みのみ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/～N6/、内灰N6/		1/2
第12図	64	3区周溝	須恵器	高杯	①(11.35) ②14.1 ③脚裾部径(9.2)	口縁部は回転ナデ、口縁部と体部の境に2条、体部と底部の境に1条沈線あり。体部外面には刺突文、底部外面にはカキ目を施す。脚部は回転ナデ後外面はカキ目。3方向に2段透孔がある。脚裾部の器厚は薄く、外反する。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外 暗 青 灰 5PB4/1 ～ 褐 灰 10YR6/1、内暗青灰5PB4/1		1/2
第12図	65	3区周溝	須恵器	高杯	①(10.8)	口縁部は回転ナデ、口縁部と体部の境及び体部と底部の境に1条突帯あり。体部外面には刺突文を施す。	A 砂粒を含まず精選され良好。 B 良好 C 外黒N2/～灰白7.5Y7/2、内黒N2/		口縁部1/4
第12図	66	3区周溝	須恵器	高杯	③脚裾部径(9.6)	回転ナデ。脚裾端部は中央が窪んでいる。	A 砂粒を含まず精緻。 B 良好 C 外灰白7.5Y7/2、黒N2/		脚裾部片
第12図	67	3区周溝	須恵器	高杯	①(11.6)	回転ナデ。体部に3条のゆるい沈線あり。	A 精緻。砂粒含まない。 B 良好 C 内外暗灰N3/～灰白7.5Y7/1		口縁部片
第13図	68	3区周溝	須恵器	短頸壺	①6.4 ②7.8 ⑤胴部最大径11.7	回転ナデ後回転ヘラケズリ。胴部下半～底部内面には同心円の当て具痕あり。胴部上半に最大径があり屈曲し、沈線を施す。口縁部は短く、直線的に立ち上がる。外面には自然釉が付着する。	A 精緻。わずかに砂粒を含む。 B やや不良 C 外オリーブ黒5Y3/1～灰白5Y7/1、内灰N6/		口縁部1/2、 体部9/10

挿図番号	遺物番号	遺構(出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ記号	残存
第13図	69	3区周溝	須恵器	短頸壺	①8.0 ②7.1 ③3.4 ⑤胴部最大径12.5	回転ナデ後回転ヘラケズリ。口縁部は短く、直線的に立ち上がる。	A 白色・白灰色石英質砂粒を含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1～青灰5PB6/1、内青灰5PB6/1		ほぼ完形
第13図	70	3区周溝	須恵器	壺	①(10.6)	回転ナデ。	A わずかに砂粒を含む。 B 堅く良好。 C 外暗青灰5PB4/1、内灰オリーブ5Y6/2		口縁部1/4
第13図	71	3区周溝	須恵器	甕	①(15.0)	回転ナデ。口縁部外面に小突帯あり。	A わずかに砂粒を含む。 B 堅く良好。 C 内外暗灰N3/～灰5Y6/1		口縁部の一部
第13図	72	3区周溝	須恵器	甕	①(16.0)	回転ナデ。口縁部外面に小突帯あり。頸部はカキ目を施す。	A 砂粒を含む。 B 精緻であるがまい。 C 内外灰白5Y7/1		口縁部の一部
第13図	73	3区周溝	須恵器	甕	①(23.0)	口縁部は回転ナデ。胴部外面は平行タタキ目、内面は同心円当て具痕あり。	A 砂粒を含む。 B 堅く普通。 C 外青灰5B5/1～暗青灰5B3/1、内暗青灰5B4/1		口縁部1/6
第13図	74	3区周溝	須恵器	甕		頸部内面は回転ナデ、頸部外面は波状文を施す。	A 砂粒をわずかに含む。 B 精緻で堅い。 C 内外灰N5/		口頸部片
第13図	75	3区周溝	須恵器	甕	⑤胴部最大径10.15	回転ナデ後回転ヘラケズリ。胴部上半に2条、最大頸部のやや下に1条沈線を施し、この間に刺突文あり。	A 灰白色砂粒を少し含む。 B 精緻で堅い。 C 外灰N4/、内青灰5B5/1		胴部1/3～底部
第13図	76	3区周溝	須恵器	提瓶	②(胴部器高)(11.7) 頸部径(4.0) 胴部径15.1	胴部外面は全体的にカキ目を施す。胴部の片方の側面には円形の粘土板で蓋をした痕跡あり。肩部に把手が付かない。	A 精緻。砂粒を含む。 B 良好 C 外灰N6/～黄灰6/～黄灰2.5Y5/1、内灰N5/。		約3/5
第13図	77	3区周溝	須恵器	提瓶		胴部の平坦面外面は回転ヘラケズリ、内面はナデと指頭圧痕がある。胴部の球形面内面は回転ナデ、外面にはカキ目を施す。肩部に角状の把手が付く。	A 灰色砂粒を含むが精緻。 B 良好 C 外青灰5B6/1、内暗青灰5B4/1		胴部1/3～底部
第14図	78	墓道上層	須恵器	杯蓋	①12.2 ②3.9	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒わずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/～灰白N7/、内灰N6/	有	ほぼ完形
第14図	79	墓道上層	須恵器	杯蓋	①13.4 ②3.4	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 微砂粒をわずかに含むが精緻。 B やや不良 C 外青黒5B2/1～灰N6/、内青灰5PB5/1	有	ほぼ完形
第14図	80	墓道上層	須恵器	杯蓋	①(13.6) ②3.7	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含むが、精緻である。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1	有	1/2
第14図	81	墓道上層	須恵器	杯蓋	①(13.2)	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒含まず精緻。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1		口縁部1/8
第14図	82	墓道上層	須恵器	杯蓋	①(13.0)	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒含まず精緻。 B 不良 C 内外浅黄橙10YR8/4	有	1/6
第14図	83	墓道上層	須恵器	杯蓋		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒あまり含まず良好。 B 不良 C 内外にぶい黄橙10YR7/4	有	底部1/2
第14図	84	墓道上層	須恵器	杯身	①11.1 受部径12.7 ②4.1	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒あまり含まず精緻。 B やや不良 C 外オリーブ灰5Y5/2、内灰5Y6/1	有	ほぼ完形
第14図	85	墓道上層	須恵器	杯身	①(10.7) 受部径(12.4) ②3.4	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒をほとんど含まず精緻。 B 不良 C 内外にぶい黄橙10YR7/3	有	1/5
第14図	86	墓道上層	須恵器	杯身	①(11.8) 受部径(14.0) ②[3.55]	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.5Y5/1、内灰N6/	有	約1/2
第14図	87	墓道上層	須恵器	杯身	①(10.5) 受部径(12.2)	回転ナデ。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1		1/4
第14図	88	墓道上層	須恵器	杯身	①(10.8) 受部径(13.0) ②3.35	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。わずかに微砂粒を含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1、内青灰5PB5/1	有	1/4
第14図	89	墓道上層	須恵器	杯身	①(12.9) 受部径(15.4) ②4.45	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。口縁端部に段あり。	A 精緻。白色・灰白色砂粒を多く含む。 B やや不良 C 外黄灰2.5Y6/1、内青灰5B6/1		1/4
第14図	90	墓道上層	須恵器	杯身	①(12.0) 受部径(13.8)	回転ナデ。口縁端部に段あり。	A 砂粒含まず精緻。 B やや不良 C 内外青灰5PB5/1		口縁部1/4
第14図	91	墓道上層	須恵器	杯身	①(11.7) 受部径(14.0)	回転ナデ。	A 精緻。砂粒わずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1		1/8
第14図	92	墓道上層	須恵器	壺	①(11.2) 頸部径(7.9) ②20.4 ⑤胴部最大径22.75	口縁部は回転ナデ、口縁部外面に突帯あり。胴部～底部内面は回転ナデ。胴部上半はカキ目を施す。胴部下半～底部は回転ヘラケズリ後、底部と胴部の境に平行タタキ目あり。	A 砂粒ほとんど含まず精緻。 B 良好 C 外黒褐2.5Y3/1～灰白2.5Y7/1、内黒褐2.5Y3/1～灰N4/	有	3/4
第14図	93	墓道上層	須恵器	小壺	①4.5 頸部径4.1 ②6.5 ③4.8 ⑤胴部最大径7.9	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。胴部上半に沈線を3条施す。	A 白色砂粒等を含むが精緻。 B 良好 C 外灰白N7/～暗灰N3/、内灰N6/	有	ほぼ完形

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調	ヘラ 記号	残存
第14図	94	墓道上層	須恵器	甕	①(10.8)	回転ナデ。	A 砂粒を含まない。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1、内暗灰N3/		1/4
第15図	95	墓道	須恵器	杯蓋	①(12.5) ②(3.1)	回転ナデ。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段あり。	A 精緻。微砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外灰N5/		口縁部1/6
第15図	96	墓道	須恵器	杯身	①(12.5) 受部形(14.9) ②2.95	回転ナデ後外面はヘラケズリ。	A 精緻。砂粒を含む。 B 良好 C 内外灰N5/		1/6
第15図	97	墓道	須恵器	椀	①13.8 ②8.3	回転ナデ後外面は胴部下半～底部はヘラケズリ。	A 砂粒を含むが精緻。 B やや不良 C 外灰5Y6/～灰白5Y7/、内灰5Y6/		ほぼ完形
第15図	98	墓道	須恵器	大甕	①(45.5) ②(15.8)	回転ナデ。頸部を沈線と突帯で3段に区分した上位2段に斜線文を施す。	A 精緻。砂粒を多く含む。 B 良好 C 外暗灰N3/、内灰白5Y7/2～オーリーブ黒5Y3/2		口縁部1/5
第15図	99	墓道	須恵器	杯蓋	①(14.1) ②4.75	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段あり。口縁部内面に沈線あり。	A 精緻。白色砂粒・微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外オーリーブ灰2.5GY6/1		2/3
第15図	100	墓道	須恵器	杯蓋	①13.2 ②4.4	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段あり。口縁部に段あり。	A 砂粒等を含まない。 B やや不良 C 内外灰5Y6/1		ほぼ完形
第15図	101	墓道	須恵器	杯蓋	①12.55 ②5.3 ツマミ部径3.3	回転ナデ後天井部外面はカキ目を施す。口縁部と体部の境に段あり。天井部につまみあり。	A 白色・灰色質砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰N5/～N7/、内青灰5B6/		1/2
第15図	102	墓道	須恵器	高杯	①11.0 受部形13.35	回転ナデ後回転ヘラケズリ。底部内面に当て具痕あり。	A 微砂粒を含むが精緻。 B 良好 C 内外灰7.5Y6/1		杯部のみ 完存
第15図	103	墓道	須恵器	杯身	①12.2 受部径14.6 ②4.3	回転ナデ後回転ヘラケズリ。底部内面に当て具痕あり。	A 精緻。微砂粒を含む。 B 良好 C 外灰N6/、内オーリーブ灰5GY6/1		完形
第15図	104	墓道	須恵器	杯身	①(11.7) 受部径(14.2) ②3.7	回転ナデ後回転ヘラケズリ。底部内面に当て具痕あり。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 良好 C 外灰N6/、内灰白N7/		1/3
第15図	105	墓道	須恵器	杯身	①(9.6) 受部径(11.3)	回転ナデ。	A 砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外灰5Y5/1		口縁部1/8
第15図	106	墓道	須恵器	甕	①(24.8)	口縁部は回転ナデ。胴部外面は平行タタキ目、内面は同心円当て具痕あり。	A 白色砂粒を含む。 B やや不良 C 外灰白5Y7/2～灰5Y6/1、内灰白5Y7/1～灰5Y6/1		口縁部1/3～ 肩部一部
第15図	107	墓道	須恵器	甕		胴部下半～底部外面は平行タタキ目、内面は同心円当て具痕あり。	A 砂粒を含まず精緻。 B 良好 C 外灰N4/～灰白5Y7/2～底部はにぶい黄2.5Y6/3、内青灰5B5/1		底部片
第15図	108	墓道	須恵器	杯身	①11.1 受部径13.5 ②3.6	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 微砂粒をわずかに含み精緻。 B 良好 C 外暗灰N3/、内青灰5PB5/1	有	1/2
第15図	109	墓道	須恵器	甕	③1.4 ⑤胴部最大径8.6	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。穿孔の上下に沈線あり。	A 微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1	有	体部 ほぼ完存
第15図	110	墓道	須恵器	短頸壺	①(3.8) ②6.2 ⑤胴部最大径6.5	回転ナデ後底部～胴部下半外面はヘラケズリ。胴部最大径部に2条沈線あり。	A 微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰N5/		3/4
第15図	111	墓道	須恵器	杯蓋	①13.4 ②4.25	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含み精緻。 B 不良 C 内外淡黄2.5Y8/3	有	ほぼ完存
第15図	112	墓道	須恵器	杯蓋	①12.5 ②3.8	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒を含むが精緻。 B やや不良 C 外にぶい橙5YR6/4～浅黄橙7.5YR8/6、内にぶい橙7.5YR7/4	有	3/4
第15図	113	墓道	須恵器	杯蓋	①13.5 ②4.3	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A わずかに砂粒を含むが精緻。 B やや不良 C 内外にぶい黄橙10YR7/4	有	ほぼ完形
第15図	114	墓道	須恵器	杯蓋	①13.0 ②4.45	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まず精緻。 B 不良 C 外淡黄2.5Y8/3、内浅黄2.5Y7/4	有	ほぼ完存
第16図	115	墓道	須恵器	杯身	①12.1 受部径13.75 ②3.5	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒を含む。 B 不良 C 外にぶい赤褐2.5YR5/4、内にぶい橙7.5YR7/4	有	底部～ 口縁部3/4
第16図	117	墓道	須恵器	杯身	①11.5 受部径13.9 ②4.0	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 堅く精緻。 C 外オーリーブ灰2.5GY6/1～一部暗紫灰5P4/1、内暗紫灰5RP4/1	有	完形
第16図	118	墓道	須恵器	杯身	①11.1 受部径13.5 ②4.2	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB6/1	有	完存
第16図	119	墓道	須恵器	杯身	①12.8 受部径14.8 ②3.85	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 内外明黄褐2.5Y7/6	有	ほぼ完存



挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm)		形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
					①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元					
第16図	116	墓道	須恵器	杯身	①11.6 受部形13.65 ③3.45		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒を含むが精緻。 B 良好 C 外にぶい赤褐5YR5/4、内にぶい橙 5YR6/4	有	1/2
第16図	120	墓道	須恵器	杯蓋	①13.0 ②4.45		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒・微砂粒をわずかに 含む。 B 良好 C 外黒褐7.5YR3/1、内灰5Y5/1	有	完形
第16図	121	墓道	須恵器	杯身	①11.7 受部径13.8 ②4.1		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N6/～暗灰N3/、内灰7.5Y5/	有	完形
第17図	122	前庭部	須恵器	杯蓋	①(12.8) ②3.35		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 黒色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰黄2.5Y7/2～黒2.5Y2/1、内灰 青5PB6/1	有	口縁部1/4、 天井部
第17図	123	前庭部	須恵器	蓋	①(8.5) ②2.4		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 灰色等砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/、内青灰5PB5/1		口縁部1/3
第17図	124	前庭部	須恵器	蓋	①7.3 ②2.65		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外青灰5B6/1、内青灰5PB5/1	有	完形
第17図	125	前庭部	須恵器	杯身	①12.3 受部径14.3 ②3.85		回転ナデ後外面はヘラケズリ。	A 精緻。砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 外青灰5PB6/1、内明青灰 7/1	有	5/6
第17図	126	前庭部	須恵器	杯身	①(10.8) 受部径(13.15)		回転ナデ。	A 砂粒等を含む。 B 良 C 外青灰5PB5/1～暗青灰5B3/1、内 青灰5PB5/1		口縁部1/3
第17図	127	前庭部	須恵器	小壺	①(6.3) 頸部径(4.55) ②8.5 ⑤胴部最大径9.8		回転ナデ後胴部下半～底部外面はヘラケズリ。 胴部上半外面はカキ目を施す。底部内面に指 頭痕あり。口縁部は短く外反する。	A 精緻。微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1～黄灰2.5Y6/1、 内暗青灰5PB4/1	有	口縁部1/6、 体部2/3
第17図	128	墳丘上層	須恵器	杯蓋	①(13.4) ②4.4		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まない。 B 不良 C 内外浅黄橙10YR8/4		3/5
第17図	129	墳丘上層	須恵器	杯蓋	①(13.3) ②4.2		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まず精緻。 B やや不良 C 外黒褐7.5YR3/1、内灰赤2.5YR4/2	有	口縁部1/3
第17図	130	墳丘上層	須恵器	杯蓋	①12.6 ②4.0		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まず精緻。 B 不良 C 外にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐 10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/3	有	口縁部2/3
第17図	131	墳丘上層	須恵器	杯蓋	①(13.5)		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 白色・灰白色砂粒を含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1、内青灰5B5/1		口縁部1/4
第17図	132	墳丘上層	須恵器	杯蓋	①13.2		回転ナデ。	A 砂粒あまり含まず精緻。 B 良好 C 外暗青灰5PB3/1、内灰N5/		口縁部2/3
第17図	133	墳丘上層	須恵器	杯身	①(11.6) 受部径(13.3)		回転ナデ。	A 精緻。灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/、内灰N4/		口縁部1/3
第17図	134	墳丘上層	須恵器	高杯	③脚裾部径(10.2)		回転ナデ。脚部に段あり。	A 砂粒あまり含まず精緻。 B 良好 C 外黒褐10YR3/1、内褐灰10YR4/1		脚裾部1/3
第17図	135	墳丘表土	須恵器	小壺	①3.6 ②4.3 ⑤胴部最大 径5.8		回転ナデ後、胴部下半～底部外面は回転ヘラ ケズリ。	A 精緻。砂粒等はほとんど含まない。 B 良好 C 内外灰N5/	有	完形
第17図	136	墳丘上層	須恵器	小壺	⑤胴部最大径(11.15)		回転ナデ後胴部下半～底部外面は回転ヘラケ ズリ。胴部上半外面はカキ目を施す。胴部最 大径に2条沈線あり。	A 砂粒を含まない。 B 良好 C 外灰白7.5Y7/～灰N4/～黒N2/ 内灰白7.5Y7/～灰7.5Y4/	有	胴部～底部 1/3
第17図	137	墳丘上層	須恵器	甕	①(25.2) 頸部径(19.2) ②[16.5]		口頸部は回転ナデ、胴部外面は平行タタキ目 後にカキ目を施す。胴部内面は同心円の当て 具痕あり。	A 精緻。微砂粒を含む。 B やや不良 C 内外灰N6/		胴部片、 口縁部片
第17図	138	墳丘上層	須恵器	大甕	①(36.2) 頸部径(28.8)		口頸部は回転ナデ、胴部外面は平行タタキ目、 内面は同心円の当て具痕あり。	A 黒灰色砂粒を含む。 B 良好 C 外灰白2.5Y7/1、内黄灰2.5Y6/1		口縁部片
第18図	139	1区墳裾	須恵器	杯蓋	①(14.6) ②4.0		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。口縁部と 体部の境に沈線あり。	A 精緻。白色砂粒多く含む。 B やや不良 C 外暗青灰5PB4/1、内青灰5PB5/1		2/3
第18図	140	2区墳裾	須恵器	杯身	①(12.0) 受部径14.2 ②4.2		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A わずかに白色砂粒を含む。 B 良好 C 外黒N2/、内灰白7.5Y7/1～暗灰 N3/		口縁部1/4
第18図	141	3区墳裾	須恵器	甕	①(24.0)		回転ナデ。	A 灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰N6/、内黄灰2.5Y6/1～黒N2/		口縁部1/7
第18図	142	3区墳裾	須恵器	直口壺	①(8.3) 頸部径(7.9)		回転ナデ後、口頸部外面はカキ目を施す。口 縁部は直行である。	A 微砂粒等をほとんど含まず精緻。 B やや不良 C 外暗青灰5PB4/1、内灰5Y6/1		口縁部1/2
第18図	143	2区墳裾	須恵器	大甕			回転ナデ。頸部を沈線と突帯で3段に区分し た上位2段に斜線文を施す。	A 黒色砂粒・微砂粒を含む。 B やや良 C 外灰黄2.5Y7/2、内暗灰N3/		口縁部片

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm)		形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
					①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元					
第18図	144	2区墳裾	須恵器	大甕	①22.1 ⑤胴部最大径 (41.9)		口縁部は回転ナデ。口縁部外面に1条突帯がある。胴部外面は平行タタキ目後、カキ目を施す。内面は同心円当て具痕あり。	A 砂粒等を含むが、甕にしては少量。 B 良好 C 外灰N6/、内灰N6/～暗灰N3/		1/3
第18図	145	1・2号墳 間ベルト外 溝下層	須恵器	杯蓋	①(12.5)		回転ナデ後外面はヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外暗青灰5PB4/1		口縁部1/3
第18図	146	1・2号墳 間トレ南側 墳丘埋土中	須恵器	蓋	①7.0 ②2.3		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A ごくわずかに砂粒を含む。 B 良好 C 外灰N4/、内暗青灰5PB4/1	有	完形
第18図	147	1・2号墳 間ベルト外 溝下層	須恵器	小壺	①3.7 ②4.0 ⑤胴部最大径7.2		回転ナデ後、胴部下半～底部は回転ヘラケズリ。口縁部は短く立ち上がる。	A 白・灰色砂粒を含む。 B 良好 C 外暗灰N3/、内青灰5PB5/1	有	ほぼ完形
第18図	148	1・2号墳 東斜面	土師器	高杯				A 黒色砂粒 (角閃石か)・灰白色石英砂粒をわずかに含む。 B 良 C 内外橙5YR7/6		脚部1/3
第18図	149	周溝～ 墓道付近	須恵器	杯蓋	①13.6 ②3.6		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒等含まず精緻。 B やや不良 C 外暗青灰5PB4/1～灰5Y6/1内灰5Y6/1	有	2/3
第18図	150	盗掘穴	須恵器	杯蓋	①(14.2)		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。口縁部と体部の境に沈線あり。口縁部に段あり。	A 精緻。微砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 内外青灰5PB6/1		口縁部1/8
第18図	151	盗掘穴	須恵器	杯身	①(12.2) 受部径(14.5) ②4.2		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外暗青灰5B4/、内青灰5B6/1	有	口縁部1/9・ 全体の1/2
<b>2号墳</b>										
第23図	1	玄室	須恵器	杯蓋	①(11.15)		回転ナデ。	A 砂粒を含まず精緻。 B 良好 C 内外褐灰10YR6/1		口縁部1/7
第23図	2	3区周溝	須恵器	脚付腕	①(13.8) ⑤胴部最大径(15.3) 脚基部径3.8		腕部は回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ後カキ目を施す。腕部には2条の沈線が2ヶ所にある。脚部は回転ナデである。	A 砂粒を含まず精緻。 B 良好 C 外暗青灰5PB3/1～灰白5Y7/1、内暗青灰5PB4/1～灰白5Y7/1	有	1/3
第23図	3	墓道A群	須恵器	杯蓋	①(9.8) 受部径11.2		回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰N6/、内灰白5Y7/1		1/4
第23図	4	墓道B群	須恵器	杯蓋	①13.6 ②3.4		回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外暗灰N3/～褐灰10YR4/1～青灰5B6/1、内赤灰2.5YR4/1	有	ほぼ完形
第23図	5	墓道B群	須恵器	杯蓋	①(13.0)		回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 灰色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外青灰5PB6/1、内明青灰5PB7/1	有	1/2
第23図	6	墓道B群	須恵器	杯蓋	①8.1 受部径10.15 ②3.45		回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 灰色微砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰N5/～暗灰N3/、内紫灰5P5/1～暗青灰5PB4/1	有	ほぼ完形
第23図	7	墓道B群	須恵器	高杯	①9.8 ②7.6 ③脚部径7.4		つまみを有する蓋で、回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 白色・白灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外褐灰7.5YR4/1～黒N1.5/		ほぼ完形
第23図	8	墓道B群	須恵器	杯身	①11.0 受部径13.0 ②3.7		杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。脚部は回転ナデで、直線的に広がり、裾部近くで屈曲する。	A 灰色微砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外青灰5PB6/1～灰N7/、内灰N6/	有	3/4
第23図	9	墓道B群	須恵器	平瓶	①5.5 ②14.25 ③4.5 ⑤胴部最大径16.3		回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 灰色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 内外灰5Y6/1		ほぼ完形
第23図	10	墓道C群	須恵器	杯蓋	①13.8 ②3.55		口縁部は回転ナデ、底部外面は回転ヘラケズリ。胴部の上部は円形の粘土板で蓋をした痕跡あり。	A 灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良 C 外暗灰N3/～褐灰7.5YR5/1～灰5Y6/1、内灰N4/	有	3/4
第23図	11	墓道C群	須恵器	杯蓋	①12.0 ②3.5		回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1～灰7.5Y6/1、内灰N5/	有	ほぼ完形
第23図	12	墓道C群	須恵器	杯蓋	①12.25 ②4.1		回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1	有	ほぼ完形
第23図	13	墓道C群	須恵器	杯蓋	①(14.3) ②4.2		回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒等をほとんど含まない。 B やや不良 C 外灰5Y6/1、内灰白5Y7/1		1/2
第23図	14	墓道C群	須恵器	杯蓋	①11.0 ②2.4		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外灰5Y6/1、内灰白5Y7/1		ほぼ完形
第24図	15	墓道C群	須恵器	杯蓋	①(12.7)		回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N4/、内灰N6/	有	1/3
第24図	16	墓道C群	須恵器	杯身	①11.4 受部径13.2 ②3.7			A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.5Y6/1～灰白N7/、内灰N6/	有	ほぼ完形

挿図番号	遺物番号	遺構(出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ記号	残存
第24図	17	墓道C群	須恵器	杯身	①10.5 受部径13.15 ②3.9		A 精緻。白色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外 淡灰10Y7/1～灰10Y6/1、内灰7.5Y5/1	有	ほぼ完形
第24図	18	墓道C群	須恵器	杯身	①11.3 受部径13.9 ②3.5 ③6.45		A 精緻。白・灰色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外 オリーブ灰2.5GY6/1、内灰白7.5Y7/1	有	ほぼ完形
第24図	19	墓道C群	須恵器	杯身	①(12.2) 受部径14.6 ②3.8 ③(5.5)		A 精緻。灰・白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外 灰10Y6/1、内灰白10Y8/1	有	1/2
第24図	20	墓道C群	須恵器	杯身	①11.2 受部径13.5 ②3.55		A 精緻。白・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外 灰白7.5Y7/1～灰N4/、内青灰5PB5/1	有	3/4
第24図	21	墓道C群	須恵器	杯身	①10.55 ②3.9	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ、体部外面はカキ目を施す。体部外面に沈線が1条ある。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 外 灰白2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2	有	5/6
第24図	22	墓道C群	須恵器	大甕	①35.4	回転ナデ後頸部外面にカキ目。頸部を沈線で2段に区分した上段に斜線文を施す。頸部内面下半はヘラ状後工具によるヨコナデか。	A 灰色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外 暗青灰5B4/1～紫灰5RP5/1、内青灰5B5/1		後頸部～頸部のみ
第24図	23	墓道C群	須恵器	高杯	①8.35 ②10.9 ③脚裾部径(7.5)	杯部、脚部とも回転ナデ。杯部外面には4条、脚部外面には3条の沈線がある。	A 精緻。灰・白色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外 暗 灰N3/～ 灰10Y6/1、内 灰7.5Y6/1～オリーブ黒10Y3/1	有	杯部完存～脚部1/2
第24図	24	墓道C群	須恵器	高杯	①(10.6) ③脚裾部径8.5	杯部、脚部とも回転ナデ。杯部外面には2条の沈線があり沈線より下部にはカキ目あり。脚部外面には3条の沈線が螺旋状にある。	A 精緻。灰・白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外 灰褐7.5YR5/2、内 灰褐7.5YR5/1	有	口縁部1/4、脚裾部2/3
第24図	25	墓道C群	須恵器	甕	①10.1	口頸部は回転ナデ、口縁部外面には2条の沈線がある。	A 精緻。灰・白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外 灰7.5Y6/1、内灰10Y6/1		3/4
第24図	26	墓道C群	須恵器	甕	①6.6 頸部径2.2 ②9.2 ⑤最大胴部径6.65	口縁部は回転ナデで、外面に2条の沈線を施す。胴部～底部外面は回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。胴部の上半に2条沈線あり。この沈線間に刺突文を施す。最大径は胴部にある。	A 白灰色微砂粒を多く含む。 B 良好 C 外 青黒5PB2/1、内灰7.5Y4/1		ほぼ完形
第24図	27	墓道C群	土師器	甕	①15.8 ②24.9 ⑤胴部最大径23.2	口縁部は短く、やや外反し立ち上がる。口縁部内面はヨコハケ。胴部～底部内面はヘラケズリ後ナデ。胴部外面は縦刷毛で、胴部上半は左上がりのハケ目を施す。	A 白色・石英質砂粒をわずかに含む。 B ややあまい。 C 内外にぶい黄橙10YR7/4		ほぼ完形
第25図	28	墓道D群	須恵器	杯蓋	①13.3 ②3.6	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。体部外面に2条の沈線あり。	A 白色砂粒をやや多く含む、良好。 B 良好 C 内外 灰10YR4/1		ほぼ完形
第25図	29	墓道D群	須恵器	杯蓋	①13.4 ②4.05	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒をやや含むが精緻。 B 良好 C 外 黄 灰 2.5Y5/1～ に ぶい 褐 7.5YR6/3、内オリーブ灰2.5GY6/1	有	ほぼ完形
第25図	30	墓道D群	須恵器	杯蓋	①12.4 ②4.3	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒をやや含むが精緻。 B 良好 C 内 暗 青 灰 5PB4/1	有	ほぼ完形
第25図	31	墓道D群	須恵器	杯蓋	①12.9 ②3.9	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 微砂粒をやや含むが精緻。 B 良好 C 外 暗 青 灰 5PB4/1～ 灰 N6/、内 灰 N6/	有	ほぼ完形
第25図	32	墓道D群	須恵器	杯蓋	①(9.8) 受部径(11.8) ②[3.05]	回転ナデ。	A 微砂粒をやや含むが精緻。 B 良好 C 外 灰白5Y7/2～青黒5B1.7/1、内暗青灰5PB3/1		口縁部1/3
第25図	33	墓道D群	須恵器	杯蓋	①9.0 受部径10.8 ②3.95	つまみを有する蓋で、回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリし、カキ目を施す。	A 白色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外 暗 灰 N3/～ 灰 N6/～ 褐 灰 10YR5/1、内 褐 灰 10YR5/1	有	ほぼ完形
第25図	34	墓道D群	須恵器	杯蓋	①10.1 受部径10.1 ②3.2	つまみを有する蓋で、回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外 灰 10YR5/1、内 褐 灰 10YR4/1	有	ほぼ完形
第25図	35	墓道D群	須恵器	杯蓋	①8.8 受部径10.8 ②3.9	つまみを有する蓋で、回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外 褐 灰 5YR6/1～黒褐 5YR3/1、内 暗 灰 N3/	有	ほぼ完形
第25図	36	墓道D群	須恵器	杯身	①9.4 ②3.6	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。体部に1条の沈線あり。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外 黒 7.5YR1.7/1～褐 灰 7.5YR5/1、内 褐 灰 7.5YR5/1	有	ほぼ完形
第25図	37	墓道D群	須恵器	杯身	①9.4 ②3.45	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外 褐 灰 10YR5/1	有	完形
第25図	38	墓道D群	須恵器	杯身	①11.6 受部径14.0 ②3.7	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 灰色・白色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 外 灰 N4/1～ 灰 N6/、内 褐 灰 10YR4/1	有	完形

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
第25図	39	墓道D群	須恵器	杯身	①11.7 受部径14.1 ②3.7	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外暗灰黄2.5Y5/2～灰N4/、内灰5Y5/1	有	完形
第25図	40	墓道D群	須恵器	長頸壺	①5.6 頸部径3.7 ②15.7 ⑤胴部最大径9.0	口縁～頸部は回転ナデ。口縁部外面に2条の沈線あり。胴部下半から底部外面は回転ヘラケズリ。胴部中央とやや上位に沈線を施し、沈線間に刺突文あり。	A 灰色・灰白色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外暗灰N3/	有	完形
第25図	41	墓道D群	須恵器	長頸壺	①(11.2) 頸部径2.7	口頸部が外反しながら広がり、口縁端部を小さく真立させている。頸部の中央に2条の沈線あり。回転ナデ調整。	A 砂粒を含まず精緻。 B 良好 C 外青黒5PB1.7/1～灰5Y6/1、内暗青黒灰5PB4/1～灰5Y6/1	有	口縁一部～頸部
第25図	42	墓道D群	須恵器	甕	①11.6	回転ナデ調整。口縁部は内湾ぎみに立ちあげる。頸部に3条、沈線がみられる。	A 白色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1、内暗青灰5PB4/1～青灰5PB6/1		口頸部3/4
第26図	43	墓道上層	須恵器	杯蓋	①(14.0) ②4.25	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 外灰黄2.5Y7/2、内灰オリーブ5Y6/2		2/3
第26図	44	墓道上層	須恵器	杯身	①11.2 受部径13.2 ②3.85	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N6/～黄灰2.5Y6/1、内灰N6/ (淵の部分暗灰N3/)	有	ほぼ完形
第26図	45	墓道中層	須恵器	杯蓋	①12.8 ②4.3	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～黒N2/、内青灰5PB5/1	有	ほぼ完形
第26図	46	墓道中層	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②3.7	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外青灰5PB5/1～暗青灰5PB3/1、内青灰5PB6/1		1/2
第26図	47	墓道中層	須恵器	杯蓋	①12.8 ②4.0	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色微砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB3/1、内青灰5PB5/1	有	3/4
第26図	48	墓道中層	須恵器	杯蓋	①(11.8) ②3.8	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。微砂粒等をわずかに含む。 B 不良 C 内外灰白2.5Y8/1		1/4
第26図	49	墓道中層	須恵器	杯蓋	①(11.6) ②3.9	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色微砂粒等を含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1	有	3/4
第26図	50	墓道中層	須恵器	杯蓋	①13.1 ②4.2	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色微砂粒等を含む。 B 不良 C 外青灰5PB5/1～灰白7.5Y7/1、内灰白7.5Y7/1	有	3/4
第26図	51	墓道中層	須恵器	杯蓋	①12.3 ②3.45	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 黒色砂粒を多く含む。 B 良好。 C 内外暗灰N3/～灰N5/	有	ほぼ完形
第26図	52	墓道中層	須恵器	杯蓋	①12.25 ②3.1	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色微砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 内外灰N4/	有	3/4
第26図	53	墓道中層	須恵器	杯蓋	①(13.3) ②3.75	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。体部外面にカキ目を施す。	A 精緻。白色微砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 外にぶい褐7.5YR5/3～褐灰7.5YR4/1、内青灰5B5/1	有	1/2
第26図	54	墓道中層	須恵器	杯蓋	①(13.4) ②3.85	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色・灰色微砂粒等を含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1	有	3/4
第26図	55	墓道中層	須恵器	杯身	①9.75 ②3.65	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外暗紫灰5P4/1	有	ほぼ完形
第26図	56	墓道中層	須恵器	杯身	①10.7 受部径14.2 ②3.5	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。わずかに白色微砂粒等を含む。 B 良好 C 内外暗青灰5PB4/1	有	2/3
第26図	57	墓道中層	須恵器	杯身	①(11.9) 受部径(14.0)	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。わずかに白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰N6/～暗青灰5PB4/1、内青灰5PB5/1	有	口縁部1/4～底部1/2
第26図	58	墓道中層	須恵器	杯身	①(11.0) 受部径(12.6) ②3.25	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒等・黒色砂粒を含む。 B 良好 C 外黒N2/～灰N5Y6/1、内灰N5/	有	2/3
第26図	59	墓道中層	須恵器	杯身	①10.4 受部径12.1	回転ナデ。	A 精緻。わずかに白色微砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰N6/～暗灰N3/		口縁部3/4
第27図	60	墓道中層	須恵器	高杯	①(11.6) ②13.6 ③脚部径9.6	杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。体部外面に2条の沈線あり。脚部は回転ナデで、脚部外面の中央に2条の沈線あり。	A 精緻。白色微砂粒・砂粒を含む。 B 良好 C 外暗灰N2/～灰白5Y7/1、内灰白5Y7/1	有	2/3
第27図	61	墓道中層	須恵器	高杯	①(7.6) ②7.6 ③脚部径6.0	杯部は回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。脚部は回転ナデ。	A 精緻。白色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1	有	2/5

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
第27図	62	墓道中層	須恵器	高杯	③脚裾径7.6	脚部(台部)のみ残存。脚部がほぼ直角に外反する。回転ナデ調整・	A 精緻。白色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N5/、内灰N5/～褐灰10YR5/1		脚部のみ 完存
第27図	63	墓道	須恵器	杯蓋	①(13.1) ②2.45	宝珠形をつまみを有する。回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色微砂粒を含む。 B 不良 C 外 褐 灰 5YR4/1 ～ に ぶ い 黄 橙 10YR6/3、内褐灰10YR5/1		1/5
第27図	64	墓道	須恵器	杯身	①(12.2) 受部径(14.0)	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/～灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y7/2		1/3
第27図	65	墳丘上層	須恵器	高台付 杯	③高台径8.8	回転ナデ調整。高台貼付け。	A 白色砂粒等をわずかに含み精緻。 B 不良 C 内外灰黄2.5Y6/2	有	高台部3/4
第27図	66	墳丘上層	須恵器	甕	①(18.8) 頸部径(13.2)	回転ナデ調整。口縁部外面に段を有する。	A 白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 不良 C 内外灰N4/	有	口縁部1/2
第27図	67	墳丘	須恵器	長頸壺	①9.45 頸部径4.55 ②21.55 ③3.95 ⑤胴部最大径14.7	口縁～頸部は回転ナデ後カキ目を施す。胴部下半から底部外面は回転ヘラケズリ。胴部中央とやや上位に沈線を施し、沈線間に刺突文あり。胴部上位にカキ目あり。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良 C 外 暗 青 灰 5PB3/1～褐灰7.5YR4/1、内暗青灰5PB4/1		ほぼ完形
第27図	68	2区墳丘	須恵器	杯蓋	①(13.5)	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良 C 外灰5Y6/1～灰白5Y8/2、内灰白5Y7/2		1/4
第27図	69	2区墳丘	須恵器	杯蓋	①(13.4) ②4.25	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良 C 外 暗 灰 黄 2.5Y5/2～浅黄2.5Y7/3、内灰黄2.5Y6/2	有	1/4
第27図	70	2区墳丘	須恵器	杯身	①(12.1) 受部径 (14.3)	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰N4/、内灰N5/	有	1/4
第27図	71	2区墳丘	須恵器	杯身	①(12.5) 受部径(14.3)	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 灰色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰7.5Y6/1	有	1/4
第27図	72	2区墳丘	須恵器	杯身	①(11.6) 受部径(13.8) ②3.8	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰5Y6/1		1/2
第27図	73	2区墳丘	須恵器	高杯	①(9.7)	回転ナデ。杯部に沈線を有する。	A 精緻で砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外黒褐7.5YR3/1～褐灰7.5YR6/1		1/2
第27図	74	3区墳丘	須恵器	杯蓋	①13.6 ②3.8	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻で、砂粒等を含まない。 B 良好 C 外灰10Y6/1～10Y4/1、内灰N5/		ほぼ完形
第27図	75	3区墳丘	須恵器	杯蓋	①(12.8) 受部径(14.6)	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒等はわずかに、雲母片も含む。 B 不良 C 外 に ぶ い 黄 橙 10YR6/3、内 灰 黄 2.5Y6/2		1/4
第27図	76	3区墳丘	須恵器	甕	③(4.0) ⑤胴部最大径9.2	胴部下半～底部外面は回転ヘラケズリ。胴部上半外面は2条の沈線があり、沈線間に刺突文を施す。	A 精緻であるが、白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N6/～暗灰N3/、内灰N4/		胴部～底部 3/4
第27図	77	3区墳丘	須恵器	杯蓋	①13.6 ②3.95	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻で砂粒等を含まない。 B 良 C 外 オ リ ー プ 黄 5Y6/3～灰 オ リ ー プ 5Y6/2、内灰オリーブ7.5Y6/2		ほぼ完形
第27図	78	3区墳丘	須恵器	杯蓋	①8.3 受部径10.3 ②3.95 ツマミ部径1.2	つまみを有する蓋。回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外 暗 灰 N3/～紫 灰 5P5/1～灰 7.5Y6/1、内暗紫灰5P4/1～赤灰5R6/1	有	ほぼ完形
第28図	79	盗掘坑	須恵器	杯蓋	①(12.2) ②3.7	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒・石英質砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.5Y5/1～10Y6/1、内灰N6/	有	2/3
第28図	80	盗掘坑	須恵器	杯身	①11.0 受部径13.3 ②4.1	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒を含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1～5PB6/1	有	4/5
第28図	81	盗掘坑	須恵器	杯身	①11.8 受部径13.8 ②3.9	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色微砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外 灰 7.5Y7/1～オ リ ー プ 灰 2.5GY5/1、内灰7.5Y6/1		4/5
第28図	82	盗掘坑	須恵器	杯身	①10.8 受部径13.0 ②3.9 ③7.8	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒を含む。 B 不良 C 外 黄 灰 2.5Y6/2～灰 5Y5/1、内 灰 5Y5/1～灰黄褐10YR6/2		ほぼ完形
第28図	83	盗掘坑	須恵器	高杯	①(11.0)	回転ナデ調整。杯部外面に2条の沈線あり。	A 灰色・黒色微砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰N6/～暗灰N3/、内灰7.5Y6/1	有	杯部1/3

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm)		形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
					①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元					
第28図	84	盗掘坑	土師器	椀	①(12.35)		内面ヨコナデ、外面タデハケ。	A 白色・黒色微砂粒を含む。 B 良 C 内外にぶい黄橙10YR7/4～褐灰10YR5/1		口縁部片
第28図	85	盗掘坑	須恵器	甕			外面は平行タタキ目後カキ目を施す。内面は同心円当て具痕あり。	A 灰色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外オリーブ灰2.5GY6/1～灰N4/、内オリーブ灰2.5GY6/1		頸部～ 肩部片
第28図	86	2・3号墳 間周溝	須恵器	杯蓋	①(12.7) ②3.95		回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1	有	1/2
第28図	87	2・3号墳 間周溝	須恵器	杯身	①(10.6) 受部径(12.6) ②4.0		回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外暗灰N3/～黄灰2.5Y5/1	有	2/3
第28図	88	2・3号墳 間周溝	須恵器	杯蓋	①(11.6)		回転ナデ調整。	A 精緻。灰色砂粒ごくわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1		口縁部1/4
<b>3号墳</b>										
第33図	1	2区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.6)		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良 C 内外オリーブ灰2.5GY5/1		口縁部1/3
第33図	2	2区周溝	須恵器	杯身	①10.2 受部径12.4 ②3.7		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、底部内面は回転ナデ後ナデ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外青灰5B5/	有	完形
第33図	3	2区周溝	須恵器	杯蓋	①(10.2) 受部径(12.0)		天井部外面回転ヘラケズリ後カキ目。底部内面は回転ナデ後ナデ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B やや良 C 外灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1		1/8
第33図	4	2区周溝	須恵器	高杯	①(12.6) 脚基部径2.3		杯部は回転ナデ、底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 外灰5Y4/1、内灰7.5Y5/1		1/4
第33図	5	2区周溝	須恵器	蓋	①(16.0)		内面は回転ナデ後ナデ、外面は回転ナデ後回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 外灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1		1/4
第33図	6	2区周溝	須恵器	甕	①10.1 ②12.45 ⑤胴部最大径8.35		回転ナデ後回転ヘラケズリ。胴部上半は回転ナデ後カキ目。胴部穿孔の上下に2条沈線を施し、この間に刺突文あり。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 外黄灰2.5Y4/1～暗灰黄2.5Y5/2、内黄灰2.5Y4/1		3/4
第33図	7	2区周溝	須恵器	平瓶 または壺	⑤胴部最大径(14.5)		内外面回転ナデ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良 C 内外灰10Y6/1		体部1/6
第33図	8	2区周溝	須恵器	平瓶 または壺	③(10.0)		内外面回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ後ナデ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良 C 内外灰10Y6/1		底部1/4
第33図	9	周溝A群	須恵器	杯蓋	①13.4 ②3.9		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、天井部内面には当て具痕あり。	A 白色・灰色砂粒や石英質砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外青灰5PB6/1～暗青灰5PB3/1、内青灰5PB6/1		ほぼ完形
第33図	10	周溝A群	須恵器	甕	①(10.0) ②13.15 ⑤胴部最大径9.3		回転ナデ後、胴部上半は回転ナデ後カキ目。胴部穿孔の上下に2条沈線を施し、この間に刺突文あり。底部外面は静止ヘラケズリ	A 精緻。砂粒等をあまり含まない。 B 良好 C 内外灰10Y6/1	有	胴部完存～ 口縁部1/5
第33図	11	周溝B群	須恵器	杯蓋	①13.0 ②3.4		回転ナデ後、天井部外面はヘラ切り。	A 白色・石英質砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰N6/	有	1/2
第33図	12	周溝B群	須恵器	杯蓋	①11.5 ②3.95		回転ナデ後、天井部外面はヘラ切り後ナデ、内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒等をごくわずかに含む。 B 良好 C 外黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y7/1		ほぼ完形
第33図	13	周溝B群	須恵器	杯蓋	①11.4 ②3.6		回転ナデ後天井部内面ナデ。天井部外面ヘラケズリ後ナデ。	A 白色・黒色微砂粒をわずかに含む。 B やや良 C 外灰N5/～にぶい赤褐2.5YR5/4、内灰褐5YR4/2	有	ほぼ完形
第33図	14	周溝B群	須恵器	杯蓋	①12.0 ②3.8		回転ナデ後天井部内面ナデ、外面ヘラケズリ。	A 白色砂粒・微砂粒を含む。 B やや良。 C 外にぶい橙7.5YR6/4～黒褐7.5YR3/1、内灰褐7.5YR5/2	有	ほぼ完形
第33図	15	周溝B群	須恵器	杯蓋	①9.5 ②3.3		回転ナデ、底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外黄灰2.5Y4/1、内褐灰7.5Y4/1		口縁部1/2 ～体部完存
第33図	16	周溝B群	須恵器	杯蓋	①11.8 ②3.35		回転ナデ後天井部内面ナデ。天井部外面ヘラケズリ後ナデ。	A 白色・黒色微砂粒をわずかに含む。 B やや良 C 外黒褐10YR3/1～灰6/、内黄灰2.5YR4/1	有	ほぼ完形
第33図	17	周溝B群	須恵器	杯蓋	①(13.1) ②3.7		回転ナデ後天井部内面ナデ。天井部外面ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外青灰5PB5/1、内灰N4/	有	口縁部1/2
第33図	18	周溝B群	須恵器	杯蓋	①(13.4)		焼成不良であるため、調整不明。	A 灰色微砂粒等をわずかに含む。 B 不良 C 内外浅黄橙7.5YR8/4		口縁部1/4
第33図	19	周溝B群	須恵器	杯蓋	①15.5 ②2.7 ツマミ部径3.2		回転ナデ後天井部内面ナデ。天井部外面ヘラケズリ。天井部外面につまみあり。	A 精緻。白色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰N5/		口縁部1/2

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm)		形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
					①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元					
第33図	20	周溝B群	須恵器	杯蓋	①8.6 受部径10.0 ②3.15 ツマミ部径0.9		回転ナデ後天井部内面ナデ、天井部外面はヘラケズリ。天井部外面に宝珠形のつまみあり。	A 白・灰色砂粒等をごくわずかに含む。 B やや良 C 内外にふい黄橙10YR7/3～灰白10YR7/1	有	ほぼ完形
第34図	21	周溝B群	須恵器	杯身	①11.9 受部径14.0 ②4.1		回転ナデ後底部外面はヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒等を多く含むが、内面には見受けられない。 B 良好 C 外灰白N7/～灰N4/、内灰白N7/		ほぼ完形
第34図	22	周溝B群	須恵器	杯身	①11.2 受部径14.0 ②4.6		回転ナデ後回転ヘラケズリ。底部内面に当て具痕あり。	A 精緻。白色砂粒等を含む B 良好 C 外灰白2.5Y7/1、内青灰5PB6/1		ほぼ完形
第34図	23	周溝B群	須恵器	杯身	①11.4 受部径13.9 ②4.0		回転ナデ後底部内面ナデ、底部外面はヘラケズリ後ナデ。内外面の色調が異なることから、杯身セットで焼成されたと考えられる。	A 精緻。白色砂粒等を含む B 良好 C 外暗灰N3/～灰白5Y7/1、内灰N5/		3/4
第34図	24	周溝B群	須恵器	杯身	①10.8 受部径13.2 ②3.9		回転ナデ後底部内面ナデ、底部外面はヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰N4/～灰N6/、内灰N5/	有	1/2
第34図	25	周溝B群	須恵器	杯身	①9.4 受部径12.0 ②3.4		回転ナデ後底部内面ナデ、底部外面はヘラケズリ後ナデ。内外面の色調が異なることから、杯身セットで焼成されたと考えられる。	A 精緻。白色砂粒等をごくわずかに含む B 良好 C 外灰N4/～にふい褐7.5YR5/3、内褐7.5YR4/3	有	ほぼ完形
第34図	26	周溝B群	須恵器	杯身	①9.9 受部径12.2 ②3.35		回転ナデ後底部内面ナデ、底部外面はヘラケズリ後ナデ。内外面の色調が異なることから、杯身セットで焼成されたと考えられる。	A 白色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰N6/～灰赤2.5YR4/2、内赤灰2.5YR4/1	有	ほぼ完形
第34図	27	周溝B群	須恵器	杯身	①10.9 受部径13.6 ②4.0		回転ナデ後底部内面ナデ、底部外面はヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰7.5Y5/1、内灰N5/	有	1/2
第34図	28	周溝B群	須恵器	杯身	①10.4 受部径12.6 ②3.5		回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、天井部内面には当て具痕あり。	A 精緻。白色砂粒等をわずかに含む B 良好 C 内外5PB5/1	有	完形
第34図	29	周溝B群	須恵器	杯身	①11.0 ②4.1 ひずみ大		回転ナデで、体部外面には4条の沈線あり。底部外面は回転ヘラケズリ。歪み大きい。	A 精緻。白色砂粒等を含まない。 B 良好 C 外 褐 灰 10YR4/1～黒N2/～灰白2.5Y7/1、内黒N2/～灰白2.5Y7/1	有	完形
第34図	30	周溝B群	須恵器	高台付杯	①(14.1) ②4.7 ④高台径10.1		杯部は回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。底部内面はナデ。高台は貼付け。最大径は口縁部にある。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B やや良 C 内外暗灰N3/	有	底部完存
第34図	31	周溝B群	須恵器	椀	③4.9		回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ。胴部には沈線あり、沈線上に把手が剥離したような痕跡あり。	A 灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1、内青灰5PB5/1	有	底部1/2
第34図	32	周溝B群	須恵器	甕	①10.8 ②12.0 ⑤胴部最大径7.6		口頸部に沈線を施し、屈曲部に段を有す。口頸部は回転ナデ。胴部穿孔の上半と下に2条沈線を施し、この間に刺突文あり。底部外面は回転ヘラケズリ。口頸部内面と胴部外面上半に灰垢が多く付着する。	A 灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外黄褐2.5Y5/3～灰N6/		口縁部2/3～ 体部完存
第34図	33	周溝B群	須恵器	高杯	①11.6 ②15.3 ③脚部径10.8		回転ナデ後回転ヘラケズリ。底部内面に当て具痕あり。	A 白色砂粒等を多く含む。 B やや不良 C 内外灰7.5Y6/1		ほぼ完形
第34図	34	周溝B群	須恵器	高杯	①8.7 ②10.15 ③脚部径(7.7)		回転ナデ。杯部外面の口縁部と体部の境に沈線2条状あり。底部外面にカキ目あり。脚部は中位に沈線2条あり。	A 精緻。白色・石英質砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～褐灰10YR4/1、内灰N4/～褐灰10YR4/1	有	1/2
第34図	35	周溝B群	土師器	甕	①(14.5)		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。白色・灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外黒褐10YR3/1～黄橙10YR8/6、内黄橙10YR8/6		口縁部2/3
第34図	36	周溝B群	土師器	甕	⑤脚部最大径[15.6]		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 白色・灰色砂粒等を含む。 B 良好。 C 外黒褐10YR3/1～黄橙10YR8/6、内黄橙10YR8/6		銅下半部～ 底部完存
第35図	37	周溝B群	須恵器	大甕	①21.5 ②47.9 ⑤胴部最大径45.9		口頸部が直線的に外反し、口縁部の下に突帯あり。胴部最大径は胴部上半にある。口頸部は内外面回転ナデ。胴部は外面が平行タタキ目後カキ目、内面が同心円タタキ目である。内面の同心円タタキ目は同心円の大きさが異なる当て具が2つ観察でき、胴部の1/3下から底部はタタキ目の向きや当たりによる調整痕が胴部中～上位と異なる。	A 精緻。白色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外灰白N7/～暗灰N3/ 内灰白N7/～暗灰N3/～灰N4/		ほぼ完形
第35図	38	周溝B群	須恵器	大甕	①21.6 ②42.5 ⑤胴部最大径41.5		口縁部は直線的に外反し、口縁部は丸い。胴部最大径は胴部上半にある。口頸部は内外面回転ナデ。胴部は外面が平行タタキ目後カキ目である。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.5Y6/1～灰白5Y7/2、内灰白7.5Y6/1		ほぼ完形
第35図	39	周溝C群	須恵器	甕	①9.6 ②12.05 ⑤胴部最大径8.6		口縁部は回転ナデで、口頸部に明瞭な段を有する屈曲はない。口頸部内面には絞りに近あり。脚部は胴部～底部は回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。口縁部が最大径である。	A 精緻。白色・灰色微砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰N5/～暗灰N3/、内灰7.5Y6/1	有	ほぼ完形
第35図	40	周溝C群	須恵器	大甕	①42.5 ⑤胴部最大径(68.3)		口頸部は直線的に外反し、口縁部下の外面に突帯、口頸部中央に2条の沈線がある。口頸部上半に斜線文、下半にはカキ目を施す。胴部最大径は胴部上半にある。胴部は外面が平行タタキ目、内面は同心円タタキ目である。	A 精緻。白色砂粒をやや多く含む。 B 良好 C 外灰N5/～暗灰N3/、内灰N4/～褐灰10YR5/1	有	口縁部 ほぼ完存 ～肩部1/4

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調	ヘ ラ 記 号	残存
第36図	41	3区 南側周溝	須恵器	杯身	①9.7 受部径12.2 ②3.95	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒を多く含む。 B やや良 C 外にぶい橙7.5YR7/4～灰黄褐 10YR5/2、内灰黄褐10YR4/2	有	ほぼ完形
第36図	42	3区 南側周溝	須恵器	杯身	①9.8 受部径12.0 ②3.5	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。底部 内面はナデ。底部外面に板状圧痕あり。	A 精緻。黒色微砂粒をわずかに含む。 B やや良 C 外灰白N7/～灰N4/、内黄灰 2.5Y5/1	有	3/4
第36図	43	3区 南側周溝	須恵器	杯身	—	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。内外面と も焼成不良で調整痕見えず。	A 精緻。砂粒を含まない。 B 不良 C 内外橙7.5YR7/6	有	底部完存～ 口縁部1/2
第36図	44	3区 南側周溝	須恵器	杯身	①12.0 受部径14.1 ②3.9	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。底部 内面に当て具痕あり。	A 精緻。白色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外灰白5Y7/1		完形
第36図	45	3区 南側周溝	須恵器	杯身	①(11.8) 受部径(14.2)	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒を含む。 B 良好 C 外灰N6/、内青灰5PB6/1	有	1/4
第36図	46	3区 南側周溝	須恵器	高杯	①(20.1)	回転ナデ後杯部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色微砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外灰白5Y7/1		1/8
第36図	47	3区 南側周溝	須恵器	高杯	③脚幅部径(10.9)	高杯脚部で、内外面回転ナデ。屈曲部に沈線 あり。裾端部は平坦である。	A 精緻。わずかに砂粒を含む。 B 良好 C 外灰白5Y7/1～オリーブ黒5Y3/1、 内灰N5/		2/5
第36図	48	3区 南側周溝	須恵器	杯蓋	①13.0 ②4.4	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天 井部内面は当て具痕あり。外面の口縁部と体 部の境に沈線、口縁部内面に段あり。	A 精緻。白色・灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰白10Y7/1、内灰N6/		口縁部2/3～ 底部完存
第36図	49	3区 南側周溝	須恵器	杯蓋	①(11.8) ②3.2	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。墓道 出土片と接合。	A 精緻。黒色微砂粒を含む。 B 良好 C 外黄灰2.5Y4/1～浅黄灰2.5Y4/1～ 浅黄2.5Y7/3、内灰5Y6/1	有	2/3
第36図	50	3区 南側周溝	須恵器	杯蓋	①13.6 ②4.1	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天 井部内面はナデ。	A 精緻。砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N6/、内灰N6/	有	1/2
第36図	51	3区 南側周溝	須恵器	杯身	①10.3 受部径12.9 ②3.3	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。底部 内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外オリーブ灰2.5GY5/1、内灰N4/	有	ほぼ完形
第36図	52	3区 南側周溝	須恵器	杯身	①11.4 受部径13.6 ②3.75	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。内面 はナデ。	A 砂粒含まず、精緻。 B 不良 C 外にぶい黄橙10YR7/3～灰黄褐 10YR6/2、内にぶい橙7.5YR7/3	有	ほぼ完形
第36図	53	3区 南側周溝	須恵器	高台付 杯	①13.8 ②4.8 ④9.1	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部 内面はナデ。高台は貼付けて、外側に張り出 す。	A 精緻。白色・石英質砂粒等を含む。 B やや不良 C 外にぶい橙7.5YR6/4～褐灰7.5YR5/1、 内灰褐7.5YR5/2	有	口縁部1/2～ 底部完存
第36図	54	3区 南側周溝	須恵器	高台付 杯	④(8.8)	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部 内面はナデ。高台は貼付けて、短くやや内傾 する。	A 黒色微砂粒等を含むが、精緻。 B 良好 C 外灰白2.5Y7/1～黄灰2.5Y6/1、内 黄灰2.5Y6/1		底部1/4
第36図	55	3区 南側周溝	須恵器	高台付 杯	①(10.6) ②3.9 ④(5.6)	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部 内面はナデ。高台は貼付けて、外側に張り出 す。	A 微砂粒等を含むが、精緻。 B 良好 C 外体部オリーブ黒5Y3/1～底面高 台内側灰5Y5/1、内灰5Y6/1	有	1/4
第36図	56	3区 南側周溝	須恵器	杯身	①10.6 ②3.2	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、内面 は磨減が著しく調整不明。	A 砂粒等を含まず、精緻。 B 良好 C 内外橙7.5YR7/6	有	口縁部1/2～ 底部完存
第36図	57	3区 南側周溝	須恵器	把手付 椀	①(14.2)	現存状態では、把手は1ヶ所のみで、ヘラ状 工具等で成形、ナデ調整を行っている。体部 には、2箇所2条の沈線を施しており、口 縁部下部と上位の2条の沈線との間、上・下 位の2条の沈線との間に、櫛歯状文を付し ている。	A 精緻。白色・灰色砂粒、黒色微砂 粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/～灰黄2.5Y7/1のまだら 斑点あり、内青灰5PB5/1		口縁部3/4～ 胴部一部
第37図	58	3区周溝	須恵器	杯身	①(10.5) 受部径(13.2) ②3.9	回転ナデ後底部内面はナデ。外面は磨減が著 しく調整不明。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 良好 C 外明青灰5PB7/1～暗灰N3/、内灰 N6/		1/3
第37図	59	3区周溝	須恵器	杯身	受部径(14.6)	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰N5/、内灰N6/～灰白N7/		1/3
第37図	60	周溝B群	須恵器	杯蓋	①(8.7) 受部径(10.3) ②1.65	回転ナデ。天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 良好 C 外赤灰2.5YR4/1、内灰白N7/	有	口縁部1/3
第37図	61	周溝B群	須恵器	杯身	①(12.1) 受部径(14.0) ②3.3	回転ナデ後底部内面ナデ、底部外面はヘラケ ズリ。O3-E4と同じヘラ記号(中通古墳と 類似あり)	A 精緻。白・灰色砂粒等をわずかに 含む。 B 良好 C 外灰N4/、内灰N6/	有	1/10
第37図	62	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(14.2) ②4.3	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ、天井 部内面は当て具痕あり。外面の口縁部と体部 の境に緩い沈線、口縁部内面に段あり。	A 精緻。白色微砂粒等をわずかに含 む。 B 良好 C 内外灰5Y6/1		口縁部1/4
第37図	63	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.8) ②4.9	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ、天井 部内面はナデ。外面の口縁部と体部の境に沈 線あり。	A 精緻。灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N6/、内灰N6/		口縁部1/2



挿図番号	遺物番号	遺構(出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ記号	残存
第37図	64	3区周溝	須恵器	杯蓋	①13.1 ②4.3	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰白N4/、内灰白N6/	有	2/3
第37図	65	3区周溝	須恵器	杯蓋	①12.8 ②4.5	回転ナデ後天井部内面はナデ、天井部外面はヘラケズリ。	A 精緻。白・灰色砂粒、黒色砂粒を含む。 B 良好 C 内外灰N5/	有	ほぼ完形
第37図	66	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②4.55	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。外面の口縁部と体部の境に沈線あり。	A 白色砂粒等をやや多く含む。 B 堅く精緻。 C 外暗灰N3/～褐灰10YR5/1、内青灰5PB6/1		口縁部1/3
第37図	67	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.1) ②4.6	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ、天井部内面は当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境に沈線あり。	A 白色・灰色砂粒等を含む。 B 堅く精緻。 C 外灰N5/、内灰N6/		底部 ほぼ完存・ 口縁部1/8
第37図	68	3区周溝	須恵器	杯蓋	①13.3 ②4.2	回転ナデ後天井部内面はナデ、天井部外面はヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等を多く含む。 B 堅く精緻。 C 外黒N2/～灰白N7/、内灰N6/	有	口縁部1/2・ その他完存
第37図	69	3区周溝	須恵器	杯蓋	①12.3 ②4.35	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰N4/、内灰N5/	有	口縁部1/2
第37図	70	3区周溝	須恵器	杯蓋	①13.9 ②4.2	回転ナデ後天井部外面回転ヘラケズリ、天井部内面には当て具痕あり。	A 精緻。灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 内外暗灰N3/		口縁部1/2・ 天井部完存
第37図	71	3区周溝	須恵器	杯身	①(10.2) 受部径(13.0) ②3.4	回転ナデ後底部外面回転ヘラケズリ、底部内面には当て具痕あり。	A 精緻。砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外灰N5/		1/3
第37図	72	3区周溝	須恵器	杯身	①11.5 受部径14.4	回転ナデ後底部外面はヘラケズリ。	A 精緻。灰色砂粒を含む。 B 良好 C 内外灰N6/		口縁部2/3
第37図	73	3区周溝	須恵器	杯身	①(14.0) 受部径(16.8)	回転ナデ後底部内面はナデ、底部外面はヘラケズリ。高杯の杯部か。	A 精緻。黒色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外灰N5/～灰白7.5Y7/1、内灰N4/1		1/3
第37図	74	3区周溝	須恵器	高杯	①(7.3) ②7.8 ③脚裾部径(6.4)	杯部は回転ナデで、底部外面はヘラケズリ、体部外面には5条の沈線がある。脚部も内外面とも回転ナデで、脚裾部を下方につまみ出している。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 良好 C 内外暗灰N3/～灰5Y6/1	有	杯部1/2・ 脚裾部1/2
第37図	75	3区周溝	須恵器	高台付杯	①13.5 ②4.45 ④高台径9.0	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。高台は貼付けで、外反する。	A 精緻。砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/、内灰N6/		1/2
第38図	76	3区周溝	須恵器	甕	①8.8 頸部径2.6 ②11.9 ⑤胴部最大径5.6	頸部の中位と屈曲部に沈線あり。口頸部は回転ナデ。胴部穿孔の中心に沈線あり。底部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒等を含まず、精緻。 B 不良 C 内外灰白7.5Y7/1		2/3
第38図	77	3区周溝	須恵器	椀	①10.8 ②(8.5)	内面は回転ナデ後、底部外面は回転ナデ後回転ヘラケズリ、体部はカキ目。体部の中ほどに二条の緩い沈線あり。	A 砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰N5/～灰白2.5Y7/1、内灰N6/		3/4
第38図	78	3区周溝	須恵器	瓶	①9.7	頸部は短く、口縁部は丸い。内外面とも回転ナデ。	A 精緻。白色・灰色砂粒等を割合多く含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N5/、内灰N5/～黄灰2.5Y5/1		口頸部3/4
第38図	79	3区周溝	須恵器	長頸壺	①(10.7) 頸部径(7.0)	口縁部をやや水平に屈曲させる。口頸部の内外面とも回転ナデ。	A 精緻。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1、内黄灰2.5Y6/1～暗灰5PB4/1		頸部2/3
第38図	80	墓道上層	須恵器	杯蓋	①13.5 ②4.1	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。	A 砂粒等を含まず、精緻。 B 不良 C 外にぶい黄橙10YR7/2～7/4、内灰黄褐10YR6/2	有	ほぼ完形
第38図	81	墓道上層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②3.6	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 白色砂粒等をごくわずかに含む。 B 不良 C 外灰5Y4/1～褐7.5YR4/3、内暗灰N3/	有	口縁部2/3
第38図	82	墓道上層	須恵器	杯蓋	①12.1 ②3.25	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等をわずかに含むが、精緻。 B 良好 C 外青灰5PB6/1、内灰オリーブ5Y6/2	有	完形
第38図	83	墓道上層	須恵器	杯蓋	①13.1 ②4.3	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。灰色・黒色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1		ほぼ完形
第38図	84	墓道上層	須恵器	杯蓋	①13.9 ②4.2	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。灰色砂粒等をごくわずかに含む。 B 良好 C 外赤黒10R2/1～灰N4/、内褐灰10YR4/1		口縁部3/4
第38図	85	墓道上層	須恵器	杯蓋	①12.5 ②3.9	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 不良 C 外にぶい黄橙10YR7/3～橙7.5YR7/6、内にぶい黄橙7.5YR7/4		ほぼ完形

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘ ラ 記 号	残存
第38図	86	墓道上層	須恵器	杯蓋	①13.2 ②4.0	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。黒色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外青灰5PB5/1～灰白7.5Y7/1、内青灰5PB5/1		ほぼ完形
第38図	87	墓道上層	須恵器	杯蓋	①(12.9) ②3.7	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・黒色微砂粒等をごくわずかに含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1、内青灰5PB5/1		1/2
第38図	88	墓道上層	須恵器	杯蓋	①12.2 受部径14.5 ②3.4 ツマミ部径2.7	口縁部内面に短いかえりが付く。天井部つまみあり。回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。天井部内面はナデ。	A 精緻。白色・灰色微砂粒等を含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N6/、内暗青灰5PB4/1	有	ほぼ完形
第38図	89	墓道上層	須恵器	杯身	①10.9 受部径(13.1) ②3.6	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 良 C 外浅黄橙2.5Y7/3、内にぶい橙7.5Y7/4	有	受部1/2～ 底部完存
第38図	90	墓道上層	須恵器	杯身	①11.4 受部径13.6 ②3.3	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はハケ目状工具によるナデ。	A 精緻。黒色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰白7.5Y7/1～灰7.5Y5/1灰かぶりあり、内青灰5PB5/1	有	ほぼ完形
第38図	91	墓道上層	須恵器	杯身	①11.2 受部径(13.1) ②3.9	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 不良 C 外浅黄橙10YR8/3、内にぶい黄橙10YR7/4	有	ほぼ完形
第38図	92	墓道上層	須恵器	杯身	受部径13.6	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 不良 C 外にぶい黄橙10YR7/4～にぶい黄褐10YR5/3、内にぶい黄橙10YR7/4	有	口縁端部以 外完存
第38図	93	墓道上層	須恵器	杯身	①10.6 受部径12.8 ②3.3	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 良好 C 外灰N6/、内灰N4/	有	ほぼ完形
第38図	94	墓道上層	須恵器	杯身	①11.6 受部径14.05 ②3.6	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。灰色・黒色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外黒褐2.5Y3/1～灰白2.5Y7/1、内青灰5PB5/1		完形
第38図	95	墓道上層	須恵器	杯身	①11.4 受部径13.5 ②3.35	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。白色・黒色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰N5/		ほぼ完形
第38図	96	墓道上層	須恵器	杯身	①11.6 受部径13.5 ②3.5	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。灰色・黒色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1～灰白7.5Y7/1、内暗青灰5PB4/1		ほぼ完形
第38図	97	墓道上層	須恵器	杯身	①12.3 受部径14.8 ②4.6	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。黒色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外褐7.5YR4/3～灰N6/、内暗赤灰2.5YR3/1～褐灰10YR4/1		ほぼ完形
第39図	98	墓道上層	須恵器	提瓶	①6.9 頸部径3.8 ②18.9 ⑤胴部最大径13.75	胴部の側面から成型し、もう片方の側面が成型上の天井となり、円板を付けて閉じる。その後、口頸部を取り付けるために胴部に穴を開けて、口頸部を取り付けている。肩部の小粘土塊が付く。胴部外面はカキ目、胴部内面は回転ナデ。	A 精緻。砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N6/～暗灰N3/、内灰N6/	有	3/4
第39図	99	墓道上層	須恵器	高杯	①(20.4)	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰白N7/～褐灰10YR5/、内灰白N7/		坏部1/6
第39図	100	墓道上層	須恵器	鉢	①(24.1)	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。白色・灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外黒N2/～灰N5/、内灰N6/		1/3
第39図	101	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(13.5)	口縁部と体部の間と、口縁部内面に沈線あり。回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面は当て具痕あり。	A 精緻。灰色・石英質砂粒を含む。 B 良好 C 内外青灰5PB6/1		1/4
第39図	102	2次墓道	須恵器	杯蓋	①12.6 ②4.3	口縁部内面に短いかえりあり。回転ナデ後天井部外面は回転ヘラ切、天井部内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒等を多く含む。 B 良 C 内外灰N6/	有	3/4
第39図	103	2次墓道	須恵器	杯蓋	①12.8 ②3.4	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。白色・灰色砂粒を含む。 B 良好 C 外灰N5/～灰N6/、内灰N6/	有	ほぼ完形
第39図	104	2次墓道	須恵器	杯蓋	①13.4 ②3.8	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。黒色砂粒等を多く含む、白色微砂粒はわずかである。 B 良好 C 外灰N6/～褐灰10YR4/1、内灰N6/		ほぼ完形
第39図	105	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(12.1) ②3.9	内外面とも回転ナデ。焼成不良。	A 精緻。砂粒等はほとんど含まない。 B 不良 C 内外にぶい橙7.5YR7/4		1/3
第39図	106	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(10.2) ②3.3	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰白10Y7/～灰N4/、内灰N6/	有	天井部3/4～ 口縁部1/3

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm)		形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
					①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元					
第39図	107	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(10.8)		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。砂粒等含まない。 B 良好 C 外灰N6/～暗灰N3/、内灰N5/		口縁部1/2
第39図	108	2次墓道	須恵器	杯身	①11.1 受部径13.45		回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。	A 黒色砂粒を含む。 B 良好。 C 外暗灰N3/～灰N6/、内青灰5PB6/1		1/2
第39図	109	2次墓道	須恵器	杯身	①10.8 受部径12.8 ②3.3		回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。	A 白色砂粒をわずかに含む。 B 良好。 C 外青灰5PB6/1～灰7.5Y5/1、内暗青5PB4/1	有	ほぼ完形
第39図	110	2次墓道	須恵器	杯身	①11.0 受部径13.7 ②3.75		回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒等をわずかに含む。 B 精緻。 C 内外灰N6/	有	ほぼ完形
第39図	111	2次墓道	須恵器	杯蓋	①9.3 受部径11.55 ②2.9		口縁部内面にかえりあり。回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。灰色砂粒等をわずかに含む。 B 不良 C 外褐灰5YR4/1～にぶい赤褐5YR5/4、内橙2.5YR6/6		2/3
第39図	112	2次墓道	須恵器	杯蓋	①9.1 受部径11.2 ②2.3		口縁部内面にかえりあり。回転ナデ後天井部外面はカキ目。つまみが剥離した痕や底部の面を三等分した線あり。	A 精緻。白色砂粒等はほとんど含まず、雲母片が多い。 B 不良 C 外橙2.5YR6/6、内にぶい赤褐5YR5/3	有	3/4
第39図	113	2次墓道	須恵器	杯蓋	①9.4 受部径11.4 ②2.2		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N5/、内灰N5/		3/4
第39図	114	2次墓道	須恵器	杯身	①10.7 ②3.4 ③5.9		回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外暗青灰5PB3/1～灰白2.5Y7/1	有	2/3
第39図	115	2次墓道	須恵器	杯蓋	受部径(15.0)		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。灰色砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 内外灰10Y6/1		1/3
第39図	116	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(12.9) 受部径(15.0)		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。灰色・白色砂粒を含む。 B やや不良 C 外灰10Y6/1、内灰10Y5/1		1/2
第39図	117	2次墓道	須恵器	杯蓋	①13.0 受部径15.2 ②2.8 ツマミ部径2.6		口縁部内面にかえりあり。天井部外面につまみあり。回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・肺色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5B5/1		完形
第39図	118	2次墓道	須恵器	杯蓋	①12.5 受部径14.9 ②3.1 ツマミ部径2.4		口縁部内面にかえりあり。天井部外面につまみあり。回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。白色微砂粒を多く含む。 B 良好 C 外暗灰N3/、灰N4/	有	完形
第39図	119	2次墓道	須恵器	杯蓋	①12.7 受部径15.0 ②3.45		口縁部内面に短いかえりが付く。天井部につまみあり。回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外灰N5/		ほぼ完形
第39図	120	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(14.35) ②2.15 ツマミ部径2.2		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 外灰白5Y7/1～灰5Y5/1、内灰白7.5Y7/1～灰7.5Y5/1		1/4
第39図	121	2次墓道	須恵器	杯蓋	①16.6 ②2.45 ツマミ部径2.0		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰7.5Y6/1		1/2
第39図	122	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(15.5) ②2.2 ツマミ部径2.5		回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 外灰N6/、内灰白5Y7/2		1/3
第40図	123	2次墓道	須恵器	杯蓋	①15.3 受部径17.9 ②2.2		口縁部内面に短いかえりが付く。天井部につまみあり。回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒・石英質砂粒を含む。 B 良好 C 外にぶい黄2.5Y6/3～灰オリーブ5Y5/2、内灰オリーブ5Y5/2		完形
第40図	124	2次墓道	須恵器	杯蓋	①16.2 ②2.5 ツマミ部径2.6		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。灰色微砂粒を含む。 B 良好 C 外灰10Y6/1～灰N5/、内灰7.5Y6/1		3/4
第40図	125	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(22.8) ②3.35		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。灰色・黒色砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 内外灰白N7/		天井部 ほぼ完形～ 口縁部1/6
第40図	126	2次墓道	須恵器	高台付杯	①11.1 ②4.0 ④(8.9)		回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 不良 C 外橙7.5YR7/6～にぶい橙7.5YR6/4、内橙7.5YR7/4	有	底部完存～ 体部1/2
第40図	127	2次墓道	須恵器	高台付杯	①13.5 ②4.7 ④9.2		内外面とも回転ナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 良好 C 外黒N1.5/～灰N6/、内暗青灰5PB4/1	有	完形
第40図	128	2次墓道	須恵器	高台付杯	①16.2 ②4.7 ④13.1		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰10Y6/1		完形
第40図	129	2次墓道	須恵器	高台付杯	①14.0 ②4.65 ④9.5		回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 精緻。白色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N5/～暗灰N3/、内青灰5PB6/1		完形

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調	ヘ ラ 記 号	残存
第40図	130	2次墓道	須恵器	高台付杯	①14.0 ②4.7 ④9.2	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 白色砂粒等を含むが良好。 B 堅く精緻。 C 内外灰N5/		完形
第40図	131	2次墓道	須恵器	高台付杯	①13.6 ②4.7 ④9.1	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 白色砂粒、雲母片等を含むが、精緻。 B 良好。 C 内外灰7.5Y6/1		完形
第40図	132	2次墓道	須恵器	高台付杯	①13.9 ②4.4 ④9.0	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 白色砂粒等含まず精緻。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1		完形
第40図	133	2次墓道	須恵器	高台付杯	①(14.4) ②4.1 ④(10.7)	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等含まず精緻。 B 良好 C 外灰7.5Y5/1、内灰7.5Y6/1		1/2
第40図	134	2次墓道	須恵器	高台付杯	①14.6 ②5.4 ④11.0	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 内外灰白7.5Y7/1		ほぼ完形
第40図	135	2次墓道	須恵器	高杯	①12.8 受部径14.55 ②9.3 ③脚裾部径(11.0)	杯部は回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。口縁と体部間に段を有し、体部と底部間に沈線がある。この段と沈線との間に刺突文を施す。脚部外面はカキ目。2方向に透かし孔あり。	A 精緻。白色・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外 暗 灰 N3/ ～ 褐 灰 10YR4/1、内 (杯) 青灰5PB5/1 (脚) 褐灰10YR4/1	有	ほぼ完形
第40図	136	2次墓道	須恵器	高杯	①12.4 ②12.75 ③脚裾部径10.1	杯部は内外面とも回転ナデ、体部と底部の屈曲部は広めの沈線が2条あり沈線間を突出させる。脚部上半外面はカキ目、下半は3方向の透かしあり。	A 灰色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外 灰 褐 7.5YR6/2、内 (杯) 褐 灰 10YR5/1(脚) 褐灰10YR5/1		ほぼ完形
第40図	137	2次墓道	須恵器	高杯	①(11.75)	高杯の脚部。内外面とも回転ナデ。外面には沈線あり。裾部は外反し下方に小さくつまみ出す。	A 白色砂粒をわずかに含むが精緻 B 良好。 C 内外暗灰N3/～灰N6/ (脚部内灰N6/)	有	1/2
第40図	138	2次墓道	須恵器	高杯	①12.8 ②16.85 ③脚裾部径12.5	高杯の脚部。内外面とも回転ナデ。外面には沈線あり。裾部は外反し下方に小さくつまみ出す。	A 灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好。 C 外 紫 灰 5P6/1～青灰5PB5/1、内 (杯) 灰白10YR8/2～10YR7/2(脚) 灰N6/		ほぼ完形
第40図	139	2次墓道	須恵器	高杯	③脚裾部径(11.8)	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒含まず精緻。 B 良好 C 外灰N6/～灰N4/、内黄灰2.5Y6/1		1/3
第40図	140	2次墓道	須恵器	高杯	③脚裾部径(11.15)	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰白N7/～暗灰N3/、内灰N4/		1/3
第40図	141	2次墓道	須恵器	甕	頸部径3.7	口縁部は回転ナデで中位に2条の沈線があり、沈線のしたはカキ目。胴部外面はカキ目、底部は回転ヘラケズリ後ナデである。胴部上面に円形の蓋をして整形後、口縁部を取り付けている。胴部上半には粘土の小塊を2ヶ所貼り付けている。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B やや不良 C 内外灰白2.5Y7/1		口縁端部を除く頸部完存
第40図	142	2次墓道	須恵器	台付碗		口頸部が外湾し口縁端部が断面三角形となる。胴部最大径は胴部上半にある。後頸部は内外面とも回転ナデ、胴部外面はカキ目を施す。胴部内面は回転ナデで、底部内面は回転ナデ後ナデ。	A 砂粒等含まず精緻。 B やや不良 C 外黒N2/、内(杯)灰N5/ (脚) 黒N2/		1/3
第40図	143	2次墓道	須恵器	平瓶	①6.1 ②13.9 ⑤胴部最大径15.6	口縁部は短く直立し、胴部は扁平で最大径が中位にある。内外面とも回転ナデで、底部外面はナデ。	A 精緻。白色・灰色砂粒や・石英質砂粒等を含む。 B 良好 C 内外灰N5/	有	ほぼ完形
第41図	144	2次墓道	須恵器	甕	①12.6 ②17.4 ⑤胴部最大径18.0	胴部外面は回転ナデで、胴部上半はカキ目を施し浅い沈線あり。底部内面は回転ナデ。	A 白色砂粒等を多く含む。 B やや不良 C 外灰白7.5Y7/1～一部灰N5/、内灰N6/	有	ほぼ完形
第41図	145	2次墓道	須恵器	小壺	①7.2 ②4.6 ③6.6 ⑤胴部最大径9.6	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 白色微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外 灰 7.5Y6/1 ～ 7.5Y4/1、内 灰 7.5Y5/1	有	ほぼ完形
第41図	146	2次墓道	須恵器	壺	③5.6 ⑤胴部最大径12.6	杯部は内外面とも回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。底部内面はナデ。脚部は内外面とも回転ナデ。焼成不良で橙色を呈する。	A 精緻。灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外 灰 白 5Y7/1 ～ 灰 5Y5/1、内 灰 7.5Y6/1	有	胴下半部をほぼ完存～肩部1/4
第41図	147	2次墓道	須恵器	播鉢	②6.7 ③底部(脚部)10.8 上部平坦部径6.9	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外黒N2/～灰N6/、内暗灰N3/		ほぼ完形
第41図	148	2次墓道	須恵器	高杯	①(24.6) ③脚裾部径(10.6)	回転ナデ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 白色砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 内外橙7.5YR7/6		1/5
第41図	149	2次墓道	須恵器	皿	①(28.6) ②5.4 ④21.4	焼き歪が著しい高杯。杯部は内外面とも回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。脚部は内外面とも回転ナデ。灰釉のかけ具合から杯部を下にして焼成したと推測される。	A 精緻。微砂粒等をわずかに含む。 B 不良 C 外橙7.5YR7/6、内灰黄2.5Y7/2		底部ほぼ完存～口縁部一部
第41図	150	2次墓道	須恵器	蓋	ツマミ部径2.4	杯部は内外面とも回転ナデ、体部と底部の屈曲部は広めの沈線が2条ある。底部外面は回転ヘラケズリ。脚部中位には2条の沈線がめぐり、沈線より上半外面はカキ目あり。下半外面と脚部内面は回転ナデ。	A 砂粒等をほとんど含まない。 B やや不良 C 外灰白2.5Y7/1、内灰白5Y7/1		ツマミ部完存～天井部2/3
第41図	151	2次墓道	土師器	把手付鉢	①(15.2)	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 白色砂粒等を含む。 B 良 C 外 褐 灰 10YR4/1～に ぶい 黄 橙 10YR6/4、内褐灰10YR4/1		1/4

挿図番号	遺物番号	遺構(出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ記号	残存
第41図	152	3区墳丘	須恵器	杯蓋	①(14.2) ②4.5	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N5/		1/5
第41図	153	3区墳丘	須恵器	杯身	受部径(14.8)	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等含まず精緻。 B 良好 C 外灰N5/、内灰N6/		1/10
第41図	154	3区墳丘	須恵器	高杯	①(10.6)	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等含まず精緻。 B やや不良 C 内外暗灰N3/	有	1/4
第41図	155	2区墳裾	須恵器	蓋	①(12.6) ②1.65	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等含まず精緻。 B 良好 C 外黒2.5Y2/1～灰白2.5Y7/1、内黒褐7.5YR3/1～褐灰7.5YR5/1		1/2
第41図	156	2区墳裾	須恵器	平瓶	⑤胴部最大径(15.0)	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等を含む。 B 良 C 内外灰N5/		胴部1/4～ 口縁部2/3
第42図	157	4区墳裾	須恵器	高杯	③脚部部径(18.2)	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 灰色・黒色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外青黒5B2/1、内青灰5PB6/1～灰白5Y7/2		脚部の一部
第42図	158	4区墳裾	須恵器	大甕	⑤胴部最大径(39.6) 頸部径(17.8)	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 砂粒等含まず精緻。 B やや不良 C 外灰N4/、内灰N5/		胴部1/4
第42図	159	盗掘坑	須恵器	杯蓋	①12.4 ②3.1	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 灰色砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外暗灰N3/	有	口縁部1/3
第42図	160	盗掘坑	須恵器	甕	①(22.7)	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナデ。	A 灰色・石英質砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外暗灰N3/～灰N6/		口縁部1/4
<b>5号墳</b>									
第48図	1	玄室	須恵器	杯蓋	①8.2 受部径10.25 ②2.4	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒等を含む粗製の胎土。 B 不良 C 外青灰5BG5/1～灰白5Y5/1、内灰7.5Y7/1～灰白7.5Y7/1	有	完形
第48図	2	玄室	須恵器	杯蓋	①8.2 受部径10.75 ②2.2	回転ナデ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒等を含み、粗製。 B 非常にあまい。 C 内外緑灰5G5/1～灰7.5Y6/1	有	完形
第48図	3	玄室	須恵器	杯身	①10.0 ②3.3	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ後ナデ。体部中位のやや下に沈線1条あり。	A 白色・灰色砂粒等を含み、粗製。 B やや不良 C 外青灰5BG5/1～灰白5Y7/1、内灰7.5Y5/1～灰白7.5Y7/1	有	完形
第48図	4	玄室	須恵器	杯身	①9.4 ②3.5	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 内外灰白2.5Y8/2～にぶい黄褐10YR5/4		完形
第48図	5	1区周溝	須恵器	杯身	①(10.4) 受部径(12.3) ②3.4	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 内外黒褐10YR3/1	有	1/2
第48図	6	1区周溝	須恵器	平瓶	①6.1 ②11.9 ⑤胴部最大径14.4	胴部は回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリで、底部から胴部にかけてカキ目を施す。胴部上位は円板を貼付けて閉じた後、穴を開けて口頸部を取り付けている。胴部内外面の一部に自然釉付着。	A 精緻。灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰白2.5Y7/1～灰オリーブ5Y4/2(自然釉)、内灰N6/～灰オリーブ5Y4/2(釉たまり部分明黄褐10YR6/8)	有	口縁部～ 底部3/4
第48図	7	1区周溝	須恵器	甕	①(11.0) 頸部径3.2 ②14.5 ⑤胴部最大径9.8	胴部は回転ナデ後回転ヘラケズリ。胴部穿孔の上下に沈線を施し、この間に刺突文あり。口頸部は回転ナデ。口縁部下の屈曲部に1条、その下部に2条の沈線あり。	A 白色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N5/～灰白7.5Y7/1	有	胴部完存 全体の4/5
第48図	8	1区周溝	須恵器	短頸壺	①(9.75) ②(15.6) ⑤脚部最大径19.65	口頸部は回転ナデで、直立に立上り口縁端部がやや外傾する。胴部下半から底部は回転ヘラケズリで胴部上半は回転ナデ後ナデ。胴部上半に2条沈線あり。内面は頸～肩部と底部に指頭痕あり。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N6/、内灰N5/		口縁部1/2 ～体部1/3
第48図	9	1区周溝	須恵器	壺	①(6.2)	回転ナデ。	A 白色微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N4/～灰7.5Y5/1		口縁部1/2 ～頸部ほぼ 完存か?
第48図	10	1区周溝	須恵器	壺	⑤胴部最大径13.1	胴部下半は回転ヘラケズリ後、静止ヘラケズリ。上半は回転ナデ。	A 白色微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N4/～灰7.5Y5/1		肩部3/4～ 底部完存
第48図	11	2区周溝	須恵器	杯蓋	①12.7 ②4.85	回転ナデ後外面回転ヘラケズリ、内面天井部には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境に沈線状の段あり。	A 白色微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰7.5Y4/1～灰白7.5Y7/1、内灰5Y4/1～灰白5Y7/1		3/4
第48図	12	2区周溝	須恵器	杯身	①(11.8) 受部径14.0 ②3.25	回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。底部内面は回転ナデ後ナデ。	A 白色・黒色微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N6/ 端部暗灰N3/	有	3/4

挿図番号	遺物番号	遺構(出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ記号	残存
第48図	13	2区周溝	須恵器	椀	①9.8 ②6.7 ③4.0	回転ナデ後底部外面は静止ヘラケズリ。底部内面は回転ナデ後ナデ。	A 精緻。白色・黒色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰黄2.5Y6/2、内暗青灰10BG4/1	有	ほぼ完形
第48図	14	2区周溝	須恵器	甕	①(13.0) ⑤胴部最大径(17.6)	口縁部から胴部上半は回転ナデ。胴部下半外面は平行タタキ目、内面は同心円タタキ目。	A 白色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外にぶい黄2.5Y6/3		口縁の一部と肩部～体部1/4
第49図	15	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(11.4) ②3.6	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ後、ナデ。	A 灰色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外淡黄2.5Y8/3	有	1/2
第49図	16	3区周溝	須恵器	杯身	①(10.9) 受部径(12.6) ②3.15	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ後、ナデ。	A 白色・灰色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外明黄褐10YR6/6	有	2/3
第49図	17	3区周溝	須恵器	杯身	①(10.8) 受部径(12.8) ②4.2	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ後、ナデ。	A 白色・灰色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外灰白2.5Y8/2	有	ほぼ完形
第49図	18	3区周溝	須恵器	杯身	①10.0 受部径12.0 ②3.5	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ後、ナデ。	A 白色・灰色微砂粒等を多く含む。 B 良 C 外黒褐2.5Y3/2～にぶい黄橙10YR6/3、内暗青灰10BG4/1	有	ほぼ完形
第49図	19	3区周溝	須恵器	杯身	①10.2 受部径12.2 ②3.3	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ後、ナデ。	A 白色・灰色微砂粒等を多く含む。 B 良好 C 内外黒褐10YR3/1～褐灰10YR4/1	有	口縁部1/2 その他完形
第49図	20	3区周溝	須恵器	甕	①(11.6) ②15.4 ③3.6 ⑤胴部最大径8.4	胴部は回転ナデ後回転ヘラケズリ。胴部上半に沈線2条を施し、この間に刺突文あり。口頸部は回転ナデ後カキ目あり。口縁部下の屈曲部に段を有す。	A 砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N6/～暗灰N3/	有	口縁部1/12 その他完形
第49図	21	3区周溝	須恵器	短頸壺	①9.65 ②8.6 ③7.5 ⑤胴部最大径12.0	回転ナデ後、底部外面は粗いヘラ切。胴部にはカキ目を施す。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外暗灰N2/～灰5Y6/1	有	ほぼ完形
第49図	22	3区周溝	須恵器	短頸壺	①(7.3) ②7.0 ③6.5 ⑤胴部最大径13.2	回転ナデ後、底部外面は粗いヘラ切。胴部にはカキ目を施す。胴部上半に2条沈線あり。底部に内面は灰かぶりあり。	A 灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外黒褐2.5Y3/1～黄灰2.5Y6/1	有	口縁部1/3 その他完形
第49図	23	3区周溝	須恵器	横瓶	①13.4 ②31.5 ⑤胴部最大径(39.0) 胴部最大径〔側面部〕(27.1)	口頸部は回転ナデで外湾し立ちあがる。頸部内面には指頭痕あり。胴部外面は平行タタキ目後カキ目で、内面は同心円タタキ目である。縦長に成形後、胴部中央に口縁部を取り付けている。	A 砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰白N7/～灰N4/、内灰N5/		2/3
第49図	24	3区周溝	須恵器	壺	①4.6 ②8.35 ③5.8 ⑤胴部最大径11.0	口頸部は回転ナデで、直立ぎみに立上がる。胴部から底部にかけては回転ナデ後、胴部下半は回転ヘラケズリ。底部外面は静止ヘラケズリ。胴部上半外面はカキ目を施す。	A 微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外黒褐2.5Y3/1～黄灰2.5Y6/1	有	3/4
第49図	25	3区周溝	須恵器	甕	①18.0	内外面とも回転ナデ。頸部外面に線がありヘラ記号か。	A 砂粒・黒色微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 内外灰黄2.5Y7/2	有	口縁部完形
第49図	26	3区周溝	須恵器	甕	①(14.6) ②21.0 ⑤胴部最大径(20.4)	口縁部は頸部から直線的に立上り中央で外反し、端部は平坦である。胴部は胴部から底部にかけての外側は平行タタキ目後、部分的にカキ目を施す。内面は同心円タタキ目あり。胴部上半外面はカキ目で、内面は回転ナデである。ヘラ記号は口頸部内面と胴部上半外面の2ヶ所にある。	A 砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N6/、内灰N4/～灰N6/	有	1/2
第50図	27	3区周溝	須恵器	大甕	①35.8 ②66.65 ⑤胴部最大径52.2	口頸部が外反し立ち上がる。口縁部下と口頸部の中央に2条の沈線あり、上半には斜線文、下半にはカキ目あり。胴部は上位に最大径がある。外面は平行タタキ目、内面は同心円タタキ目である。口頸部の内外面に3本を単位とするヘラ記号がみられる。	A 砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1～灰N6/	有	3/4
第50図	28	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(10.7) 受部径(12.6) ②3.3	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ後、ナデ。	A 灰色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外にぶい黄橙10YR6/3	有	口縁部1/4～天井部ほぼ完形
第50図	29	3区周溝	須恵器	杯身	①12.0 受部径14.0 ②3.4	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰白5Y7/1、内青灰5PB5/1	有	ほぼ完形
第50図	30	3区周溝	須恵器	杯身	①10.2 受部径12.4 ②3.3	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 不良 C 内外灰黄2.5Y6/2～灰白2.5Y8/2		1/2
第50図	31	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.2) 受部径(12.8) ②3.65	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 灰色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外淡黄2.5Y7/3～灰白2.5Y7/1	有	2/3
第50図	32	3区周溝	須恵器	杯身	①11.2 受部径13.8 ②4.2	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰N6/、内灰N5/		口縁部3/4その他完形
第50図	33	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.1) 受部径(13.4) ②3.8	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1～灰5Y4/1	有	1/3
第50図	34	3区周溝	須恵器	杯身	①10.0 受部径12.0 ②3.3	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 不良 C 内外橙2.5YR6/6	有	ほぼ完形

挿図番号	遺物番号	遺構(出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ記号	残存
第50図	35	3区周溝	須恵器	杯身	受部径(12.4)	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 灰色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外灰黄2.5Y7/2	有	1/4
第51図	36	3区周溝	須恵器	大甕	①33.0 ②64.6 ⑤胴部最大径52.2	口頸部が外反し立ち上がる。口縁部下と口頸部の中央に2条の沈線あり、上半には斜線文あり。胴部は上位に最大径がある。外面は平行タタキ目、内面は同心円タタキ目である。口頸部の内外面にヘラ記号がみられる。	A 砂粒等を含むが精緻。 B 良好 C 内外灰7.5Y6/1	有	口縁部1/2～ 肩部以外ほぼ 完存
第51図	37	4区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②3.2	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。微砂粒を多く含む。 B 不良 C 内外灰白2.5Y8/2	有	1/6
第51図	38	4区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②4.1	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。砂粒・微砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2、内灰白5Y7/2	有	口縁部1/5～ 天井部1/3
第51図	39	4区周溝	須恵器	杯身	①(11.2) 受部径(13.3) ②4.0	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒・黒色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰10Y6/1～10Y5/1、内青灰5PB6/1	有	底部ほぼ 完存～ 口縁部1/6
第51図	40	4区周溝	須恵器	杯身	①(11.05) 受部径(13.15) ②(3.7)	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰N6、内灰7.5Y6/1～7.5Y5/1	有	底部4/5～ 口縁端部 一部
第51図	41	4区周溝	須恵器	杯身	①(11.0) 受部径(13.2)	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰N6/～まだら状に暗灰N3/ 内灰N6/		受部1/5
第51図	42	4区周溝	須恵器	杯身	①(10.2) 受部径(13.2) ②2.35	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。砂粒・微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰5Y6/1、内灰5Y5/1		1/6
第51図	43	4区周溝	須恵器	壺	頸部径(5.3) ⑤胴部最大径(14.4)	胴部外面には3条の沈線あり。胴部中央にはハケ目のような調整痕があり、胴部上位にはカキ目あり。胴部下半外面は、回転ヘラケズリ。	A 白色・灰色微砂粒等を含むが精緻。 B 良好 C 外黒N2/～灰黄2.5Y7/2、内青灰5PB5/1		1/4
第51図	44	周溝	須恵器	杯蓋	①11.8 ②3.85	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ。	A 白色砂粒等を含むが粗製。 B 不良 C 外灰黄2.5Y6/2～灰白2.5Y8/2、内灰黄2.5Y7/2		完形
第51図	45	周溝	須恵器	大甕	①(22.0) 頸部形(17.2)	口頸部が短い外反し立ちあがる。口縁部下部に1条の三角突帯をもつ。突帯は全体的に丸みを持つが、一部シャープなものである。調整は、斜め方向ハケメでその後に回転コナデである。胴部外面は頸部から最大径部付近までは平行タタキ目で、底部は平行タタキ目の後カキ目を施し、最終的にはナデている。内面は同心円タタキ目である。	A 白色砂粒等を含み、粗製。 B 不良 C 外暗灰N3/～灰N6、内黒N2/～灰N6/		口縁部1/2 ～?
第51図	46	墓道	須恵器	杯蓋	①12.6 ②3.8	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 灰色・白色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外黒褐10YR3/1～灰N6/、内褐灰7.5YR4/1	有	口縁部1/4 ～底部 ほぼ完存
第51図	47	墓道上層	須恵器	杯蓋	①(9.7) 受部径(11.8) ②3.1	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒・微砂粒を多く含む。 B 不良 C 外暗灰黄2.5Y4/2、内灰7.5Y5/1		口縁部1/4
第51図	48	墓道上層	須恵器	杯蓋	①(9.8) 受部径(12.05) ②3.15	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。わずかに砂粒を含む。 B 不良 C 外灰黄2.5Y7/2～にぶい黄2.5Y6/3、内浅黄2.5Y7/3	有	1/3
第51図	49	墓道上層	須恵器	杯身	①(12.6) 受部径(15.2) ②3.2	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まず精緻。 B 良好 C 外灰10Y6/、内灰N6/	有	1/4
第51図	50	墓道上層	須恵器	杯身	①11.0 受部径12.8 ②3.9	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒を多く含む。 B 良好 C 外灰白5Y7/1～灰N5/、内灰N5/		口縁部3/4
第51図	51	墓道上層	須恵器	杯身	①11.0 受部径13.0 ②4.05	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒・微砂粒を含む。 B 良好 C 外黒褐10YR3/1～青灰5PB6/1、内黒褐10YR3/1	有	2/3
第51図	52	墓道上層	土師器	椀	④(7.0)	摩擦により調整不明。	A 砂粒含まず精緻。 B 不良 C 外橙5YR6/6、内橙7.5YR7/6		底部、 高台部1/2
第52図	53	墓道中層	須恵器	杯蓋	①11.6 ②3.5	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 白色砂粒を多く含む。 B やや不良 C 内外灰オリーブ5Y5/2		口縁部1/2 ～体部2/3
第52図	54	墓道中層	須恵器	杯蓋	①(10.4) 受部径(12.2) ②3.45	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒をあまり含まず精緻。 B 不良 C 内外灰白2.5Y8/2	有	口縁部1/9～ 天井部2/3
第52図	55	墓道中層	須恵器	短頸壺	①6.1 ②5.8 ⑤胴部最大径 10.5	口縁部が直行し、胴部上半に2条の沈線があり、胴部中央のやや上に最大径がある。調整は回転ナデで、底部外面は回転ヘラケズリ、胴部外面はカキ目を施す。	A 砂粒等は含まれず精緻。 B 良好 C 外暗灰 N3/～灰N6/、内灰 N6/	有	口縁部3/4 胴部完存

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調	ヘ ラ 記 号	残存
第52図	56	墓道中層	須恵器	大甕	①33.6 ②55.3 ⑤胴部最大径47.9	口頸部が直線的に外反する大甕。口縁下の外面に2条の三角形の突帯と口頸部の中央に2条の沈線あり。口頸部外面は縦刷毛後、工具による回転ナデ。沈線より上位には斜線文を施す。胴部上半に最大径部があり、外面は平行タタキ目、内面は同心円文タタキ目である。胴部上半外面は、平行タタキ目後、横方向のカキ目を施している。	A 砂粒は少なく精緻。 B やや不良 C 内外灰白5Y7/1～灰5Y5/1		底部以外 ほぼ完存
第52図	57	墓道中層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②3.6	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒等を多く含む。 B やや不良 C 外灰褐10YR4/1、内灰5Y4/1		2/3
第52図	58	墓道中層	須恵器	杯蓋	①11.0 ②3.6	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。白色砂粒等を多く含む。 B やや不良 C 外灰褐10YR4/1、内灰10YR5/1		3/4
第52図	59	墓道中層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②3.65	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。灰色・黄灰色砂粒等を多く含む。 B やや不良 C 外灰褐10YR4/1、内灰5Y4/1		ほぼ完形
第52図	60	墓道中層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②3.5	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 外にぶい褐7.5YR6/3、内灰黄2.5Y7/2	有	1/2
第52図	61	墓道下層	須恵器	杯蓋	①(11.5) ②3.6	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 微砂粒を含む。 B 不良 C 内外浅黄2.5Y7/4	有	口縁部1/4 ～天井部 ほぼ完存
第52図	62	墓道	須恵器	高杯	①12.4 受部径5.0 ②15.7 ③脚部径14.4	杯部は回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。脚部は三方の2段透かしで、透かしの間には2条の沈線がある。	A 精緻。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰N5/～N6/		杯部3/4～ 脚部2/3
第52図	63	墓道	土師器	高杯	杯・脚接合部径3.2	脚部上半のみ残存する。外面は縦方向のミガキカ。	A 白色砂粒をごくわずかに含むが精緻。 B 良 C 内外橙5YR7/8		脚部片
第52図	64	墓道	須恵器	皮袋形 土器	①6.3～6.7 ②14.4 頸部径3.3～3.7 底部長15.5+α	5.5cmの長さの口頸部を有し、体部は皮袋形である。口頸部は回転ナデ後、中位に2条の沈線を施している。皮袋形の胴部には肩部に1条、中位に2条の沈線を施し、底部付近には貫通した径3mm程度の円形の孔が3ヶ所ある。本来は4ヶ所であったと考えられるが、4個目の箇所は破損している。頸部と1条の沈線の間は回転ヘラケズリ後にナデで、1条・2条の沈線の間と2条の沈線の下部は回転ナデで、その後で工具による縦線を描き2～3mm程度の円形の刺突文を施している。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外黒褐5YR2/1～灰褐5YR5/2～灰黄2.5YR7/2		ほぼ完形
第53図	65	1区墳丘 (表土下)	須恵器	杯身	①10.9 受部径13.4 ②3.8	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N6/	有	ほぼ完形
第53図	66	1区墳丘 (表土下)	須恵器	杯身	①(12.0) 受部径(14.0) ②2.85	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。白色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外青灰5PB6/1～灰7.5Y6/1、内青灰5PB5/1	有	1/4
第53図	67	1区墳丘 (表土下)	須恵器	杯身	①11.9 受部径14.25 ②3.3	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外青灰5PB6/1～青黒5PB2/1、内青灰5PB5/1	有	1/2
第53図	68	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②3.65	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒・微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外黒N2/～黄灰2.5Y6/1、内灰N6/	有	口縁部1/4 その他完存
第53図	69	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯蓋	①(13.65) ②3.55	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外黒N2/～灰5Y5/1、内灰N6/	有	口縁部1/4 ～底部完存
第53図	70	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯蓋	①13.6 ②3.5	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒なく精緻。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N6/、内灰N5/	有	2/3
第53図	71	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯蓋	①(14.5) ②3.45	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 微砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～青灰5PB5/1、内青灰8PB6/1	有?	1/4
第53図	72	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯蓋	①(13.4) ②3.45	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。わずかに砂粒を含む。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1、内灰N6/	有	1/2
第53図	73	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②3.3	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。白色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/～灰N6/、内灰5Y6/1	有	口縁部1/8 ～体部1/3
第53図	74	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯蓋	—	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外暗灰N3/～灰N5/、内灰N5/	有	体部3/5
第53図	75	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯蓋	①(12.4) ②3.3	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/～灰5Y6/1、内灰5Y5/1	有?	口縁部1/8
第53図	76	1区墳丘 (盗掘坑)	須恵器	杯身	①(11.8) 受部径(14.3) ②3.2	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 良好 C 外黒褐10YR3/1～にぶい黄橙10YR7/2、内灰5PB5/1		1/3



挿図番号	遺物番号	遺構(出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ記号	残存
第53図	77	1区墳丘(盗掘坑)	須恵器	杯身	①(11.5) ②受口径(13.3) ③2.5	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。わずかに白色砂粒等を含む。 B やや不良 C 外灰N4/、内黄灰2.5Y6/1	有	2/3
第53図	78	2区墳丘(盗掘坑)	土師器	椀	①(11.0)	口縁～胴部にかけては内外面とも回転ナデ。底部外面はケズリ、内面はナデ。	A 精緻。黒色微砂粒・雲母片をわずかに含む。 B 良好 C 内外橙5YR6/6		口縁部一部～底部片
第53図	79	2区墳丘(盗掘坑)	土師器	手握土器	①(8.2) ②5.3 ③(3.8)	口縁部はわずかに指押さの痕あり。胴部下外面はケズリ、底部外面はナデ。	A 精緻。白色微砂粒を含む。 B 良 C 内外にぶい橙7.5YR6/4～橙75YR6/8		底部1/2 口縁部1/6
第53図	80	2区墳裾	須恵器	甗	頸部径 3.0 ⑤胴部最大径 9.0	口縁部を欠損する。口縁部下の屈曲部に1条と口頸部に2条の沈線あり。胴部上半に2条の沈線があり、その下を穿孔する。	A 精緻。砂粒を多く含む。 B やや不良 C 外灰N6/～暗青灰5B3/1、内青灰5PB6/1		口縁部以外完存
第53図	81	2区墳裾	土師器	甗	①(11.0)	口縁部はヨコナデ、胴部上半外面はハケ目、内面は横方向のナデあり。	A 精緻。白色・黒色微砂粒を含む。 B 良好 C 外橙7.5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/3、内橙7.5YR6/6		口縁部片
第54図	82	2区墳裾	須恵器	杯蓋	①(11.0) ②3.3	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒等を多く含む。 B やや不良 C 外灰オリーブ5Y6/2～灰5Y5/1、内灰オリーブ5Y6/2		口縁部1/5～天井部1/3～体部1/3
第54図	83	2区墳裾	須恵器	小壺	①(5.3) 頸部径(4.8) ⑤胴部最大径(8.6)	口縁部はやや外反し直立する、胴部中央に最大径がある。調整は内外面とも回転ナデである。	A 精緻。微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/～灰7.5Y6/1、内灰5Y5/1		2/3
第54図	84	墳丘	須恵器	杯蓋	①(14.6)	内外面とも回転ナデである。	A 精緻。白色微砂粒等を含む。 B 良好 C 外暗灰N3/、内灰N5/		口縁部1/3
第54図	85	墳裾	須恵器	杯蓋	①(13.0)	回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリである。	A 微砂粒等を多く含むが精緻。 B 良好 C 外暗青灰5PB4/1～灰N6/、内明青灰5PB7/1		口縁部1/4
第54図	86	墳裾	須恵器	提瓶	⑤胴部最大径(10.2)	口頸部を欠損する。回転ナデ後胴部外面は回転ヘラケズリ、胴部成形時上位に円板を貼付け、回転ナデ調整を施す。胴部成形後、胴部の横中央に穴を開け口頸部を接合している。肩部には粘土塊を2カ所に貼付けている。	A 砂粒等を含まず精緻。 B やや不良 C 内外灰オリーブ5Y6/2	有	下半部2/3
第54図	87	墳丘	須恵器	杯蓋	①(14.3) ②3.25	回転ナデ後、底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰5PB5/1	有	口縁部1/2
第55図	88	盗掘坑	土師器	杯	①(15.0) ②2.95 ③(11.4)	口縁部は内外面とも回転ナデ、底部外面は糸切りで板状圧痕あり。	A 白色・石英質砂粒を含む。 B 良 C 内外浅黄橙10YR8/3		口縁部1/4 底部1/3
第55図	89	盗掘坑	須恵器	短頸壺	①7.1 ②7.2 ⑤胴部最大径(13.1)	口縁部がやや内傾し立ち上がる。胴部中央のやや上に2条の沈線あり。胴部中央に最大径がある。回転ナデ後胴部下から底部は回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N4/～青灰5PB6/1		ほぼ完形
第55図	90	盗掘坑	須恵器	提瓶	頸部径(4.3) ⑤胴部最大径(13.4)	口頸部を欠損する。回転ナデ後胴部外面は回転ヘラケズリ、胴部成形時上位に円板を貼付け、上半にカキ目を施す。胴部成形後、胴部の横中央に穴を開け口頸部を接合している。肩部には粘土塊を2カ所に貼付けている。	A 精緻。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外明灰黄2.5Y5/2～灰N4/、内暗青灰5PB4/1	有	体部5/6
第55図	91	東側斜面	土師器	椀	①(11.0)	黒色土器。口縁部は内外面ともヨコナデ。	A 精緻。黒色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外橙7.5YR7/6、内黒7.5Y2/1		1/4
第55図	92	東側斜面	須恵器	甗	①(22.8) 頸部径(17.4)	口縁部はやや外反し直立し、口縁端部の下外面に三角形の突帯あり。回転ナデ調整で、胴部外面は平行タタキ目、内面は同心円タタキ目あり。	A 器表には砂粒は目立たないが、割れ口等には大きな砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰白2.5Y8/2～黒褐2.5Y6/1・自然軸オリーブ褐2.5Y6/3		口縁部2/3～体部上半部1/2
第55図	93	東側斜面	土師器	高台付椀	④(7.0)	黒色土器。底部内面はナデで、一部ミガキ痕あり。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ。	A 精緻。黒色微砂粒・雲母片をわずかに含む。 B 良好 C 外明黄褐10YR7/6、内黒褐10YR3/1		高台部を含む底部3/4
第55図	94	東側斜面	土師器	椀	①(11.2)	口縁部は内外面ともヨコナデ。	A 精緻。黒色微砂粒を含む。 B 良好 C 内外橙5YR6/6～橙5YR6/8		1/3
第55図	95	東側斜面	須恵器	高杯	頸部径5.3 脚部径(14.7)	脚部のみ残存する。長脚で中央に2条の沈線がある。中央から上半はカキ目を施し、下半は回転ナデである。	A 精緻。灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外黒7.5Y2/1～灰黄2.5Y6/2、内暗灰N3/～灰黄2.5Y6/2		脚部1/3～坏部底部一部
第55図	96	東側斜面	須恵器	大甗	①23.6 ⑤胴部最大径(44.8)	口縁部はやや外反し、口縁端部外面下に三角形の突帯がある。胴部上半は同心円タタキ目、外面は平行タタキ目である。	A 砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好。 C 外暗灰N3/～灰7.5Y6/1、内灰白N7/1～暗灰N3/		口縁部～肩部～胴部の一部
第55図	97	東側斜面	須恵器	大甗	⑤胴部最大径(45.8)	胴部下～底部内面は同心円タタキ目、外面は平行タタキ目である。	A 微砂粒を若干含む。 B 良 C 外黒N2/～灰N6/、内灰N4/		体部～底部

挿図 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm)		形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘ ラ 記 号	残存
					①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元					
<b>1・2号竪穴建物跡</b>										
第59図	1	1号 竪穴建物跡 P 1	土師器	椀	①(11.0)		口唇部がわずかに内湾する。体部上位はナデ後ミガキ調整、底部外面はヘラケズリ。	A 黒色微砂粒を含む。 B 良 C 外橙5YR6/8、内橙5YR6/6～黄橙7.5YR7/8		口縁部1/3
第59図	2	1号 竪穴建物跡 P 2	須恵器	杯身	①(10.7) ②3.7		回転ナデ、底部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良 C 外灰N5/、内灰N6/		口縁部1/4～ 天井部1/3
第59図	3	1号 竪穴建物跡 P 2	須恵器	高杯	①(12.2)		高杯の杯部片で、杯部体部は回転ナデ成形後、外面にカキ目を調整後3条の沈線を施している。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰5Y5/1、内灰5Y6/1		口縁部1/4
第59図	4	1号 竪穴建物跡	須恵器	杯蓋	①10.7 受部径12.6 ②3.45		回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ヨコナデ後ナデ。	A 白色砂粒を多く含む。 B やや不良 C 外灰黄2.5Y7/2、内灰黄2.5Y6/2		完形
第59図	5	1号 竪穴建物跡 P 3	須恵器	杯身	①12.2 ②4.1		回転ナデ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外灰オレンジ5Y6/2、内灰白5Y7/1～灰5Y6/1		底部完存～ 口縁部3/4
第59図	6	1号 竪穴建物跡 P 2	須恵器	甕	頸部径2.1 ⑤胴部最大径8.2		口頸部、胴部上半は回転ナデ、胴部上半は回転ナデで、下半外面は回転ヘラケズリ。胴部最大径部の上位に孔を有し、孔の上位・下位に1条の沈線があり、その沈線間に刺突文を施している。	A 白色砂粒をわずかに含む。 B 良 C 外暗灰N3/～灰N5/、内灰N6/～N5/		体部完存～ 頸部
第59図	7	1号 竪穴建物跡 P 4	土師器	甕	①16.5 ②30.1 ⑤胴部最大径22.4		口縁部はヨコナデ、内面は粗いヨコ方向ハケ目で調整。胴部外面も荒いハケ調整、内面はヘラケズリ。口縁部は外反する。底部はやや平底である。	A 白色砂粒を含む。 B 良 C 外橙5YR6/1～褐灰7.5YR5/1黒班か?内橙5YR6/6		ほぼ完形
第59図	8	1号 竪穴建物跡 埋土上層	須恵器	杯蓋	①(18.1) ②2.9 ツマミ部径2.6		回転ナデ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内天井部は回転ナデ後丁寧なナデ。天井部内面に径約10.5cmの重ね焼きによる色調差がある。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良 C 内外灰N6/～灰N5/		01月03日
第59図	9	1号 竪穴建物跡 埋土上層	須恵器	甕	①(19.3)		口頸部の内外面は回転ヨコナデ整形、胴部外面は格子状タタキ、平行文タタキである。頸部内面・断面部で接合痕跡をみる。	A 砂粒をわずかに含む。 B やや良 C 内外灰黄2.5Y7/2		口縁部片
第59図	10	2号竪穴建物 跡	須恵器	杯身	①11.1 受部径13.4 ②4.1		回転ナデで、底部外面は回転ヘラケズリ。内底部はヨコナデ後ナデ。	A 灰色砂粒・黒色部砂粒をわずかに含む。 B 良 C 外灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2、内灰白5Y7/1		1/2
第59図	11	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②5.7 ツマミ部径3.4		回転ナデで、天井部外面は回転ヘラケズリ後、カキ目を施す。体部と口縁部の境に沈線をめぐらし、口縁部は内側にわずかに段あり。天井部内面には当て具痕あり。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰7.5Y6/1～灰7.5Y5/1		1/2
第59図	12	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯身	①(11.8) 受部径(14.0) ②3.6		回転ナデで、底部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外オレンジ黒5Y3/1～灰5Y6/1、内褐灰10YR4/1	有	1/3
第59図	13	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯蓋	①(12.0) ②4.5		回転ナデで、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面は一部ナデ。口縁部と体部の境に沈線あり。口縁部内側に段あり。	A 灰色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰5Y6/1、内灰7.5Y6/1		口縁部一部 ～天井部1/3
第59図	14	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯蓋			回転ナデで、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面は一部ナデ。口縁部と体部の境に沈線あり。	A 灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外暗青灰5B4/1、内灰N6/		口縁部小片
第59図	15	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯蓋	①(13.2)		回転ヨコナデで成形し、回転ヘラケズリで切離している。内天井部は回転ヨコナデ後ナデている。口唇部は丸くおさめて、外側に沈線状の調整をみる。	A 白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 内外灰7.5Y6/1一部筋状に灰N5/		口縁部1/6～ 天井部1/3
第59図	16	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯身	①(11.8) 受部径(13.6)		回転ナデ。	A 黒色微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰5Y5/1～灰白5Y7/1、内灰5Y6/1		口縁部1/2
第59図	17	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯蓋	①(13.4)		回転ナデで、天井部外面は回転ヘラケズリ。天井部内面は回転ナデ後ナデ。	A 灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良 C 内外灰白10YR8/1		口縁部1/6
第59図	18	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯蓋	①(11.5)		回転ナデで、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 灰色砂粒等を多く含む。 B 良 C 外黄褐2.5Y5/3、内暗灰黄2.5Y5/2		口縁部1/4
第59図	19	2号 竪穴建物跡	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②3.5		回転ナデで、天井部外面は回転ヘラケズリ。天井部内面は回転ナデ後ナデ。	A 白色・灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰7.5Y6/1一部灰N5/で筋状にみられる		口縁部1/8～ 天井部1/3
第59図	20	2号 竪穴建物跡 埋土上層	須恵器	高杯			脚部は回転ナデで、杯部接合部の下位にカキ目を施し、脚部の中位に2本の沈線あり。	A 白色微砂粒をわずかに含む。 B 良 C 外灰10Y4/1、内灰7.5Y5/1		脚部片
第59図	21	2号 竪穴建物跡 埋土上層	須恵器	甕			回転ナデ。口縁部外面の下に突帯あり。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外黒N2/～暗灰N3/、灰白5Y7/1～灰5Y5/1		口縁部片

挿図番号	遺物番号	遺構(出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ ( ) は復元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら記号	残存
第59図	22	2号 竪穴建物跡 埋土上層	土師器	椀		磨滅のため調整不明。	A 黒色微砂粒をわずかに含むが精選されている。 B 良 C 外橙7.5YR6/8、内橙7.5YR7/6		口縁部片
第59図	23	2号 竪穴建物跡 埋土上層	土師器	高杯か	①(12.8)	磨滅のため調整不明であるが、丁寧なつくりである。	A 砂粒をほとんど含まない。 B 良 C 外橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/4、内橙5YR6/8		坏部
第59図	24	2号 竪穴建物跡 埋土上層	土師器	高杯	③脚部径8.0	脚部で、裾部は大きく外彎している。外面はへら状工具によるナゲまたはミガキ的な調整で、内面ではナゲ調整である。	A 砂粒を含まず、精選されている。 B 良好 C 橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/4、内明黄褐10YR6/6～黄橙7.5YR7/8		脚部はほぼ完形

### 土製品

挿図番号	遺物番号	出土位置	種類	器種	法量 (cm, g) ①長さ ②幅 ③高さ ④重さ	A:胎土 B:焼成 C:色調	残存
第57図	3	2区墳丘	土製品	模造鏡	①3.2 ②1.8 ③1.3 ④8.1	A 砂粒を含む B やや良 C 明黄褐10YR7/6	完形
第57図	4	2区墳丘 (盗掘坑)	土製品	模造鏡	①3.7 ④5.1	A 砂粒はほとんど含まず B やや良 C 明黄褐10YR7/6	1/2
第57図	5	2区墳裾	土製品	模造鏡	①3.7 ④5.6	A 砂粒はほとんど含まず B 良 C 明黄褐10YR7/6	2/3
第57図	6	2区墳裾	土製品	模造鏡	①3.8 ③1.25 ④5.0	A 白色砂粒・焼土をわずかに含む B 良 C 明黄褐10YR7/6	5/6
第57図	7	2区墳丘	土製品	模造鏡	①2.6 ②2.7 ③1.55 ④5.0	A 5mm以下の石英を含む B 良 C 橙7.5YR6/6	完形
第57図	8	2区墳丘	土製品	模造鏡	②2.4 ③1.1 ④7.4	A 砂粒をほとんど含まず B 良 C 明黄褐10YR7/6	4/5
第57図	9	2区墳丘	土製品	模造鏡	①3.2 ②1.8 ③1.5 ④5.4	A 白色砂粒・焼土をわずかに含む B やや良 C 明黄褐10YR7/6	鈕上部を 欠損する
第57図	10	2区墳丘	土製品	手捏土器	①2.7 ②1.65 最大径3.3 ③14.0	A 白色微砂粒・雲母を多く含む B 良 C 橙7.5YR6/6	完形
第57図	11	2区墳丘	土製品	手捏土器	②[1.65] ③10.0	A 白色微砂粒をわずかに含む B 良 C にぶい黄橙10YR7/4	1/3程度
第57図	12	2区墳丘 (盗掘坑)	土製品	手捏土器	①2.8 ②1.8 ③14.2	A 砂粒をほとんど含まない B 良 C 橙7.5YR7/6	3/4
第57図	13	2区墳丘 (盗掘坑)	土製品	手捏土器	①(1.9) 最大径(3.0) ③9.5	A 白色砂粒を含む B 良 C 橙7.5YR6/6	1/4
第57図	14	3区墳裾	土製品	手捏土器	①2. ②1.7 最大径2.9 ③16.4	A 白色微砂粒を含むが、精緻 B 良 C 橙7.5YR6/6	ほぼ完形
第57図	15	3区墳裾	土製品	手捏土器	①2.95 ②[1.50] ③2.4	A 砂粒をほとんど含まない B やや C 橙7.5YR7/6	口縁部1/4強
第57図	16	2区墳裾	土製品	手捏土器	①(2.6) ②1.3 ③4.8	A 砂粒はほとんど含まないが焼土をわずかに含む B やや良 C にぶい黄橙10YR7/4	口縁部を 1/2欠損するが ほぼ完形
第57図	17	2区墳丘	土製品	手捏土器	①(3.0) ②1.80 ③4.8	A 白色砂粒・雲母・焼土を含む B やや良 C にぶい黄橙10YR7/4	1/4
第57図	18	2区墳丘	土製品	手捏土器	②[1.25] ③5.1	A 白色砂粒わずかに含む B 良 C にぶい黄橙10YR7/4	1/2程度

装身具（耳環）部位計測表土製品

挿図 番号	遺物 番号	遺構名	器種	法量 (mm)				耳環の現重量 (g)
				a	b	c	d	
第29図	4	2号墳 墓道	耳環	26.4	25.2	5.8	5.2	7.4
第29図	5	2号墳 3区墳丘	耳環	23.7	21.8	6.2	4.8	8.3
第29図	6	2号墳 3区墳丘	耳環	22.3	20.7	2.5	2.9	2.6
第29図	7	2号墳 盗掘坑	耳環	26.2+ $\alpha$	26.3	6.2	6.7	14.5
第57図	1	5号墳 盗掘坑	耳環	28.8	25.5	5.8	5.8	13.4
第57図	2	5号墳 玄室	耳環	21.1	21.9	3.5	3.2	2.3

装身具（玉類）計測表

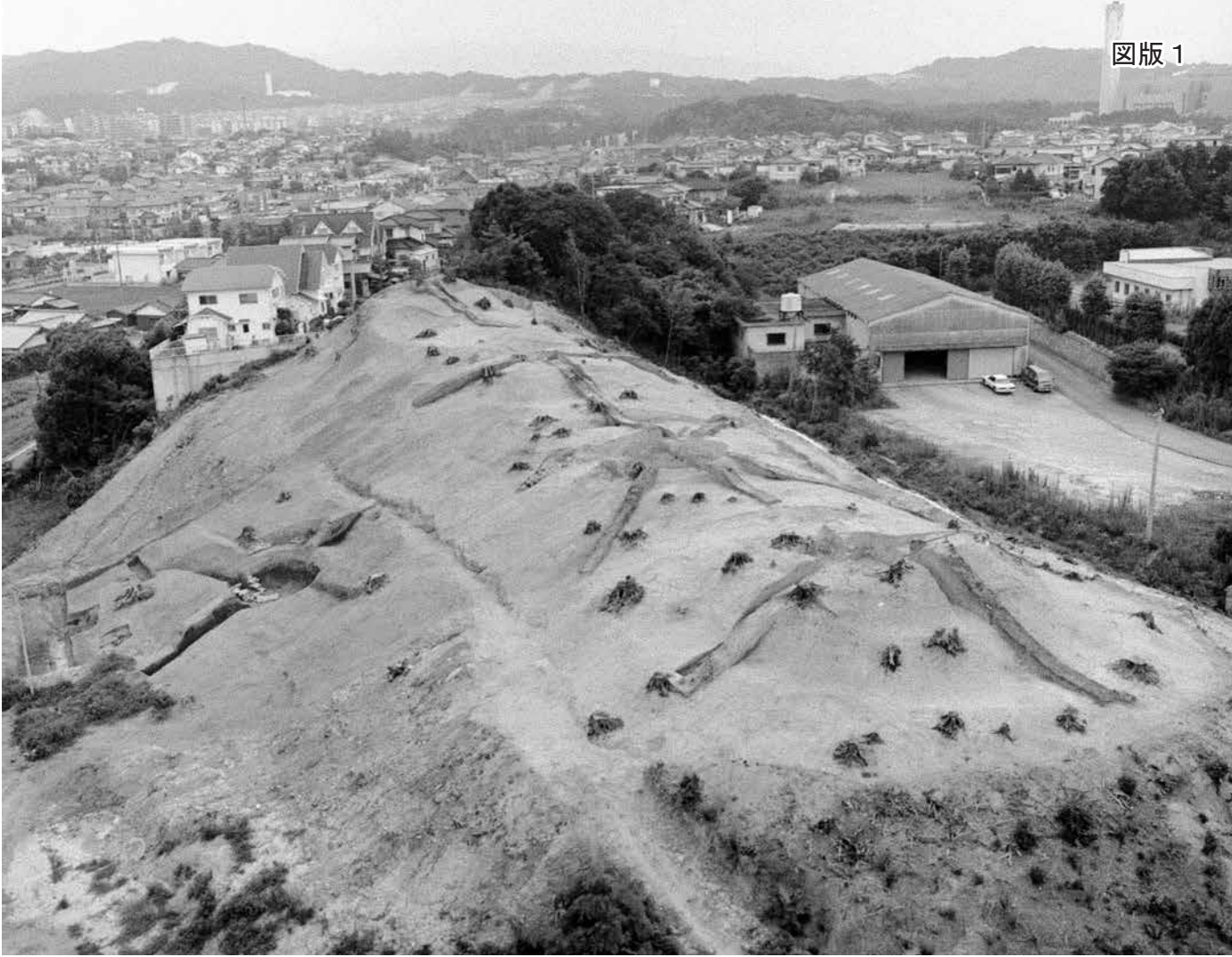
挿図 番号	遺物 番号	遺構名	器種	材質	色調	法量 (mm)				現重量 (g)
						長さ	径	孔径	d	
第19図	1	1号墳 盗掘坑（玄室）	小玉	ガラス	スカイブルー	4.4~4.5	4.7×4.9	1.2	5.2	0.1
第19図	2	1号墳 盗掘坑（玄室）	切子玉	瑪瑙か	赤紫～濃赤紫色	17.0	11.4×13.7	4.3~4.1	4.8	4.1
第43図	1	3号墳 盗掘坑	小玉	ガラス	スカイブルー	4.6~5.8	5.6×6.8	1.6	2.9	0.2
第43図	2	3号墳 腰石抜き痕	丸玉	ガラス	紺色	7.4~7.8	2.0×2.1	2.0~2.1	6.7	0.1

石器類

挿図 番号	遺物 番号	遺構名	器種	法量 (cm)	残存	備考
				①長さ ②幅 ③厚さ ④重量		
第19図	3	1号墳 盗掘坑	砥石	①6.25 ②2.75 ③1.55 ④49.4		石英長石斑岩
第29図	8	2号墳 墓道A群	石鏃	①1.65 ②1.1 ③0.4 ④0.5	約1/2残存	黒曜石
第29図	9	2号墳 4区墳丘	石鏃	①2.5 ②1.9 ③0.35 ④1.0	ほぼ完形	黒曜石
第29図	10	2号墳 墓道A群	紡錘車	①上面径3.40~3.50 下面径4.02~4.23 ③1.42 ④1.0	ほぼ完形	滑石
第43図	3	3号墳 1区墳丘	石匙	①5.7 ②4.7 ③1.0 ④28.4	ほぼ完形	安山岩
第43図	4	3号墳 3区周溝	石鏃	①1.4 ②1.4 ③0.3 ④0.3	完形	頁岩
第43図	5	3号墳 1区墳丘	石斧	①6.25 ②5.6 ③2.35 ④86.9	完形	安山岩
第57図	19	5号墳 2区墳裾東側	剝片	①3.1 ②1.7 ③0.5 ④2.7	基部の一部を残存する	
第57図	20	5号墳 2区墳丘盗掘坑	石鏃	①2.5 ②1.9 ③0.35 ④1.2		安山岩
第57図	21	5号墳 3区周溝	石鏃	①2.95 ②2.0 ③0.4 ④1.3	尖頭部？基部以外完存	安山岩
第57図	22	5号墳 4区	石斧	①6.9 ②5.55 ③3.0 ④139.5	完形	砂岩

圖 版





(1) 調査区全景 (北東から)



(2) 調査区全景 (上が南)



(1) 1号墳全景 (上が北東)



(2) 1号墳石室掘方全景 (上が北東)





(1) 1号墳周溝土器出土状況 (南西から)



(2) 1号墳周溝土器出土状況 (南東から)



(3) 1号墳周溝出土土器A群 (南西から)



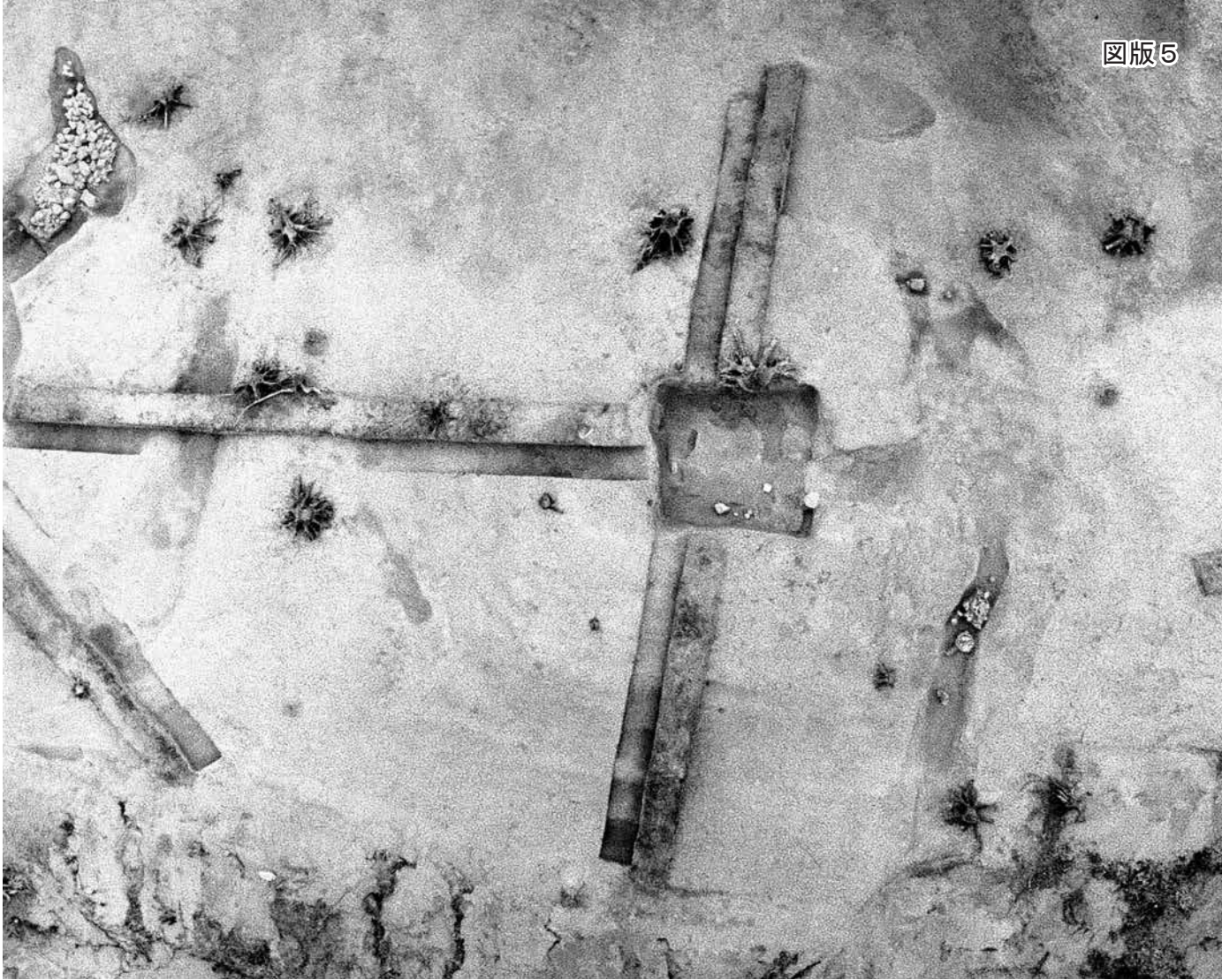
(4) 1号墳周溝出土土器B群 (南西から)



(1) 2号墳全景（上が東）



(2) 2号墳石室掘方全景（上が東）



(1) 3号墳全景 (上が南東)



(2) 3号墳石室掘方全景 (上が南東)



(1) 3号墳周溝土器出土状況  
(南西から)



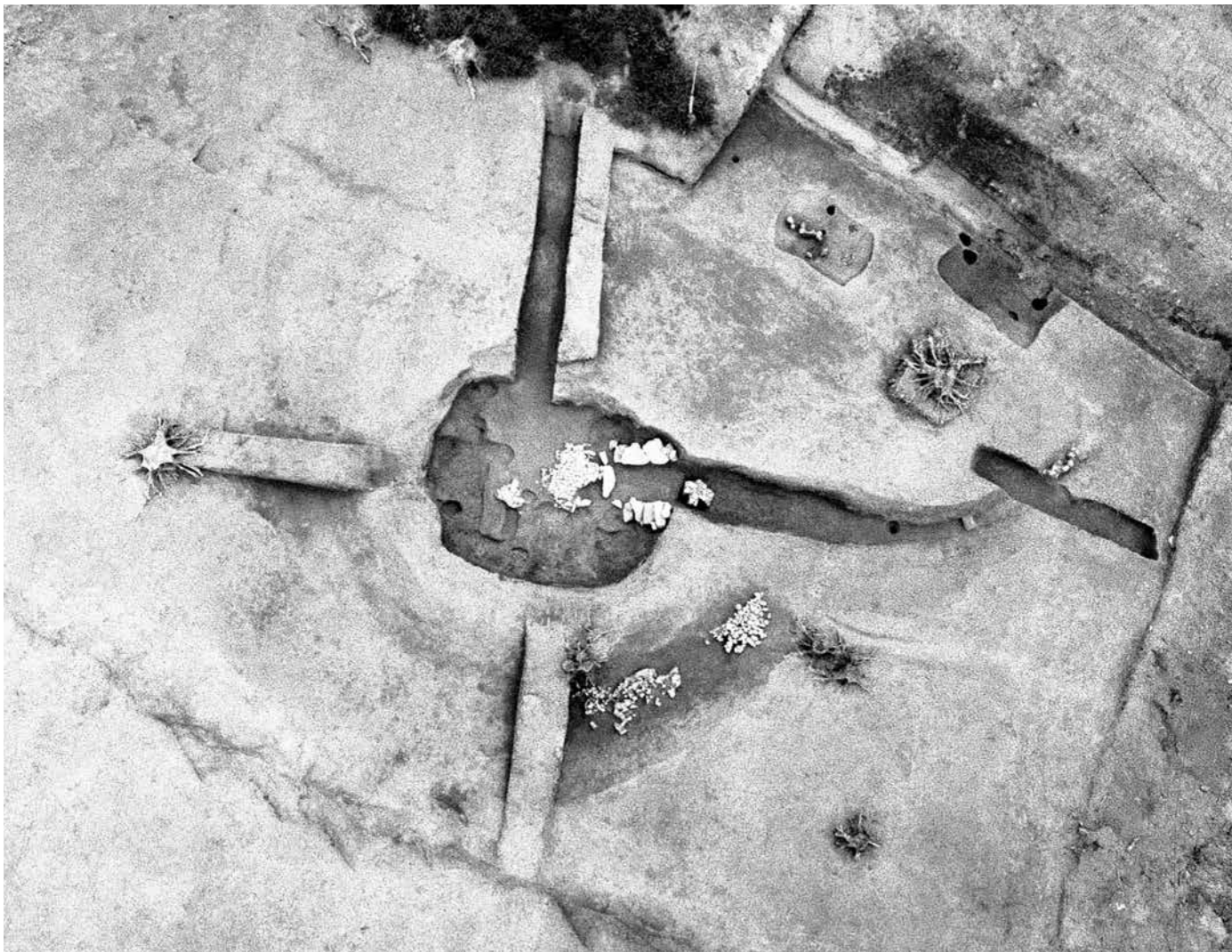
(2) 3号墳周溝土器出土状況  
(南東から)



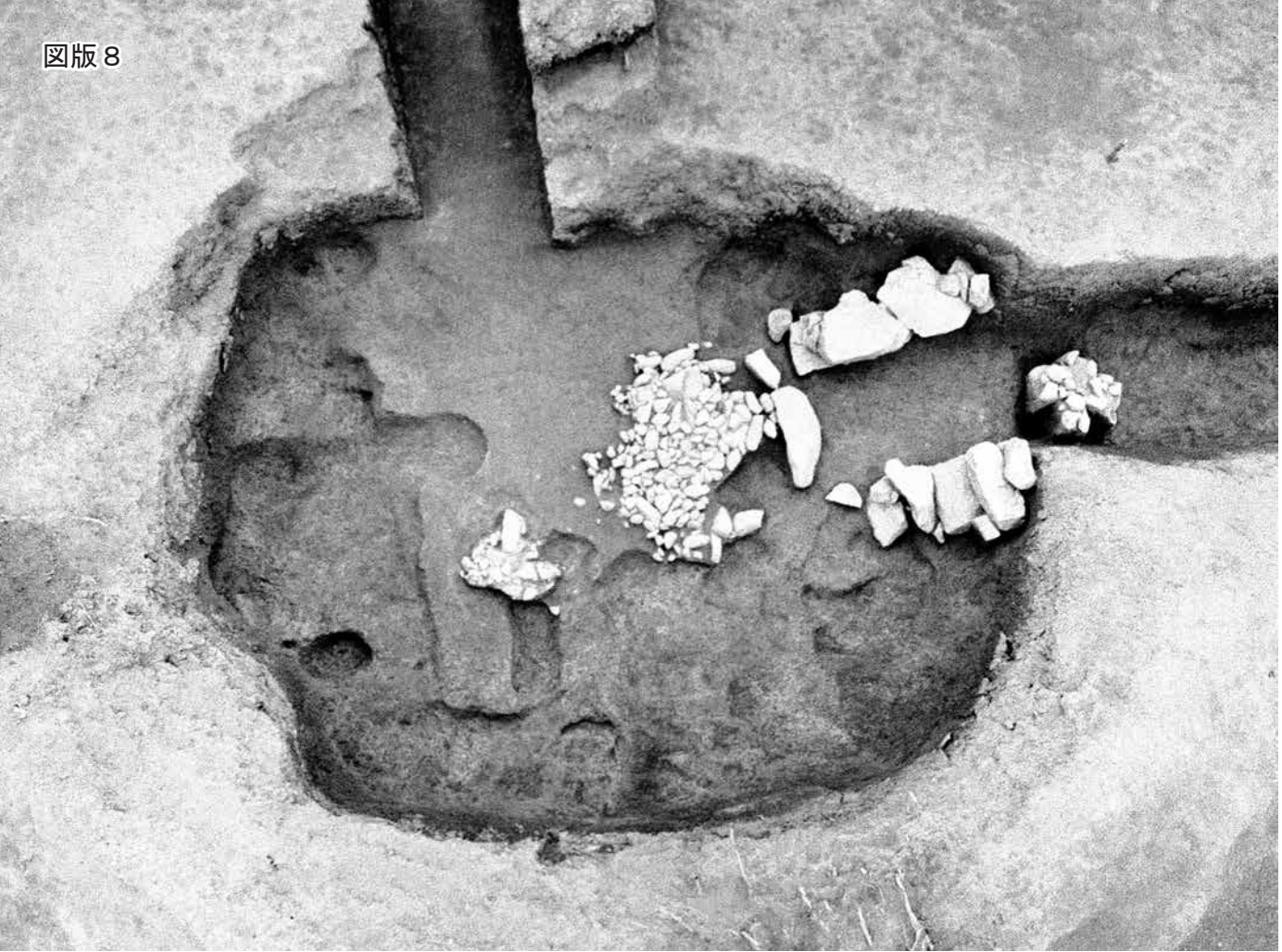
(3) 3号墳周溝土器出土状況  
(南西から)



(1) 4号墳全景 (上が西)



(2) 5号墳全景 (上が東)



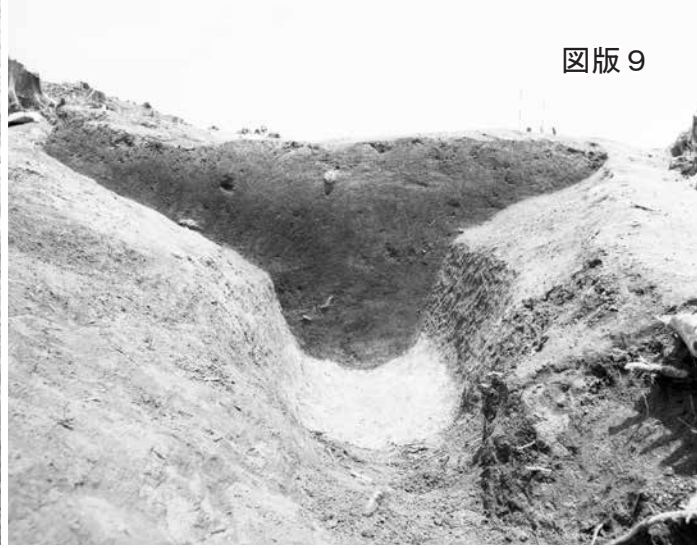
(1) 5号墳石室全景（上が東）



(2) 5号墳玄室遺物出土状況（東から）



(1) 5号墳周溝検出状況 (南から)



(2) 5号墳墓道土層断面 (南から)



(3) 1号竪穴建物跡  
(北東から)



(4) 2号竪穴建物跡  
(南東から)



9图-1



9图-3



9图-9



9图-2



9图-4



9图-10



9图-5



9图-7



9图-6



9图-8



9图-13



9图-11



9图-12



9图-14



9图-16



9图-15





10图-17



10图-20



10图-23



10图-18



10图-21



10图-24



10图-19



10图-22



10图-28



10图-29



10图-27



10图-28



10图-39



10图-30



10图-31



12图-40



12图-41



11图-38



12图-49



12图-50



12图-42



10图-32



11图-34



11图-33



11图-35



11图-36



12图-53



12图-54



12图-55



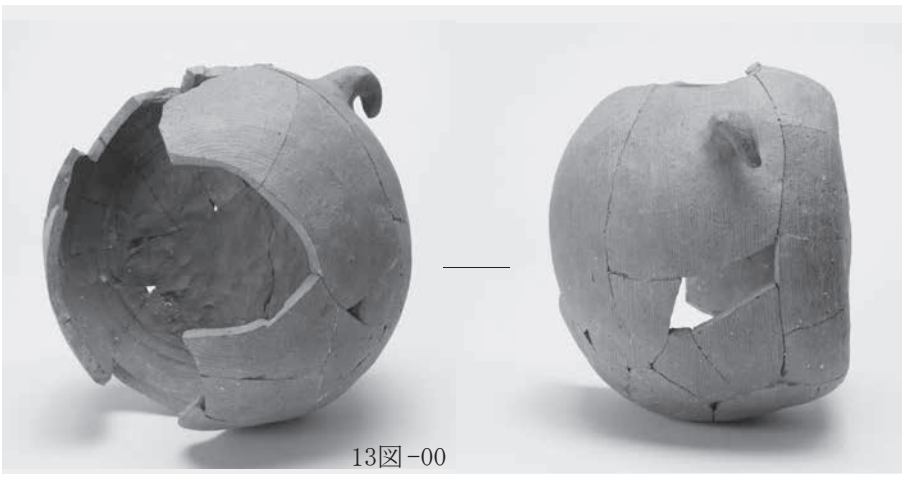
13图-68



13图-69



13图-78



13图-00



14图-79



14图-92



14图-93



14图-84



15图-97



15图-99



15图-101



15图-109



15图-100



15图-102



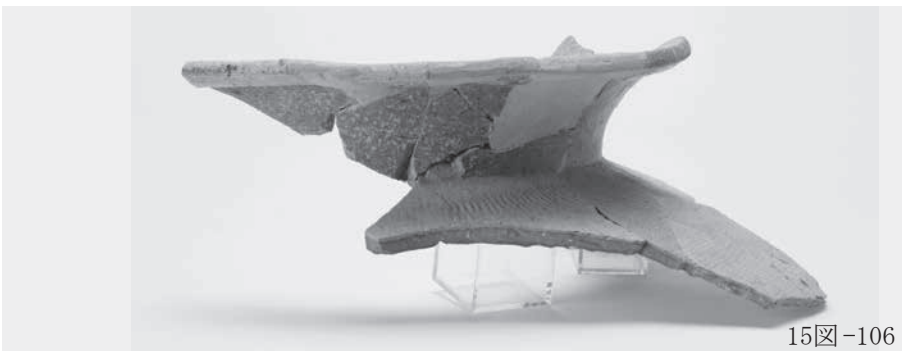
15图-110



15图-103

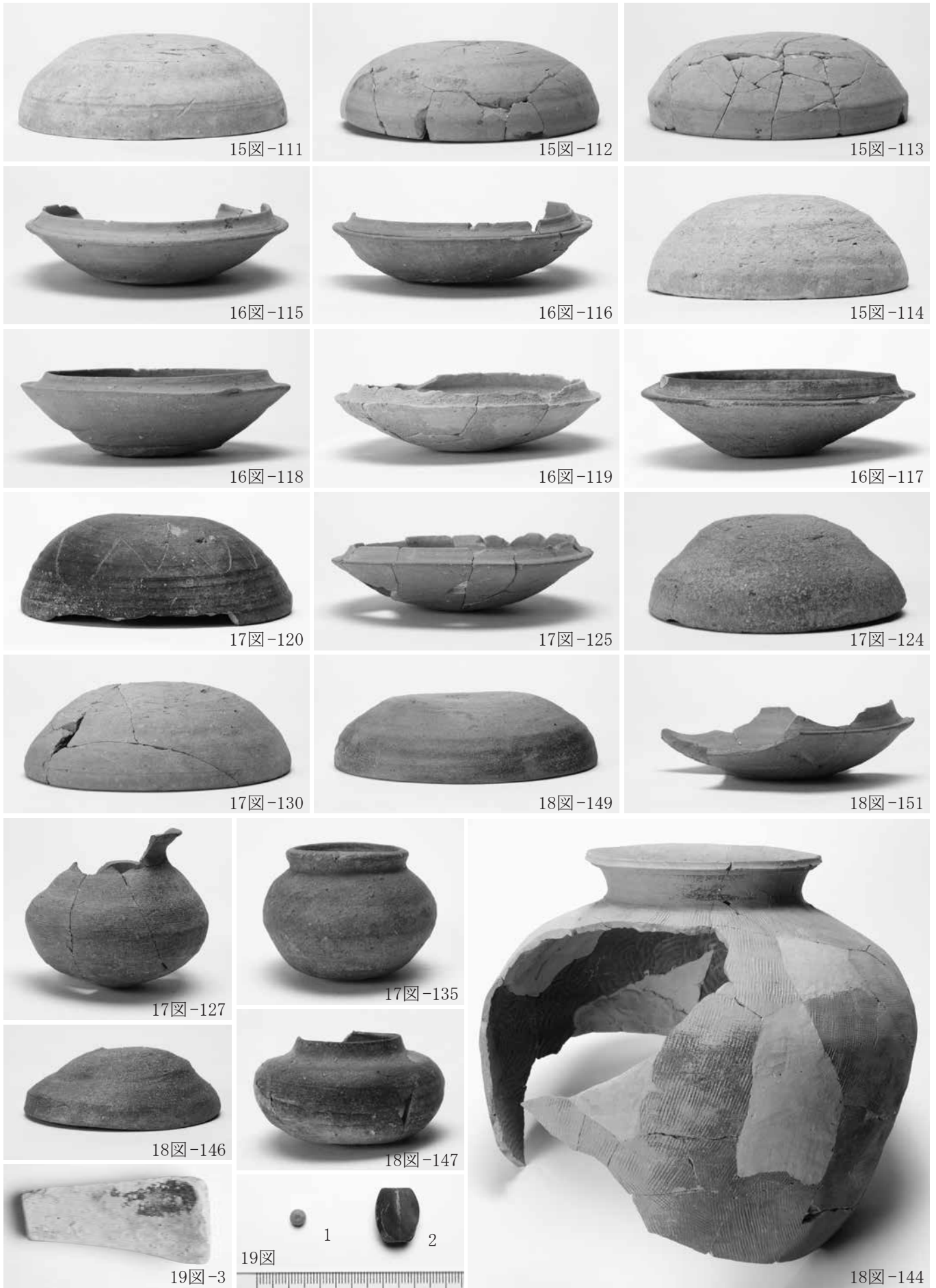


15图-108



15图-106

1号填出土器④



1号墳出土土器⑤、石器、玉類



23图-2



23图-6

23图-7



23图-9



23图-4



23图-11



23图-12



23图-10



24图-16



23图-14



24图-18



24图-20



24图-17



24图-21



24图-22



24图-27



24图-23



24图-26



25图-28

2号墳出土土器①



25图-29



25图-30



25图-31



25图-33



25图-34



25图-35



25图-36



25图-37



25图-38



25图-39



25图-40



26图-44



26图-45



26图-47



26图-50



26图-51



26图-55



26图-56



27图-60



27图-61



27图-64



27图-74



27图-67



27图-77



27图-78



27图-76



28图-82



28图-80

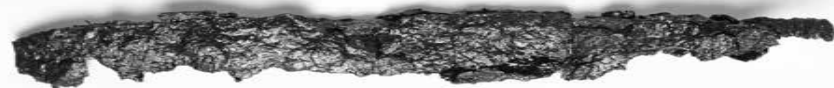


28图-81

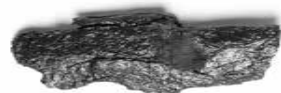


28图-86

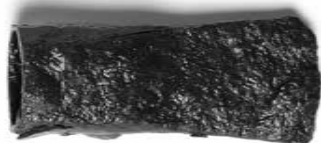
29图



1



2



3



29图-8

29图



4



5



6



7

29图

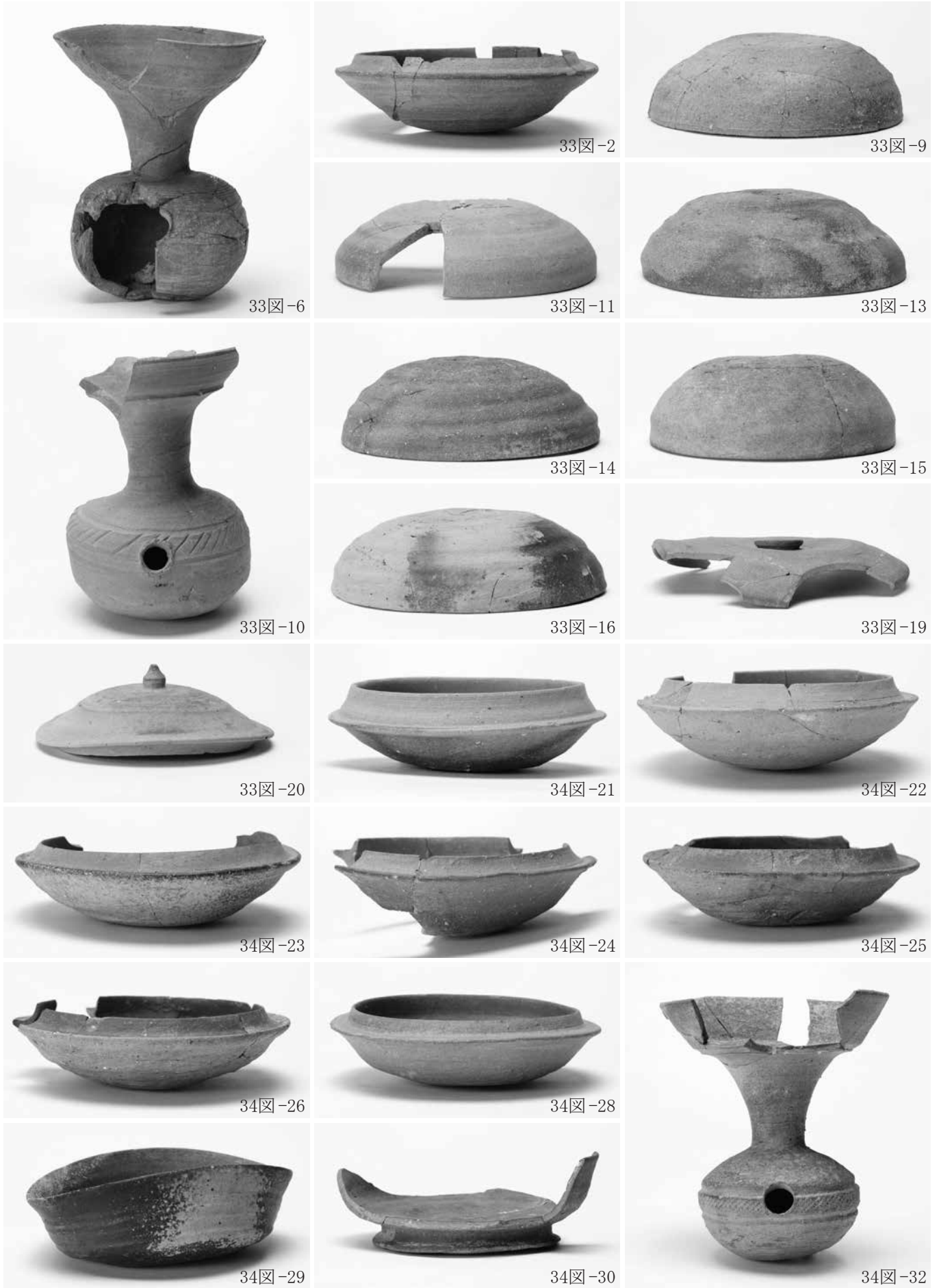


9



10

2号墳出土土器③、鉄器、石製品、耳環、石器



3号墳出土土器①





34图-33

34图-34



35图-37



36图-40



35图-38



35图-39



36图-41



36图-42



36图-44



36图-48



36图-51



36图-50



36图-52



36图-53



36图-57



37图-60



37图-65



37图-66



37图-64



37图-65



37图-66



37图-68



37图-69



37图-74



37图-70



37图-75



37图-74



38图-76



38图-77



38图-80



38图-81



38图-82



3号墳出土土器④



39图-118



39图-119



40图-123



39图-121



39图-122



40图-125



40图-127



40图-129



40图-132



40图-131



40图-134



40图-130



40图-128



40图-135



40图-136



40图-149



41图-144



40图-143



3号填出土器⑥、石器、5号填出土器①





50图-33



50图-34



51图-39



51图-44



51图-49



51图-51



52图-56



52图-59



52图-55



52图-62



52图-64





53图-65



56图-63



53图-69



53图-70



53图-77



53图-80



54图-86



54图-87



55图-99



55图-92



55图-96



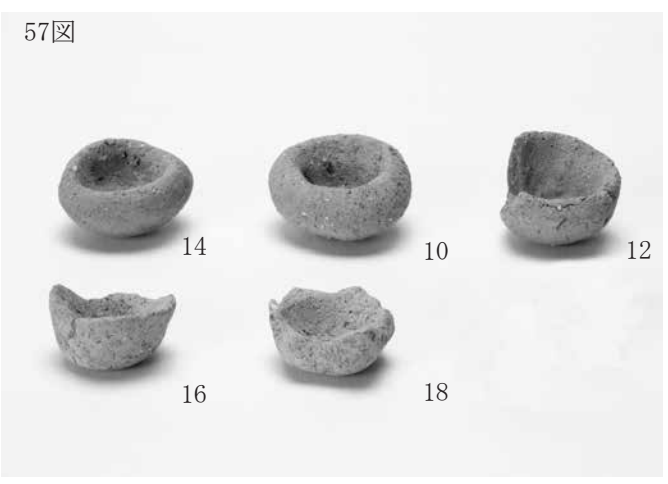
55图-90



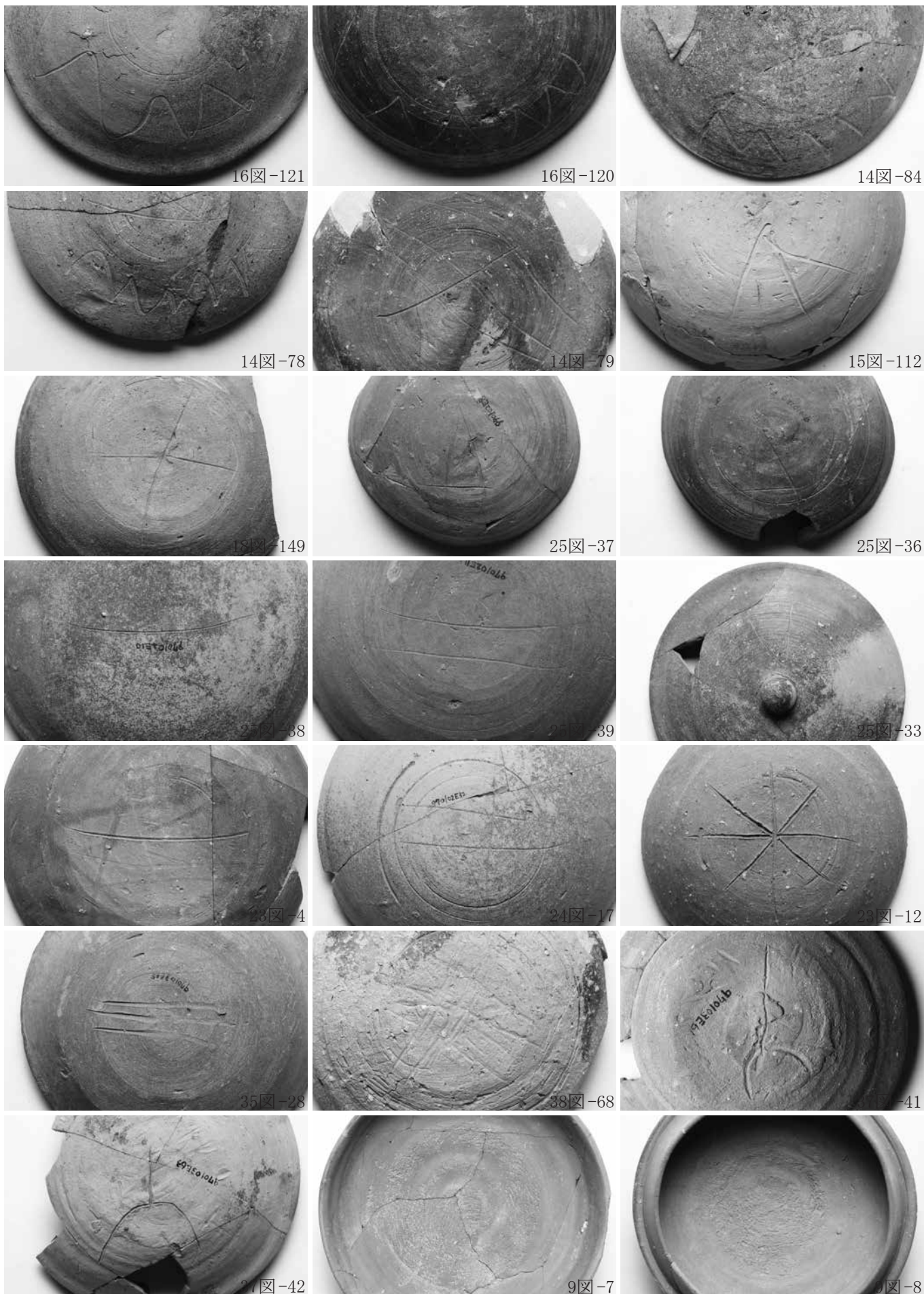




5号填出土铁器



5号墳出土土製品、耳環、石器、1・2号竪穴建物跡出土土器



出土須恵器のへら記号、当具痕



## 報告書抄録

ふりがな	つかはらこふんぐん							
書名	塚原古墳群 2次調査							
副書名	福岡県春日市塚原台所在遺跡の調査							
巻次								
シリーズ名	春日市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第80集							
編著者名	森井千賀子							
編集機関	春日市教育委員会							
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111							
発行年月日	2019年3月31日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村番号	遺跡番号					
つかはらこふんぐん 塚原古墳群	ふくおかけん かがしがし 福岡県春日市 つかはらだい 塚原台3丁目	40218		33° 30' 43"	130° 27' 55"	1997.4.10 ～ 1997.8.18	3,966 m <sup>2</sup>	開発に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
塚原古墳群	古墳	古墳	円墳	須恵器				
要約	<p>当遺跡は牛頸山より派生する春日丘陵の南部に位置し、標高57m前後を測る。丘陵の尾根上に円墳4基と、南東側斜面に円墳1基、竪穴建物跡を検出した。</p> <p>古墳はほぼ盗掘され、石室の石材はほとんど抜かれていた。墓道は南から南西方向に掘られており、堆積状況から追葬が行われていたことが伺える。6世紀後半から7世紀前半の須恵器が多数出土した。</p>							

---

---

# 塚原古墳群

— 2次調査 —

春日市文化財調査報告書 第80集

2019年3月31日

発行 春日市教育委員会  
福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 大道印刷株式会社  
福岡県春日市日の出町6丁目23

---

---